大分県文化財調査報告書第151輯

一般国道10号日出バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

和泉第1遺跡
和泉第2遺跡
東カヤノ原遺跡

2003

大分県教育委員会

一般国道10号日出バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

和泉第1遺跡
和泉第2遺跡
東カヤノ原遺跡

2003

大分県教育委員会

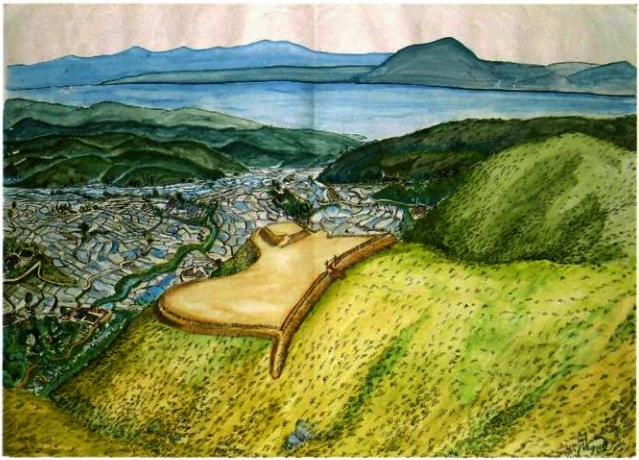


写真１　和泉第２遺跡周辺想像図（16 世紀）　画　永井実（現別府市立朝日中学校教諭）

序

国東半島の基部に当たる大分県日出町・山香町は、早水台遺跡や川原田洞穴をはじめとする多くの遺跡があることで知られています。2002ＦＩＦＡワールドカップ大分開催に向けて交通アクセスの改善を図るため、空港道路と宇佐別府道路を繋ぐ日出バイパスがこの地に計画され、平成14年3月に開通しました。この工事に先立ち、大分県教育委員会は平成9年から4か年にわたり7箇所の遺跡について発掘調査を実施しました。

本書は、その内の本調査に至った和泉第1・第2遺跡、東カヤノ原の3遺跡の調査内容を掲載したものです。東カヤノ原遺跡からは縄文時代早期の狩猟場、また、和泉地区遺跡では弥生時代中期の集落、中世山城及び近世墓の内容が明らかになりました。特に、和泉第2遺跡から出た多量の石器は、弥生時代中期の姫島産黒曜石の流通を考える上で貴重なものです。本書が、今後の学術研究、文化財保護等に役立つものとなれば幸いです。

最後に、発掘調査から本書作成まで多大なる御指導、御協力をいただきました日出町教育委員会及び山香町教育委員会をはじめとする関係者の方々に深く感謝申し上げます。

平成15年3月31日

大分県教育委員会教育長

石　川　公　一

例　言

1．本書は、一般国道10号日出バイパス建設に伴い国土交通省大分整備事務所の委託を受けて、大分県教育委員会が実施した発掘調査報告書である。

2．本書に報告する遺跡は、1996（平成9）年度から1999（平成12）年度にかけて本調査を行なった速見郡日出町大字藤原に所在する和泉第1・和泉第2遺跡と速見郡山香町大字久木野尾に所在する東カヤノ原遺跡である。

3．和泉第1・第2遺跡の遺構の実測は、調査員の村上久和、高橋信武、山本恭弘、松本康弘、児玉美香、野崎哲司、衛藤麻衣、江島賢一、野口典良が行い、東カヤノ原遺跡の遺構の実測は調査員の原田昭一が行った。

4．和泉第1・第2遺跡の遺構の写真撮影は調査員の高橋信武、山本恭弘、松本康弘が行い、東カヤノ原遺跡の写真撮影は調査員の原田昭一が行った。また、空中写真撮影については（株）九州航空、（有）スカイサーベイ九州に委託した。

5．遺物実測及びトレースは、原田昭一・松本康弘のほかに大分県教育庁文化課文化財資料室整理作業員の協力を得た。また石器実測については、一部（有）雅企画に委託した。

6．出土遺物ならびに図面・写真等は、大分県教育庁文化課文化財資料室において保管している。

7．本書で使用する方位はいずれも真北である。磁針方位とは6°20′の偏りがある。

8．本書の執筆は、和泉第1・和泉第2遺跡については松本康弘が、東カヤノ原遺跡については原田昭一がそれぞれ担当した。ただし、第4章第5節3については小柳和宏が執筆した。

9．本書の編集・構成は原田・松本が行った。

本文目次

序文

例言

第1章　はじめに……1
　第1節　調査にいたる経過……1
　第2節　埋蔵文化財調査の経緯と調査組織……2

第2章　地理的歴史的環境……7
　第1節　地理的環境……7
　第2節　歴史的環境……7

第3章　和泉第1遺跡……11
　第1節　遺跡の立地と環境……11
　第2節　調査の成果……11
　第3節　小結……20

第4章　和泉第2遺跡……21
　第1節　遺跡の立地と環境……21
　第2節　和泉第2遺跡Ⅰ区……22
　第3節　和泉第2遺跡Ⅱ区……87
　第4節　和泉第2遺跡Ⅲ区……87
　第5節　小結……137

第5章　和泉第2遺跡　近世墓……181
　第1節　調査の概要……181
　第2節　調査の成果……182
　第3節　小結……205

第6章　和泉第2遺跡　磨香之塔……209
　第1節　遺跡の立地と環境……209
　第2節　調査の成果……210

第7章　和泉第2遺跡　蜜藤寺地区……215
　第1節　遺跡の立地と環境……215
　第2節　調査の成果……215
　第3節　小結……227

第8章　東カヤノ原遺跡……237
　第1節　遺跡の立地と環境……237
　第2節　調査の概要……240
　第3節　遺構と遺物……240
　第4節　小結……247

挿図目次

第１章　はじめに
第１図　日出バイパス関連調査遺跡位置図……1
第２図　日出バイパスの路線と遺跡……5、6

第２章　地理的歴史的環境
第３図　日出バイパス調査遺跡周辺主要遺跡分布図……9、10
第３章　和泉第１遺跡
第４図　和泉第１遺跡周辺地形図……11
第５図　和泉第１遺跡墓石配置図……12
第６図　和泉第１遺跡１号墓実測図……13
第７図　和泉第１遺跡１号墓拓影……13
第８図　和泉第１遺跡２号墓実測図……14
第９図　和泉第１遺跡２号墓拓影……14
第10図　和泉第１遺跡３号墓実測図……15
第11図　和泉第１遺跡３号墓拓影……15
第12図　和泉第１遺跡４号墓拓影……16
第13図　和泉第１遺跡４号墓実測図……16
第14図　和泉第１遺跡５号墓実測図……16
第15図　和泉第１遺跡５号墓拓影……17
第16図　和泉第１遺跡６号墓実測図……17
第17図　和泉第１遺跡６号墓拓影……17
第18図　和泉第１遺跡７号墓実測図……18
第19図　和泉第１遺跡７号墓拓影……18
第20図　和泉第１遺跡　その他の石造物実測図……19
第21図　和泉第１遺跡　近世墓の位置……20
第22図　和泉第１遺跡　近世墓の変遷……20
第４章　和泉第２遺跡
第23図　和泉第２遺跡位置図……21
第24図　和泉第２遺跡周辺地形図……22
第25図　和泉第２遺跡Ⅰ区遺構配置図……23
第26図　和泉第２遺跡Ⅰ・Ｊグリッド遺構配置図……24
第27図　和泉第２遺跡１号住居跡実測図……25
第28図　和泉第２遺跡１号住居跡出土土器実測図１……26
第29図　和泉第２遺跡１号住居跡出土土器実測図２……27
第30図　和泉第２遺跡１号住居跡出土石器実測図１……28
第31図　和泉第２遺跡１号住居跡出土石器実測図２……29
第32図　和泉第２遺跡１号住居跡出土石器実測図３……30
第33図　和泉第２遺跡１号住居跡出土石器実測図４……31
第34図　和泉第２遺跡１号住居跡出土石器実測図５……32
第35図　和泉第２遺跡８号住居跡実測図……33
第36図　和泉第２遺跡19号住居跡出土石器実測図……33
第37図　和泉第２遺跡19号住居跡実測図……33
第38図　和泉第２遺跡19号住居跡出土土器実測図……34

第39図　和泉第２遺跡1,4～８号土坑実測図……35
第40図　和泉第２遺跡５号土坑出土土器実測図…… 36
第41図　和泉第２遺跡6,7,8号土坑出土土器実測図…… 37
第42図　和泉第２遺跡1,4～８号土坑出土石器実測図……38
第43図　和泉第２遺跡３号溝実測図…… 39
第44図　和泉第２遺跡４号溝実測図…… 39
第45図　和泉第２遺跡４号溝出土土器、石器実測図…… 39
第46図　和泉第２遺跡Ｇ・Ｈグリッド遺構配置図…… 40
第47図　和泉第２遺跡２号住居跡実測図…… 41
第48図　和泉第２遺跡２号住居跡出土土器実測図１…… 42
第49図　和泉第２遺跡２号住居跡出土土器実測図２…… 43
第50図　和泉第２遺跡２号住居跡出土土器実測図３…… 44
第51図　和泉第２遺跡２号住居跡出土石器実測図１…… 45
第52図　和泉第２遺跡２号住居跡出土石器実測図２…… 46
第53図　和泉第２遺跡10号住居跡実測図…… 47
第54図　和泉第２遺跡10号住居跡出土土器実測図１……48
第55図　和泉第２遺跡10号住居跡出土土器実測図２……49
第56図　和泉第２遺跡10号住居跡出土土器実測図３……50
第57図　和泉第２遺跡10号住居跡出土石器実測図１……51
第58図　和泉第２遺跡10号住居跡出土石器実測図２……52
第59図　和泉第２遺跡３号住居跡実測図…… 53
第60図　和泉第２遺跡３号住居跡出土土器実測図…… 54
第61図　和泉第２遺跡３号住居跡出土石器実測図…… 55
第62図　和泉第２遺跡２・３・10号住居跡周辺出土土器実測図１……56
第63図　和泉第２遺跡２・３・10号住居跡周辺出土土器実測図２……57
第64図　和泉第２遺跡２・３・10号住居跡周辺出土石器実測図１……58
第65図　和泉第２遺跡２・３・10号住居跡周辺出土石器実測図２……59
第66図　和泉第２遺跡４号住居跡実測図…… 60
第67図　和泉第２遺跡４号住居跡出土土器実測図…… 60
第68図　和泉第２遺跡２号土坑実測図及び出土土器実測図…… 60
第69図　和泉第２遺跡２号土坑出土石器実測図…… 61
第70図　和泉第２遺跡３号土坑実測図…… 61
第71図　和泉第２遺跡３号土坑出土遺物実測図…… 61
第72図　和泉第２遺跡Ⅰ区Ｇ・Ｈグリッド包含層分布状況…… 62
第73図　和泉第２遺跡Ⅰ区Ｇ・Ⅱグリッド包含層出土土器実測図１…… 63
第74図　和泉第２遺跡Ⅰ区Ｇ・Ｈグリッド包含層出土土器実測図２…… 64
第75図　和泉第２遺跡Ⅰ区Ｇ・Ｈグリッド包含層出土土器実測図３…… 65
第76図　和泉第２遺跡Ⅰ区Ｇ・Ｈグリッド包含層出土土器実測図４…… 66
第77図　和泉第２遺跡Ⅰ区Ｇ・Ⅱグリッド包含層出土土器実測図５…… 67
第78図　和泉第２遺跡Ⅰ区Ｇ・Ｈグリッド包含層出土土器実測図６…… 68
第79図　和泉第２遺跡Ⅰ区Ｇ・Ｈグリッド包含層出土石器実測図１…… 69
第80図　和泉第２遺跡Ⅰ区Ｇ・Ｈグリッド包含層出土石器実測図２…… 70
第81図　和泉第２遺跡Ⅰ区Ｇ・Ｈグリッド包含層出土石器実測図３…… 71
第82図　和泉第２遺跡Ⅰ区Ｇ・Ⅱグリッド包含層出土石器実測図４…… 72
第83図　和泉第２遺跡　Ａ～Ｃグリッド遺構配置図…… 73

第84図　和泉第２遺跡５号住居跡実測図……74
第85図　和泉第２遺跡６号住居跡実測図……74
第86図　和泉第２遺跡５・６号住居跡出土石器実測図……75
第87図　和泉第２遺跡６号住居跡出土土器実測図……76
第88図　和泉第２遺跡７号住居跡実測図……77
第89図　和泉第２遺跡７号住居跡出土土器実測図……78
第90図　和泉第２遺跡７号住居跡出土石器実測図……79
第91図　和泉第２遺跡８号住居跡実測図及び出土遺物実測図……80
第92図　和泉第２遺跡９号住居跡実測図……80
第93図　和泉第２遺跡９号住居跡出土土器実測図……81
第94図　和泉第２遺跡11号住居跡実測図……81
第95図　和泉第２遺跡11号住居跡出土遺物実測図……82
第96図　和泉第２遺跡12号住居跡実測図……82
第97図　和泉第２遺跡12号住居跡出土遺物実測図……83
第98図　和泉第２遺跡９号土坑実測図及び出土石器実測図……83
第99図　和泉第２遺跡10号土坑実測図及び出土遺物実測図……83
第100図　和泉第２遺跡１号溝実測図……84
第101図　和泉第２遺跡２号溝実測図……84
第102図　和泉第２遺跡２号溝出土遺物実測図……85
第103図　和泉第２遺跡Ⅱ区遺構配置図……86
第104図　和泉第２遺跡Ⅲ区遺構配置図……88
第105図　和泉第２遺跡Mイ～Q３グリッド遺構配置図……89
第106図　和泉第２遺跡13号住居跡および出土石器実測図……90
第107図　和泉第２遺跡14号住居跡実測図……91
第108図　和泉第２遺跡15号住居跡実測図……92
第109図　和泉第２遺跡15号住居跡出土土器実測図……93
第110図　和泉第２遺跡15号住居跡出土土器２・石器実測図……94
第111図　和泉第２遺跡15号住居跡出土石器実測図２……95
第112図　和泉第２遺跡16号住居跡実測図……95
第113図　和泉第２遺跡16号住居跡出土土器・石器実測図……96
第114図　和泉第２遺跡17号住居跡出土土器実測図……97
第115図　和泉第２遺跡17号住居跡実測図……97
第116図　和泉第２遺跡１号～11号柱穴群配置図……98
第117図　和泉第２遺跡２・４・６号柱穴群出土土器・石器実測図……99
第118図　和泉第２遺跡８号～11号柱穴群出土土器・石器実測図……100
第119図　和泉第２遺跡12号～20号柱穴群配置図……102
第120図　和泉第２遺跡12号～17号柱穴群出土土器・石器実測図……103
第121図　和泉第２遺跡Qイ～W５グリッド遺構配置図……104
第122図　和泉第２遺跡中世山城縄張図……105
第123図　和泉第２遺跡18号住居跡実測図……105
第124図　和泉第２遺跡18号住居跡出土土器実測図……106
第125図　和泉第２遺跡中世土坑実測図……107
第126図　和泉第２遺跡中世土坑出土土器実測図……108
第127図　和泉第２遺跡中世周溝実測図……109
第128図　和泉第２遺跡中世周溝出土土器実測図１……110

第129図　和泉第２遺跡中世周溝出土土器実測図２…… 111
第130図　和泉第２遺跡中世周溝内出土土器実測図…… 112
第131図　和泉第２遺跡中世周溝付近出土土器・石器実測図…… 113
第132図　和泉第２遺跡掘切実測図…… 114
第133図　和泉第２遺跡掘切出土遺物実測図…… 116
第134図　和泉第２遺跡５号溝実測図…… 116
第135図　和泉第２遺跡５号溝出土土器・石器実測図…… 117
第136図　和泉第２遺跡５号溝出土石器実測図…… 118
第137図　和泉第２遺跡５号溝出土土器実測図…… 119
第138図　和泉第２遺跡Ｑ～Ｗグリッド橋台実測図…… 120
第139図　和泉第２遺跡　石五輪塔実測図…… 120
第140図　和泉第２遺跡Ｑ～Ｗ区出土遺物実測図…… 121
第141図　和泉第２遺跡Ｑ～Ｗ区出土遺物実測図２…… 122
第142図　和泉第２遺跡ＯＰ78グリッド包含層分布状況…… 123
第143図　和泉第２遺跡ＯＰ78グリッド包含層出土土器実測図１…… 124
第144図　和泉第２遺跡ＯＰ78グリッド包含層出土土器実測図２…… 125
第145図　和泉第２遺跡ＯＰ78グリッド包含層出土土器実測図３…… 126
第146図　和泉第２遺跡ＯＰ78グリッド包含層出土石器実測図１…… 127
第147図　和泉第２遺跡ＯＰ78グリッド包含層出土石器実測図２…… 128
第148図　和泉第２遺跡出土土器実測図１…… 129
第149図　和泉第２遺跡出土土器実測図２…… 130
第150図　和泉第２遺跡出土土器実測図３…… 131
第151図　和泉第２遺跡出土石器実測図１…… 132
第152図　和泉第２遺跡出土石器実測図２…… 133
第153図　和泉第２遺跡出土石器実測図３…… 134
第154図　和泉第２遺跡出土石器実測図４…… 135
第155図　和泉第２遺跡出土石器実測図５…… 136
第156図　和泉第２遺跡出土石器分布図…… 139
第157図　和泉第２遺跡出土敲石・凹石、石核及び石鏃分布図…… 140
第158図　石核の個別重量比較図…… 141
第159図　羽田・陽弓・熊尾・和泉第２・須久保遺跡の位置図…… 141
第160図　日出町上城絵張図…… 145
第５章　和泉第２遺跡近世墓
第161図　和泉第２遺跡近世墓周辺地形図…… 181
第162図　和泉第２遺跡近世墓墓石配置図…… 182
第163図　和泉第２遺跡14号墓実測図及び拓影…… 183
第164図　和泉第２遺跡15号墓実測図及び拓影…… 183
第165図　和泉第２遺跡16号墓実測図及び拓影…… 184
第166図　和泉第２遺跡17号墓実測図及び拓影…… 184
第167図　和泉第２遺跡18号墓実測図及び拓影…… 185
第168図　和泉第２遺跡19号墓実測図及び拓影…… 185
第169図　和泉第２遺跡20号墓実測図及び拓影…… 186
第170図　和泉第２遺跡21号墓実測図及び拓影…… 186
第171図　和泉第２遺跡22号墓実測図及び拓影…… 187
第172図　和泉第２遺跡23号墓実測図及び拓影…… 187

第173図　和泉第２遺跡 24 号墓実測図及び拓影…… 188
第174図　和泉第２遺跡 25 号墓実測図及び拓影…… 188
第175図　和泉第２遺跡 26 号墓実測図及び拓影…… 188
第176図　和泉第２遺跡 27 号墓実測図及び拓影…… 189
第177図　和泉第２遺跡 28 号墓実測図及び拓影…… 189
第178図　和泉第２遺跡 29 号墓実測図及び拓影…… 190
第179図　和泉第２遺跡 30 号墓実測図及び拓影…… 191
第180図　和泉第２遺跡 31 号墓実測図及び拓影…… 192
第181図　和泉第２遺跡 32 号墓実測図及び拓影…… 192
第182図　和泉第２遺跡 33 号墓実測図及び拓影…… 193
第183図　和泉第２遺跡 34 号墓実測図及び拓影…… 193
第184図　和泉第２遺跡 35 号墓実測図及び拓影…… 194
第185図　和泉第２遺跡 36 号墓実測図及び拓影…… 194
第186図　和泉第２遺跡 38 号墓実測図及び拓影…… 195
第187図　和泉第２遺跡 39 号墓実測図及び拓影…… 195
第188図　和泉第２遺跡 40 号墓実測図及び拓影…… 196
第189図　和泉第２遺跡 41 号墓実測図及び拓影…… 196
第190図　和泉第２遺跡 42 号墓実測図及び拓影…… 197
第191図　和泉第２遺跡 43 号墓実測図及び拓影…… 197
第192図　和泉第２遺跡 45 号墓実測図及び拓影…… 198
第193図　和泉第２遺跡 46 号墓実測図及び拓影…… 198
第194図　和泉第２遺跡 47 号墓実測図及び拓影…… 199
第195図　和泉第２遺跡 48 号墓実測図及び拓影…… 199
第196図　和泉第２遺跡 49 号墓実測図及び拓影…… 200
第197図　和泉第２遺跡 50 号墓実測図及び拓影…… 200
第198図　和泉第２遺跡 51 号墓実測図及び拓影…… 200
第199図　和泉第２遺跡 52 号墓実測図及び拓影…… 200
第200図　和泉第２遺跡 53 号墓実測図及び拓影…… 201
第201図　和泉第２遺跡 65 号墓実測図及び拓影…… 202
第202図　和泉第２遺跡 66 号墓実測図及び拓影…… 202
第203図　和泉第２遺跡 67 号墓実測図及び拓影…… 203
第204図　和泉第２遺跡 68 号墓実測図及び拓影…… 203
第205図　和泉第２遺跡 72 号墓実測図及び拓影…… 204
第206図　和泉第２遺跡 74 号墓実測図及び拓影…… 204
第207図　和泉第２遺跡近世墓の変遷…… 205
第208図　和泉第２遺跡近世墓形式分類図…… 207
第６章　和泉第２遺跡麝香之塔
第209図　和泉第２遺跡麝香之塔周辺地形図…… 209
第210図　和泉第２遺跡麝香之塔実測図…… 210
第211図　和泉第２遺跡麝香之塔１号石塔実測図及び拓影…… 211
第212図　和泉第２遺跡麝香之塔２号石塔実測図…… 212
第213図　和泉第２遺跡麝香之塔２号石塔拓影…… 213
第214図　雲岳西堂和尚墓実測図及び拓影…… 214
第７章　和泉第２遺跡霊藤寺地区
第215図　和泉第２遺跡霊藤寺地区周辺地形図…… 215

第216図　和泉第２遺跡蓮藤寺Ａ地区遺構配置図…… 216
第217図　和泉第２遺跡雲藤寺Ｂ地区基本層位…… 217
第218図　和泉第２遺跡蓮藤寺Ｂ地区表採資料…… 217
第219図　和泉第２遺跡蓮藤寺Ｂ地区遺構配置図…… 217
第220図　和泉第２遺跡雲藤寺Ｂ地区１～３号土坑実測図…… 218
第221図　和泉第２遺跡蓮藤寺Ｂ地区１号土坑出土土器実測図１…… 219
第222図　和泉第２遺跡雲藤寺Ｂ地区１号土坑出土土器実測図２…… 220
第223図　和泉第２遺跡蓮藤寺Ｂ地区包含層出土土器実測図１…… 222
第224図　和泉第２遺跡雲藤寺Ｂ地区包含層出上上器実測図２…… 223
第225図　和泉第２遺跡蓮藤寺Ｂ地区包含層出土土器実測図３…… 224
第226図　和泉第２遺跡雲藤寺Ｂ地区包含層出上石器実測図１…… 225
第227図　和泉第２遺跡蓮藤寺Ｂ地区包含層出土石器実測図２…… 226
第228図　和泉第２遺跡雲藤寺Ｂ地区包含層出上石器実測図３…… 227
第229図　和泉第２遺跡蓮藤寺Ｂ地区出上遺物分布図…… 227
第230図　蓮藤寺位置図…… 228
第８章　東カヤノ原遺跡
第231図　東カヤノ原遺跡周辺遺跡分布図…… 237
第232図　東カヤノ原遺跡調査区周辺地形測量図…… 238
第233図　東カヤノ原遺跡遺構位置図…… 239
第234図　東カヤノ原遺跡１号陥し穴平面図及び土層図…… 240
第235図　東カヤノ原遺跡２号陥し穴平面・断面図及び上層図…… 241
第236図　東カヤノ原遺跡３号陥し穴平面・断面図及び土層図…… 243
第237図　東カヤノ原遺跡４号陥し穴平面・断面図及び上層図…… 243
第238図　東カヤノ原遺跡５号陥し穴平面・断面図及び土層図…… 244
第239図　東カヤノ原遺跡６号陥し穴平面・断面図及び土層図…… 244
第240図　東カヤノ原遺跡７・８号陥し穴平面・断面図及び上層図…… 245
第241図　東カヤノ原遺跡９号陥し穴平面・断面図及び土層図…… 246
第242図　東カヤノ原遺跡出土土器…… 247

表　目　次

第１章　はじめに
第１表　日出バイパス埋蔵文化財調査の経過…… 3
第２章　地理的歴史的環境
第２表　日出バイパス調査遺跡周辺主要遺跡名…… 8
第３章　和泉第１遺跡
第３表　和泉第１遺跡墓石一覧表…… 19
第４章　和泉第２遺跡
第４表　和泉第２遺跡出土石器組成表…… 138
第５表　和泉第２遺跡出土石器器種別分類表…… 138
第６表　和泉第２遺跡出土石器器種別分類表（剥片を除く）…… 139
第７表　和泉第２遺跡１号住居跡及び２号住居跡出上石器組成表…… 140
第８表　和泉第２遺跡出上上器観察表１…… 147

第9表　和泉第2遺跡出土土器観察表2…… 148
第10表　和泉第2遺跡出土土器観察表3…… 149
第11表　和泉第2遺跡出土土器観察表4…… 150
第12表　和泉第2遺跡出土土器観察表5…… 151
第13表　和泉第2遺跡出土土器観察表6…… 152
第14表　和泉第2遺跡出土土器観察表7…… 153
第15表　和泉第2遺跡出土土器観察表8…… 154
第16表　和泉第2遺跡出土石器観察表1…… 155
第17表　和泉第2遺跡出土石器観察表2…… 156
第18表　和泉第2遺跡出土石器観察表3…… 157
第19表　和泉第2遺跡出土石器観察表4…… 158
第20表　和泉第2遺跡出土石器観察表5…… 159
第21表　和泉第2遺跡出土石器観察表6…… 160
第22表　和泉第2遺跡出土石器観察表7…… 161
第23表　和泉第2遺跡出土石器観察表8…… 162
第5章　和泉第2遺跡近世墓
第24表　和泉第2遺跡近世墓一覧表1…… 207
第25表　和泉第2遺跡近世墓一覧表2…… 208
第7章　和泉第2遺跡塔寺地区
第26表　和泉第2遺跡塔寺B地区出土土器観察表1…… 231
第27表　和泉第2遺跡塔寺B地区出土土器観察表2及び石器観察表1…… 232

カラー図版目次

巻頭
和泉第2遺跡周辺想像図（16世紀）

挿入写真目次

第3章　和泉第1遺跡
写真1　和泉第1遺跡全景…… 12
写真2　和泉第1遺跡1号墓…… 13
写真3　和泉第1遺跡8号墓…… 13
写真4　和泉第1遺跡2号墓…… 14
写真5　和泉第1遺跡3号墓…… 14
写真6　和泉第1遺跡4号墓…… 15
写真7　和泉第1遺跡5号墓…… 17
写真8　和泉第1遺跡6号墓…… 17
写真9　和泉第1遺跡7号墓…… 18
第4章　和泉第2遺跡
写真10　日出町上城から高崎城を臨む…… 145

第6章　和泉第2遺跡磨香之塔
写真11　和泉第2遺跡磨香之塔全景……209
写真12　和泉第2遺跡磨香之塔1号石塔……211
写真13　和泉第2遺跡磨香之塔2号石塔……213
写真14　雲岳西堂和尚墓……214

写真図版目次

第4章　和泉第2遺跡
写真図版1……165
和泉第2遺跡Ⅰ区全景、Ⅰ・Jグリッド、1号住居跡
写真図版2……166
和泉第2遺跡1号住居跡完掘状況、1号住居跡内土坑遺物出土状況1、
1号住居跡内土坑遺物出土状況2
写真図版3……167
和泉第2遺跡5号土坑遺物出土状況、2・3号土坑（東から）、2・3号土坑（北から）
写真図版4……168
和泉第2遺跡A～Cグリッド全景、7号住居跡検出状況、7号住居跡完掘状況
写真図版5……169
和泉第2遺跡6号住居跡、2号溝、5・11号住居跡、Ⅲ区全景
写真図版6……170
和泉第2遺跡Ⅲ区Q～Tグリッド、中世山城堀切、鉄製茶釜出土状況
写真図版7……171
和泉第2遺跡中世土坑、中世土坑完掘状況、中世周溝（南から）
写真図版8……172
和泉第2遺跡中世周溝（西から）、15号住居跡遺物出土状況、一石五輪塔出土状況
写真図版9……173
和泉第2遺跡出土土器1
写真図版10……174
和泉第2遺跡出土土器2
写真図版11……175
和泉第2遺跡出土土器3
写真図版12……176
和泉第2遺跡出土遺物
写真図版13……177
和泉第2遺跡1号住居跡出土石器、2号住居跡出土石器
写真図版14……178
和泉第2遺跡10号住居跡出土石器、3号住居跡出土石器
GHグリッド包含層出土石器
写真図版15……179
和泉第2遺跡6号住居跡出土石器、7号住居跡出土石器
5号溝出土石器、OP-7、8グリッド出土石器

写真図版16……180
和泉第２遺跡出土石器

第７章　和泉第２遺跡霊塔寺地区
写真図版17……234
和泉第２遺跡霊藤寺地区全景、Ａ地区、Ｂ地区２、３号土坑
写真図版18……235
和泉第２遺跡霊藤寺Ｂ地区柱穴群、Ｂ地区１号土坑
Ｂ地区遺物包含層出土石器
写真図版19……236
和泉第２遺跡霊藤寺Ｂ地区出土土器
第８章　東カヤノ原遺跡
写真図版20……251
東カヤノ原遺跡全景、１号陥し穴土層堆積状況、１号陥し穴掘状況２号陥し穴遺物出土状況
２号陥し穴完掘状況
写真図版21……252
３号陥し穴土層堆積状況、３号陥し穴完掘状況、４号陥し穴土層堆積状況、４号陥し穴完掘状況
写真図版22……253
５号陥し穴完掘状況、６号陥し穴土層堆積状況、６号陥し穴完掘状況、７・８号陥し穴完掘状況
写真図版23……254
９号陥し穴土層堆積状況、９号陥し穴完掘状況

第１章　はじめに

第１節　調査にいたる経過

一般国道10号は、福岡県北九州市を起点とし、大分・宮崎両県を経て鹿児島市にいたる九州東部を縦断する主要幹線道路である。しかし交通渋滞が激しいために幹線道路としての機能は低下しつつあった。特に日田町内では、大分空港道路や宇佐別府道路の開通にともなう交通量の増加と、沿道の都市化の進行により、それは現実のものとなりつつあった。

このような事態に対応して計画されたのが日出バイパスであり（第２図）、建設省九州地方建設局（現国土交通省九州整備局）大分工事事務所により1990（平成３）年度に事業着手された。計画区間は速見郡山香町大字南端から日出町大字藤原にいたる延長11.5kmである。1991（平成４）年度から用地着手がおこなわれ、1994（平成７）年度には工事に着手し、2002（平成14）年３月30日に完成し、供用開始した。

大分県教育委員会では、日出バイパスの路線が遺跡の存在する可能性の高い台地上を貫くことから、路線内の遺跡の保存措置が必要と判断し、建設省九州地方建設局大分工事事務所と協議を開始した。そして、1996年に路線内の遺跡分布調査を実施し、その結果、今畑遺跡(1)、長野遺跡(2)、仁王第１遺跡(3)、仁王第２遺跡(4)、和泉第１遺跡(5)、和泉第２遺跡(6)、東カヤノ原遺跡(7)の７遺跡（第２図）について試掘調査を実施し、本調査にいたった和泉第１遺跡(5)、和泉第２遺跡(6)、東カヤノ原遺跡(7)について報告する。

第１図　日出バイパス関連発掘調査遺跡位置図

第２節　埋蔵文化財調査の経過と調査組織

第１表を参考にしながら、年度を追って10号日出バイパスの埋蔵文化財調査の経過を述べる。

1997（平成９）年度　本年度は日出バイパス関連の発掘調査の初年度である。まず用地買収の終了した今畑遺跡(1)の試掘調査と、和泉第２遺跡(6)の試掘・本調査を実施した。

この年度の調査組織は以下のとおりである。

調査主体　大分県教育委員会　田中恒治（教育長）
調査総括　後藤一郎（教育庁文化課課長）
　　田原基之（　同　　参事兼課長補佐）
調査主任　清水宗昭（教育庁文化課課長補佐兼埋蔵文化財第２係長）
調査担当　坂本嘉弘（教育庁文化課副主幹）
　　高橋信武（　同　　主査）
　　綿貫俊一（　同　　主査）
　　吉田　寛（　同　　主任）
　　永井　実（　同　　主任）

1998（平成10）年度　本年度は用地買収の終了した長野遺跡(2)の試掘調査と和泉第２遺跡(6)の本調査を実施した。

この年度の調査組織は以下のとおりである。

調査主体　大分県教育委員会　田中恒治（教育長）
調査総括　後藤一郎（教育庁文化課課長）
　　田原基之（　同　　参事兼課長補佐）
調査主任　清水宗昭（教育庁文化課課長補佐兼埋蔵文化財第２係長）
調査担当　栗田勝弘（教育庁文化課上幹）
　　西　哲弘（　同　　副主幹）
　　松本康弘（　同　　主任）
　　児玉美香（　同　　嘱託）
　　豊田徹士（　同　　嘱託）

1999（平成11）年度　前年度に続き長野遺跡(2)の試掘調査と和泉第２遺跡(6)の本調査と用地買収の終了した仁王第１遺跡(3)の試掘調査及び和泉第１遺跡(5)の墓石調査を行なった。また、日出バイパス建設工事に伴い、残土処理場が山香町大字久木野尾字東カヤノ原に必要となったため、東カヤノ原遺跡(7)の試掘・本調査を行った。

この年度の調査組織は以下のとおりである。

調査主体　大分県教育委員会　田中恒治（教育長）
調査総括　山本芳直（教育庁文化課課長）
　　田原基之（　同　　参事兼課長補佐）
調査主任　清水宗昭（教育庁文化課課長補佐兼埋蔵文化財第２係長）
調査担当　村上久和（教育庁文化課副主幹）
　　山本恭弘（　同　　主査）
　　原田昭一（　同　　主査）
　　松本康弘（　同　　主任）

第1表　日出バイパス埋蔵文化財調査の経過

No	遺　跡　名	調査対象面積	97	98	99	00	備　　考
1	今畑遺跡	4,200m²	▲				
2	長野遺跡	11,100m²		▲	▲		
3	仁王第1遺跡	6,400m²			▲		
4	仁王第2遺跡	700m²				▲	
5	和泉第1遺跡	5,000m²			▲	●	●は立ち会い調査
6	和泉第2遺跡	20,000m²	▲●	●	●	●	
7	東カヤノ原遺跡	20,000m²			▲●		残土処理で追加

▲は試掘調査　●は本調査

野崎哲司（　同　嘱託）
衞藤麻衣（　同　嘱託）
江島賢一（　同　嘱託）
野口典良（　同　嘱託）

2000（平成12）年度　前年度に続き和泉第2遺跡(6)の本調査と和泉第1遺跡(5)の立ち会い調査及び仁王第2遺跡(4)の試掘調査を行なった。

この年度の調査組織は以下のとおりである。

調査主体　大分県教育委員会　田中恒治（教育長）
調査総括　山本芳直（教育庁文化課課長）
伊藤正行（　同　参事兼課長補佐）
清水宗昭（　同　参事兼課長補佐）
調査主任　栗山勝弘（教育庁文化課主幹兼埋蔵文化財第2係係長）
調査担当　村上久和（　同　副主幹）
山本恭弘（　同　主査）
松本康弘（　同　主査）
野崎哲司（　同　嘱託）
衞藤麻衣（　同　嘱託）
野口典良（　同　嘱託）

2001（平成13）年度　本年度は調査報告書刊行に向けて整理作業を行なった。

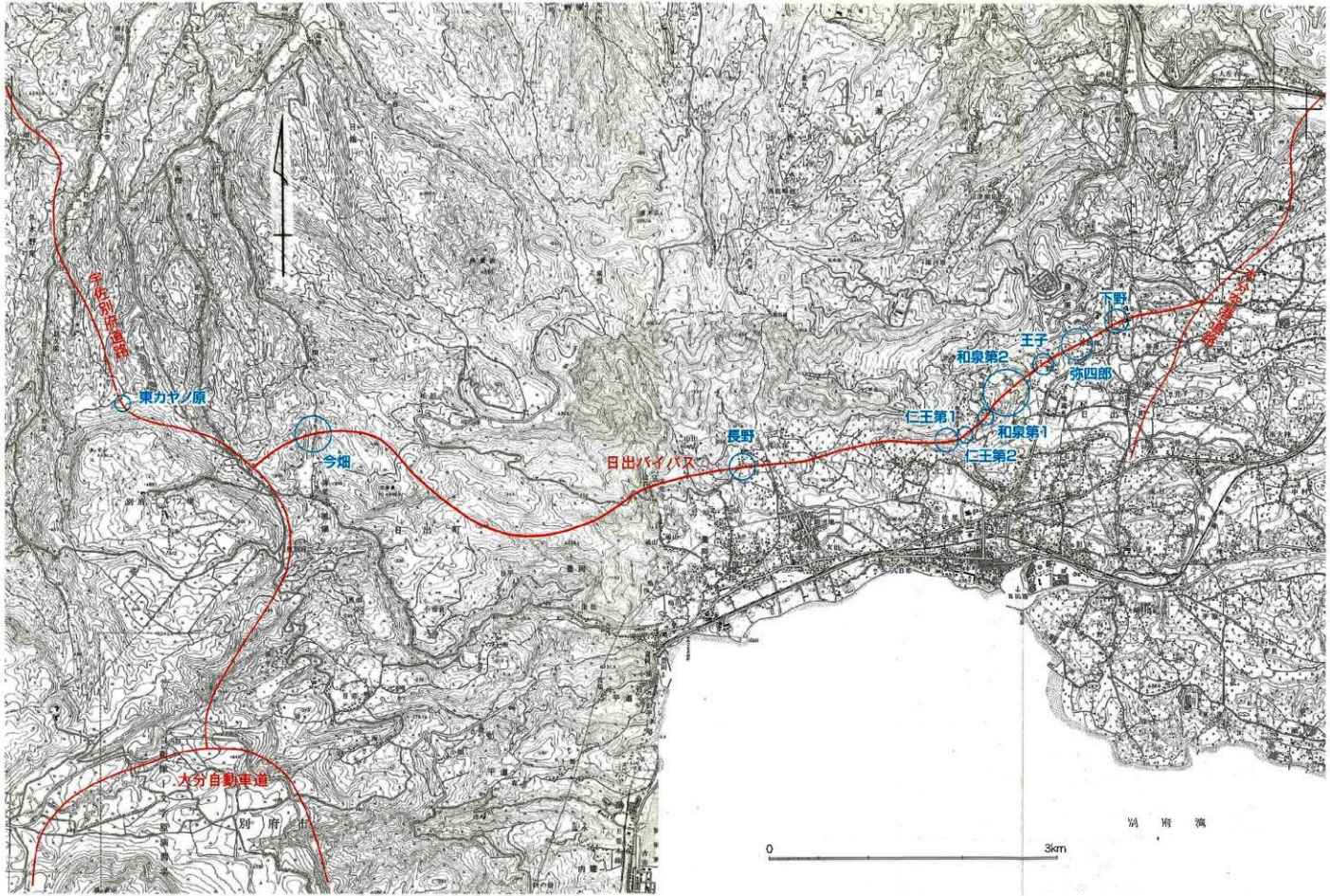
調査組織は以下のとおりである。

調査主体　大分県教育委員会　石川公一（教育長）
調査総括　工藤正徳（教育庁文化課課長）
麻生祐治（　同　参事兼課長補佐）
清水宗昭（　同　参事兼課長補佐）
整理担当　松本康弘（　同　主査）
堤　真子（　同　嘱託）

2002（平成14）年度　本年度も引き続き整理作業を行ない、和泉第１遺跡(4)、和泉第２遺跡(5)、東カヤノ原遺跡の調査内容を収録した『一般国道10号日出バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』を刊行した。

調査組織は以下のとおりである。

調査主体　大分県教育委員会　石川公一（教育長）
調査総括　岩尾康晴（教育庁文化課課長）
　　麻生祐治（　　同　　参事兼課長補佐）
　　清水宗昭（　　同　　参事兼課長補佐）
整理担当　松本康弘（　　同　　主査）
　　堤　真子（　　同　　嘱託）



第2図　日出バイパスの路線と遺跡

第２章　地理的歴史的環境

第１節　地理的環境

和泉第１・第２遺跡の所在する日出町は大分県のほぼ中央海岸部にあり、国東半島南部の付け根部に位置する。東は杵築市、西は別府市、北は鹿鳴越山系を間に、山香町・宇佐郡安心院町に接する。日出町の西部から北部にかけて十文字原方面からのびる鹿鳴越山系が広がっている。ここから南東部へ丘陵地が緩やかに傾斜しており、その中を丸尾川・高井川などの小河川が南流あるいは東流し、南の別府湾に注ぐ。海岸線はほぼ全域高さ数十ｍの海食崖をなしている。また気候も温暖な瀬戸内型に属し、適度の気温と降水に恵まれている。

第２節　歴史的環境

日出町に分布する原始から古代の遺跡を概観する。この辺りで最も古い遺跡として知られるのは、和泉第１・第２遺跡から南へ３キロほどの距離に位置し、別府湾を南に臨む小深江の台地上にある早水台遺跡（第２図 54）である。この遺跡は旧石器時代の古い頃と縄文早期の重層遺跡で、昭和 28 年以降７次にわたる発掘調査が行われている。ローム層下の石英脈岩、石英粗面岩を素材とした石器群が前期旧石器とされ、学史的に顕名な前期旧石器論争の舞台となった。また、縄文早期の尖底押型文土器を大量出土した大規模な遺跡でもあり、早水台式土器の標式遺跡として、学史的にも著名である。この他、旧石器時代後期の遺跡としては片口池遺跡とその周辺の大規遺跡（第３図 30）がある。

縄文時代の遺跡としては前述の早水台遺跡と橋詰遺跡（第３図 22）がある。早水台遺跡からは、縄文時代早期の無紋土器・押型紋土器が見つかっている。橋詰遺跡では瀬戸内系・九州系に属する後期初頭の土器が層位的に見つかっている。

弥生時代になると遺跡が急増している。まず和泉第１・第２遺跡の北方、約 1km に大津遺跡（第２図 38）がある。弥生中期末～後期初頭の土器群を主体とし、かつて大津式土器として位置付けられ、東九州の重要な土器として知られる。それに近接する下野遺跡（第３図 39）の支石墓からは人骨のほか、二本の中広銅戈が発見されている（『日出町史』）。ほか、近年の発掘調査により弥生中期の竪穴住居跡が検出されている真那井の浮島神社（第３図 68）には尾首山から出たと伝えられる広形銅鉾７口が奉納されている。また、真那井中原遺跡（第３図 71）では弥生中期の甕や壺、土製勾玉等が出土しており、近くからは組合式石棺等も発見されている。成田尾遺跡（第３図 43）は弥生中期を主体とする竪穴住居跡群、土坑群、小児墓群からなる集落跡である。ここの住居跡からは下城式土器の甕と重弧文の壺形土器のセット、また数量とも豊富な姫島産黒曜石製の石器が出土しており、和泉第２遺跡と類似している。

古墳時代の遺跡としては成田尾遺跡の南、空港道路の延長線上で今村遺跡（第３図 45）が調査されている。ここは集落遺跡で５世紀代の３基の住居跡が見つかっており、このうち１号住居跡には竈が設置されていた。墳墓としては和泉第１・第２遺跡の南東に 2km に、直弧文を施す鹿角製刀装具を出土した鶴沢古墳群（第３図 23）がある。また、和泉第１・第２遺跡の北東には横穴式石室の穴観音古墳（第３図 44）がある。その他、千人塚古墳・馬塚古墳・中村古墳・伊勢の森古墳群・安養寺古墳などがある。

奈良時代に入るとこの辺りは豊後国速見郡に入り、大神郷に属する。８世紀頃には本格的に開発がされはじめたようで、成田尾遺跡では規矩型甕・石帯などが見つかっているほか、各地の遺跡で

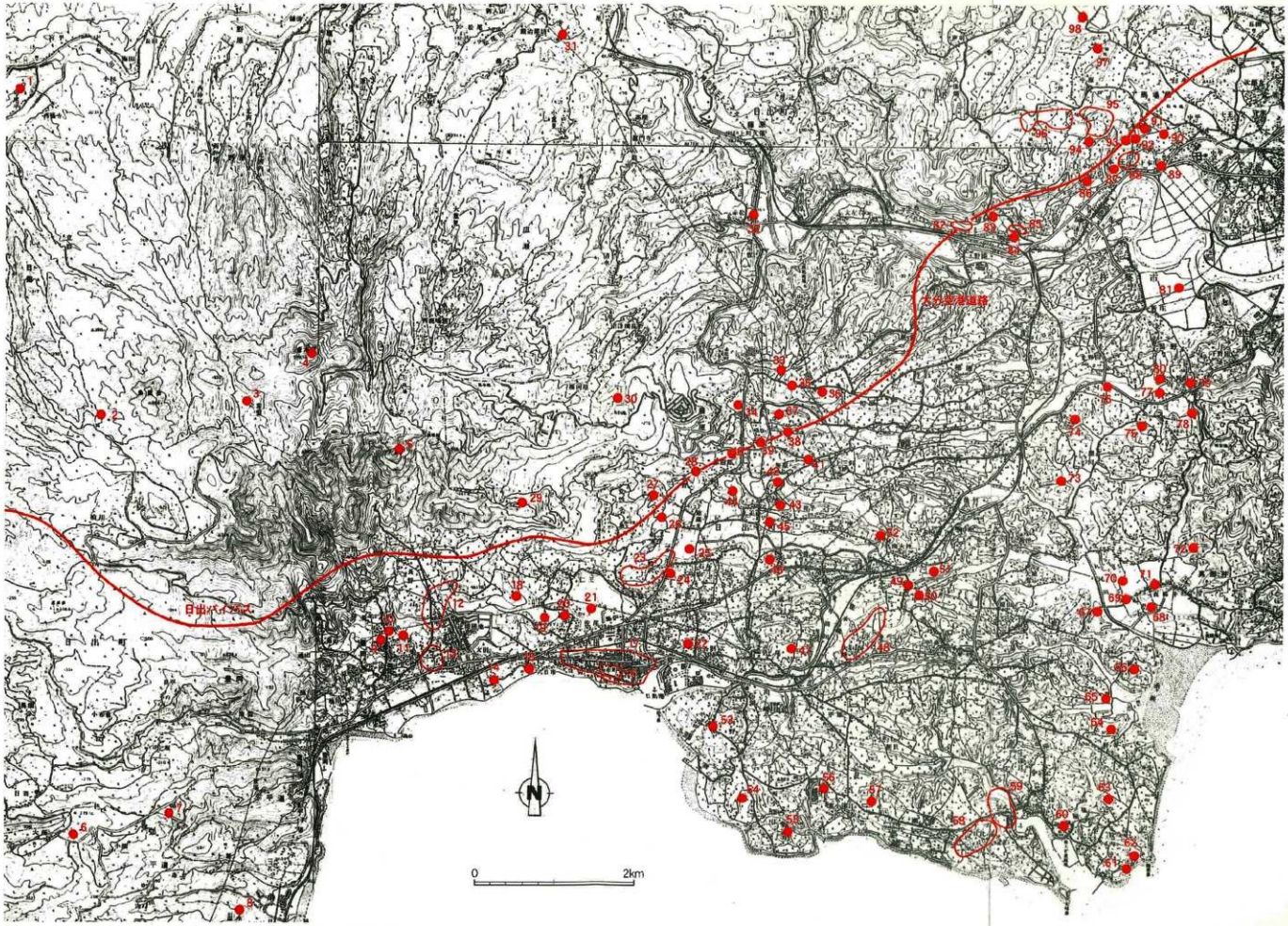
須恵器片が見つかっている。平安時代の末に宇佐八幡弥勒寺領の荘園となったようである。

中世では、鎌倉時代の『豊後国図田帳』には、大神荘は百七十町で、北條得宗家や大友系戸次氏が地頭となっている。その後、大友宗家や南北朝の騒乱以降、田原氏なども勢力を伸ばしつつ戦国時代へと続いていく。今回調査された和泉第２遺跡では、大友氏の鉄砲鍛冶である伊東氏の一族による小規模な山城跡が見つかっている。この山城は山から延びる尾根を１条の堀切で切断している。

江戸時代になると、木下氏が日出藩３万石の近世大名として現在の日出・山香一帯を統治するようになり、和泉第２遺跡の南西約３キロの地点に近世城郭である日出（暘谷）城が造られる。この和泉第１・第２遺跡の辺りは日出藩の藤原村に組み込まれ、近世へと続く。

第２表　日出バイパス調査遺跡周辺主要遺跡

No	遺跡名（時代）	No	遺跡名（時代）	No	遺跡名（時代）
1	日指城跡（中世）	34	鹿跡遺跡（古代）	67	小山原遺跡（縄文）
2	烏屋遺跡（縄文）	35	馬塚古墳（古墳）	68	浮島神社遺跡（中世）
3	柏川遺跡（縄文）	36	相原遺跡（弥生）	69	長老ノ塚古墳（古墳）
4	鹿鳴越城跡（中世）	37	上荒平遺跡（縄文）	70	塩屋横穴（古代）
5	鹿鳴越城跡（中世）	38	大津遺跡（弥生）	71	真那井中原遺跡（弥生）
6	大所遺跡（縄文）	39	下野遺跡（縄文・弥生）	72	樋ノ口遺跡（弥生）
7	小畑原Ａ遺跡（縄文）	40	弥四郎遺跡（縄文）	73	照川遺跡（弥生）
8	温水遺跡（弥生）	41	笹原遺跡（弥生）	74	原遺跡（弥生）
9	亀峯山古墳（古墳）	42	迫遺跡（弥生）	75	枯鉾遺跡（弥生）
10	椎園Ａ遺跡（縄文）	43	成田尾遺跡（弥生）	76	境ノ坪遺跡（弥生・古墳）
11	椎園Ｂ遺跡（縄文）	44	穴観音古墳（古墳）	77	野出古墳（古墳）
12	丸山遺跡群（弥生）	45	今村遺跡（古墳）	78	新宮遺跡（弥生）
13	徳丸遺跡群（弥生）	46	会下遺跡（古墳）	79	原地蔵古墳群（古墳）
14	山ノ内遺跡（縄文）	47	青津遺跡（弥生）	80	長利田遺跡
15	太田遺跡（旧石器）	48	伊勢森古墳（古墳）	81	日野・中条里（古代）
16	暘谷城跡（近世）	49	石松城跡（中世）	82	的場古墳群（古墳）
17	日出城城下町（近世）	50	ミツゲ遺跡（弥生）	83	阿蘇社遺跡（中世）
18	乙狐塚古墳（古墳）	51	中村遺跡（古墳）	84	野添遺跡
19	狐塚古墳（古墳）	52	成末遺跡	85	阿弥陀寺古墳群（古墳）
20	狐塚古墳（古墳）	53	内野遺跡（縄文）	86	本庄狐塚古墳（古墳）
21	赤山遺跡（弥生）	54	早水台遺跡（旧石器）	87	重光古墳（古墳）
22	橋詰遺跡（縄文・古墳）	55	西小深江遺跡（旧石器）	88	千光寺古墳（古墳）
23	鶴沢古墳群（古墳）	56	高尾山遺跡（旧石器）	89	穴見地蔵横穴群（古墳）
24	カネノトイ遺跡（弥生）	57	子招遺跡（旧石器）	90	白木古墳（古墳）
25	友田遺跡（古墳）	58	日比浦遺跡群（縄文・弥生）	91	正覚寺古墳群（古墳）
26	**和泉第１遺跡（近世）**	59	長谷遺跡群（縄文・弥生）	92	寺ノ上遺跡（弥生）
27	**和泉第２遺跡（弥生・中世）**	60	亀甲城跡（中世）	93	本庄塚山古墳（古墳）
28	玉手遺跡（近世）	61	燈籠番遺跡（縄文）	94	野地古墳（古墳）
29	真銀城跡（中世）	62	網代遺跡（縄文）	95	七双子古墳群（古墳）
30	大塚遺跡（旧石器）	63	仏具殿遺跡（弥生）	96	大平古墳群（古墳）
31	南部遺跡（弥生）	64	軒ノ井遺跡（弥生・中世）	97	野田遺跡（縄文・弥生）
32	赤松遺跡（弥生）	65	大坪遺跡（縄文・古墳）	98	トシカン原遺跡（弥生・古墳）
33	千人塚古墳（古墳）	66	秋貞遺跡（中世）		



第３図　日出バイパス調査遺跡周辺主要遺跡分布図

第３章　和泉第１遺跡

第１節　遺跡の立地と環境

本墓地は大分県速見郡日出町大字藤原字和泉 1613 番地にあり、墓地の西にある標高約 100 mの丘陵から下る斜面に、ちょっとした平坦面を造りだして立てられている。そこは１号墓（「釈了秀」銘、俗名孜右衛門）の裏面に刻まれているように、孜右衛門が開墾した字坂本の田を東に見ドろせる場所であり、水田面との比高差は 15 mほどである。

第２節　調査の成果

建設省(現国土交通省)大分工事事務所から工事対象地区の埋蔵文化財の有無に関する照会があった際、当該地点は周知遺跡ではなかったが、近世墓約 10 基が良好な形で残っており、発掘調査の必要があると判断して、大分工事事務所と大分県教育委員会の担当者レベルで協議を行い、範囲、調査日程等の確認をした。

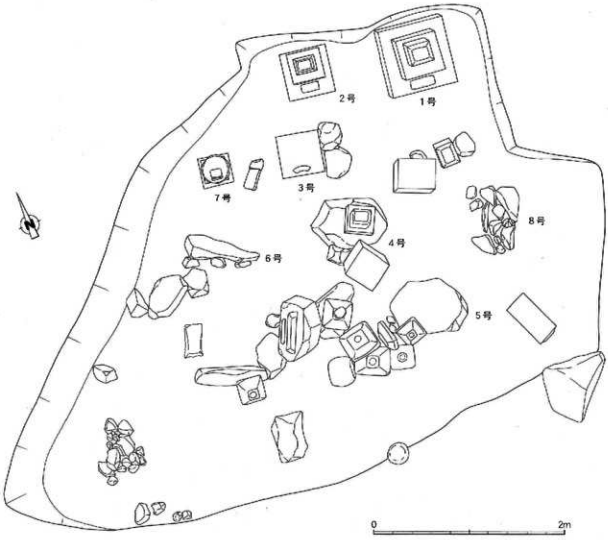
発掘調査は、平成 11 年 11 月 10 日に墓石を覆っていた表土除去作業を開始した。その後、墓石の実測・写真撮影・拓影作成を和泉第２遺跡の調査と並行して行い、12 月９日には概ね終了した。

墓地の広さは約 20m²で、その中で８基の近世墓が確認できた。その他五輪塔の空輪や風輪等が集められた状態で検出されており、さらに多くの墓があったと考えられる。この地に埋葬されているのは坂本の水田を開墾した孜右衛門の家族が中心である。しかし、正徳５年（1715）銘の墓標や五輪塔の存在は、それ以前に墓があったことを伺わせる。

ド部遺構に関しては、地権者の承諾を得て、平成 12 年６月に立会調査を実施したが、遺物等確認できなかった。

第４図　和泉第１遺跡周辺地形図

写真１　和泉第１遺跡全景



第５図　和泉第１遺跡墓石配置図

1号墓　文化3年（1806）成人男性

1号墓は墓域の中では北東部に位置する（第5図）。その西の2号墓と50cmの間隔を開けて、並ぶように南を向いて立っている。また、南にある8号墓とは1m以上の拝礼・墓道空間を開けており、当墓所で中心的な墓といえる。墓は2段の墓壇を有し、基壇底面から墓標頂部までの高さが105cmある大型の墓石である（第6図）。

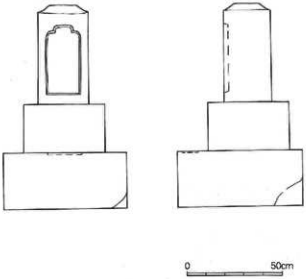
墓標は方柱状で、兜型の形をとる。花燈形の部分は南面しており、残りの3面ともに次の刻字がなされている。

（正面）釋了秀
（右面）文化三丙寅年
（左面）四月十八日
（裏面）俗名彼右衛門七十歳
　　於坂木開田地者也

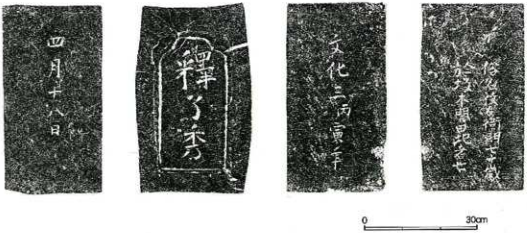
墓標と墓壇上段は四面とも丁寧に磨かれている。

写真2　和泉第1遺跡1号墓

写真3　和泉第1遺跡8号墓



第6図　和泉第1遺跡1号墓実測図（1/20）



第7図　和泉第1遺跡1号墓拓影（1/10）

2号墓　文化12年（1815）成人女性

2号墓は当墓域の中では北部に位置し、その東にある1号墓とは50cmの間隔を開けて、正面を南に向けて並ぶように立っている（第5図）。また、南にある4号墓とは30cmの拝礼・墓道空間を開けているが十分とはいえない。

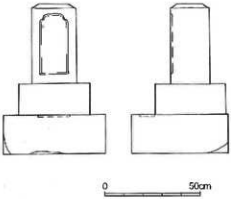
（正面）釋妙音

（右面）文化十二　亥天

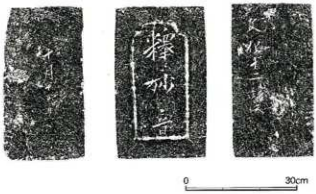
（左面）十月十四日

墓標と2段目基壇は四面とも丁寧に磨かれている。

写真3　和泉第1遺跡2号墓



第8図　和泉第1遺跡2号墓実測図（1/20）



第9図　和泉第1遺跡2号墓拓影（1/10）

墓は2段の基壇を有し、基壇底面から墓標頂部までの高さは78cmである。墓標は方柱状で、兜型の形をとる。花瓶形の部分は南面しており、側面にも刻字がなされている（第8・9図）。

2号墓は墓標から成人女性のものであり、1号墓（「釈了秀」銘、俗名孜右衛門）と並んで造られていること、同型式の墓で若干1号墓の方が大きいこと、また死亡年代が近いことから、1号墓に埋葬された成人男性の妻であると考えられる。そうすると、文化三年（1806）に夫の孜右衛門が死去し、1号墓に埋葬される。その9年後の文化十二年（1815）には妻が死去し、2号墓に埋葬されたことになる。

写真5　和泉第1遺跡3号墓

3号墓　元治2年（1865）成人男性

3号墓は墓域のほぼ中央部に位置し、前述の2号墓、後述の4号墓とは南北に並ぶように立てられている（第5図）。現状では、3号墓の前面は五輪塔や石塔の部材が散乱しているが、墓が機能していた時には若干の拝礼空間があったと思われる。

墓は台石の上に1段の基壇を有し、基

壇底面から墓標頂部までの高さは91cmである。台石は凝灰岩の自然石を使い、上面は基壇を据えやすくするためノミで加工が施されている。

墓標は方柱状で、兜卒の形をとる（第10図）。南面した正面には彫り窪めた花燈部分はなく、側面とともに次のような刻字がなされている。

（正面）釈教仁

（右面）元治二乙丑

五月八日

（左面）十四代日仲蔵

六十九才

墓標と基壇は四面とも丁寧に磨かれている。

十四代日と左面に刻字されていることから、この墓に埋葬された成人男性は、後述の5号墓に埋葬された十三代日攸右衛門の子と考えられる。

4号墓　寛政5年（1793）成人男性

4号墓は墓域の中では北に位置し、後ろを2号墓、西隣を7号墓、前を3号墓に囲まれており、前後の間隔は30cm、左右は50cmほどと狭いながらも礼拝空間が確保されている（第5図）。

現状では、基壇と墓標がずれて存在しているものの、それを復元すると、墓は2段の基壇を有し、基壇底面から墓標頂部までの高さは89cmである。墓標は方柱状の兜卒である（第13図）。正面は彫り窪んだ花燈形の部分をもち、造立当初の状況を維持している1段目の基壇から南面していたと思われる。

墓標の刻字は次のとおりである。

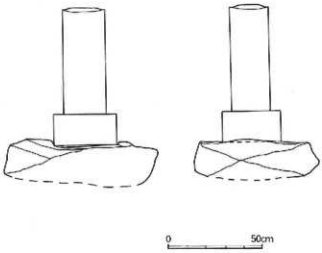
（正面）釈凉積

（右面）　　攸右門子

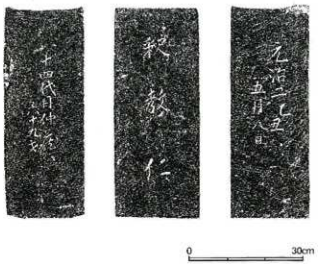
寛政五癸丑天

（左面）九月廿九日

墓標と基壇は四面とも丁寧に磨かれている。



第10図　和泉第1遺跡3号墓実測図（1/20）

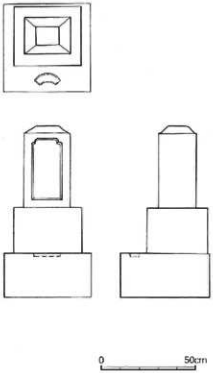


第11図　和泉第1遺跡3号墓拓影（1/10）

写真6　和泉第1遺跡4号墓

4号墓は「攷右門の子」を埋葬したもので、当墓域においては「攷右門」の墓は文化三年（1806）の1号墓と天保十三年（1842）の5号墓の2基ある。当墓が寛政五年（1795）ということを考えると、1号墓に埋葬された「攷右門」の子である可能性が非常に高い。また、墓の位置も5号墓より1号墓に近いことから、4号墓は1・2号墓の「攷右門」夫妻の子と考えるのが妥当であろう。

第12図　和泉第1遺跡4号墓拓影（1/10）



第13図　和泉第1遺跡4号墓実測図（1/20）

5号墓　天保13年（1842）成人男性

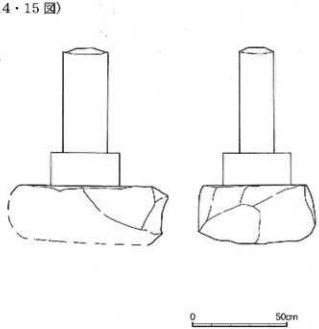
5号墓は当墓域の中では南側に位置し、その北には3号墓と8号墓がある。基壇も墓標も転倒しており、元の位置を保っているのが台座のみであり、断定はできないが当墓も皆と同様に南を向いて立っていたと思われる。墓前は拝礼・墓道としての約1mの空間がある（第5図）。

墓は凝灰岩の自然石を用いた台石の上に1段の基壇を有し、基壇底面から墓標頂部までの高さは103cmである。墓標は方柱状の兜型で、正面に彫り窪めた花盛形の部分はない。正面と側面の合わせて3面に次の刻字がなされている。（第14・15図）

（正面）釋最浄
（右面）天保十三寅天
（左面）九月十日
　　十三代攷右衛門

墓標と基壇は四面とも丁寧に磨かれている。

5号墓の埋葬者は「十三代攷右衛門」であり、死去したのが天保十三年(1842)ということから、文化三年（1806）に死去した1号墓の「攷右衛門」の子か孫であり、元治二年（1865）に死去した3号墓の十四代仲蔵の父の可能性がある。



第14図　和泉第1遺跡5号墓実測図（1/20）

第 15 図　和泉第 1 遺跡 5 号墓拓影（1/10）

写真 7　和泉第 1 遺跡 5 号墓

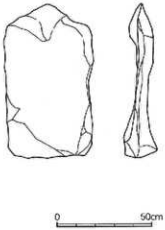
6 号墓　正徳 5 年（1715）成人男性

1 号墓は墓域の中央西より、7 号墓前面で倒立した状態で検出された（第 5 図）。そのため墓壙等、墓標以下については不明である。

墓標は 80cm × 50cm 大の凝灰岩の板石でできており、その一面に次の刻字がなされている。（第 16・17 図）

（正面）正徳五夫
釈道閑位
未正月廿九日

写真 8　和泉第 1 遺跡 6 号墓



第 16 図　和泉第 1 遺跡 6 号墓実測図（1/20）

第 17 図　和泉第 1 遺跡 6 号墓拓影（1/10）

7号墓　寛政7年（1795）成人女性

7号墓は墓域の北西、3号墓と並び、また6号墓の後ろで確認された（第5図）。その際、蓮華座までは原位置を保っていたが、墓石本体は隣に横たわっていた。墓は3段の台石上に、地蔵を丸彫し、半枘で、台石の最上段の蓮華座と繋がっている。蓮華座から墓標頂部までの高さは80cm以上である。（第18図）

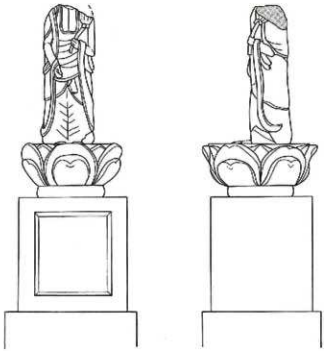
台石正面の花燈形の内部と、側面にそれぞれ次のような刻字がなされている。

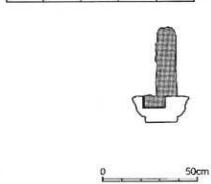
（正面）釈常蓮

（右面）寛政七乙卯天

（左面）　-月廿五日

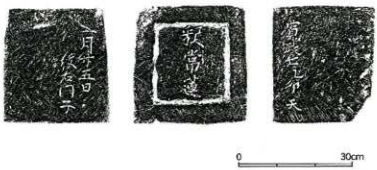
　　孜右門子





第18図　和泉第1遺跡7号墓実測図（1/10・1/20）

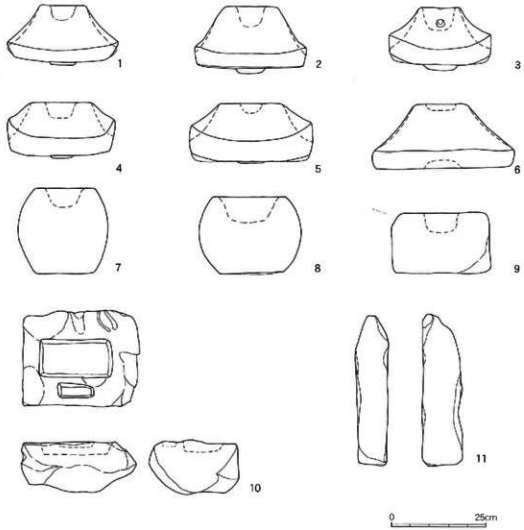
写真9　和泉第1遺跡7号墓



第19図　和泉第1遺跡7号墓拓影（1/10）

第３表　和泉第１遺跡墓石一覧表

墓標番号	西暦	年　号	月　日	型式	戒　名	俗名	性別	年齢	備　考
1	1806	文化３年	４月18日	方柱形	釋了秀	○	男	70	坂本開山地者
2	1815	文化12年	10月14日	方柱形	釋妙音		女		
3	1865	元治２年	５月８日	方柱形	釈教仁	○	男	69	
4	1793	寛政５年	９月29日	方柱形	釈凉稽	○	男		
5	1842	天保13年	９月10日	方柱形	釋最淨	○	男		
6	1715	正徳５年	１月29日	板碑形	釈道閑位		男		
7	1795	寛政７年	１月25日	仏像形	釈常蓮	○	女		
8									自然石



第20図　和泉第１遺跡　その他の石造物実測図（1/20）

その他の石造物

第20図１～６は五輪塔の火輪である。１～５はいずれも空風輪を載せる枘受け、水輪とを繋ぐ枘があり、形は隅が反る。６は風・水輪との枘受けがあり、屋根は反らずに平坦である。７、８は五輪塔の水輪で、火輪との枘受けがある。９は五輪塔の地輪で、水輪を載せる枘受けがある。10は台石で、上面中央に枘受けが掘られており、その前面に方形の水受けがある。11は刻字がみられないが、墓石本体と考えられる。

第3節　小　結

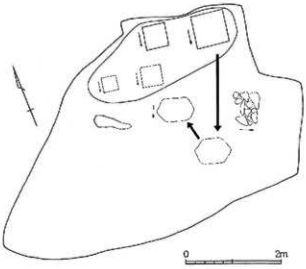
1. 和泉第1遺跡近世墓の変遷

まず、6号墓が正徳5年（1715）に造られる。その後、7号墓が構築されるまで80年間、紀年銘のある亀石は造られない。しかし、6号墓を含む南西半分は五輪塔が散在している状況が見て取れることから、遅くても18世紀前半には墓域の南西部は墓地としての機能を果たしており、その後、18世紀後半に字坂本の田を開墾した「攷右衛門」一族が墓地として利用したと考える。

一族ではまず寛政5年（1793）、「攷右衛門」の子が亡くなり、7号墓に葬られる。次に、同じく「攷右衛門」の娘が、寛政7年(1795)に亡くなり、4号墓に葬られている。これらは「攷右衛門」が50代後半に、続けて2人の若者を失うという悲しい体験をしたことを示している。

19世紀初めの文化年間に「攷右衛門」とその妻が亡くなり、先に亡くなった子どもたちの背後に並んで墓を築かれる（1号墓・2号墓）。次世代の家長である「十三代攷右衛門」は天保十三年(1842)に、三世代目の家長「十四代目仲蔵」は元治二年(1865)に亡くなり、「攷右衛門」家族の前面に墓を構築しているが、それぞれの家族の墓は確認できていない。

第21図　和泉第1遺跡近世墓の位置

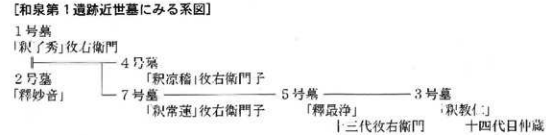


第22図　和泉第1遺跡近世墓の変遷

2. 墓石の変遷

当墓地で確認された墓は板碑形、仏像形、方柱形（胴形）を呈している。まず、正徳5年（1715）銘の板碑形が造られる。次に寛政年間に、「攷右衛門」の子の墓として方柱形（胴形）と仏像形が築かれる。この形式の違いは性や年齢によるものと考える。19世紀前半に築かれる「攷右衛門」夫妻の墓、19世紀中頃の「十三代攷右衛門」、「十四代目仲蔵」の墓はいずれも方柱形（胴形）をしている。しかし、「攷右衛門」夫妻の墓の型式は後者とは違い、正面に花燈形の部分があること、身が太いこと、台石が2段とも角石でできていることなどの特徴がみられる。

[和泉第1遺跡近世墓にみる系図]



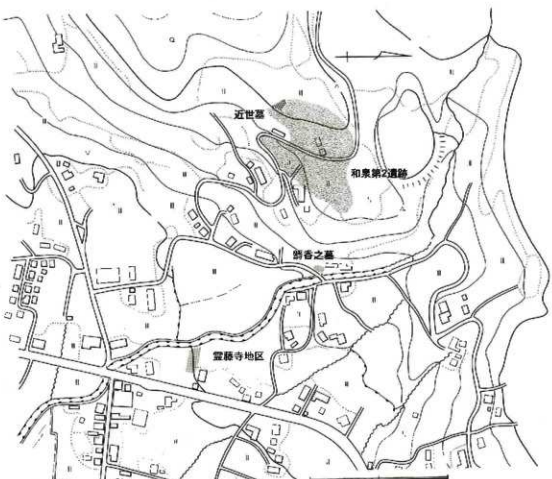
第４章　和泉第２遺跡

第１節　遺跡の立地と環境

和泉第２遺跡は大分県速見郡日出町大字藤原に所在する。その藤原地区は日出町のほぼ中央部にあたり、海成段丘のなだらかな丘陵地帯と北西部に広がる鹿鳴越山系の高原地帯からなる。遺跡は高原地帯の端部、標高約 100 mの箇所とその眼下に広がる標高約 65 mの丘陵上の箇所に立地する。

和泉第２遺跡の調査は、まず平成 10 年１月 13 日に重機で、台地上の字城の試掘調査から開始した。その結果、竪穴住居が確認されたため、すぐ本調査に切り替えた。そして、Ⅰ区の西半分と近世墓の一部調査を実施して３月 27 日に終了した。平成 10 年度はⅠ区東半分とⅡ区の一部の本調査、さらに下の字坂本の水田地帯の試掘調査を４月 14 日から平成 11 年３月 17 日にかけて実施した。平成 11 年度の調査は５月 25 日から翌年３月 16 日にかけて行った。その内容は、Ⅱ区の本調査とⅢ区の試掘調査及び磨香之塔の実測調査である。平成 12 年度はⅡ区の残り箇所の本調査と霊藤寺地区の試掘・本調査及び近世墓の墓石追加調査を行なった。調査期間は４月 14 日から９月 19 日である。

以上のように、和泉第２遺跡は調査区が広く、また年度を越えて調査を実施したため、和泉第２遺跡Ⅰ区～Ⅲ区、霊藤寺地区、磨香之塔、近世墓に分けて、次のように報告することとした。



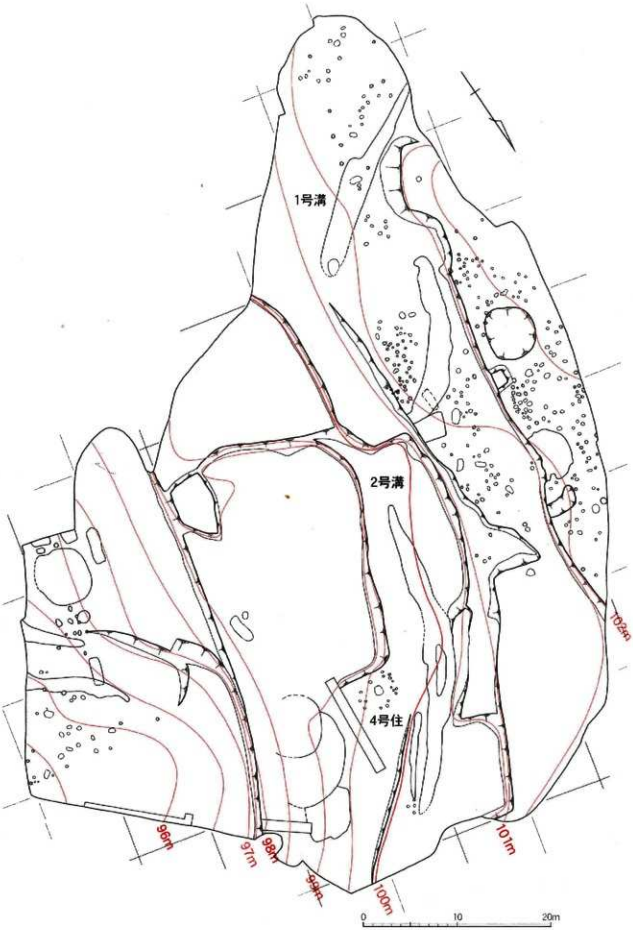
第 23 図　和泉第２遺跡位置図（1/5000）

つまり、第４章　第２節　和泉第２遺跡Ⅰ区
　　第３節　和泉第２遺跡Ⅱ区
　　第４節　和泉第２遺跡Ⅲ区
　第５章　和泉第２遺跡　霊蓮寺地区
　第６章　和泉第２遺跡　磨香之塔
　第７章　和泉第２遺跡　近世墓　　として報告する。

第２節　和泉第２遺跡Ⅰ区

まず、和泉第２遺跡Ⅰ～Ⅲ区全体について、南北方向に10ｍ単位、東西方向に８ｍ単位で調査グリッドを設定して調査を開始した。南北方向は１・２・３～、東西方向はＡ・Ｂ・Ｃ～（Ｄは欠番）と名付けた。調査の結果、検出された遺構は、弥生時代と中世の大きく２時期がある。各時代の遺構は、弥生時代では住居跡が19軒、遺物を含む土坑８基、溝状遺構１条が検出された。中世

第24図　和泉第２遺跡周辺地形図（1/2000）



第 25 図　和泉第 2 遺跡 1 区遺構配置図（1/400）

は城館に伴う堀切1条、周溝1基、遺物を多く含む土坑1基及び溝状遺構1条が検出された。弥生時代の遺構の分布を見ると、尾根上から南東向きの緩斜面まで住居が広がっており、Ⅰ区の西及び北西にある調査区外の尾根上まで遺構は広がっていたものと考えられる。

Ⅰ区は、最初に調査を手がけた箇所で、調査面積は約4000m²である。地形的には北西に広がる尾根から緩やかに南東に向かって下っており、ここから弥生時代の住居跡10軒、土坑8基、溝状遺構1条及び近世の溝状遺構等が検出された。

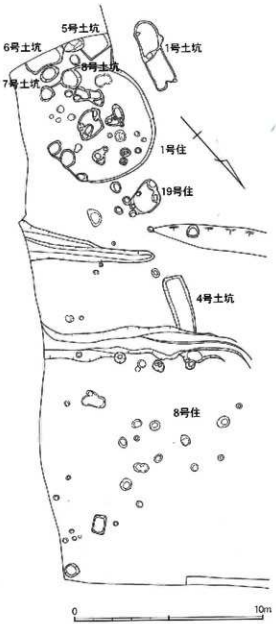
Ⅰ区は調査面積が広いので、Ⅰ・Ｊグリッド、Ｇ・Ｈグリッド、Ａ～Ｄグリッドの３つに分けて報告する。

1. Ⅰ・Ｊグリッド（第26図）

Ⅰ・Ｊグリッドは和泉第２遺跡Ⅰ区の東隅、標高約95ｍ～97ｍにあたる。ここからは、弥生時代の住居跡３軒、土坑６基、近世の溝状遺構２条が検出された。

1号住居（第27図）

1号住居はⅠ８・Ⅰ９グリッドで検出された。検出面が東西6.0ｍ、南北6.4ｍの円形をしており、約35㎝下位で床面に達する。床面も東西5.7ｍ、南北6.2ｍの円形をしている。床面からは、柱穴は６ヶ所検出され、その深さは40㎝～70㎝である。



第26図　和泉第２遺跡Ⅰ・Ｊグリッド遺構配置図（1/200）

また、東壁及び南壁で0.7ｍ～１ｍで、深さ25㎝～40㎝の不整円形の土坑が確認された。さらに、床面の中央には1.8ｍ×1.3ｍで深さ20㎝程の浅い掘り込みがある。その底には炉跡と考えられる焼土があり、また埋土には炭・炭化物が含まれていた。その南東１ｍの床面でも60cm×70cmの範囲に焼土が広がっているのが観察された。

土器については、６は中央部炉跡、２・９は土坑１、３・14は土坑２、１・12は土坑３からそれぞれ出土した。石器については、凹石39が土坑４から出土した。それ以外は床面から若干浮いた状態で確認された。出土遺物から見て、弥生時代中期初頭と考えられる。

土器（第28図～第29図）

１～９は壺形土器である。１、２は上位に最大径をもつ扁球形胴部に短く外反する口縁部をつけたもので、胴部上面には半截竹管による４分割重弧文様を、口縁端部には列点文を施したいわゆる下城タイプの壺である。１の復元口径は17.4㎝、２は14.8㎝である。３、４は球状胴部にやや開く口縁部をもつ。

10～15は甕形土器である。10、11は口縁部で10は口縁端部を跳ね上げ、復元口径は28.6㎝

を測る。11は頸部に三角突帯を貼り付け、胴は張らない。底部は厚く、外面ハケ目調整や指おさえが確認できる。

16～18は鉢形土器で、そのうち17は口縁部に横向きの取っ手を、18は縦向きの取っ手をもつ。ともに穿孔がみられる。

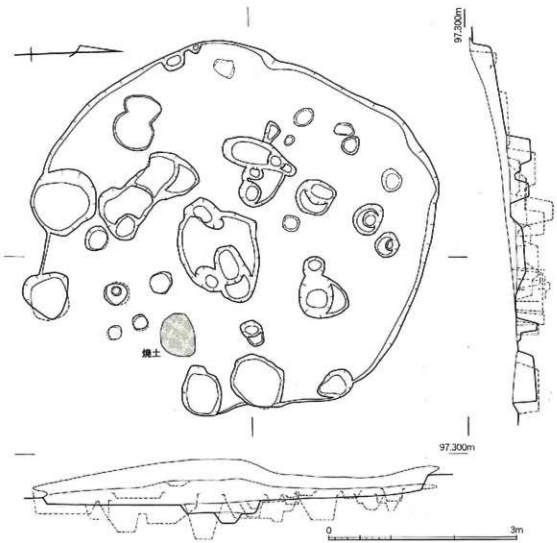
19～21は高坏である。19は開き気味の脚部に透かしを施し、20、21の内部にはしぼり痕が確認できる。

石器（第30図～第34図）

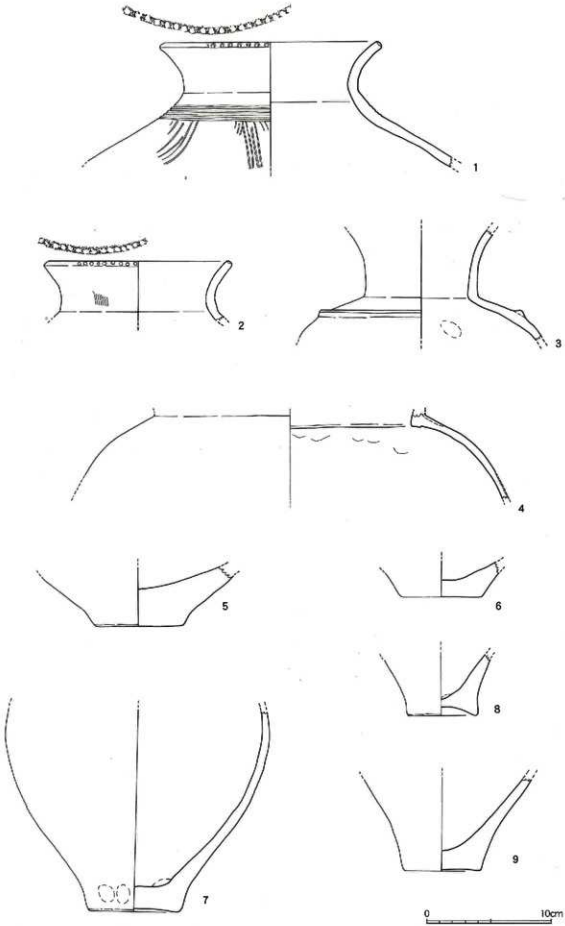
1～5は磨製石鏃で、そのうち1は抉りの浅い凹基無茎鏃で両面研磨しており、2～5は未成品である。すべて結晶片岩でできている。

6～42は打製石鏃である。そのうち31～36は平基無茎鏃で、それを除いたものが凹基無茎鏃である。凹基無茎鏃は6・7のような基部の抉りの浅い鍬形鏃のもの、14、38のような抉りの浅い五角形のもの、10のような長二等辺三角形でやや抉りが浅く、端部が丸いもの、13、21のように正三角形で抉りが浅いものなどバリエーションに富んでいる。材質は26がチャート、30がサヌカイト、37が粘板岩である以外はすべて姫島産黒曜石である。また、平基無茎鏃はいずれも姫島産黒曜石製である。

43は刺突具、44は尖頭器、45～48は石錐で、いずれも姫島産黒曜石製である。46は幅広の



第27図　和泉第2遺跡1号住居跡実測図（1/60）

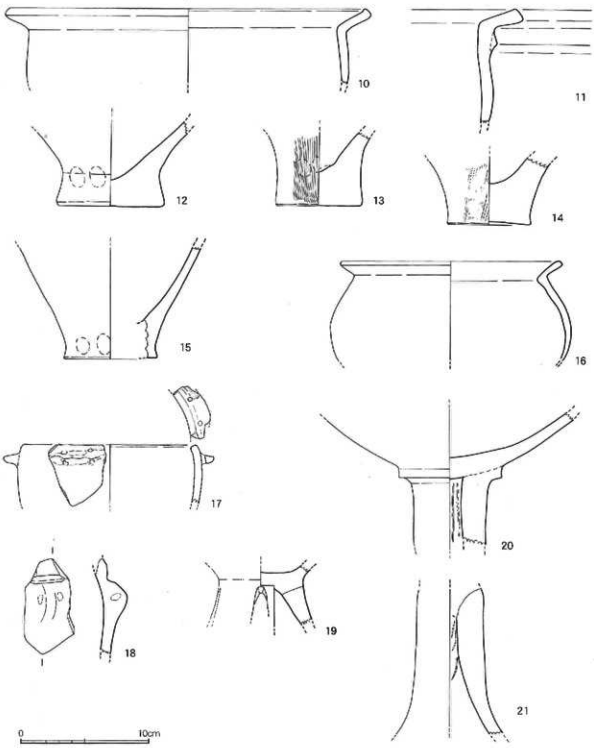


第 28 図　和泉第 2 遺跡 1 号住居跡出土土器実測図 1 （1/3）

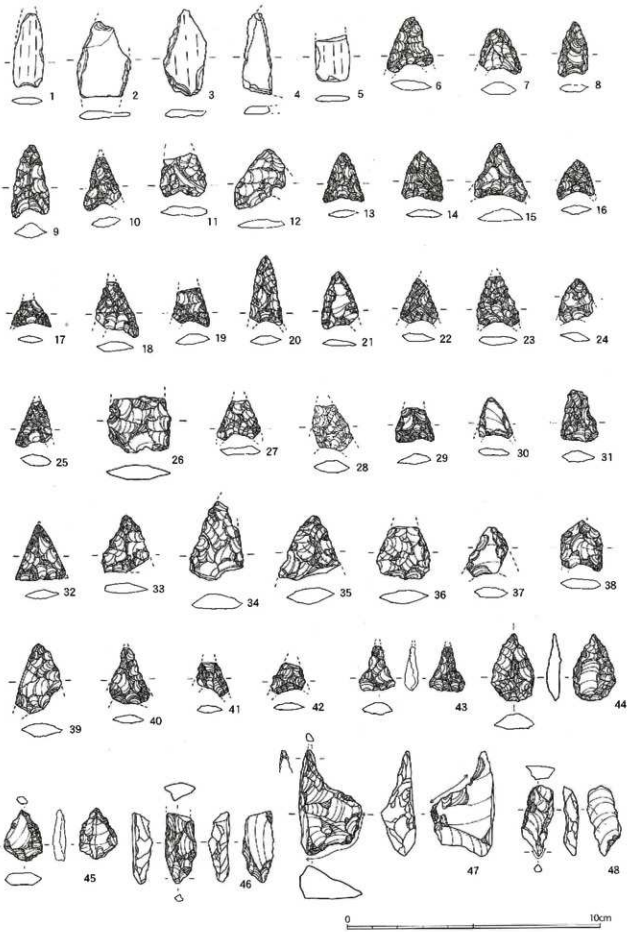
剥片を素材とし、左右縁辺より調整加工を施したもの、また48は縦長剥片の折れを利用したものである。

49は姫島産黒曜石製の横匙、50・51は姫島産黒曜石製の掻器である。51は下部に階段状の加工を施し刃部としている。52は両面加工石器、53～55は円形スクレイパーで、剥片を素材として周囲を両面から細かく調整している。いずれも姫島産黒曜石製である。

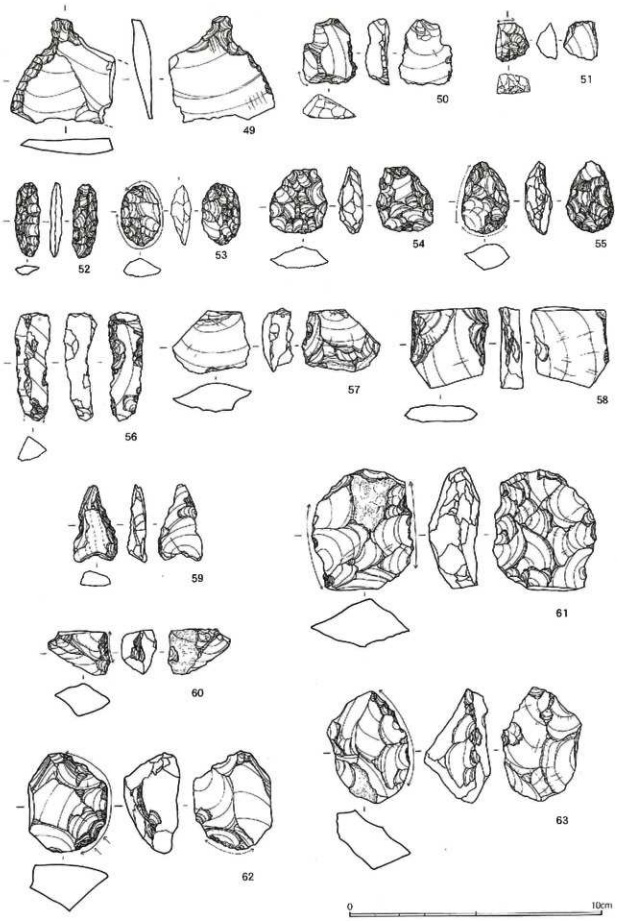
56・57は幅広の剥片を素材とした扶入スクレイパー、60～63はコアスクレイパーである。60の刃部は両面加工、61～63は片面加工である。58のスクレイパーはサヌカイト製。64～76は



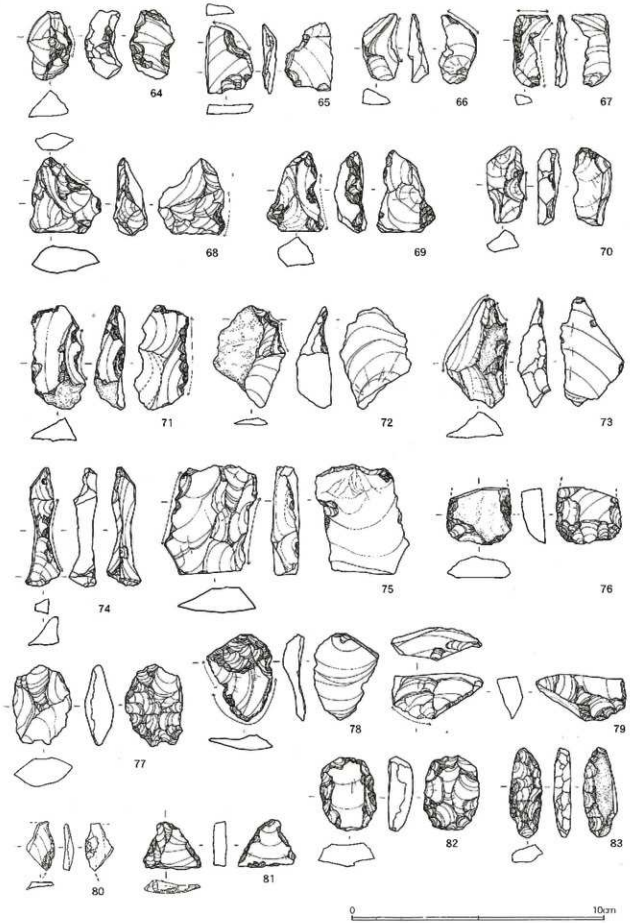
第29図　和泉第2遺跡1号住居跡出土土器実測図2（1/3）



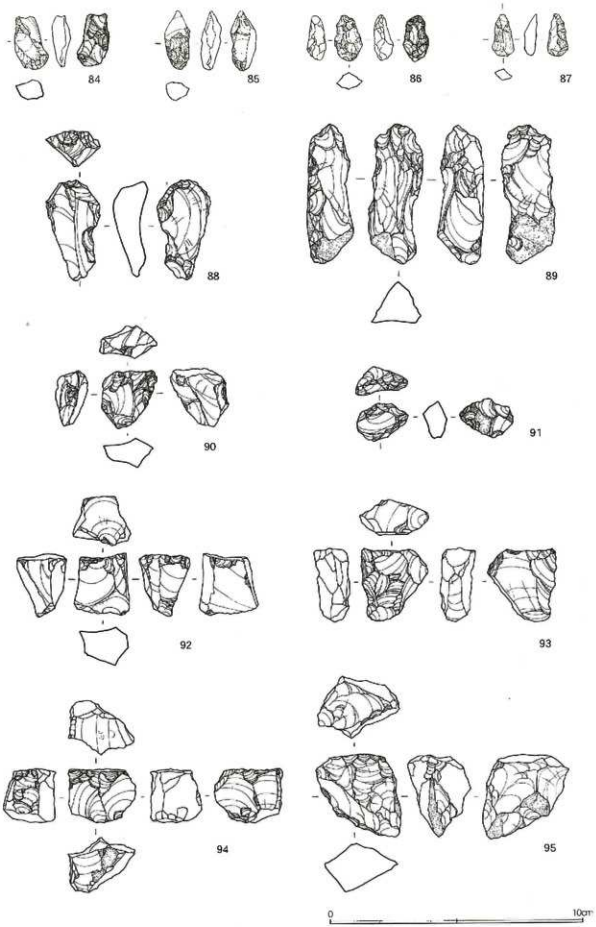
第30図　和泉第2遺跡1号住居跡出土石器実測図1（2/3）



第31図　和泉第2遺跡1号住居跡出土石器実測図2 (2/3)



第 32 図　和泉第 2 遺跡 1 号住居跡出土石器実測図 3 (2/3)



第 33 図　和泉第 2 遺跡 1 号住居跡出土石器実測図 4　(2/3)

抉入削器ですべて姫島産黒曜石製である。79の剥片は珪化木製で、縄文時代のものである可能性も考えられる。

88～95は石核でいずれも姫島産黒曜石製である。88・89は角礫を素材とし、打面を転移しながら、横長剥片を多く剥いだ石核。91は裏面に残る自然面から見て、平坦な小角礫を素材とし、打面を転移しながら小さな剥片を剥いだと思われる。92は上方の打面から打点を転移したり、打面再生をしながら、先細りの石刃を剥離した石核である。

96は緑泥片岩製の石錘、97は頁岩製の石包丁、99は安山岩製の凹石、100・101は磨製石斧で、100は欠損した後、刃部を再生している。

8号住居（第35図）

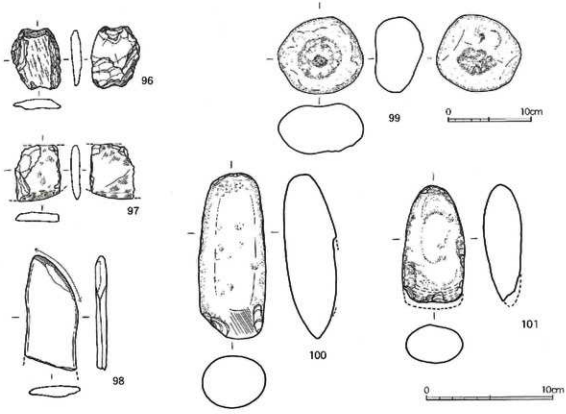
8号住居はⅠ区では一番低い位置にあるＪ８グリッドで検出された。全体的に削平を受けており、規模等は不明である。しかし、円形に巡る柱穴が検出され、その深さは約40cmである。

遺物は残された床面及び柱穴からわずかばかり出土した。小破片ばかりであるが、弥生の甕形上器の口縁部も出ており、時期は弥生時代中期前半と考える。

19号住居（第37図）

19号住居は1号住居の北Ｉ８グリッドで検出された。全体的に削平を受けており、規模等は不明である。しかし、深さ約25cm～30cmの柱穴が検出され、その中央には1.6ｍ×1.3ｍで深さ30cm程の浅い掘り込みがある。その底には炉跡と考えられる焼土があり、また炉上には炭・炭化物が含まれていた。

遺物については、土器22、23はＰ１から、上器24、25、石器102はＰ２から出土した他は、残された床面から出土した。



第34図　和泉第２遺跡１号住居跡出土石器実測図５（1/3・2/9）

出土遺物（第36・38図）

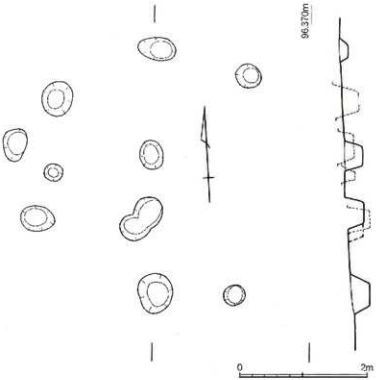
22は口縁は朝顔状に開き、肩は張らずに胴部下位に最大径をもつ小型壺である。口縁端部は若干肥厚する。23は下城式の甕で、内湾気味の口縁部と胴部下位にそれぞれ刻みをいれた三角突帯を貼り付ける。底部は厚手（24～26）と27の上げ底がある。

また、姫島産黒曜石製の打製石鏃が見つかっている（102）。

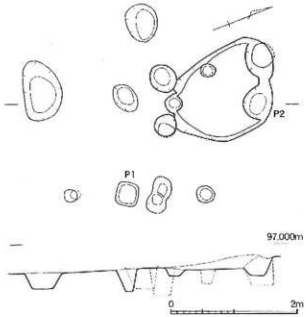
1号土坑（第39図）

1号土坑は1号住居の西19グリッドで検出された。その規模は、検出面で幅1.2m、長さ3.9mの長方形をしており、壁はほぼ垂直に立つ。床面は2段となり、深さはそれぞれ50cm、70cmである。南北方向に長軸をもつ。

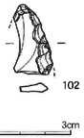
土器は礫に混じり若干出土したが、弥生土器の小破片ばかりである。石器は凹基無茎鏃103～105、石錐109、ホルンフェルス製の尖頭器110、石核111・112が出土した。石材は110を除いて姫島産黒曜石である。



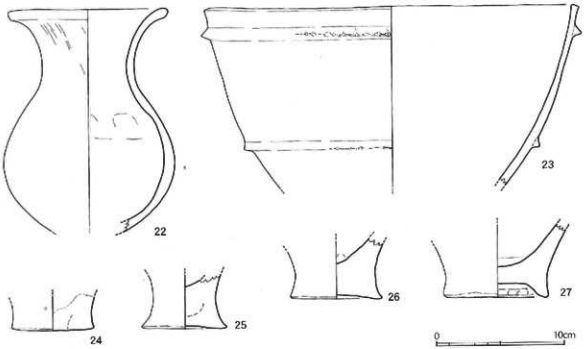
第35図　和泉第2遺跡8号住居跡実測図（1/60）



第37図　和泉第2遺跡19号住居跡実測図（1/60）



第36図　和泉第2遺跡19号住居跡出土石器実測図（2/3）



第 38 図　和泉第 2 遺跡 19 号住居跡出土土器実測図（1/3）

4 号土坑（第 39 図）

4 号土坑は I 7・8 グリッドで、4 号溝に切られた形で検出された。規模は幅 1.2 m、長さ 3.6 mの長方形をしており、深さは 65cm である。床面は平坦で、幅 0.8 m、長さ 3.1 mである。長軸は 1 号土坑と同じく南北にとる。

土器は弥生の小破片が出ている。石器は打製石鏃 106 ～ 108、石核 113、剥片 114 が出土している。いずれも姫島産黒曜石製である。

5 号土坑（第 39 図）

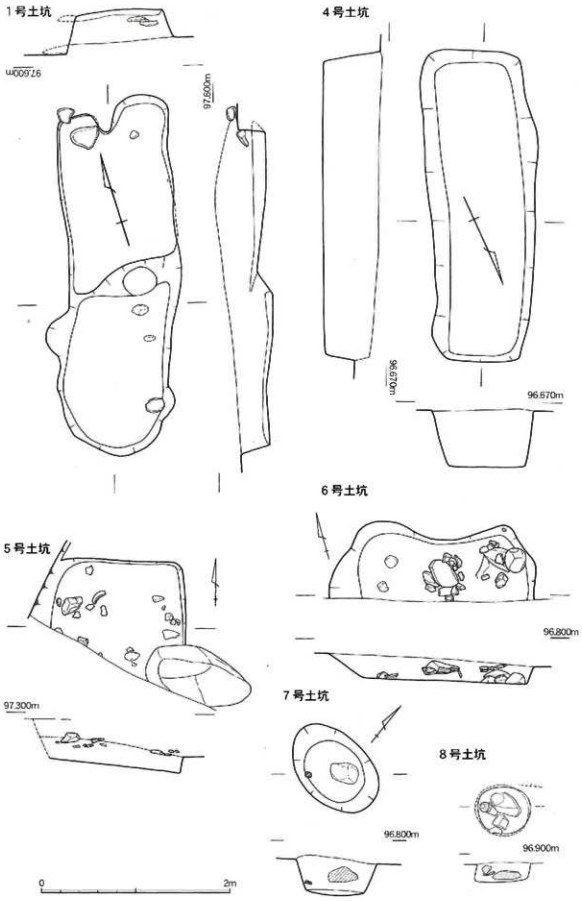
5 号土坑は 1 号住居の南、I 9 グリッドで検出された。その規模は、検出面で幅 1.6 m、長さ 1.4 m以上の方形をしており、深さ 30cm で、壁はほぼ垂直に立つ。床面は平坦で、幅 1.5 m、長さ 1.3 mである。長軸は 1 号土坑と同じく南北にとる。

ここからは 28 ～ 38 の土器が出土した。33 の甕形土器は鋸先状口縁で、端部は平坦。口縁部と胴部に三角突帯を貼り付ける。復元口径は 19.4cm である。34 は口縁端部を若干跳ね上げる。復元口径は 28cm である。35 の高坏の口縁も鋸先状で、端部は若干下がる。

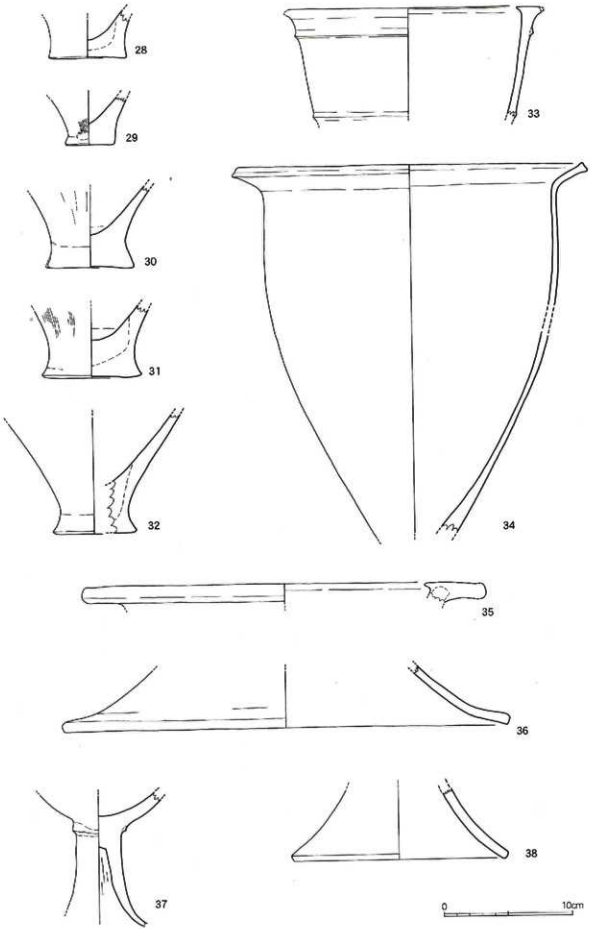
6 号土坑（第 39 図）

6 号土坑は 1 号住居の南、5 号土坑の東の I 9 グリッドで検出され、南半は調査区外となる。その規模は、検出面で幅 2.2 m、長さ 0.8 m以上の不整形をしており、深さは約 30cm である。床面はほぼ平坦である。

ここからは 39 ～ 45 の土器が出土した。39・40 は下城式土器要で、直行する口縁下部に刻みを施した突帯をめぐらす。41 は断面三角形に肥厚させた口縁部をもつ。42 は「く」字状口縁で、胴は張らない。復元口径は 34cm である。



第 39 図　和泉第 2 遺跡 1,4 ～ 8 号土坑実測図（1/40）



第 40 図　和泉第 2 遺跡 5 号土坑出土土器実測図（1/3）

7号土坑（第39図）

7号土坑は6号土坑と1号住居の間で検出した。その規模は、東西1.1 m、南北0.7 mの楕円形をしており、深さは約40cmである。床面はほぼ平坦である。ここからはいわゆる下城式甕形土器46が出土している。

8号土坑（第39図）

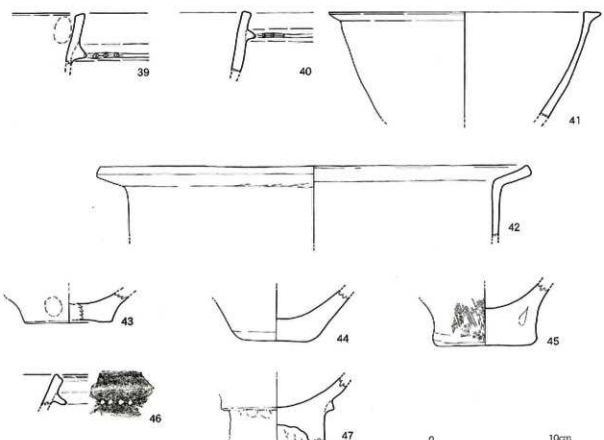
8号土坑は1号住居の南、6号土坑と7号土坑に挟まれて検出された。その規模は、直径約0.6 mの円形で、袋状を呈している。深さは約20cmで、床面はほぼ平坦である
ここからは高坏47が出土した。受部と脚部の境に三角突帯を1条貼り付け、脚内面にしぼり痕がみられる。

3号溝（第43図）

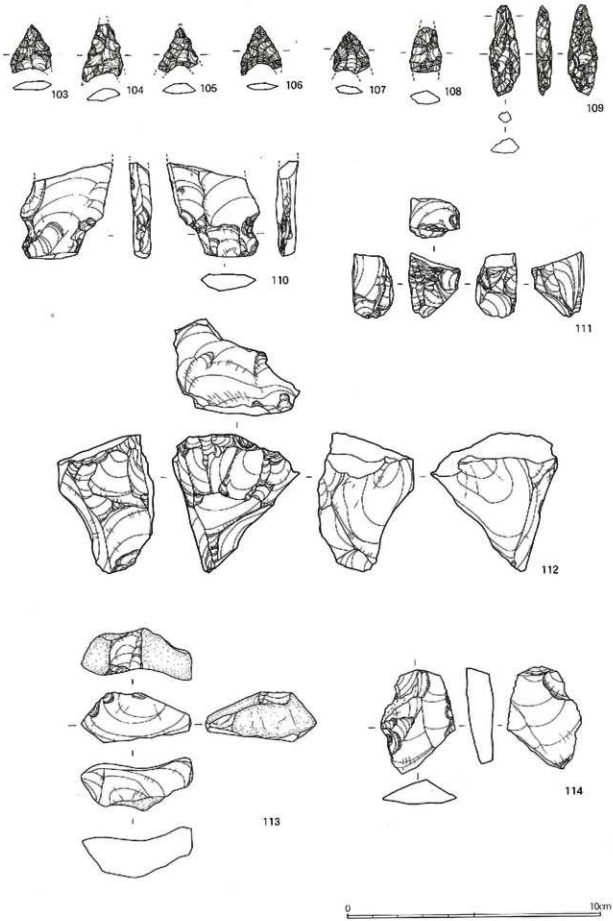
3号溝はＩ８からＪ８グリッドにかけて検出された断面逆台形の浅い溝である。その規模は幅1.3 m、深さ40cmで、地形に沿って西から東の傾斜している。ここからは弥生土器片に混じって、近世磁器片が出土している。

4号溝（第44図）

4号溝は、Ｉ７からＪ８グリッドにかけて検出された断面逆台形の浅い溝である。その規模は幅1.2 m、深さ35cmで、3号溝と平行して走り、地形に沿って西から東の傾斜している。ここからは、

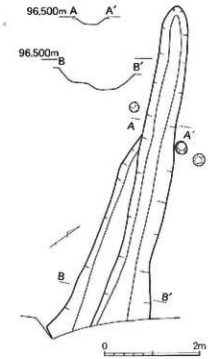


第41図　和泉第2遺跡6、7、8号土坑出土土器実測図（1/3）

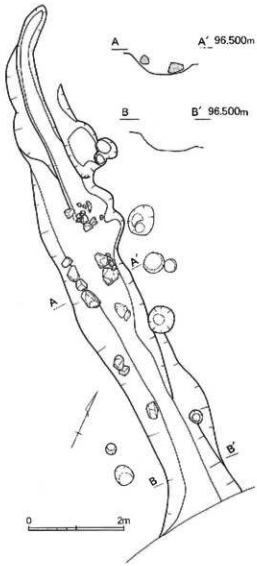


第42図　和泉第2遺跡 1,4～8号土坑出土石器実測図（2/3）

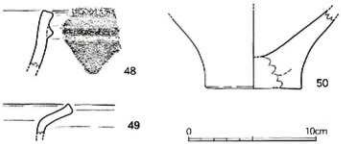
図示した甕形土器片に混じって、近世石臼が出土している。48 は短い口縁部直下に三角突帯をめぐらせ、口唇部と突帯に刻目を施す。49 は口縁を若干跳ね上げている。また、抉りの浅い凹基無茎鏃 115 も確認された。



第 43 図　和泉第 2 遺跡 3 号溝実測図（1/40）



第 44 図　和泉第 2 遺跡 4 号溝実測図（1/40）



第 45 図　和泉第 2 遺跡 4 号溝出土土器、石器実測図（1/3・2/3）

2. G・Hグリッド（第46図）

G・Hグリッドは和泉第2遺跡1区の中央部にあたり、標高は約98m～101mの地点である。ここからは、弥生時代の住居跡4基、土坑2基が検出された。また、このグリッド中央部には、黒色土の弥生時代の遺物包含層が確認された。

2号住居（第47図）

2号住居はG5・G6グリッドで3号住居と重複した形で検出された。住居跡の床面の規模は、東西11.5m、南北8.0mの楕円形をしている。斜面を掘り込んで築造したもので、西側は約40cm下位で床面に達する。床面からは、壁に沿って幅30cm、深さ10cmの周溝が検出され、その内部中央には、直径2.0m、深さ30cmの炭の入った皿状の掘り込みが確認され、炉跡と考えられる。その周りで柱穴は10ヶ所検出され、その深さは30cm～70cmである。

遺構検出時から調査中にかけては、遺構の重複関係が明確でなかったため、遺物はG5、G6出土として一括で取り上げた。そして、明確になった時点で、2・3・10号住居出土遺物として区別した。重複関係は、古い順に、3号住居、2号住居、10号住居である。

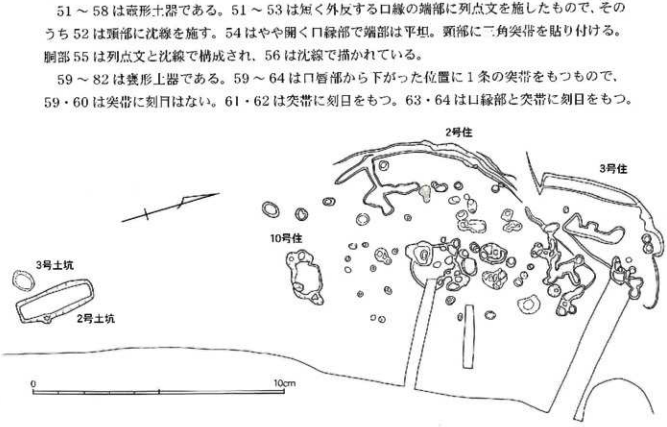
上器は、壺形土器、甕形土器、高坏、鉢形土器、器台がある（第48図～第50図）。そのうち、床面直上及び土坑、柱穴からは壺形土器51、52、53、甕形土器（下城式）59～64、66、甕形土器71～78、高坏84～86、89が出土した。また、石器については、尖頭状石器133、剥片137、削器148抉入削器150、石核154、155の他、石皿、磨石が床面直上及び土坑、柱穴から出土した。それ以外は床面から若干浮いた状態で確認された。出土遺物から見て、弥生時代中期前半と考えられる。

出土遺物

土器（第48図～第50図）

51～58は壺形土器である。51～53は短く外反する口縁の端部に列点文を施したもので、そのうち52は頸部に沈線を施す。54はやや開く口縁部で端部は平坦。頸部に三角突帯を貼り付ける。胴部55は列点文と沈線で構成され、56は沈線で描かれている。

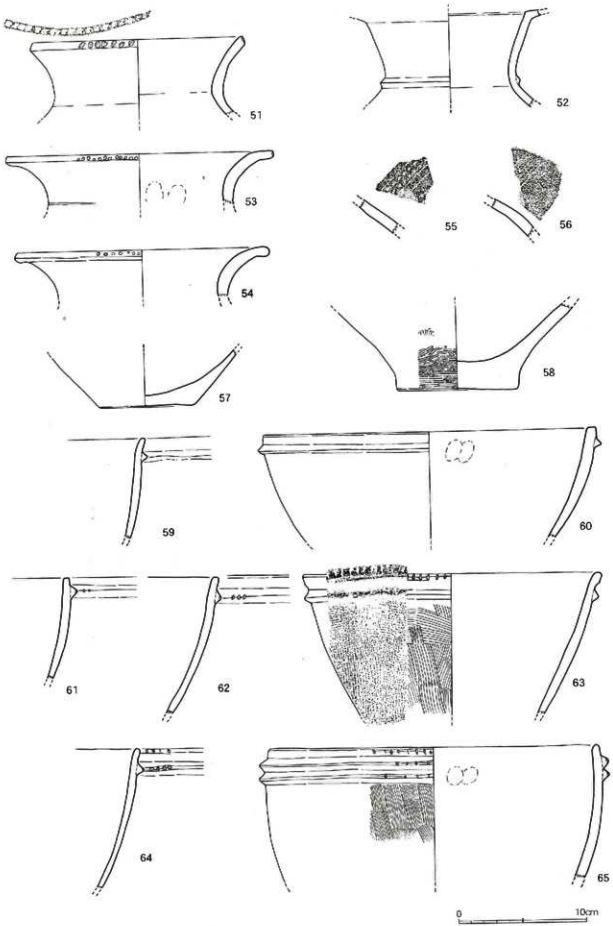
59～82は甕形上器である。59～64は口唇部から下がった位置に1条の突帯をもつもので、59・60は突帯に刻目はない。61・62は突帯に刻目をもつ。63・64は口縁部と突帯に刻目をもつ。



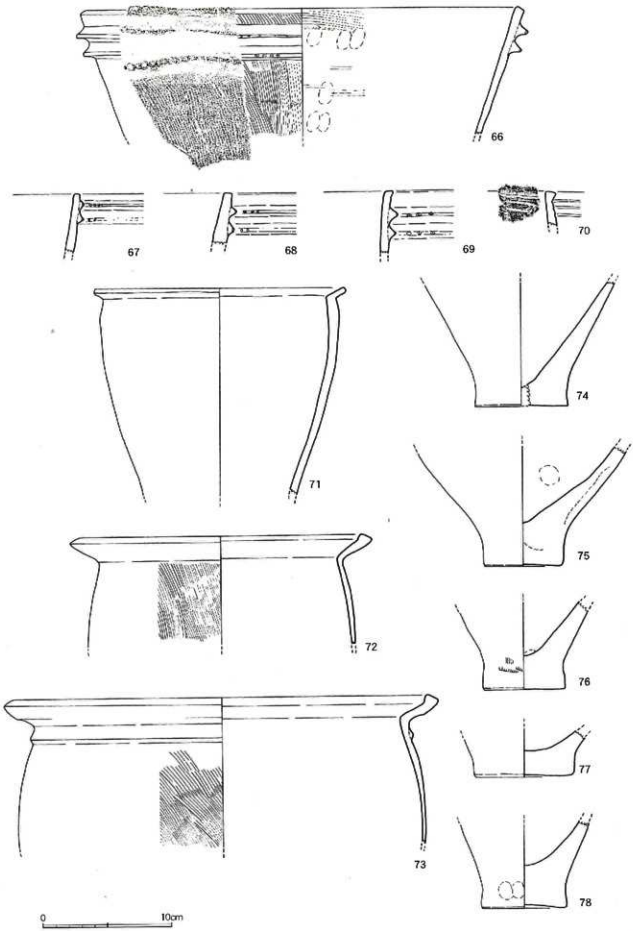
第46図　和泉第2遺跡G・Hグリッド遺構配置図（1/150）

▒は焼土

第47図　和泉第2遺跡2号住居跡実測図（1/80）



第 48 図　和泉第 2 遺跡 2 号住居跡出土土器実測図 1 （1/3）



第 49 図　和泉第 2 遺跡 2 号住居跡出土土器実測図 2 （1/3）

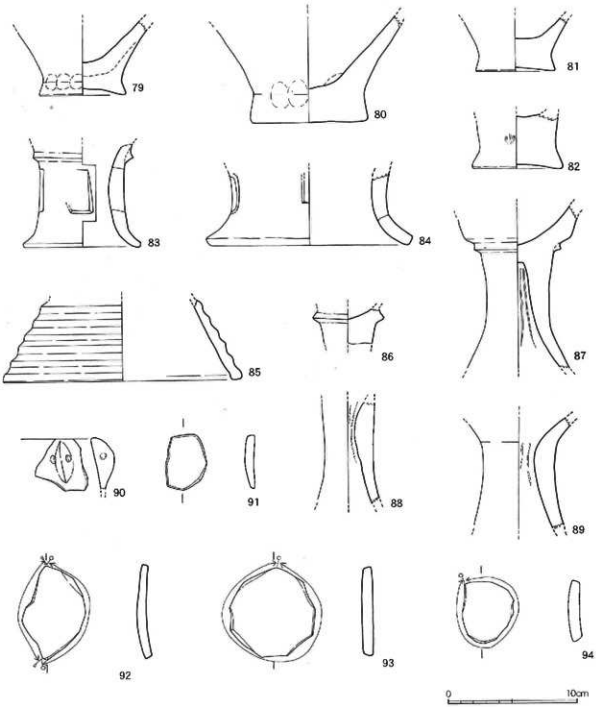
65～69は2条の突帯をもつもので、そのうち65は口縁部と突帯に刻目をもち、66～69は突帯に刻目をもつ。70は口縁部が三角に突出し、その下に沈線を施したもの。71～73は「く」字状口縁をもつもので、71はあまり胴の張らないもの。72・73は口縁端部を跳ね上げるもので、73は頸部に突帯をめぐらす。

83～88は高坏である。83・84は四角の透かしを4個もつ。

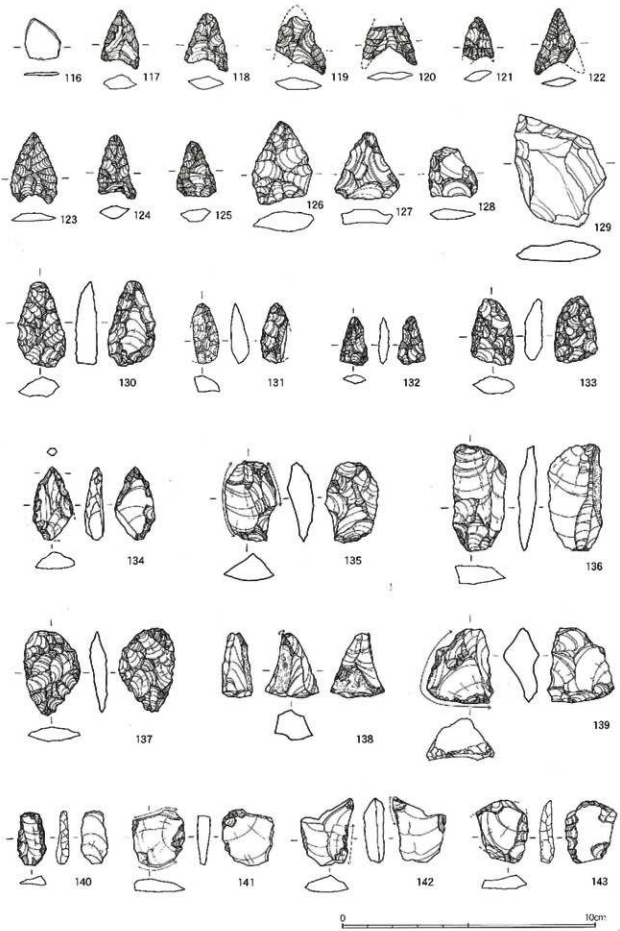
90は鉢形土器で、口縁部に縦向きに楕円形の突起がつき、横に穴が1個通る。

石器（第51・52図）

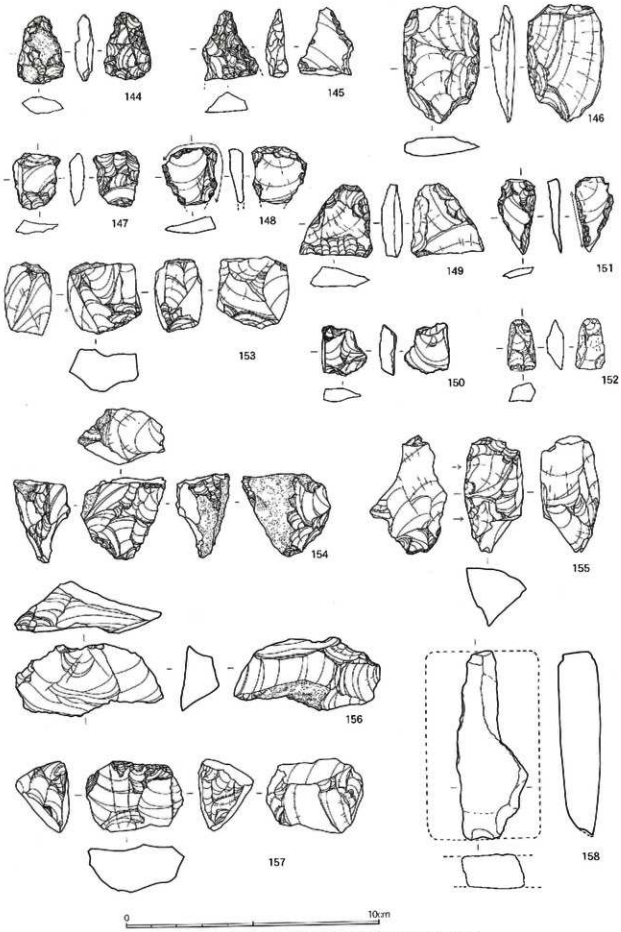
磨製石鏃116は結晶片岩でできている。また、129は平成品で同じく結晶片岩製である。



第50図　和泉第2遺跡2号住居跡出土土器実測図3（1/3）



第51図　和泉第2遺跡2号住居跡出土石器実測図1（2/3）



第52図　和泉第2遺跡2号住居跡出土石器実測図2　(2/3)

117 ～ 128 は打製石鏃である。凹基無茎鏃は、118 のような長二等辺三角形でやや抉りが浅く、端部が丸いもの、122 のように二等辺三角形で端部が尖るもの、123 のように二等辺三角形で抉りが浅いもの、118 のように正三角形で抉りが浅いものなどバリエーションに富んでいる。125 は平基無茎鏃である。材質はすべて姫島産黒曜石である。

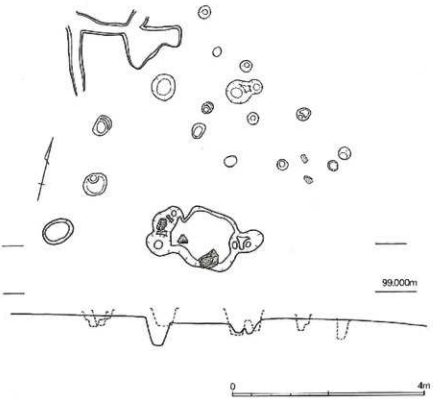
130 ～ 133 は尖頭器、134 は石鉈で、いずれも姫島産黒曜石製である。134 は剥片を素材とし、両面両縁辺から加工し、先端部は特に細かい調整を行っている。138 は残核の先端部に調整を加えた彫器用石器、139 は厚みのある掻器。140 ～ 149 は削器で、サヌカイト製である 148・149 を除いて姫島産黒曜石製である。150 の抉入削器は姫島産黒曜石製である。

153 ～ 157 の石核はいずれも姫島産黒曜石製である。155 は正面左側の調整から見て、コアスクレイパーとしても利用されている。

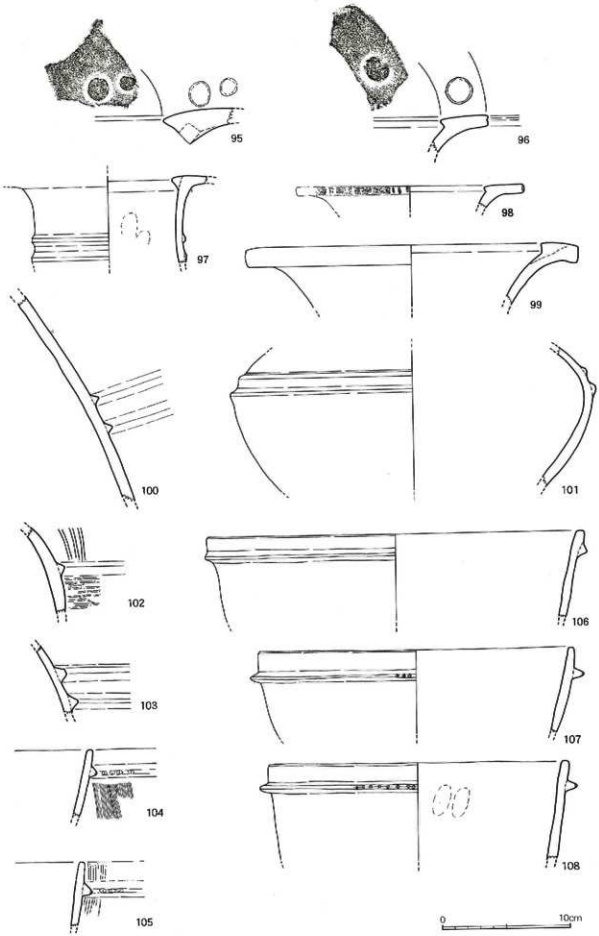
158 は頁岩製の板状扁平片刃石斧である。

10 号住居（第 53 図）

10 号住居はＧ６グリッドで２号住居と重複して検出された。全体的に削平を受けており、規模等は不明である。しかし、深さ約 25cm ～ 30cm の柱穴が検出され、その中央には 1.6 m× 1.3 m で深さ 30cm 程の浅い掘り込みがある。その底には炉跡と考えられる焼土があり、また埋土には炭が含まれていた。



第 53 図　和泉第２遺跡 10 号住居跡実測図（1/80）



第 54 図　和泉第 2 遺跡 10 号住居跡出土土器実測図 1 （1/3）

土器は、壺形土器、甕形土器、高坏、鉢形土器がある（第54図～第56図）。そのうち、床面直上及び上坑からは壺形土器95、100、103、甕形土器（下城式）107、甕形土器117、高坏126が出土した。また、石器については、打製石鏃165、円形スクレイパー179、抉入削器188、剥片189の他、磨石が床面直上及び柱穴から出土した。それ以外の遺物は床面から若干浮いた状態で確認された。

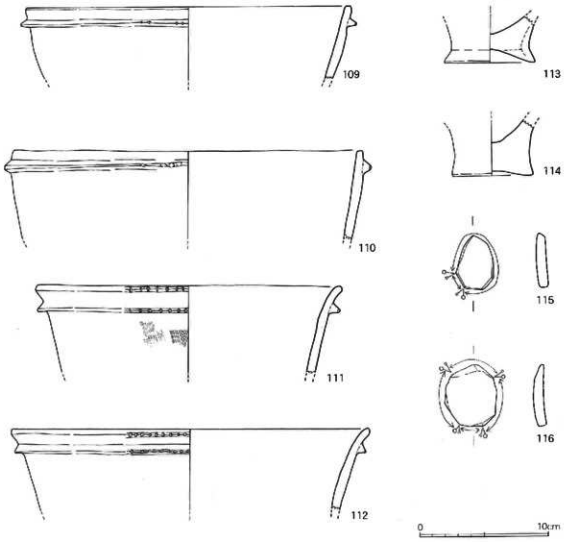
出土遺物から見て、弥生時代中期後半と考えられる。

出土遺物

土器（第54図～第56図）

95～103は壺形土器である。95～99は鍬先状口縁で、端部は平坦。そのうち95・96は口縁部上面に円形浮文を貼り付ける。98は口縁の端部に刻みを施したものである。また胴部は2条の突帯を貼り付けたものもある。102は突帯下にミガキが見られる。

104～119（115・116は除く）は甕形土器である。104～112は口唇部から下がった位置に1条の突帯をもつもので、106は突帯に刻目はない。104・105・107～110は突帯に刻目をもつ。111・112は口縁部と突帯に刻目をもつ。117は「く」字状口縁をもつもので、口縁端部を跳ね上げて、頸部に突帯をめぐらす。118・119は鍬先状口縁で、端部が若干下垂するものがある。



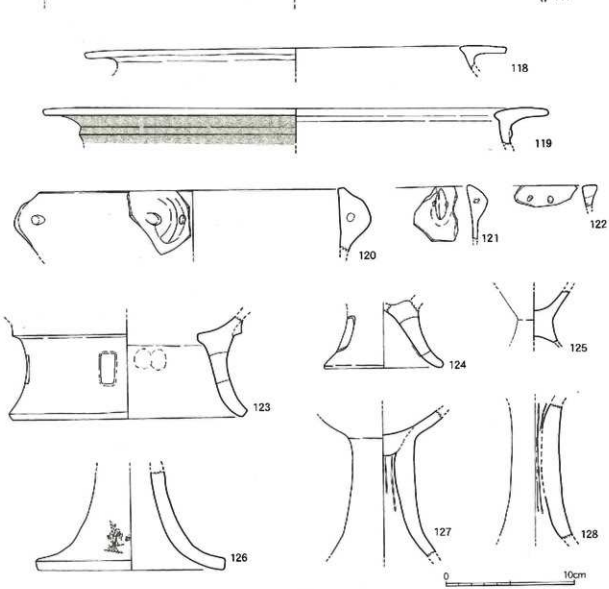
第55図　和泉第2遺跡10号住居跡出土土器実測図2（1/3）

120～122は鉢形土器で、口縁部に縦向きに楕円形の突起がつき横に穴が1個通るもの、口縁下部に2個の穿孔があるものがある。

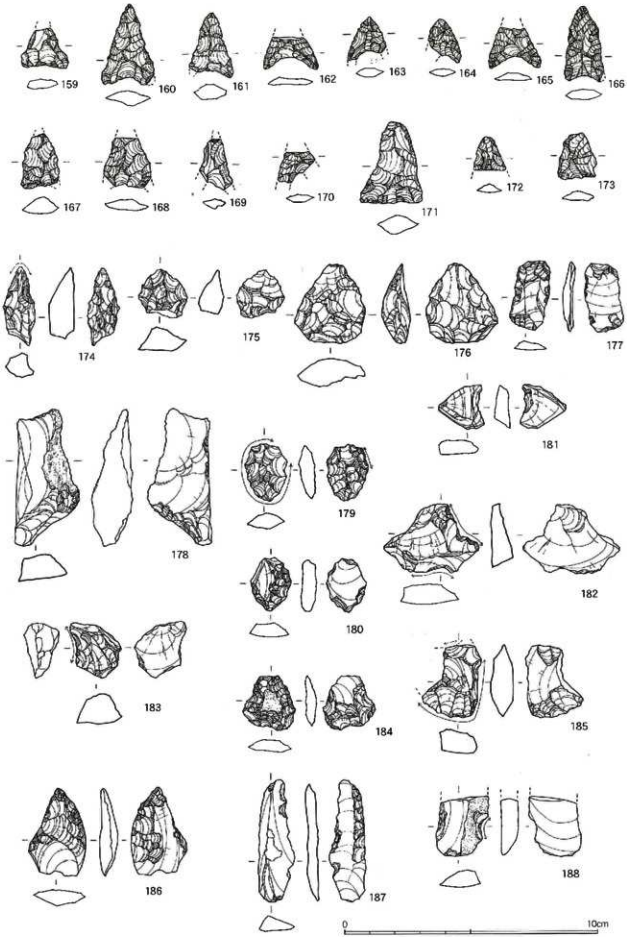
123～128は高坏で、123・124は四角の透かしをもつ。127は円盤充填が認められる。

石器（第57・58図）

159～173は打製石鏃である。凹基無茎鏃は、163のような基部の抉りの浅い鍬形鏃のもの、166・167のような抉りの浅い五角形のもの、165のように二等辺三角形で端部が尖るもの、160・161のように二等辺三角形で抉りが浅いものなどバリエーションに富んでいる。171は平基無茎鏃である。材質は169がサヌカイト製であるのを除いて、すべて姫島産黒曜石である。



第56図　和泉第2遺跡10号住居跡出土土器実測図3（1/3）

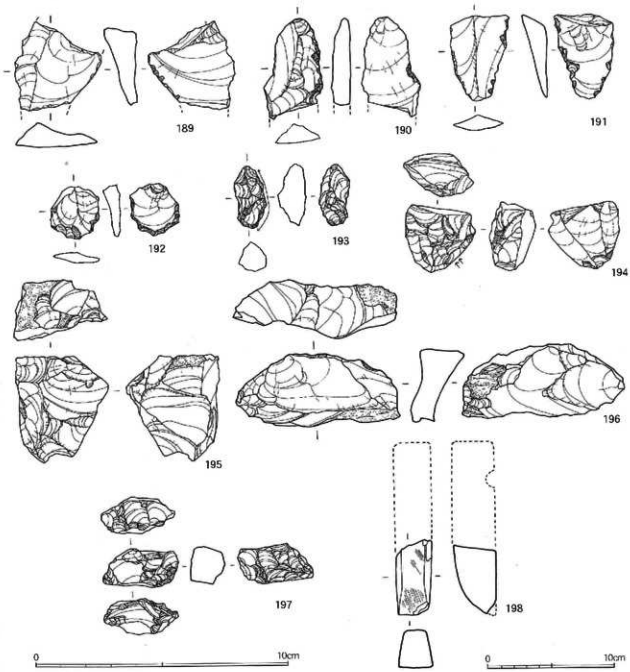


第 57 図　和泉第 2 遺跡 10 号住居跡出土石器実測図 1 (2/3)

174は石錐で、175・176は尖頭器である。176はホルンフェルス製で、縄文早期のものを二次利用したと思われる。177は縦長剥片の上ドに調整を施したサイドブレイド。178は横長剥片を素材とした掻器で、全周縁を使用している。179・180は円形スクレーパー、181～183は抉入スクレイパー、188は抉入削器で181を除いてすべて姫島産黒曜石製である。

194～197の石核はいずれも姫島産黒曜石製である。

198は頁製の柱状抉入片刃石斧である。



第58図　和泉第2遺跡10号住居跡出土石器実測図2（2/3・1/3）

3号住居（第59図）

3号住居は、G5グリッドで南半分を2号住居により削平された形で検出された。規模は東西2.8m以上、南北2.3m以上で、プランは隅丸方形を呈している。西壁に沿って、幅約60cm、高さ約20cmのベッド状遺構が認められた。また、深さ約50cmの柱穴が1ヶ所検出されたが、炉跡と考えられるような焼土等は確認できなかった。

土器は、壺形土器、甕形土器、高坏が出土した（第60図）。そのうち柱穴からは甕形土器（下城式）137が出土した。また、石器については、打製石鏃199、剥片202が柱穴から出土した。それ以外の遺物は床面から若干浮いた状態で確認されている。2号住居との前後関係及び出土遺物から見て、弥生時代中期初頭から前半と考えられる。

出土遺物

土器（第60図）

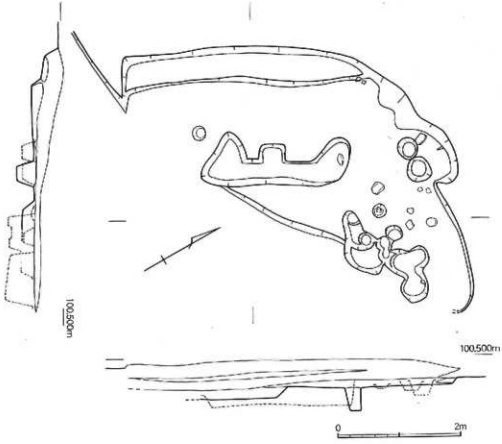
129～131は壺形土器である。129は平坦な口縁端部に刻みを施したものである。

132～146は甕形土器である。132～136、138・139は口唇部からドがった位置に1条の突帯をもつもので、136・139は突帯に刻目はない。133～135、138は突帯に刻目をもつ。132は口縁部と突帯に刻目をもつ。137は2条の突帯をもつもので、突帯に刻目をもつ。140・141は「く」字状口縁をもつものである。

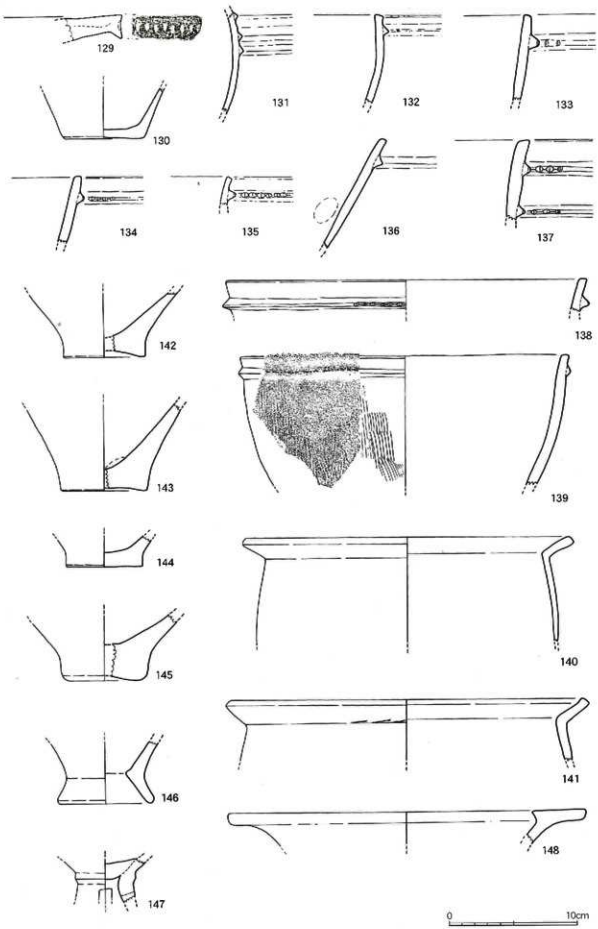
147～148は高坏で、147は四角の透かしをもち、円盤充填が認められる。

石器（第61図）

199～201は打製石鏃である。199はサヌカイト製の凹基無茎鏃で、201は姫島産黒曜石製の平基無茎鏃である。



第59図　和泉第2遺跡3号住居跡実測図（1/60）



第60図　和泉第2遺跡3号住居跡出土土器実測図（1/3）

202の剥片及び203の抉入削器は姫島産黒曜石製である。203は表面左側縁を剥いだ箇所の抉りを利用したものである。

204・205は凝灰質頁岩製の砥石、206は安山岩の凹石である。

2・3・10号住周辺出土遺物

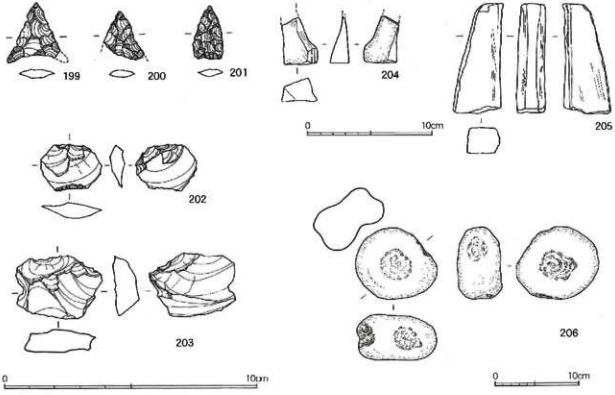
G5・G6グリッドは、遺構検出時から調査中にかけては、住居の重複関係が明確でなかったため、遺物はG5、G6出土として一括で取り上げた。つまり、これらの遺物は2・3・10号住居跡が埋まっていく段階で流れ込んだものである。

土器（第62・63図）

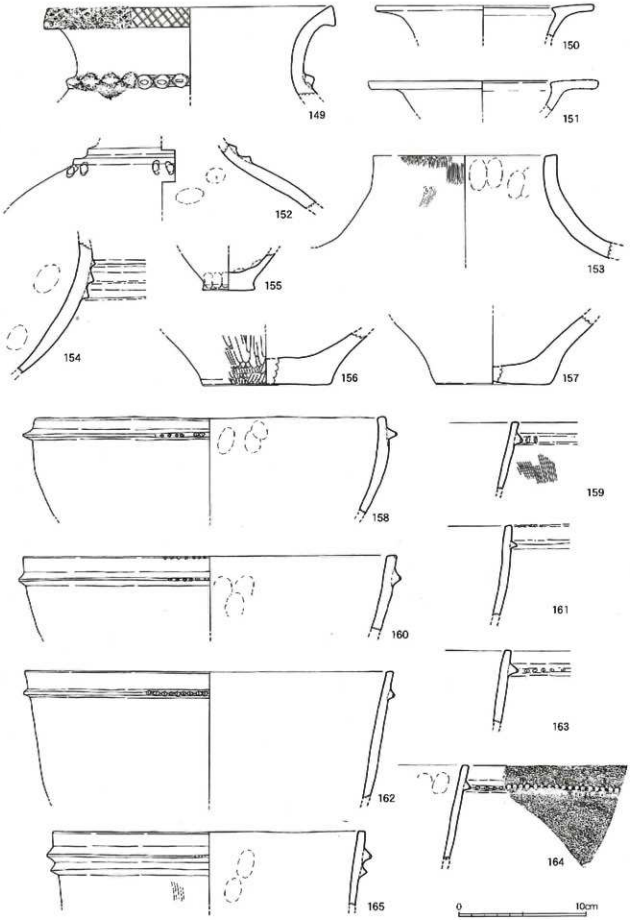
149～157は壺形土器である。149は短く外反する口縁端部を肥厚させ、ヘラで斜格子文を施したもの。150・151は鍬先状口縁で、端部は平坦。152は頸部に2条以上の断面三角形の突帯をめぐらせ、その直下に勾玉状の浮文を貼り付ける。

158～181は甕形土器である。158～164は口唇部からドがった位置に1条の突帯をもつもので、158・159、162～164は突帯に刻目をもつ。161は口縁部のみに刻目をもち、160は口縁部と突帯に刻目をもつ。165・166は2条の突帯をもつもので、そのうち165は突帯に刻目をもち、166は口縁部と突帯に刻目をもつ。167は口唇部が「L」字状に突出し、その端部に刻目を施す。168～175は「く」字状口縁をもつもので、168～172はあまり胴の張らないもの。173～175は頸部に突帯をめぐらし、そのうち175は外面に丹塗りを施している。底部180は焼成後の穿孔がみられる。

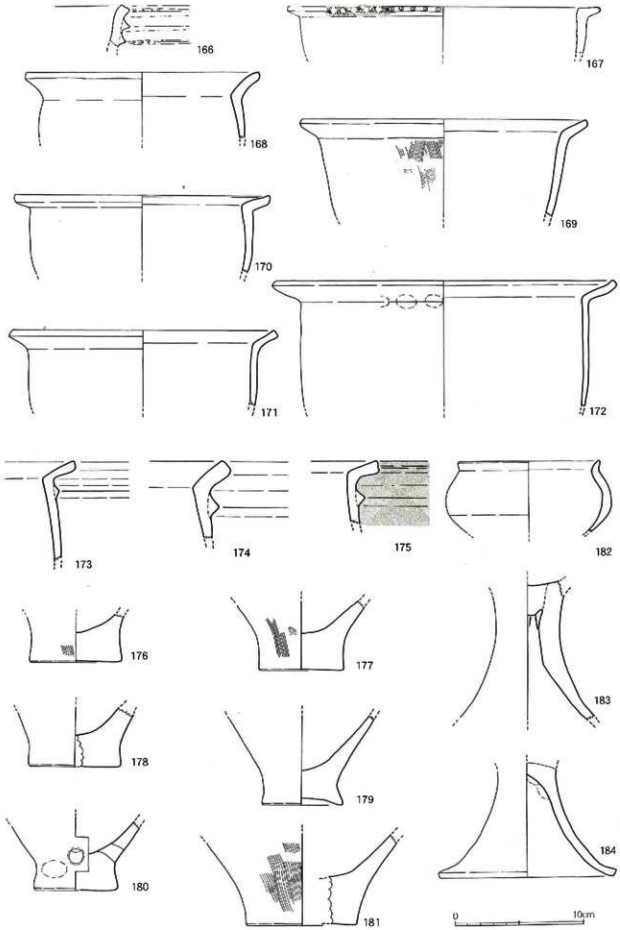
182は鉢形土器、183・184は高坏脚部である。183は円盤充填が認められる。



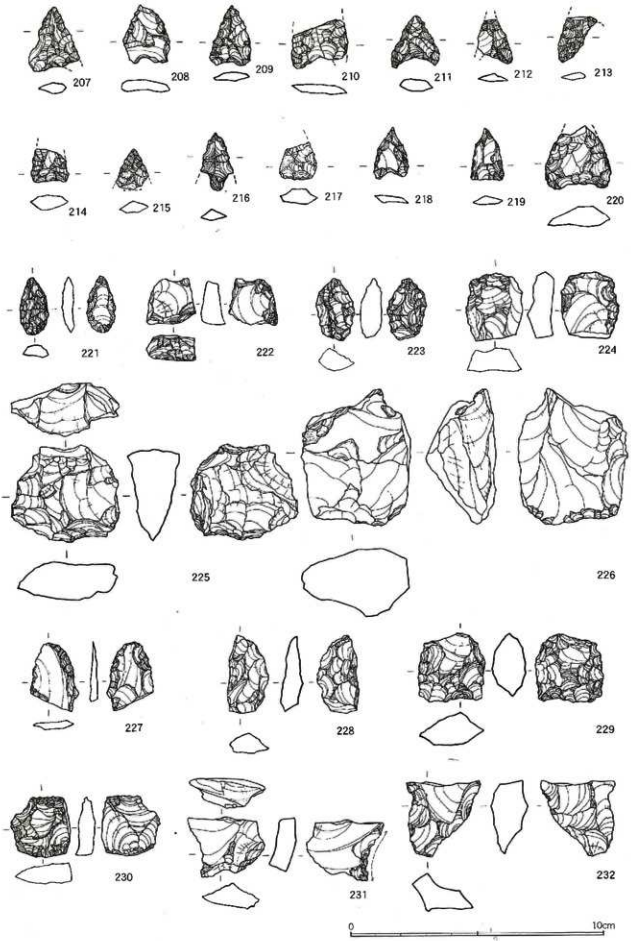
第61図　和泉第2遺跡3号住居跡出土石器実測図（2/3・1/3・2/9）



第62図　和泉第2遺跡2・3・10号住居跡周辺出土土器実測図1（1/3）



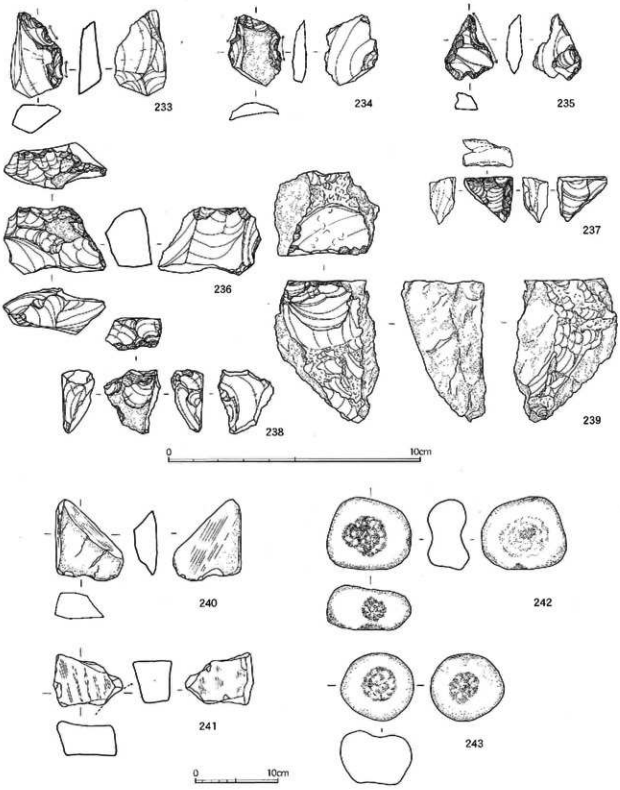
第63図　和泉第2遺跡2・3・10号住居跡周辺出土土器実測図2（1/3）



第64図　和泉第2遺跡2・3・10号住居跡周辺出土石器実測図1（2/3）

石器（第64・65図）

207～220は打製石鏃である。凹基無茎鏃は、211のような基部の抉りの浅い鍬形鏃のもの、213のように二等辺三角形で端部が尖るもの、209のように二等辺三角形で抉りが浅いもの、218のように正三角形で抉りが浅いものなどバリエーションに富んでいる。平基無茎鏃は215・219がある。材質は姫島産黒曜石の他、チャート（217）、サヌカイト（218・219）珪化木（220）がある。



第65図　和泉第2遺跡2・3・10号住居跡周辺出土石器実測図2（2/3・2/9）

221は尖頭器、222は掻器、223は円形スクレーパー、 224～226はコアスクレーパー、231～235は抉入削器である。材質は230が珪化木、235が腰岳産黒曜石である以外は姫島産黒曜石製である。

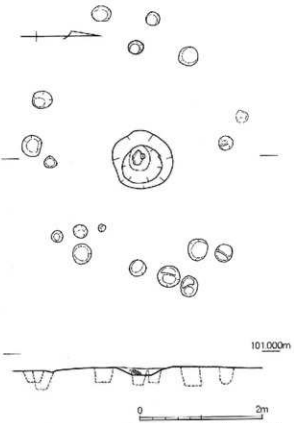
236～239の石核は、238（蛇紋岩）以外は姫島産黒曜石製である。

240・241は頁岩製と凝灰質砂岩製の砥石、242・243は安山岩の凹石である。

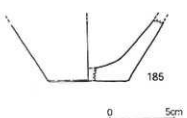
4号住居（第66図）

4号住居は2号住居の西F6グリッドで検出された。全体的に削平を受けており、規模等は不明である。しかし深さ約30cm～40cmの柱穴が東西4.6m×南北3.2mの円形に巡るように検出され、その中央には直径約1mで深さ20cm程の浅い掘り込みがあり、その埋土には炭・炭化物が多く含まれていた。

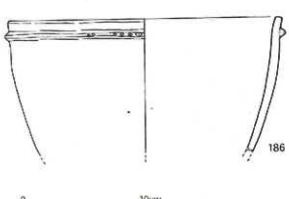
遺物については、柱穴から壺の底部（185）が出土した。

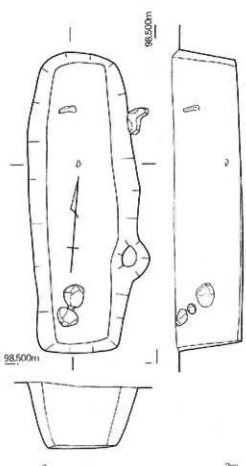


第66図　和泉第2遺跡4号住居跡実測図（1/60）

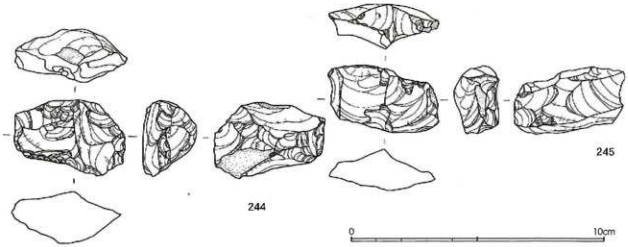


第67図　和泉第2遺跡4号住居跡出土土器実測図（1/3）





第68図　和泉第2遺跡2号土坑実測図及び出土土器実測図（1/40・1/3）

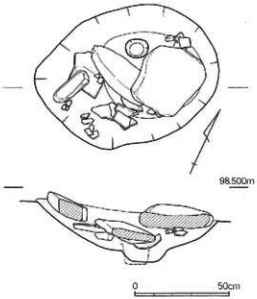


第69図　和泉第2遺跡2号土坑出土石器実測図（2/3）

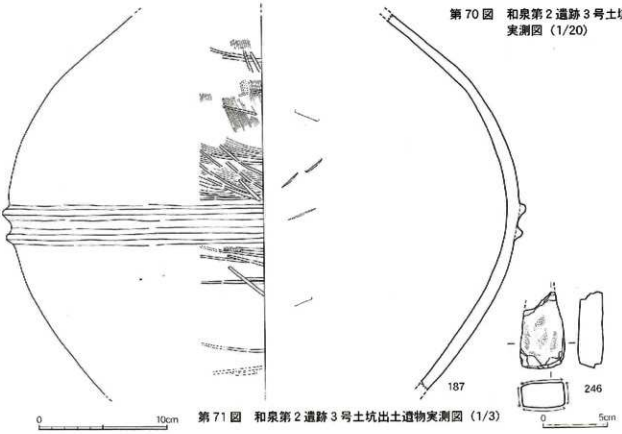
2号土坑（第68図）

2号土坑はG7グリッドで検出された。規模は幅1.2m、長さ3.6mの長方形をしており、深さは65cmである。床面は平坦で、幅0.8m、長さ3.1mである。長軸は1・4号土坑と同じく南北にとる。

遺物はすべて土坑が埋まっていく段階で流れ込んだもので、礫に混じって出土した。186は口唇部から下がった位置に1条の突



第70図　和泉第2遺跡3号土坑実測図（1/20）



第71図　和泉第2遺跡3号土坑出土遺物実測図（1/3）

帯をもつもので、突帯に刻目をもつ。姫島産黒曜石製のコアスクレーパー（244）と石核（245）も出土した。

3号土坑（第70図）

3号土坑は2号土坑の西側G7グリッドで検出された。規模は東西98cm×南北86cmの楕円形をしており、深さは30cmである。

遺物としては石皿、砥石等とともに壺形土器187が出土した。187は球状の胴部最大径の直下に2条の断面三角形の突帯をめぐらす。246は頁岩製の砥石である。

G・Hグリッド包含層（第72図）

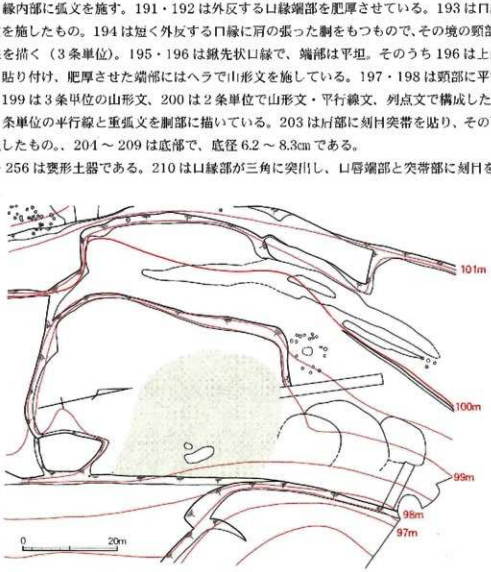
10号住居の南側は、地形が若干低くなっており、G6、G7、H6、H7にかけて、黒色土の弥生時代の遺物包含層が確認された。ここから出土した遺物の内、主なものを図示した。

出土遺物

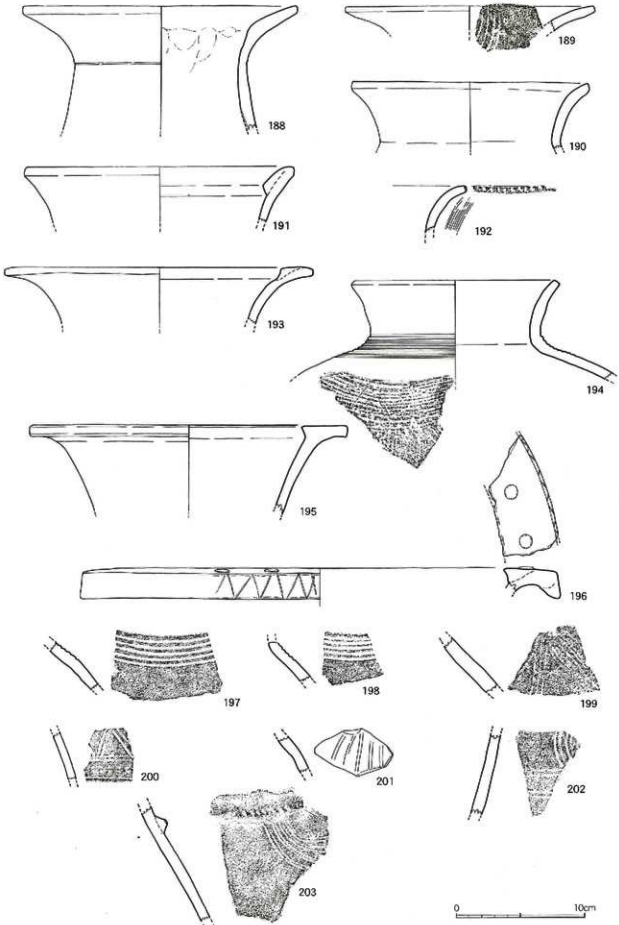
土器（第73図～第78図）

188～209は壺形土器である。188は外反する口縁内部を肥厚させ、頸部に1条の沈線を描く。189は口縁内部に弧文を施す。191・192は外反する口縁端部を肥厚させている。193は口縁端部に列点文を施したもの。194は短く外反する口縁に肩の張った胴をもつもので、その境の頸部に12条の沈線を描く（3条単位）。195・196は鋸先状口縁で、端部は平坦。そのうち196は上面に円形浮文を貼り付け、肥厚させた端部にはヘラで山形文を施している。197・198は頸部に平行線文をもち、199は3条単位の山形文、200は2条単位で山形文・平行線文、列点文で構成したもの。202は2条単位の平行線と重弧文を胴部に描いている。203は肩部に刻目突帯を貼り、その下に重弧文を施したもの。、204～209は底部で、底径6.2～8.3cmである。

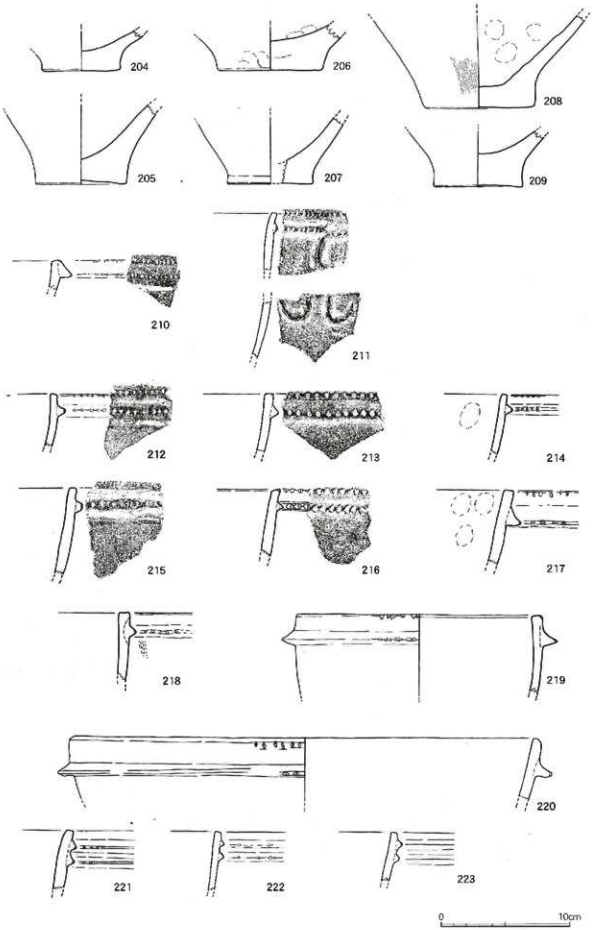
210～256は甕形土器である。210は口縁部が三角に突出し、口唇端部と突帯部に刻目を施す。



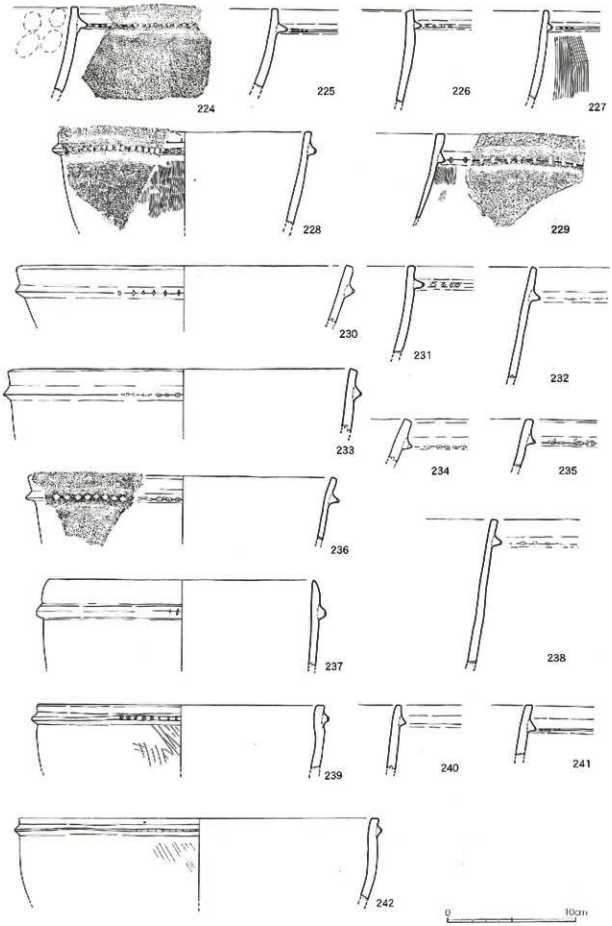
第72図　和泉第2遺跡Ⅰ区G・Hグリッド包含層分布状況（1/400）



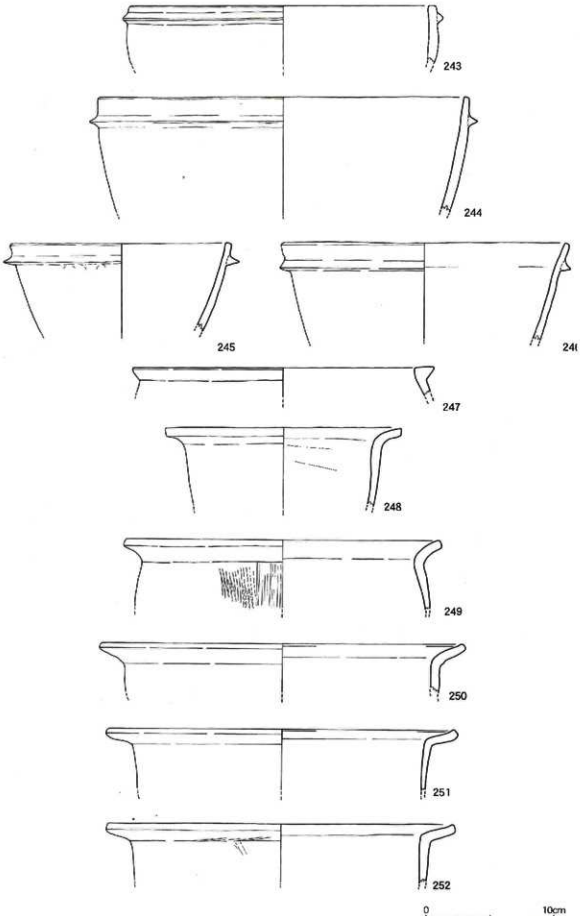
第73図　和泉第2遺跡Ⅰ区G・Hグリッド包含層出土土器実測図1（1/3）



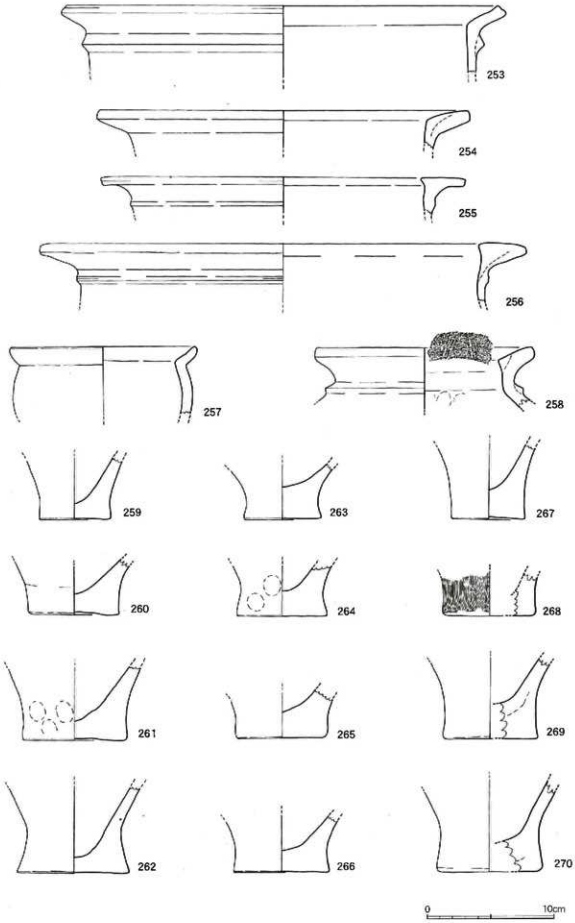
第74図　和泉第2遺跡Ⅰ区G・Hグリッド包含層出土土器実測図2（1/3）



第75図　和泉第2遺跡Ⅰ区G・Hグリッド包含層出土土器実測図3（1/3）



第76図　和泉第2遺跡Ⅰ区G・Hグリッド包含層出土土器実測図4（1/3）



第77図　和泉第2遺跡Ⅰ区G・Hグリッド包含層出土土器実測図5（1/3）

211は口唇部から下がった位置に1条の突帯と直下に円形の突帯をもつもので、口唇部と平行突帯部に刻目を施す。212～220、224～246は口唇部から下がった位置に1条の突帯をもつものである。そのうち、212～220は口縁部と突帯に刻目をもち、224～239、241、242は突帯部のみに刻目をもつ。240、243～246は刻目をもたない。253は「く」字状口縁をもつもので、口縁端部を跳ね上げて、頸部に突帯をめぐらす。255・256は鍬先状口縁で、端部は平坦。259～270は甕形土器底部である。底径は5.6～8.8cmである。

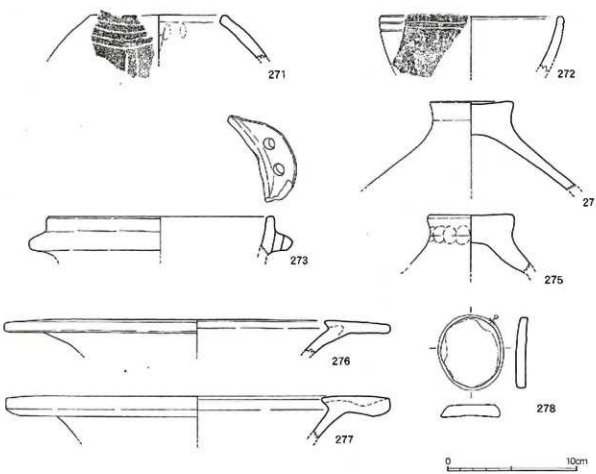
257・258、271～273は鉢形土器である。258は口縁内部を肥厚させて、2条単位の沈線を施している。271・272は口縁外面に2条単位の平行線で描く。273は口縁部に横向きに楕円形の突起がつき縦に穴が2個通るものである。

274・275は蓋形土器、276・277は高坏である。高坏は鍬先状口縁で、端部は平坦。278は弥生土器の二次加工品である。

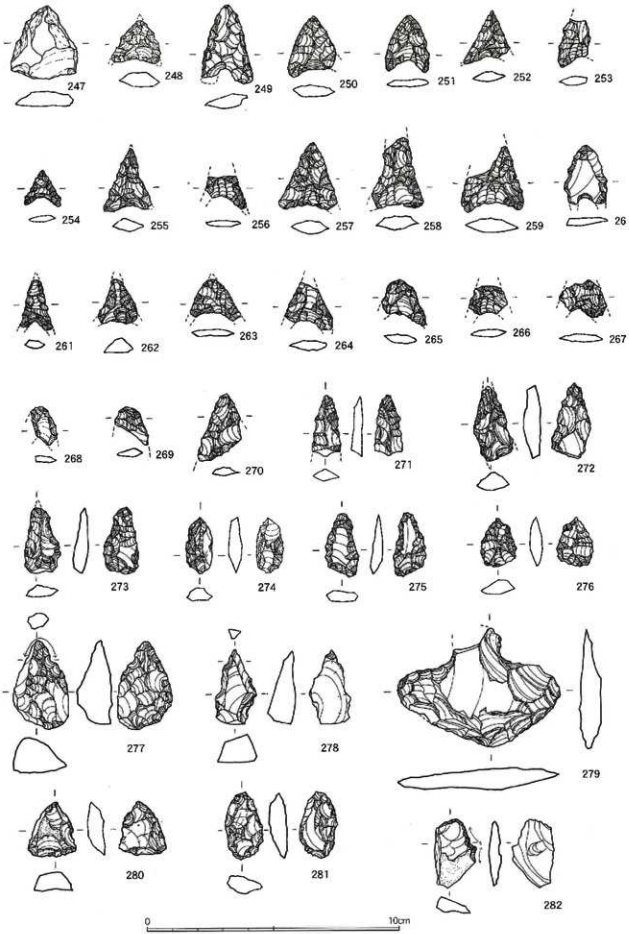
石器（第77図～第80図）

247は緑泥片岩製の磨製石鏃未成品であり、248～270は打製石鏃である。凹基無基鏃は、252や254のような基部の抉りの浅い鍬形鏃のもの、249のような長二等辺三角形でやや抉りが深くて端部が丸いもの、255のように二等辺三角形で抉りが浅いもの、257のように正三角形で抉りが浅いものなどバリエーションに富んでいる。材質は姫島産黒曜石である。

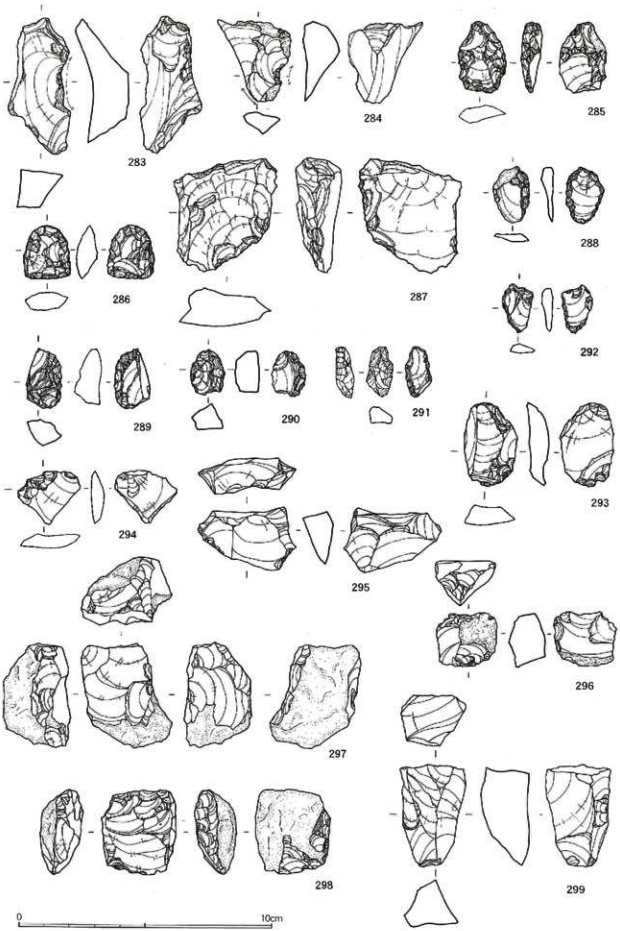
271は刺突具、272～276は尖頭器、277～278は石錐、279はサヌカイト製の横匙、280は掻



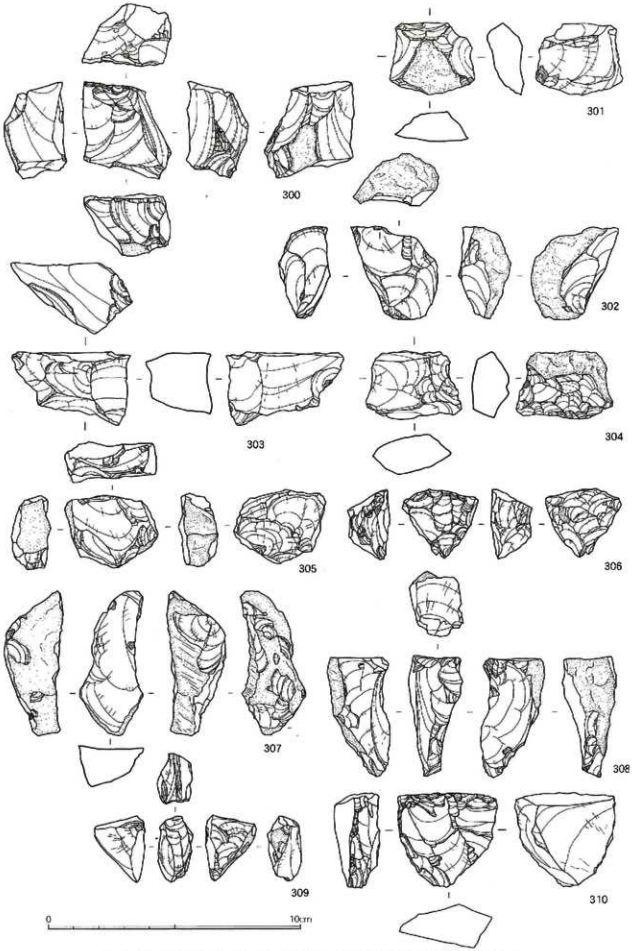
第78図　和泉第2遺跡Ⅰ区G・Hグリッド包含層出土土器実測図6（1/3）



第79図　和泉第2遺跡Ⅰ区G・Hグリッド包含層出土石器実測図1（1/3）



第80図　和泉第2遺跡Ⅰ区G・Hグリッド包含層出土石器実測図2（2/3）



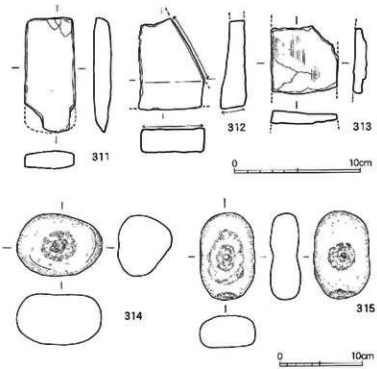
第81図　和泉第2遺跡Ⅰ区G・Hグリッド包含層出土石器実測図3（2/3）

器、281は円形スクレーパー、

282～284は挟入削器である。294の剥片の材質はホルンフェルスである。

295～309の石核は、309(頁岩)以外は姫島産黒曜石製である。310は珪化木製で旧石器期のものを二次利用している。

311は頁岩製の磨製扁平片刃石斧、312・313は頁岩製の砥石、314・315は安山岩の凹石である。



第82図　和泉第2遺跡Ⅰ区G・Hグリッド包含層出土石器実測図4 (1/3・2/9)

3. A～Cグリッド

A・Cグリッドは和泉第2遺跡1区の西側、標高約100mの尾根上平坦部から傾斜し、調査区では最高位にある。ここからは、弥生時代の住居跡7軒、土坑2基、溝状遺構1条及び近世の溝状遺構1条が検出された。

5号住居（第84図）

5号住居はC8・C9グリッドで、2号溝と重複して検出された。前後関係は2号溝が古く、5号住居の方が新しい。検出面では東西3.6m、南北2.7mの方形をしており、約20cm下位で床面に達する。壁はほぼ垂直であるが、地形が東に傾斜しているため、住居の東壁はない。柱穴は北壁中央に1ヶ所検出され、その深さは25cmである。また、中央南西寄りで0.7m×1.4mの規模で、深さ15cmの不整円形の土坑が確認された。そこの埋土には炭がわずかに含まれていたが、積極的に炉跡と考えられるものではない。

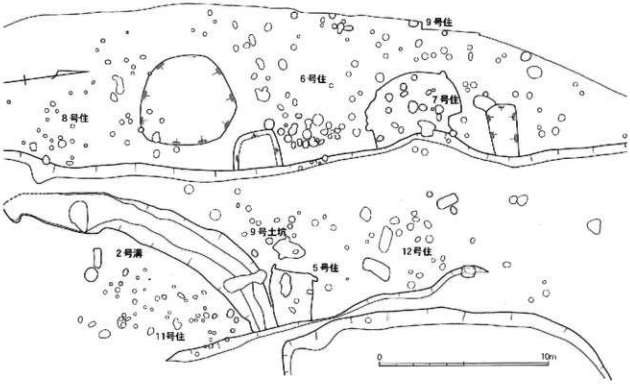
上器については、弥生土器胴部片がわずかばかり出土している。石器は姫島産黒曜石製の抉入削器316が出土している。これは剥片を部分的に加工してスクレイパーとしたものである。

6号住居（第85図）

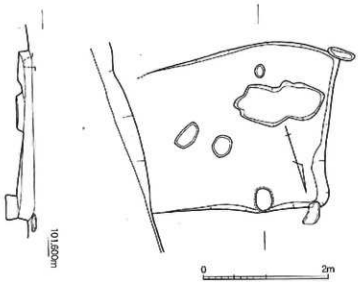
6号住居はI区中央部西端A8・9、B8・9グリッドに跨って検出された。全体的に削平を受けており、規模等は不明である。しかし深さ約20cm～40cmの柱穴が東西7.5m×南北6.0mの楕円形に巡るように検出されたため住居跡とした。炉跡は確認できなかった。出土遺物からみて、弥生時代中期前半と考える。

出土遺物

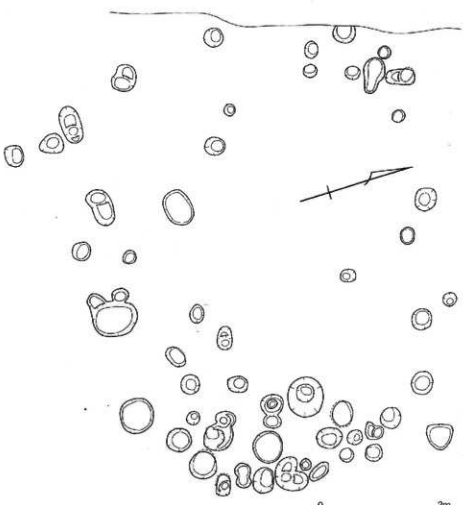
柱穴から甕形土器279、280、284、甕形上器（下城式）288～291、高坏293、甕形上器の底部285、286及び石錐317が出土した。



第83図　和泉第2遺跡A～Cグリッド遺構配置図



第 84 図　和泉第 2 遺跡 5 号住居跡実測図（1/60）



第 85 図　和泉第 2 遺跡 6 号住居跡実測図（1/60）

土器（第87図）

279～293は甕形土器である。279～284は「く」字状口縁をもつもので、279は頸部に三角突帯をめぐらす。復元口径は41.8cm。280は頸部に1条の沈線をめぐらす。281・282は口縁端部を跳ね上げるものである。また287～292はいわゆる下城式甕で、287は口縁部と1条の突帯に刻目をもち、288～292は突帯のみに刻目をもつ。

293・294は高坏で、口縁部は銀先状を呈し、端部は若干下がる。坏部と脚部の境に三角突帯をめぐらせたもので、内部にはしぼり痕が確認できる。

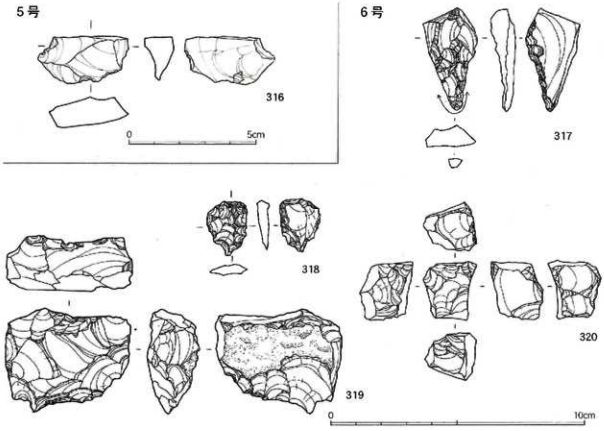
石器（第86図）

317は石錐、318は削器、319・320は石核で、いずれも姫島産黒曜石製である。319は下部におおまかな調整を加えて、スクレイパーとして活用したもの。320は打点を移動させながら、小さな剥片を剥いでいる。

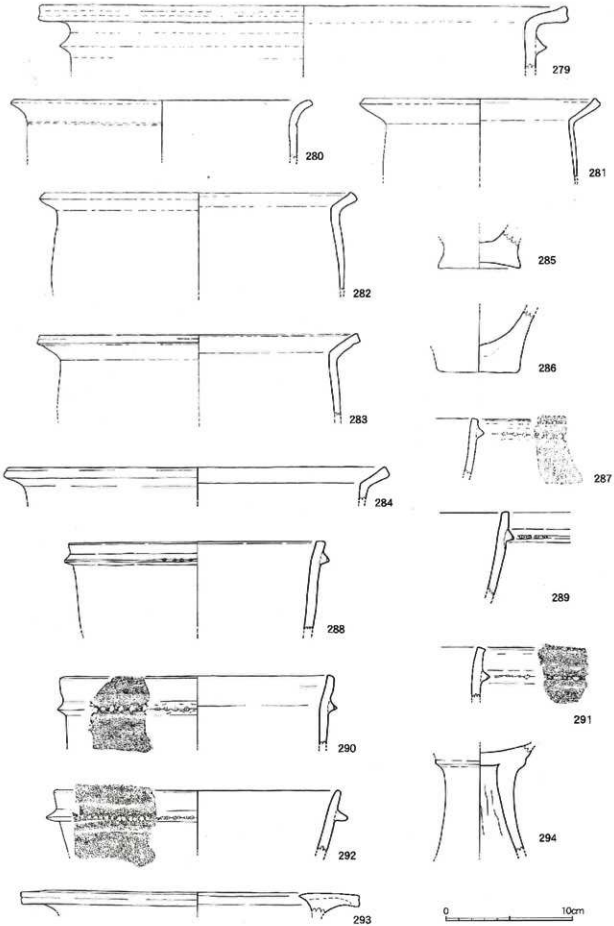
7号住居（第88図）

7号住居は6号住居の北、A8・B8グリッドで検出された。東側1／3を後世の削平なくしており、全体は掴めないが、その規模は、東西4.3m以上、南北6.0mの楕円形をしている。壁はほぼまっすぐ立ち、床面は東に若干傾斜している。検出面から床面までの深さは35cmである。床の中央やや東寄りから、直径約80cm、深さ30cmの埋土に焼土や炭の混ざった皿状の掘り込みが確認され、炉跡と考えられる。その周りで柱穴が検出され、その深さは25cm～70cmである。

また、北壁中央部は約1mにわたり平面形が窪んでおり、その両側で柱穴が認められた。これは入り口に関わる施設と考える。



第86図　和泉第2遺跡5・6号住居跡出土石器実測図（2/3）



第87図　和泉第2遺跡6号住居跡出土土器実測図（1/3）

出土遺物

土器は、壺形土器、甕形土器、高坏がある（第89図）。そのうち、床面直上からは甕底部306、高坏309～311、中央土坑からは壺形土器295、甕形土器301、302、底部304、307、柱穴からは甕（下城式）298、甕形上器300がそれぞれ出土した。また、石器については、磨製石斧333が床面直上から出土した。それ以外は床面から若干浮いた状態で確認された。出土遺物から見て、弥生時代中期後半と考えられる。

土器（第89図）

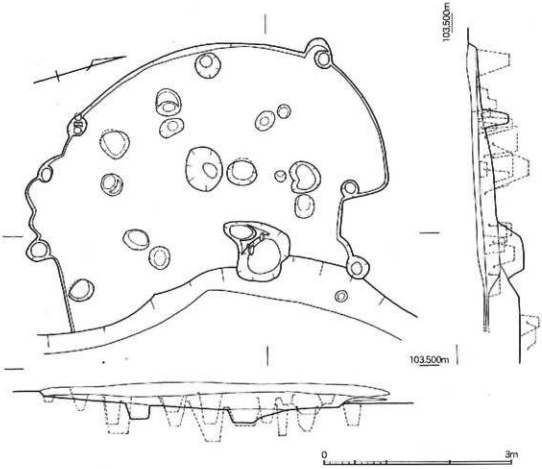
295・296は壺形土器である。295の口縁部は鍬先状を呈し、端部は平坦。その上面に円形浮文を施す。

297～307は甕形土器である。297は断面三角形に肥厚させた口縁部をもつ。298は下城式。直行する口縁部下部に突帯をめぐらせ、刻みを施す。299～302は「く」字状口縁をもつもので、299、300の胴は張らず、301、302は頸部に突帯をめぐらす。308は蓋形土器である。

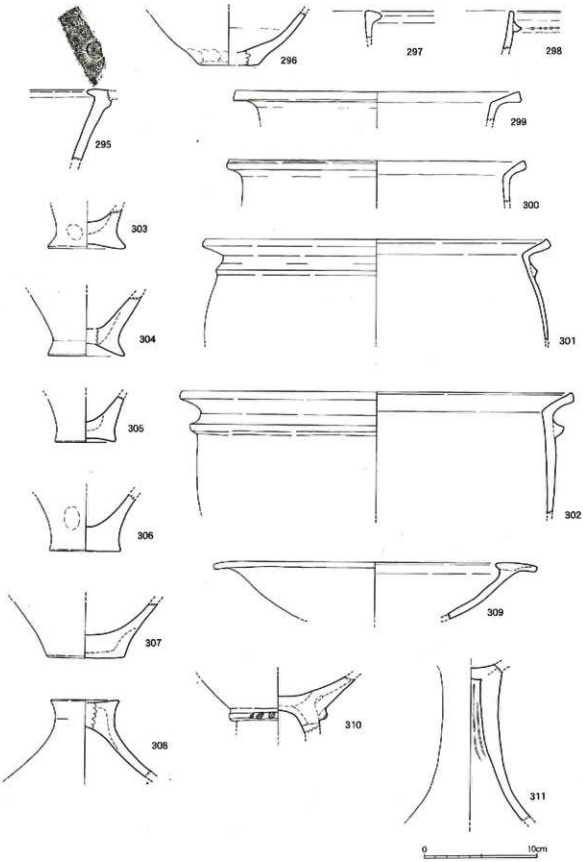
309～311は高坏である。口縁部は鍬先状を呈し、端部はやや下がる。坏部と脚部の境に三角突帯をめぐらせ、刻みを施す。円盤充填技法が認められる。脚内部にはしぼり痕が確認できる。

石器（第90図）

321はホルンフェルス製の石刃である。322～324は打製石鏃である。322は平基無茎鏃で、323、324は凹基無茎鏃で、いずれも姫島産黒曜石製である。323は長二等辺三角形でやや抉りが深く、端部が丸いもの。324は抉入部の浅い鍬形鏃である。



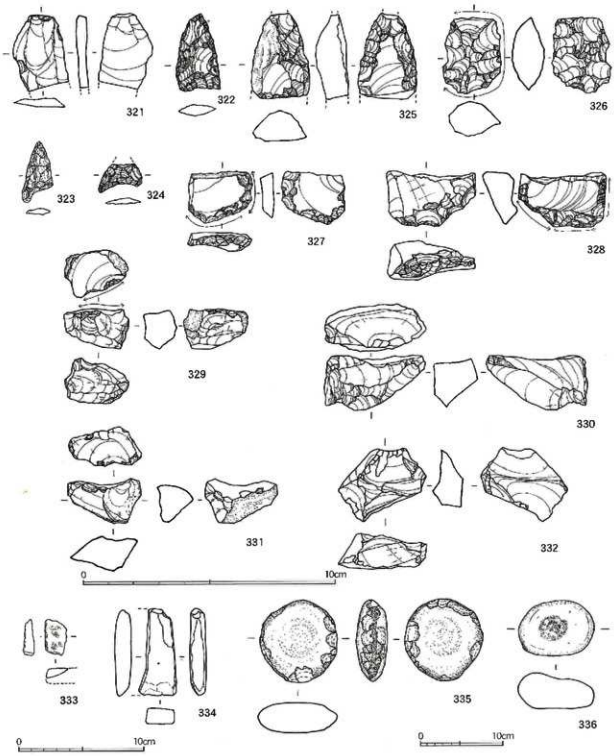
第88図　和泉第2遺跡7号住居跡実測図（1/60）



第 89 図　和泉第 2 遺跡 7 号住居跡出土土器実測図（1/3）

325は先端の欠損した尖頭器、326は掻器である。327・328は削器で、ド部に摩滅したような使用痕がある。いずれも姫島産黒曜石製である。329～333の石核はいずれも姫島産黒曜石製である。329は打面を転移しながら細かい剥片をはいだもので、正面上側の調整から見て、コアスクレイパーとしても利用されている。

333は磨製石斧片、334は頁岩の磨製片刃石斧。335は蛇紋岩製の敲石、336は安山岩の凹石である。



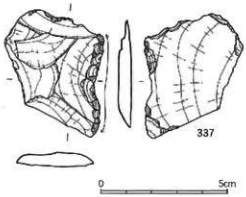
第90図　和泉第2遺跡7号住居跡出土石器実測図（2/3・1/3・2/9）

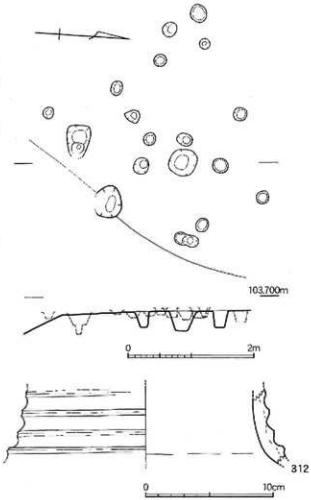
8号住居（第91図）

8号住居はI区の最頂部B10グリッドから検出された。全体的に削平を受けており、規模等は不明である。しかし、深さ約15cm～50cmの柱穴が東西4.0m×南北3.2mの楕円形に巡るように検出されたため、住居と考えた。炉跡は確認できなかった。出土遺物からみて、この住居は弥生時代中期後半と考えられる。

出土遺物（第91図）

柱穴からM字突帯を4条めぐらせた壺形土器の頸部312とサヌカイト製の抉入削器337が出土した。





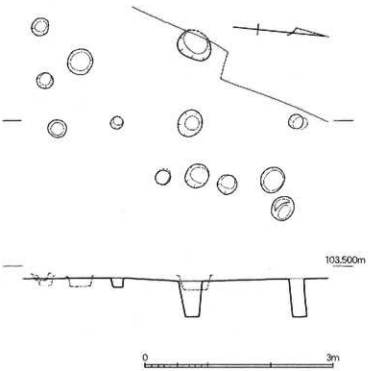
第91図　和泉第2遺跡8号住居跡実測図及び出土遺物実測図（1/60・2/3・1/3）

9号住居（第92図）

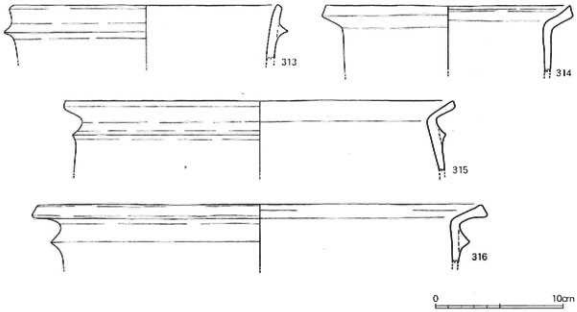
9号住居は7号住居の西、A8グリッドで検出された。全体的に削平を受け、さらに西半分は調査区外のため、規模等は不明である。しかし、深さ約60cmの主柱穴2本とその周りに深さ15cmほどの柱穴が検出されたため、住居と考えた。炉跡は確認できなかった。柱穴から甕316が出土しており、弥生時代中期前半と考える。

出土遺物（第93図）

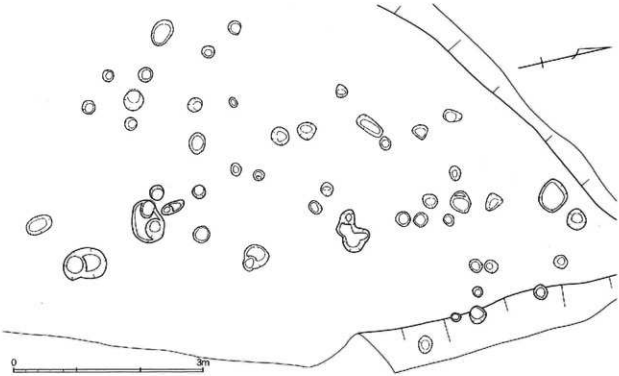
甕313は口縁下部に1条の三角突帯をめぐらす。刻みはない。314～316は「く」字状口縁で、314は端部を若干跳ね上げ、315、316は頸部に三角突帯を貼り付ける。



第92図　和泉第2遺跡9号住居跡実測図（1/60）



第 93 図　和泉第 2 遺跡 9 号住居跡出土土器実測図（1/3）



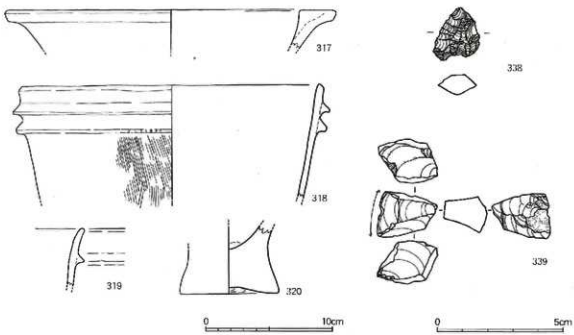
第 94 図　和泉第 2 遺跡 11 号住居跡実測図（1/60）

11 号住居（第 94 図）

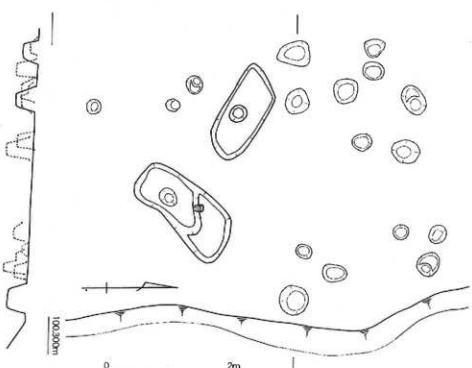
11 号住居は 9 号溝の南、C 9・10 グリッドに跨って検出された。全体的に削平を受けており、規模等は不明である。しかし深さ約 15㎝～35㎝の柱穴が東西 5.4 m×南北 8.0 mに集中して検出されたため、炉跡は確認できなかったが住居と考えた。柱穴からの出土遺物より、時期は弥生時代中期初頭と考える。

出土遺物（第 95 図）

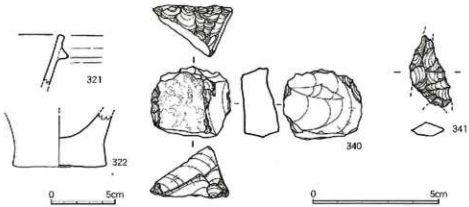
高坏 317 は口縁内部を肥厚させ平坦部をつくり出している。甕形土器 318 は口縁下部に 2 条の三角突帯を貼り付け、刻みを入れたもの。319 は 1 条の突帯をめぐらせただけで、刻みはない。底部 320 は厚い。



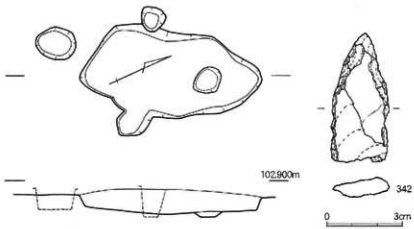
第 95 図　和泉第 2 遺跡 11 号住居跡出土遺物実測図（1/3・2/3）



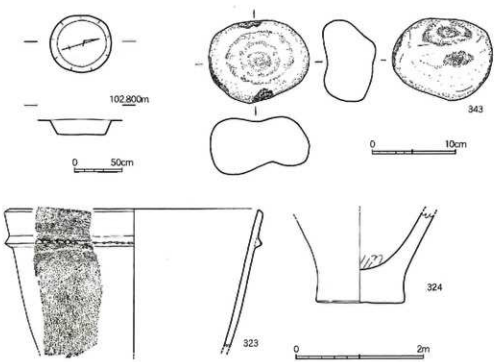
第 96 図　和泉第 2 遺跡 12 号住居跡実測図（1/60）



第 97 図　和泉第 2 遺跡 12 号住居跡出土遺物実測図（1/3・2/3）



第 98 図　和泉第 2 遺跡 9 号土坑実測図及び出土石器実測図（1/40・2/3）

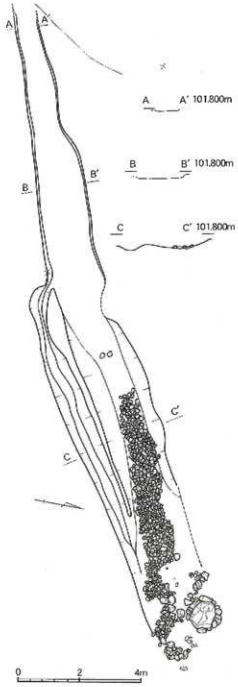


第 99 図　和泉第 2 遺跡 10 号土坑実測図及び出土遺物実測図（1/40・2/9・1/3）

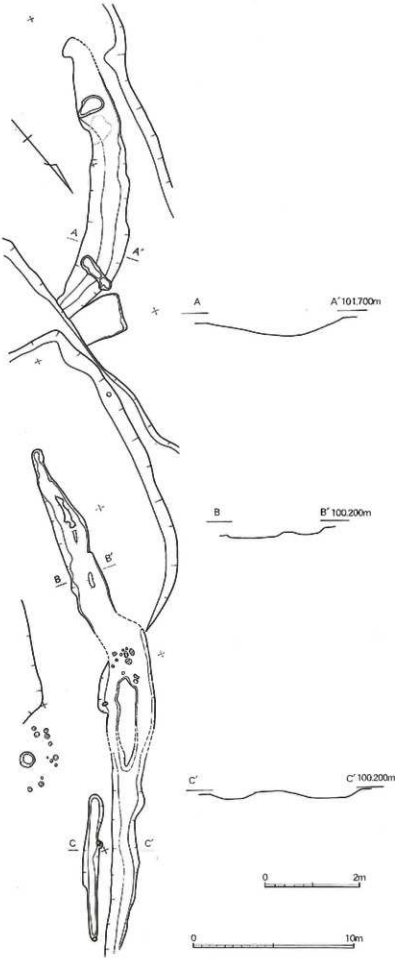
石器としては、正三角形で、抉入部の浅い凹基無茎鏃338と正面左側をスクレイパーとして利用した石核339がある。

12号住居（第96図）

12号住居は5号住居の北及び7号住居の東、B8・C8グリッドに跨って検出された。全体的に削平を受けており、規模等は不明である。しかし深さ



第100図　和泉第2遺跡1号溝実測図（1/120）



第101図　和泉第2遺跡2号溝実測図（1/250・1/80）

約25cm～40cmの柱穴が東西4.7m×南北5.0mに集中して検出されたため、炉跡は確認できなかったが住居と考えた。柱穴からの出土遺物より、時期は弥生時代中期と考える。

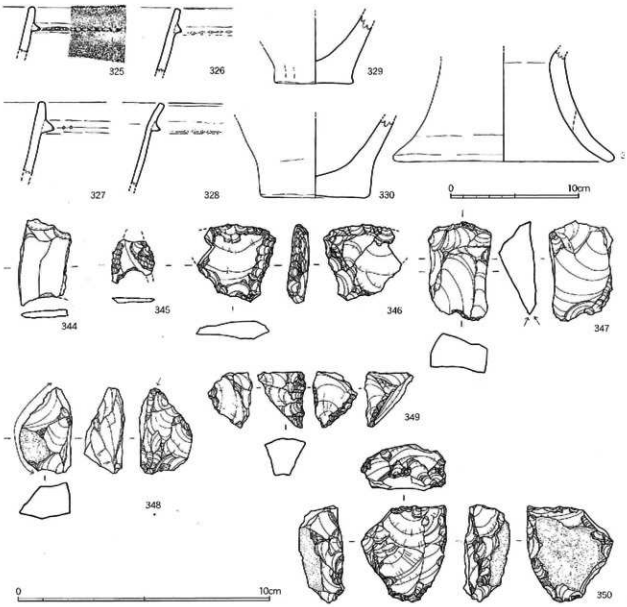
出土遺物（第97図）

壺形土器321は柱穴から出土した。口唇部から下がった位置に1条の突帯をもつもので、突帯に刻目はない。石器については、340はコアスクレイパーである。341は打製石鏃で、いずれも柱穴周辺から出土した。

9号土坑（第98図）

9号土坑は5号住居の西C9グリッドで検出された。その規模は、検出面で幅1.0m、長さ2.0mの不整形をしており、壁はほぼ垂直に立つ。床面は平坦で、深さは50cmである。

弥生土器の小破片が埋土中から若干出土した。また、石器は緑泥片岩製の磨製石鏃半成品342が床面から若干浮いた状態で確認された。



第102図　和泉第2遺跡2号溝出土遺物実測図（1/3・2/3）

10号土坑（第99図）

10号土坑はB9グリッド、2号溝の西で検出された。その規模は、直径約0.7mの円形で、深さは約20cm、床面はほぼ平坦である

ここからは、突帯に刻目をもつ下城式甕323が出土した。復元口径は約20cm。他に安山岩の凹石343が出土した。

1号溝（第100図）

1号溝はB12グリッドからC11グリッドにかけて検出された。その規模は、最大で幅2.8m、深さ0.4mを測り、地形に沿って若干東側に下っている。東側の溝底には10～30cm大の礫が敷かれていた。

遺物としては、礫に混じって近世陶磁器片が若干出土した。このことから、1号溝の時期は近世以降と考える。

2号溝（第101図）

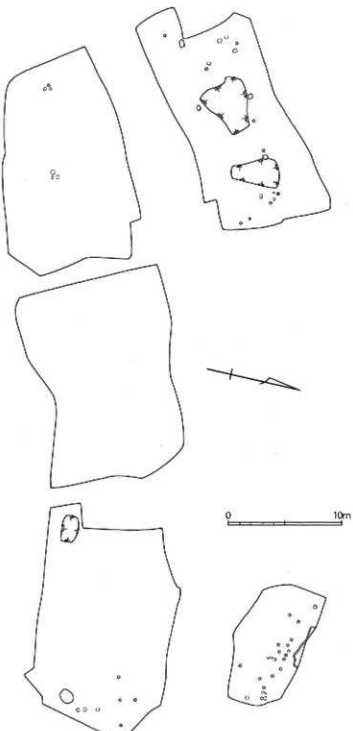
2号溝はB10グリッドからF5グリッドにかけて、等高線に沿うように検出された。B10～C9グリッドにかけては約50cmの深さを残しているが、E8～F5グリッドにかけては溝の底が若干残る程度まで削平を受けていた。その規模は、幅2.7m以上、深さ0.5m以上である。

次の遺物が出土していること、また5号住居に切られていることから、2号溝の時期は、弥生時代中期と考える。

出土遺物（第102図）

325～330は甕形土器である。325～328は下城式で、直行する口縁部に1条の突帯をもつ。突帯に刻目をもつ。328の口縁はやや外反する。331の器台の口縁端部は短く反る。

石器については、磨製石鏃、打製石鏃、削器、彫器、コアスクレー



第103図　和泉第2遺跡Ⅱ区遺構配置図

バーが出土している。344の磨製石鏃は緑泥片岩製で未成品である。345は鬼島産黒曜石製の凹基無茎鏃。346はチャート製の削器であるが、縄文早期の尖頭状石器の可能性もある。348の彫器は先端部を使用したと考えられる。

第3節　和泉第2遺跡Ⅱ区（第103図）

Ⅱ区は、買収の関係上最後に調査を手がけた箇所で、調査面積は約1300m²である。遺跡の最北、地形的には西から延びてきた尾根上にあたる。この区は宅地造成が行われており、遺構の残存状態は良くない。若干西側と、東側に弥生時代の遺構が残っているだけであった。柱穴は検出されたが、建物等想定できるものではなかった。また、調査区北東隅で弥生時代の竪穴住居跡と考えられる遺構を検出したが、その大半は調査区外である。

第4節　和泉第2遺跡Ⅲ区（第104図）

Ⅲ区は、Ⅰ区に続いて調査を手がけた箇所で、調査面積は約16000m²である。地形的にはⅢ区から流れてくる尾根が調査区の北Ⅰ／3まで続き、そこから南に向かって下っている。遺構は標高90m付近の緩斜面より高位の地区で確認されており、ここから弥生時代の住居跡6基、柱穴群20基、中世土坑1基、中世周溝状遺構1基、溝状遺構1条及び中世城館に伴う堀切1条等が検出された。

Ⅲ区は調査面積が広いので、Mイ～Q3グリッド、Qイ～W5グリッド、L12～Q7グリッドの3グリッドに分けて報告する。

1. Mイ～Q3グリッド（第105図）

Mイ～Q3グリッドは和泉第2遺跡Ⅲ区の北西部の標高約92m～97.5mの地点にあり、丘陵上の平坦面と南に向かって下る緩斜面上にあたる。ここからは、弥生時代の住居跡5軒、柱穴群20基が検出された。

13号住居（第106図）

13号住居はQ2グリッドで検出された。明確に確認された遺構は方形の西隅の壁の一部だけで、規模は不明である。検出面から約15cm下位で床面に達する。床面からは、柱穴は1ヶ所検出され、その深さは40cmである。

土器については、弥生時代土器の胴部の小破片が残された床面の上面からわずかに出土した。石器は凹基無茎鏃で基部の抉りの浅いもの（351）と尖頭状石器（352）が出土した。いずれも鬼島産黒曜石製である。

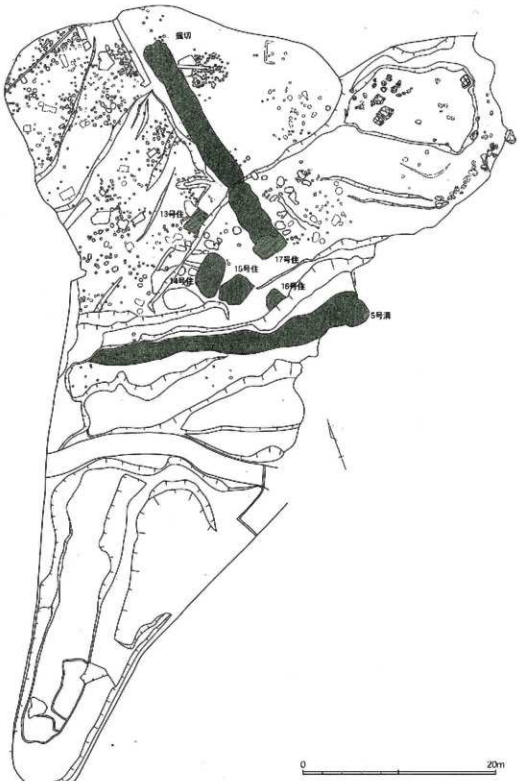
14号住居（第107図）

14号住居はR3グリッドで検出された。住居跡の規模は東西6.3m、南北5.3mの不整円形をしている。北側は検出面から60cm下で床面に達する。住居は南向き斜面に掘られており、南壁はない。床面から柱穴が1ヶ所検出され、その深さは50cmである。また、西側から1.7m×2.3m、深さ60cmの土坑、東側から1.2m×0.7m、深さ40cmの土坑がそれぞれ確認されている。これらは、住居に伴うものと考えられる。

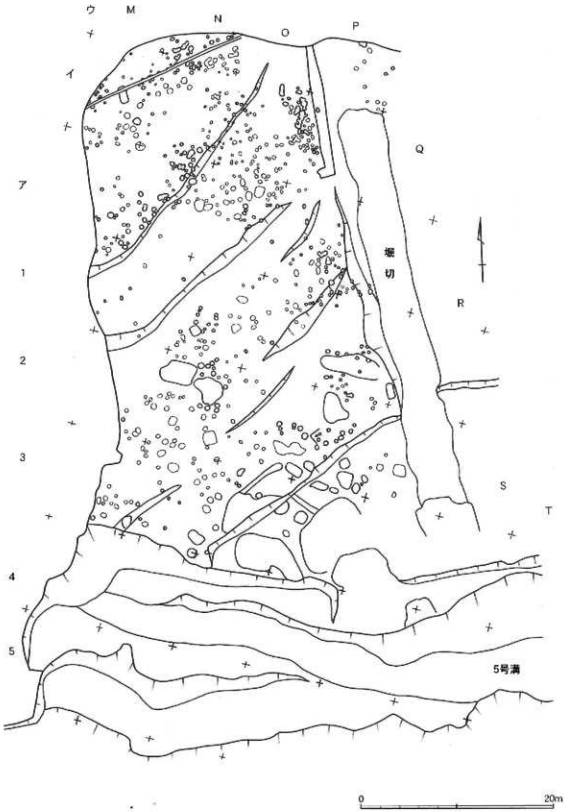
遺物については、弥生時代土器の胴部の小破片が埋土中からわずかに出土している。

15号住居（第108図）

15号住居はQ3グリッドで検出された。住居跡の規模は東西7.2m、南北6.6mの不整円形をし



第 104 図　和泉第 2 遺跡Ⅲ区遺構配置図



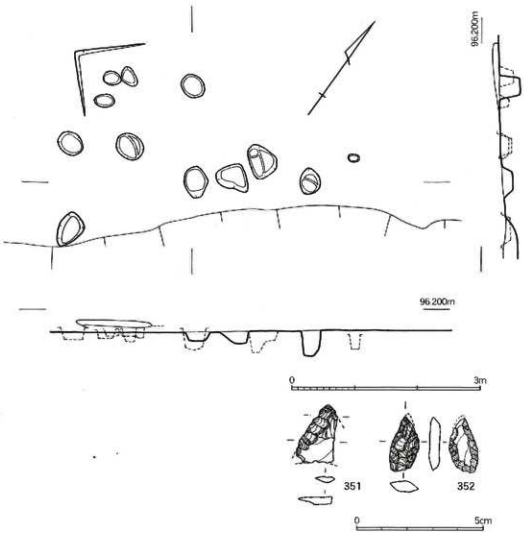
第 105 図　和泉第 2 遺跡 M イ～ Q 3 グリッド遺構配置図（1/400）

ている。北西側は検出面から 30cm 下で床面に達する。住居は南向き斜面に掘られており、南東壁はない。床面から柱穴が 2 ヶ所検出され、その深さは約 20cm である。しかし、炉跡と考えられる掘り込みは確認されなかった。出土遺物より弥生時代中期後半と考える。

遺物は床面から浮いた状況で出土した。そのため、土器・石器ともに住居跡が埋まっていく段階で流れ込んだものと考える。

332 ～ 336 は壺形上器である。332、333 はともに鍬先状口縁壺であるが、332 は内面肥厚させて平坦部を作っているが、平坦部が短く、内側突出部も小さい。333 は内側突出部も大きく、端部が下垂する。334 は胴部中位に断面M字状の突帯が 2 条めぐる。337 ～ 348 は甕形上器である。337 は下城式で、突帯に刻みを施す。他の「く」字状口縁は端部を跳ね上げるもの（339）や端部を肥厚させるもの（344）がある。349 ～ 354 は高坏である。353 は坏部が深く、脚部も太くて短いもの。349、350 はそれよりも坏部が浅く、鍬先状が発達していて、また脚部も細く、長く伸びている。

石鏃は凹基無茎鏃（353、354）と平基無茎鏃（355）が、また、姫島産黒曜石製の石匙（356）が出土している。358 の掻器は細石刃期のものとも考えられる。その他姫島産黒曜石の剥片、石核が出土した。

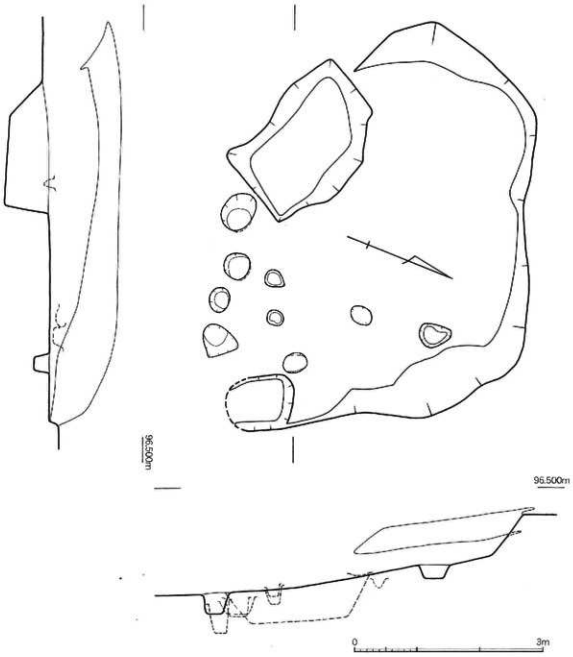


第 106 図　和泉第 2 遺跡 13 号住居跡及び出土石器実測図（1/60・2/3）

16号住居（第112図）

16号住居はＲ２、Ｒ３、Ｓ２、Ｓ３グリッドに跨って検出された。住居跡の規模は東西6.3m、南北5.3mの不整円形をしている。北側は検出面から60cm下で床面に達する。住居は南向き斜面に掘られており、南壁はない。床面から柱穴が１ヶ所検出され、その深さは50cmである。また、西側から1.7m×2.3m、深さ60cmの土坑、東側から1.2m×0.7m、深さ40cmの土坑がそれぞれ確認されている。これらは、住居に伴うものと考えられる。

遺物については、355～364は甕形土器である。356～360（358を除く）は口唇部から下がった位置に１条の突帯をもつもので、356、359、360は突帯に刻目はない。357は突帯に刻目をもつ。358は２条の突帯をもち、突帯に刻目をもつ。365の高坏は、口縁端部は若干下がるが、内部の突出は少ない。367の器台は復元口径10cmで、透かしを６個もつ。

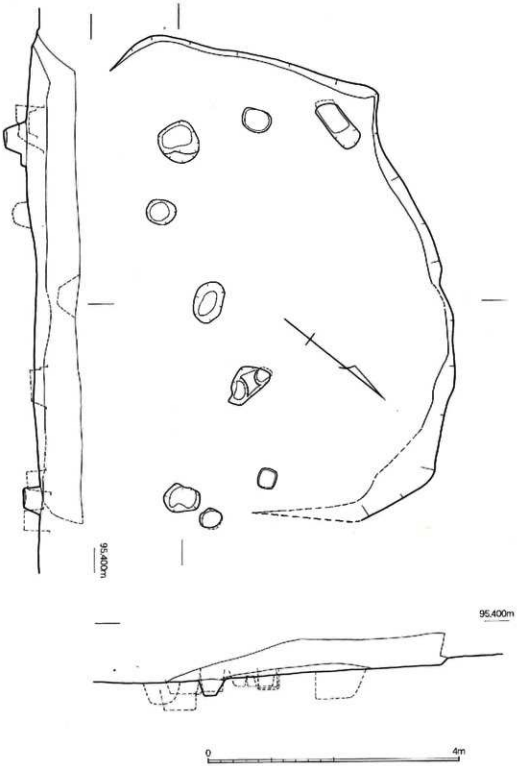


第107図　和泉第２遺跡14号住居跡実測図（1/60）

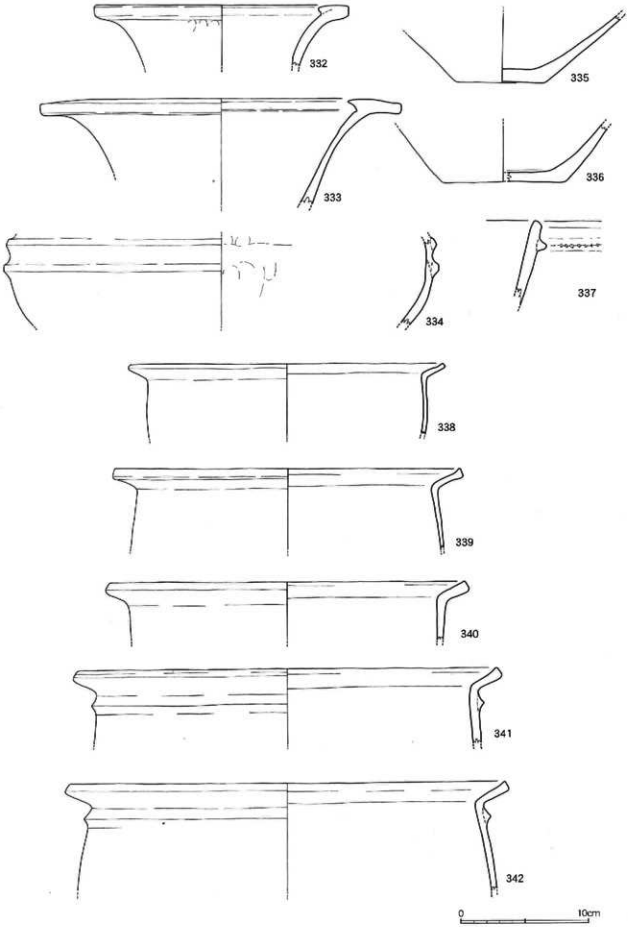
石器は石鏃、尖頭状石器、石錐、掻器が出土している。石鏃 363 は長二等辺三角形でやや抉りが浅く、端部が丸い凹基無茎鏃。364 は平基無茎鏃の未成品。

17 号住居（第 115 図）

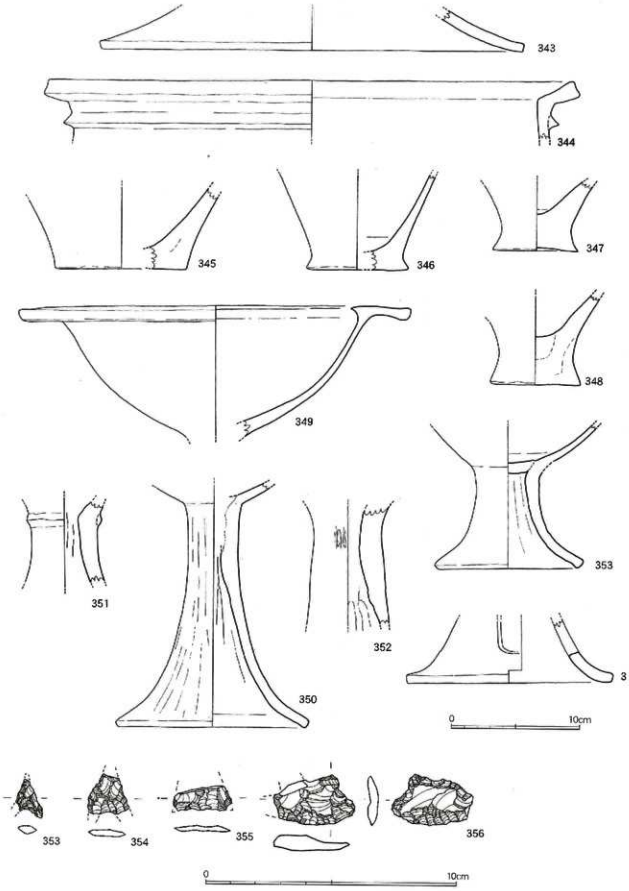
17 号住居はＲ３・４、Ｓ３・４グリッドで検出された。竪穴の規模は東西 3.5m、南北 2.9m の方形をしている。



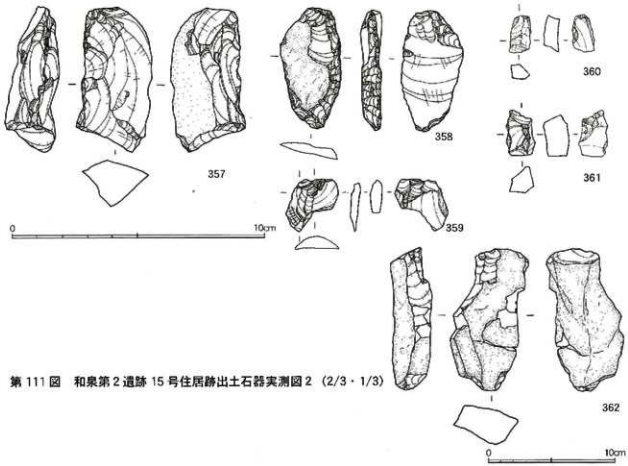
第 108 図　和泉第 2 遺跡 15 号住居跡実測図（1/60）



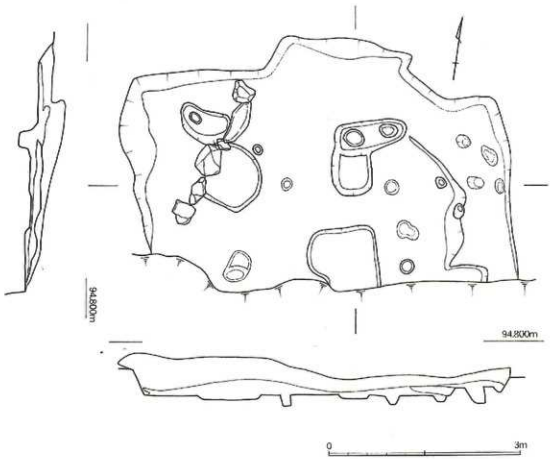
第 109 図　和泉第 2 遺跡 15 号住居跡出土土器実測図（1/3）



第 110 図　和泉第 2 遺跡 15 号住居跡出土土器 2 ・石器実測図（1/3・2/3）



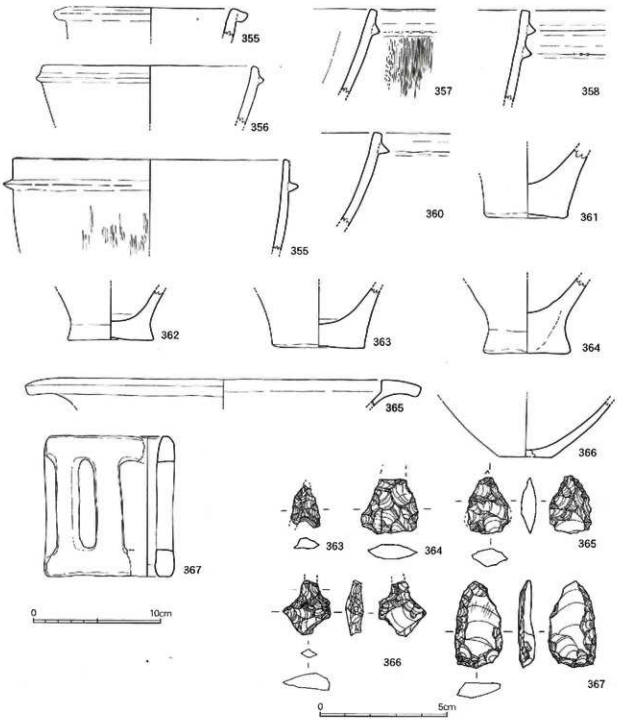
第 111 図　和泉第 2 遺跡 15 号住居跡出土石器実測図 2（2/3・1/3）



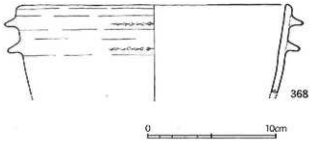
第 112 図　和泉第 2 遺跡 16 号住居跡実測図（1/60）

その周囲からは半円形にめぐる柱穴が検出されており、その直径は5.2 mを測る。北側は検出面から25cm下で床面に達する。住居は南向き斜面に掘られており、南壁はない。床面からは浅い柱穴が検出されたのみで、炉跡は確認されていない。

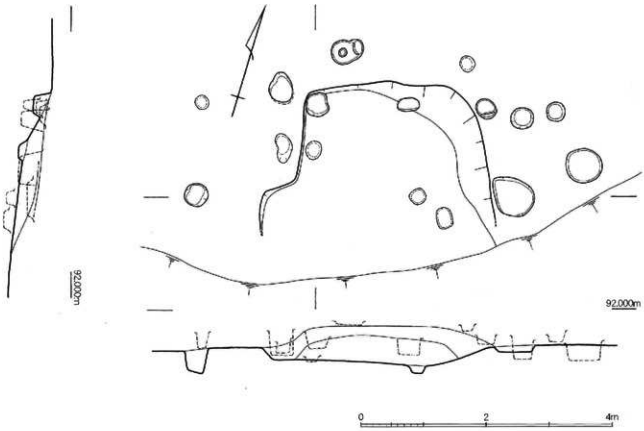
遺物については、竪穴埋土中から368の甕形土器が出土した。これは口縁部から下がった位置に2条の突帯をもつもので、突帯に刻目をもつ。



第113図　和泉第2遺跡16号住居跡出土土器・石器実測図（1/3・2/3）



第 114 図　和泉第 2 遺跡 17 号住居跡出土土器実測図（1/3）



第 115 図　和泉第 2 遺跡 17 号住居跡実測図（1/60）

柱穴群（第 116・119 図）

和泉第 2 遺跡は、後世の開発で水田として利用されていたことから、調査区がかなり削平をうけている。Ⅲ区の平坦部も同様で、弥生土器を伴う柱穴が多数検出されている。これらは住居であった可能性もあることから、ここでは 20 の柱穴群として紹介する。

1 号柱穴群

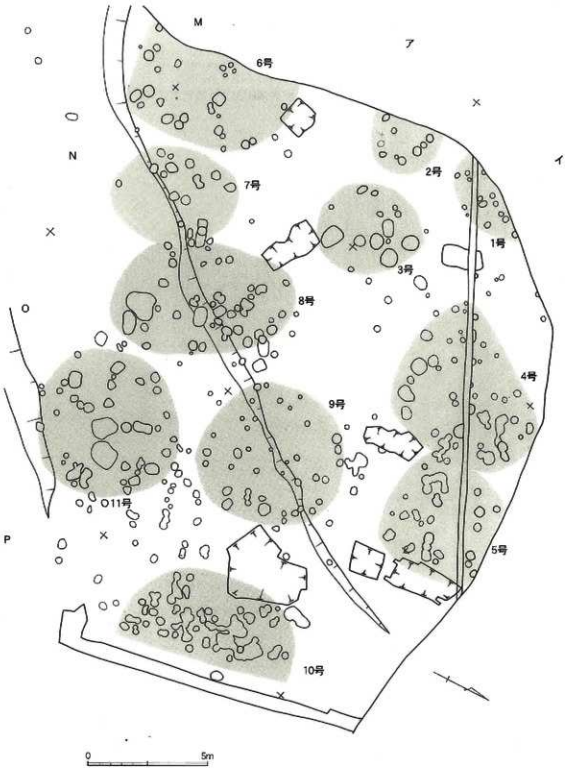
Ⅲ区の北西隅で検出された柱穴群で、2／3 は調査区外にある。柱穴からは弥生時代甕形土器の細片が出土している。

2 号柱穴群

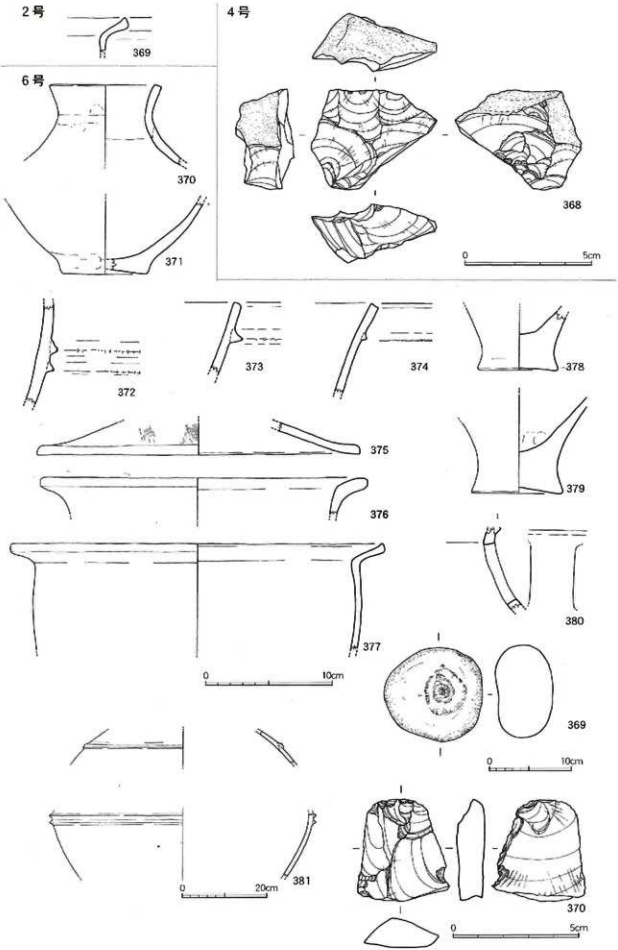
1 号の南Mアにあり、3 m程で円形にめぐる柱穴群である。ここからは、369 の「く」字状口縁の甕が出土した。

3号柱穴群

この柱穴群は1、2号の東で検出した。他に比べて大きめの土坑で構成されている。弥生土器の細片が出土している。



第116図　和泉第2遺跡1号～11号柱穴群配置図（1/150）



第 117 図　和泉第 2 遺跡 2・4・6 号柱穴群住居跡出土土器・石器実測図（1/3・2/3・2/9）

4号柱穴群

上にNイにあり、柱穴の範囲は東西5.5 m、南北6.5 mにおよぶ。柱穴内から弥生時代甕形土器の細片と、姫島産黒曜石の剥片が出土している。

5号柱穴群

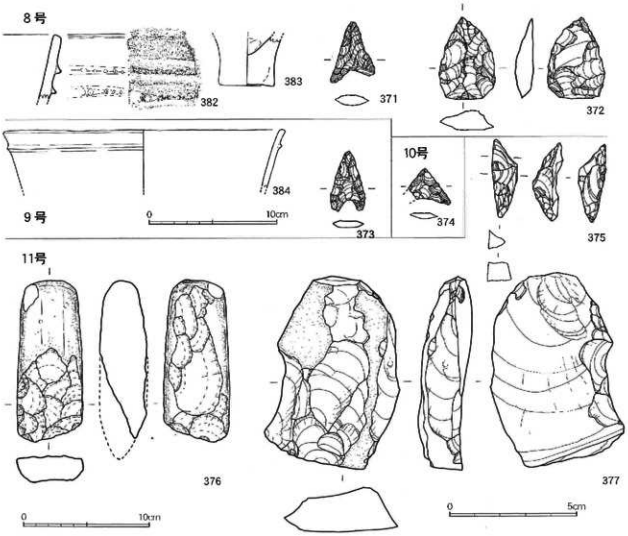
5号柱穴群は4号の東、Nイ、Nウに跨って検出された。その範囲は直径約5 mにおよぶ。この中の北寄りの柱穴から、姫島産黒曜石製の石核368が出土した。

6号柱穴群

この柱穴群はⅢ区M、Nグリッドの最西で直径約7 mの範囲で検出された。その中央部から礫や土器が一括廃棄された50cm四方で、深さ60cmの土坑が確認された。370～381の土器（373、376を除く）及び369・370の石器がこの土坑から出土した。

370の壺形土器は肩の張った胴部に、開き気味で直行する口縁が付く。371は若干上げ底の底部。372は胴部中位に2条の刻みを施した三角突帯がつく。373、374は口唇部から下がった位置に1条の三角突帯をもつもので、突帯に刻目をもつ。378、379は甕形土器の厚底。375は蓋形土器。376の「く」字状口縁は端部を跳ね上げる。380は高坏の脚部で透かしをもつ。381の壺形土器は、肩部に1条のM字突帯を、また胴中位に2条の三角突帯をめぐらす。

石器としては、369は安山岩の凹石。370は姫島産黒曜石の剥片である。



第118図　和泉第2遺跡8号～11号柱穴群出土土器・石器実測図（1/3・2/3）

7号柱穴群

6号の東、Nアの中央部で検出した約4mの範囲の柱穴群である。遺物は若干出土したが、図示するほどではない。

8号柱穴群

本柱穴群は3号の東で検出された。範囲は南北約7m、東西約5mにおよぶ。ここからは、382、383の土器と371、372の石器が出土した。

土器382は口唇部から下がった位置に2条の三角突帯をもつもので、突帯に刻目をもつ。383は甕形土器の厚底。石器371は二等辺三角形で端部が尖る凹基無茎鏃。372は姫島産黒曜石製の尖頭状石器である。

9号柱穴群

9号は5号柱穴群の南、Nイ、Oイで検出された。その範囲は直径約6.5mに広がっており、ここからは土器384と石器373が出土している。土器384は直行する口縁下部に1条の刻みのない三角突帯を貼り付けたもの。石器373は二等辺三角形で抉りがやや深い凹基鏃。

10号柱穴群

10号柱穴群はOイで確認された。東半分は後世の攪乱で失われているが、その規模は直径約8mにもおよぶ。ここからは弥生土器の細片に混じって、サヌカイト製の正三角形で抉りが浅い凹基無茎鏃374が出土した。

11号柱穴群

Oアで検出された11号は直径約6.5mの範囲に広がっている。ここからは石器375～377が出土している。375は姫島産黒曜石製の石鏃、376は砂岩の磨製石斧、377は頁岩の抉入削器で旧石器の剥片を二次利用したものである。

12号柱穴群

12号柱穴群はN1グリッドで検出され、その範囲は南北5m、東西3.5mにおよぶ。ここからは姫島産黒曜石製で抉りの浅い凹基鏃未成品378が出土した。

13号柱穴群

本柱穴群はN2、O2を中心として、直径約6mに広がっている。柱穴は円形に周り、その内部に炭を含んだ土坑がある。385、386の下城式の甕形土器が出土した。385は2条の、386は1条の三角突帯をめぐらせ、刻みを施す。

14号柱穴群

14号はO2グリッドにあり、柱穴は直径約4mの円を描く。その内部に直径1.5m、深さ40cm程の土坑があり、中からは礫に混じって、廃棄された土器が出土した。土器387～390、石器379、380がそれである。387、388は「く」字状口縁の甕形土器で、387は端部を跳ね上げる。石器379は安山岩の凹石。380は凹基無茎鏃で、正三角形で抉りが浅い。

15号柱穴群

15号柱穴群はO1グリッド、12号の東で検出された。その柱穴は南北4m、東西5mの円形に巡っており、その中央には土坑がある。ここから出土した石鏃381は長二等辺三角形で抉りが深い凹基無茎鏃である。

16号柱穴群

16号の柱穴は南北約4m、東西約3.5mの範囲でめぐっている。ここからは内部を肥厚させ口縁下部に突帯をめぐらせた甕形土器391が出土している。

17号柱穴群

17号柱穴群はPアを中心に直径約5mの円形に広がっている。東1／3を後世の削平で失ってい

第 119 図　和泉第 2 遺跡 12 号～ 20 号柱穴群配置図（1/150）

る。382の姫島産黒曜石の石錐がここから出土している。

18号柱穴群

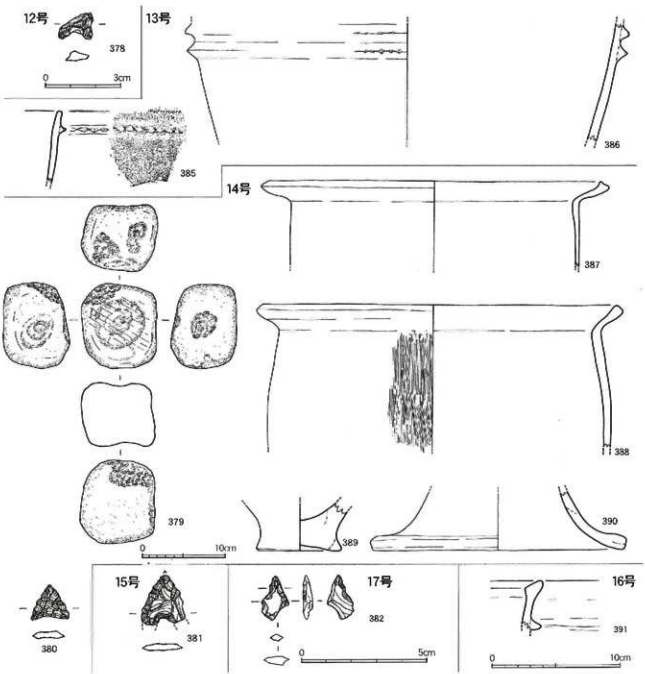
この柱穴群はN3グリッドを中心に約6.5mの円形に広がっている。南半分は後世の削平を受けている。弥生土器の細片が出土した。

19号柱穴群

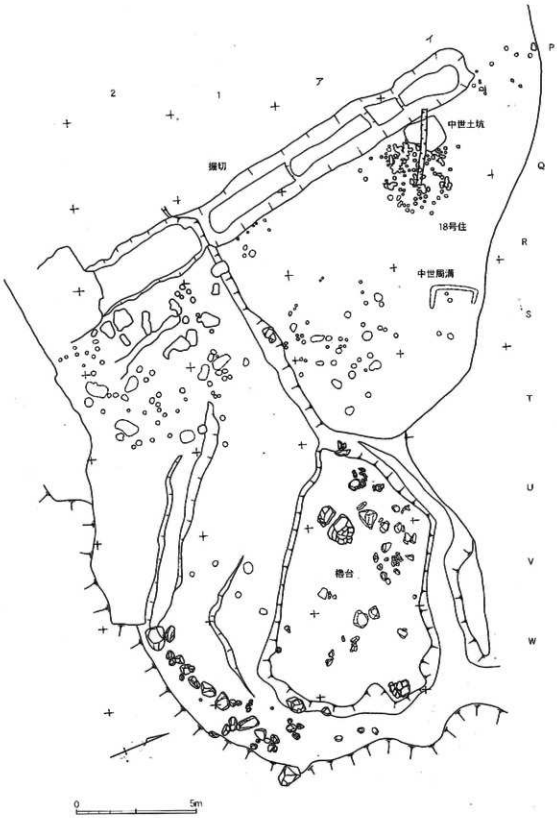
19号柱穴群は13号の南東、O3グリッドから検出された。その規模は南北6m、東西5mを測り、中央部には覆土に炭の混じった1m程の土坑が検出された。遺物は弥生弥生時代土器の細片と、姫島産黒曜石の剥片が出土している。

20号柱穴群

20号はP2、Q2グリッド、13号住居跡の西で検出した。約5mの範囲に広がっており、中央部の浅い土坑から姫島産黒曜石の剥片が出土している。



第120図　和泉第2遺跡12号～17号柱穴群出土土器・石器実測図（1/3・2/3・2/9）

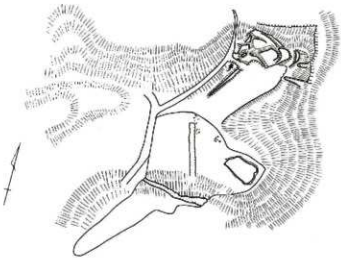


第 121 図　和泉第２遺跡Ｑイ～Ｗ５グリッド遺構配置図

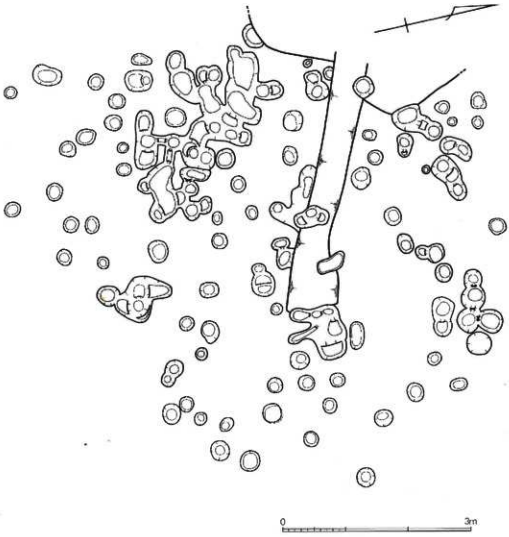
2. Qイ～W5グリッド

Qイ～W5グリッドは和泉第2遺跡Ⅲ区の北東隅、標高約90m～99mにあたる。ここからは、弥生時代の住居跡1軒、中世土坑1基、中世溝1基、中世の溝状遺構1条と中世山城に伴う堀切と櫓台としての高まり等を検出した。

中世城館に関しては、字名が「城」であり、調査区外では上臼、虎口などの施設が今でも確認できる。また、今回の発掘調査でも、西から延びてくる尾根を堀り切った溝1条を検出した。しかしながら、内部の建物跡等は検出できなかった。



第122図　和泉第2遺跡中世山城縄張図



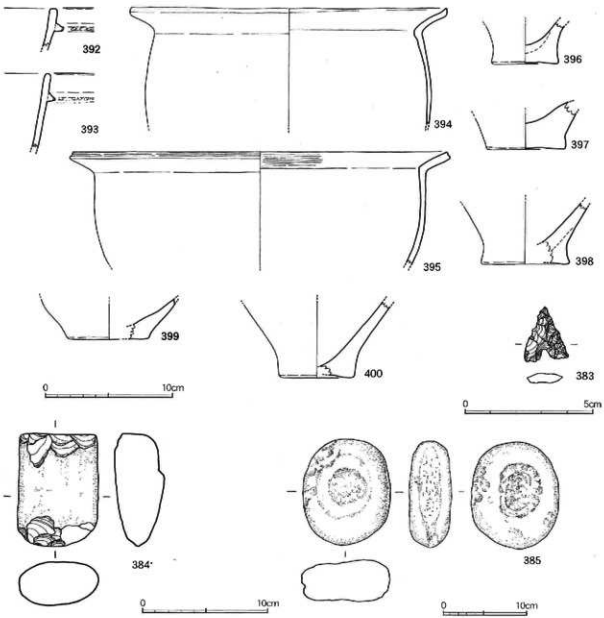
第123図　和泉第2遺跡18号住居跡実測図（1/60）

18 号住居（第 123 図）

18 号住居はQイ，Rイに跨って検出された。全体的に削平を受けており、規模等は不明である。しかし深さ約 20cm～40cm の柱穴が東西 7.7 m×南北 7.7 m の円形に巡るように検出されたため、住居として扱った。柱穴の配置から東西に 2 軒重なっている可能性もある。どちらとも、炉跡は確認できなかった。柱穴から次の遺物が出土している。

出土遺物（第 124 図）

土器 392、393 は直行する口縁下部に 1 条の三角突帯をめぐらせ、それに刻みを施す下城式の甕。394、395 は「く」字状口縁の甕形上器。394 は岩千端部を跳ね上げる。復元口径 24.8cm。底部は厚いものが多い。



第 124 図　和泉第 2 遺跡 18 号住居跡出土土器実測図（1/3）

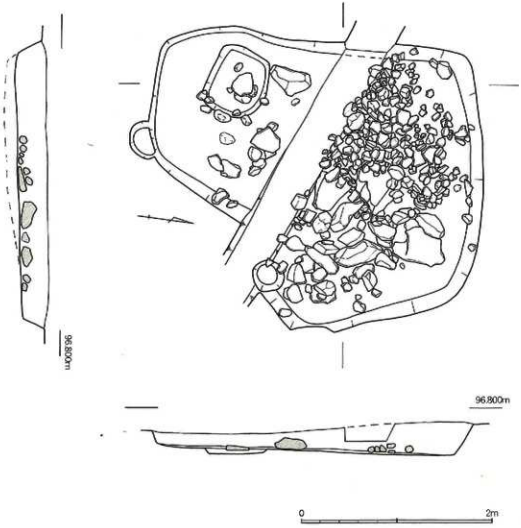
石器 383 は抉りのやや深い凹基無茎鏃、姫島産黒曜石。384 は砂岩製の蛤刃石斧。385 は結晶片岩製の凹石。

中世土坑（第 125 図）

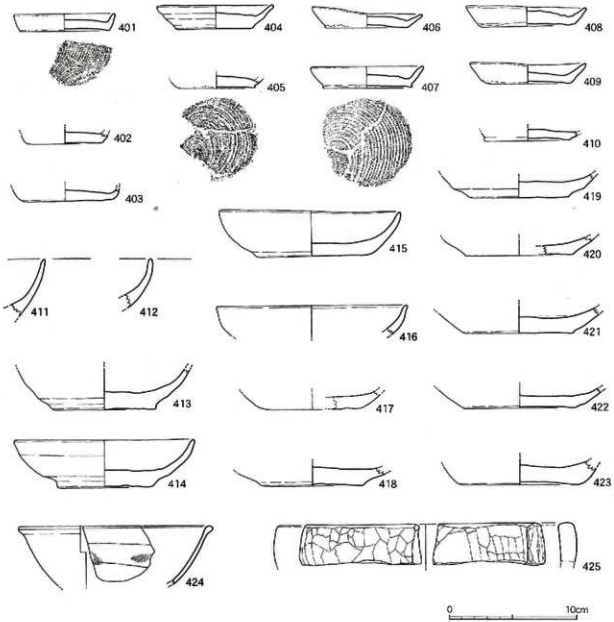
中世土坑はQイで、18 号住居を切って構築されている。規模は東西 3.0 m×南北 3.6 mで方形をしている。2 基の土坑が重なっていることが十分考えられたので、平面、土層断面を丁寧に観察したが、現代の攪乱等で確認できなかった。土坑の底には 10cm から 50cm 大の礫が散乱しており、それらに混じって土師質土器が検出された。また、床面の南からは 60cm × 70cm、深さ 10cm の掘り込みが確認できたが、特異な遺物は検出されなかった。424 の口禿の白磁碗が出土していることからみて、本土坑は 13 世紀後半から 14 世紀前半に比定される。

出土遺物（第 126 図）

ここからは土師質小皿・坏、白磁碗等が出土している。小皿 401 ～ 410 の形態については、微妙な差異はあるものの、体部はほぼ直線的に伸び、口縁端部でやや尖り気味に開く特徴をもつ。その内面の底部と体部の境界点がやや高い位置にあることも指摘できる。口径は 8.0cm ～ 9.5cm、底径 6.0cm ～ 7.5cm、器高 1.4cm ～ 1.9cm。底部はすべて糸切りである。



第 125 図　和泉第 2 遺跡中世土坑実測図（1/40）



第 126 図　和泉第 2 遺跡中世土坑出土土器実測図（1/3）

坏 411 ～ 423 は、口縁部が底部の厚さに比べて細く、体部は内湾して開く。口径の平均は 14.7cm、底径の平均は 8.3cm である。確認できた底部はすべて糸切りである。

424 は口禿の白磁碗で、復元口径は 15.4cm。425 は滑石製鍋の破片を加工したもので、内外面に擦痕が顕著に残る。

中世周溝（第 127 図）

木遺構はＳイで検出された。長軸は北西に取る。地形が西から東に若干傾斜しているため、周溝は東側２／３が削平されている。短軸は外側で 4.5 m を測り、長軸は柱穴を左右対称とすると、約 6.4 m であったと考えられる。周溝の幅は約 20cm、深さは最大 10cm しか残っていない。内部からは直径 50cm、深さ 35cm の２本の主柱穴が 3.5 m の距離をとって周溝の中央部から検出された。ま

た、柱穴間の北側周溝付近で焼土、炭が2m×1.5mの範囲で確認された。このことから、長方形に溝を巡らせた竪穴遺構と考える。土師質土器の器形と口径から14世紀前半に構築されたものである。

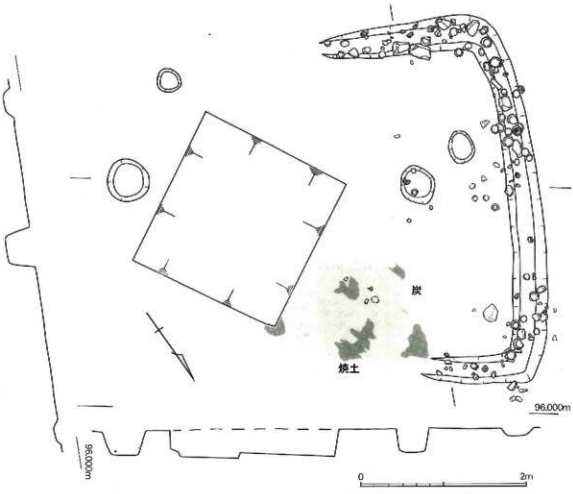
出土遺物（第128・129図）

426～439は土師質小皿で、器形は内面の底部と体部の境界点がやや高い位置にあり、口縁端部はやや尖り気味に開く。その際、内彎するもの(427)と直線的に開くもの(438)がある。口径は8.2cm～9.4cm、底径6.1cm～7.4cm、器高1.2cm～1.7cm。底部は糸切り。

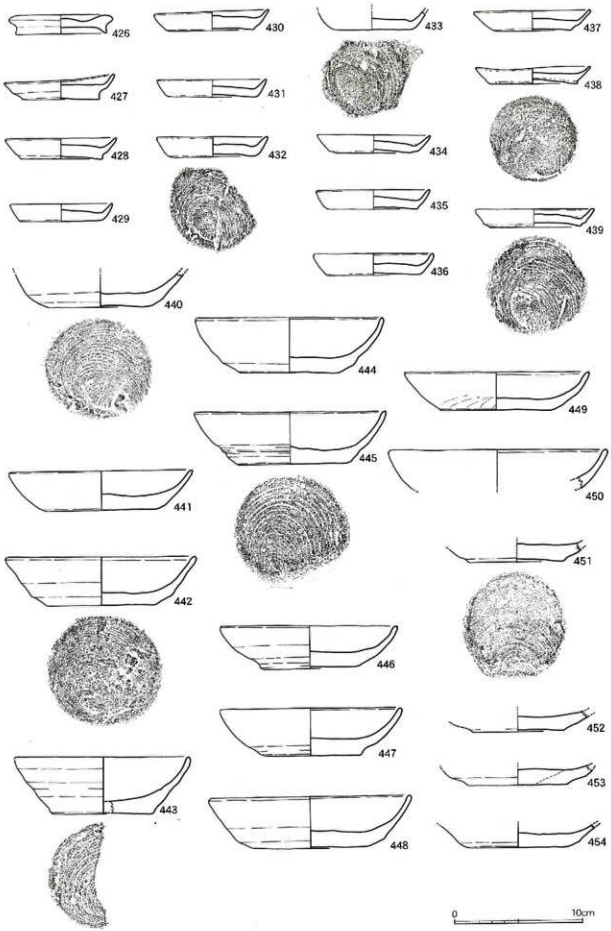
坏440～462　口縁部が底部の厚さに比べて細く、体部は内湾して開く。口径の平均は15.1cm、底径の平均は8.2cm、器高の平均は3.8cmである。442は口径に比べて、器高が高い。確認できた底部はすべて糸切りである。463は東播系須恵器の鉢である。

中世周溝に囲まれた範囲からも土師質土器が多く出ており、次に図示する。（第130図）

土師質土器小皿464～479は若干の差はあるものの、全体的な傾向として、厚い底部から細い体部を摘み出しているものが多く見られる。そのため、器形は、内面の底部と体部の境界点がやや高い位置に保たれ、口縁端部にかけて尖り気味に開く特徴をもつ。口径は7.8cm～10.6cm、底径6.0cm～8.5cm、器高1.0cm～1.6cm。確認できた底部はすべて回転糸切りである。



第127図　和泉第2遺跡中世周溝実測図



第 128 図　和泉第 2 遺跡中世周溝出土土器実測図 1（1/3）

坏480～492は口縁部まで残っているものが少ないが、小皿と同様に、底部の厚さに比べて体部が細く、内湾気味に開く。口径は15.5cm、底径7.2cm～10.5cm、器高3.6cm。底部はすべて糸切りである。493は瓦質土器のこね鉢である。

また、中世周溝の周辺では、住居跡は検出できなかったが弥生時代の遺物が出土したので、第131図に図示した。

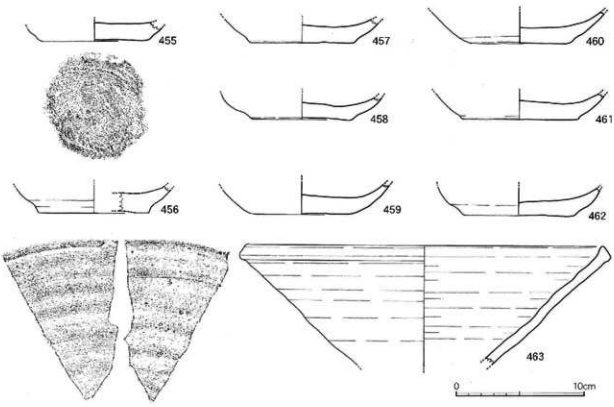
386は、平基無茎鏃の磨製石鏃未成品で、緑泥片岩でできている。387～394は凹基無茎鏃である。長二等辺三角形でやや抉りが浅いもの、正三角形で抉りが浅いものなどがある。材質はすべて姫島産黒曜石である。395、396の刺突具、397～400の削器、401～403の剥片もすべて姫島産黒曜石である。石核404は珪化木製。

掘切（第132図）

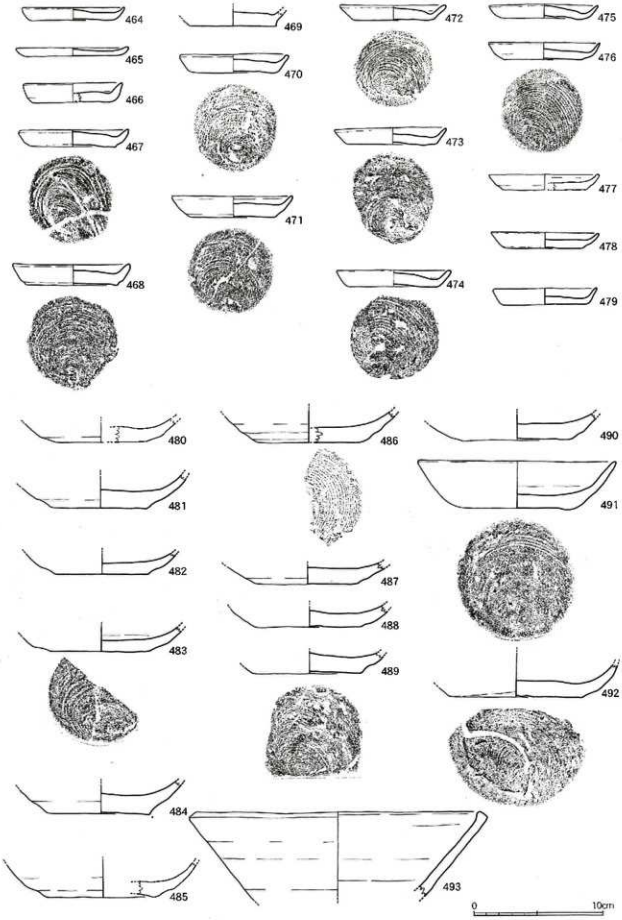
中世山城に伴うと考えられる堀切は、PイからS3グリッドにかけて南北方向に約45m確認できた。その最大幅は5m、深さは3mである。しかし深さは一定ではなく、最北部分では3m、そこから約8mの地点で半分の深さになる。また一旦下がった後、断面Dのところでは高まっている。そこから断面Eにかけてまた落ちて行くが、地山が南に向かって下がっているためS3グリッドで消滅する。堀切の底の絶対高は断面Dの箇所は95mを越えているが、その他の箇所は94.5m前後で一定している。

溝の埋土の堆積状況は、第132図を見ると、図の右側（東側）から流れ込んでいるのが確認できた。このことから、溝の東側、すなわち城館の内側に土塁があったものと推測される。そうすると、堀切と接してある中世土坑は、土塁が作られた際に埋められたことになる。

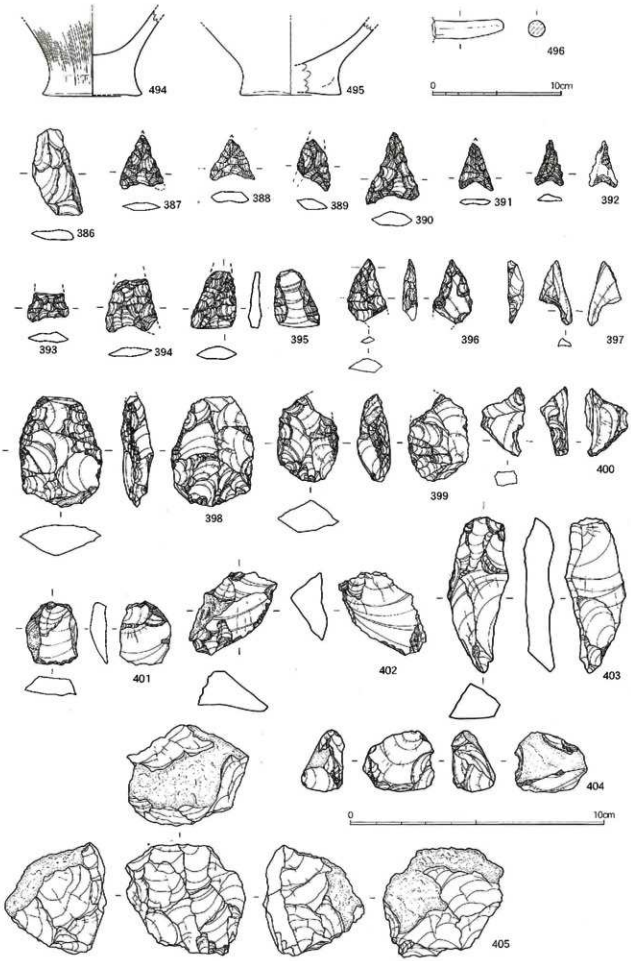
出土遺物（第133図）の497は須恵質土器鉢の底部で、復元底径は17.4cm。498は鉄製茶釜。口径16.7cm、胴径（耕を含む）26.7cm、器高18.5cm。口はまっすぐ立ち上がり、肩は丸く張り、底



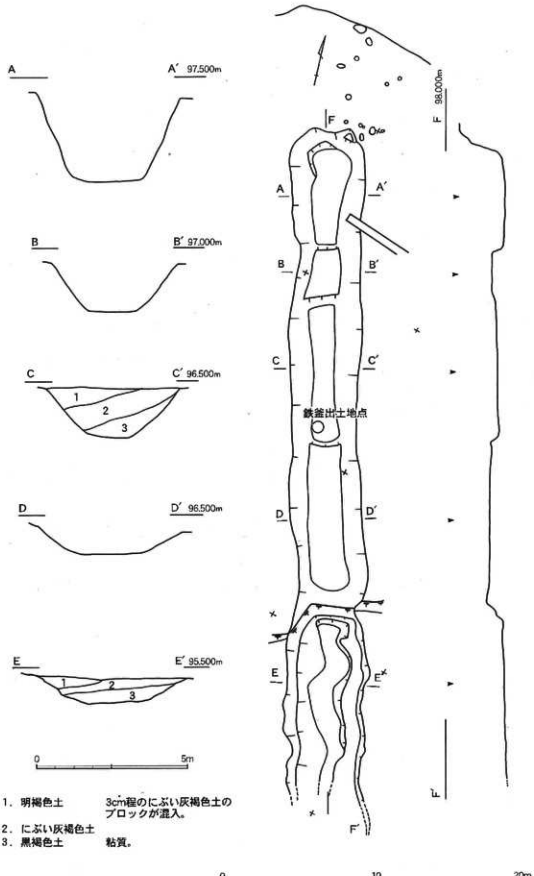
第129図　和泉第2遺跡中世周溝出土土器実測図2（1/3）



第 130 図　和泉第 2 遺跡中世周溝内出土土器実測図（1/3）



第 131 図　和泉第２遺跡中世周溝付近出土土器・石器実測図（1/3・2/3）



第 132 図　和泉第 2 遺跡堀切実測図（1/125・1/250）

部は平らである。胴は1条の紐を鋳出して飾りとし、釜の両側胴には環付があり、環が付いていた。全体を覆っていた錆を落としてみると、吊り掛けるための取手が出てきた。この茶釜は、溝の中央付近の床面直上（3層内）で検出した。

5号溝（第134図）

5号溝は東西方向に走る溝で、O4～T4グリッドにかけて検出された。その長さは53m残っており、幅は2.5m～4.8m、深さ0.4m～2.2mである。

5号溝から出土した弥生時代遺物を第135・136図、中世の遺物を第137図に図示した。溝は残りが浅く、層位的に分けることができなかった。他に近世以降の遺物の混入が見られないことから14世紀代のものと考えられる。

弥生時代遺物（第135・136図）

土器

499の壺は頸部内面を肥厚させる。500～503は下城式土器甕で、直行する口縁下部に突帯をめぐらす。503は突帯に、500、502は突帯口唇部に刻目をもち、501は刻みを施さない。

504、505は高坏である。504の内部にはしぼり痕が確認でき、505は開き気味の脚部に透かしを施している。

石器

406～409は磨製石鏃で、そのうち406は未成品、409は平基無茎鏃である。材質は407が緑泥片岩である他は結晶片岩である。

410～419は打製石鏃で、器形は長二等辺三角形で抉りが深いもの、やや浅いもの、正三角形で抉りが浅いものなどがある。材質はすべて姫島産黒曜石である。420～422は刺突具、そのうち421は打製石鏃を二次加工したもの。423、424は尖頭状石器。425は石錐、426は円形スクレイパーで、いずれも姫島産黒曜石製である。427、428は掻器で、427は石英製、428は彫器としても使用されている。429～431の削器、432～437の剥片も多くは姫島産黒曜石であるが、ホルンフェルス（435）サヌカイト(436)なども含まれている。438～441は姫島産黒曜石製の石核である。

442は蛇紋岩製の磨製石斧で手斧として使用されたものか。443は凝灰質安山岩の凹石。

中世遺物（第137図）

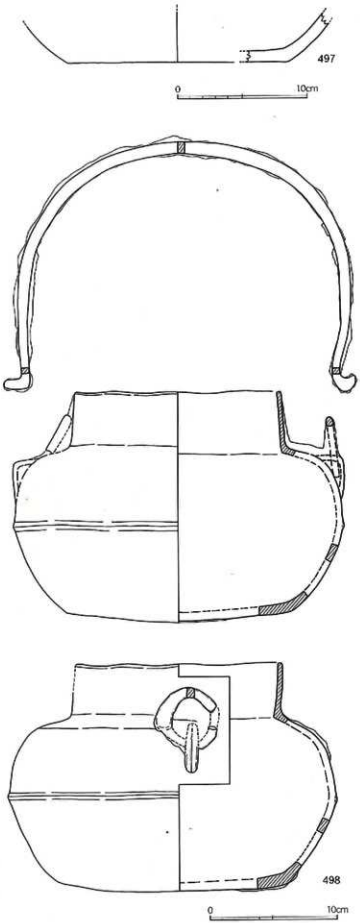
506～512は土師質土器の小皿で、底径は5.8cm～8.2cm、口径は8.2cm～9.4cm、器高は1.0cm～1.5cmである。

513～520は土師質土器坏で、513以外（514～520）は口縁部まで残っているものはないが、中世溝で出土したものと同様に、底部の厚さに比べて体部が細く、内湾気味に開くという特徴をもつと考えられる。513は、ほぼ直線的に伸びる体部で、口縁端部はやや尖り気味に開く。底部糸切りが確認できる。

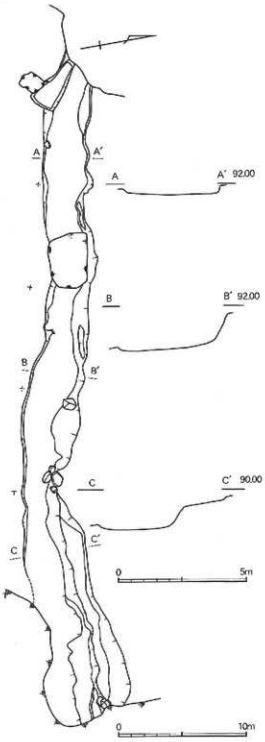
521、522は土師質土器鍋。521は底部糸切り、貼り付け高台。12世紀代。522は赤茶褐色、底部ヘラ切りの貼り付け高台。9～10世紀。523は土師質土器鉢。口径約17cm。

櫓台（第138図）

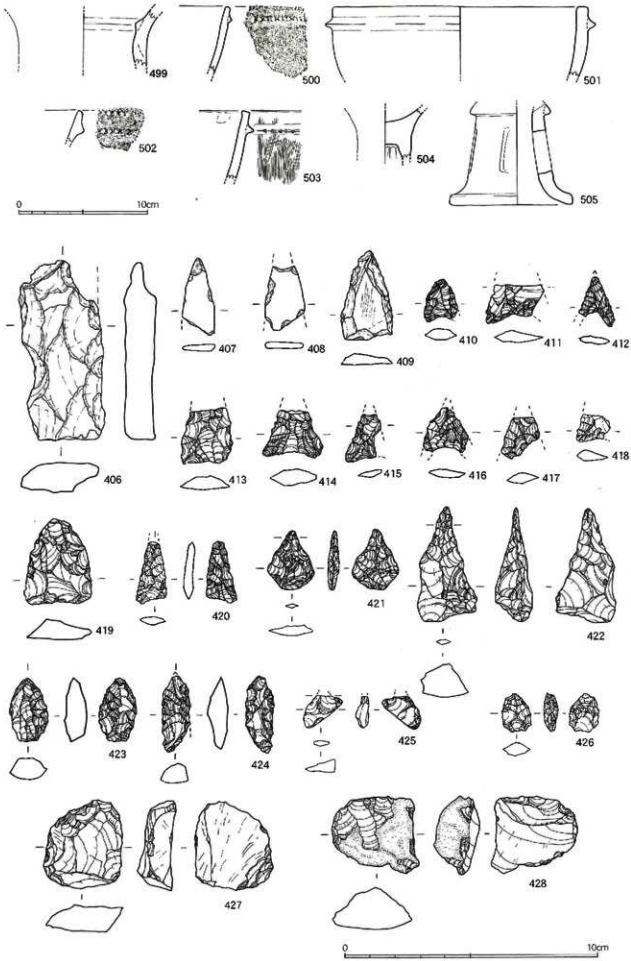
T、U、V―ア、1グリッドにおいて、塚状の高まりが確認できたため、調査は古墳である可能性を考え、トレンチを入れ掘り下げた。その結果、高まりは地山の掘り残しで、全く盛り土はなく、主体も確認されなかったので、古墳ではないと判断した。さらに、この地点は城館の内部と考えられるので、この高まりに物見櫓等の柱穴が残っていないか精査したが、検出するに至らなかった。



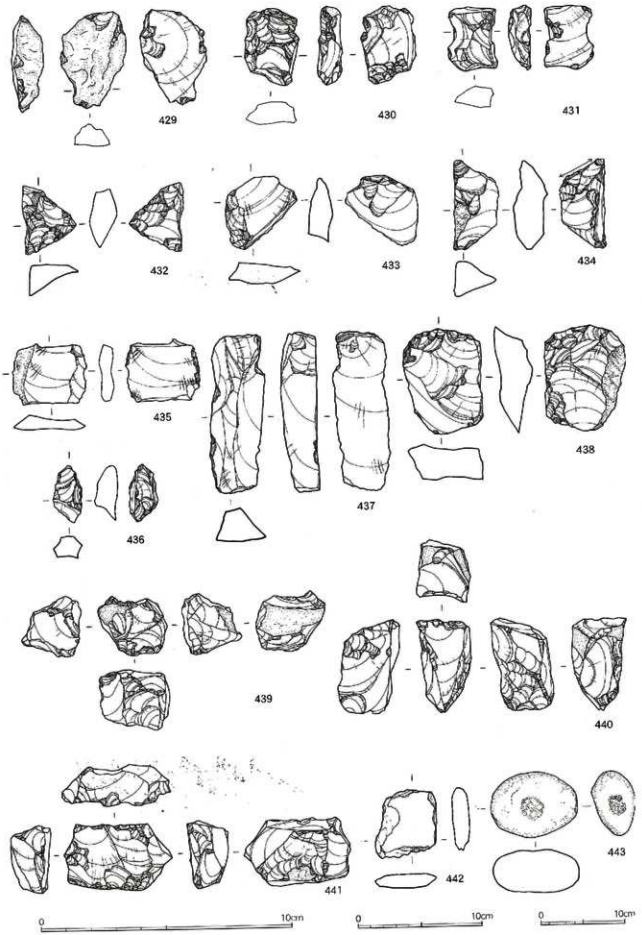
第 133 図　和泉第 2 遺跡堀切出土遺物実測図（1/3）



第 134 図　和泉第 2 遺跡 5 号溝実測図
（1/150・1/300）



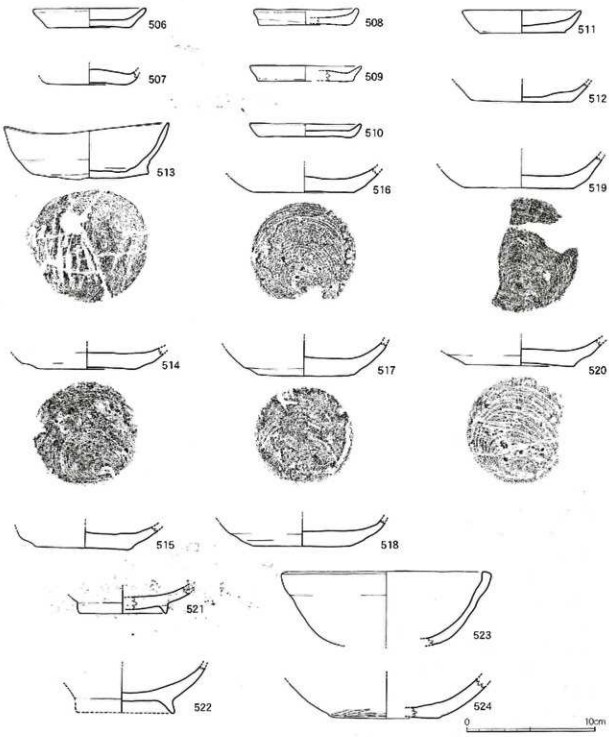
第 135 図　和泉第 2 遺跡 5 号溝出土土器・石器実測図（1/3）



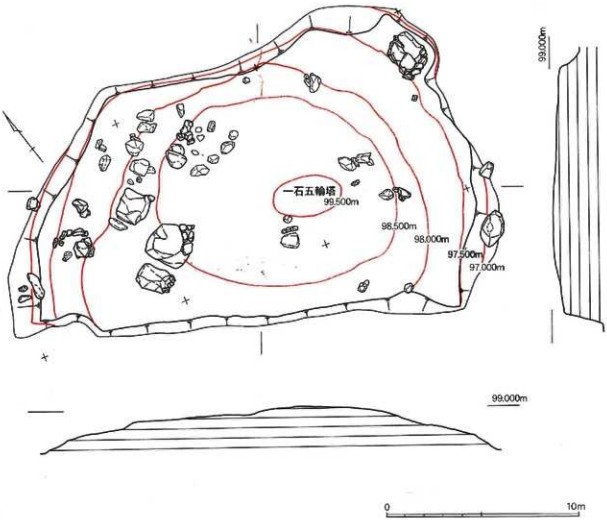
第 136 図　和泉第 2 遺跡 5 号溝出土石器実測図（1/3）

しかし、中世の遺物としてはVアから凝灰岩製の一石五輪塔が出土した。その下部遺構は検出できなかった。525の一石五輪塔はどちらかといえば古い形態を残したものといえる。材質は凝灰岩製である。その他、526の高台を除く全面に施釉した白磁高台付皿と、527の明治期以降の磁器小鉢がこの台上から出土している。

また、台周辺からは、528の青銅製のキセルや529～533の新寛永、さらには鉛の鉄砲玉(534)が出土した。



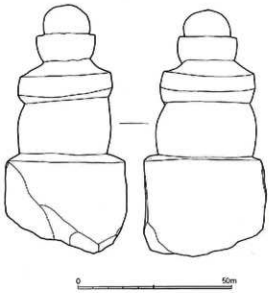
第137図　和泉第2遺跡5号溝出土土器実測図（1/3）



第 138 図　和泉第 2 遺跡 Q ～ W グリッド櫓台実測図（1/200）

このことから、中世城館として機能した時代には、別府湾を越えて高崎城まで見渡せるこの緩やかな台上を櫓台として利用し、その後、近世近代の水田開発等により周囲を削り取られ、現在のような独立した台になったと考えられる。

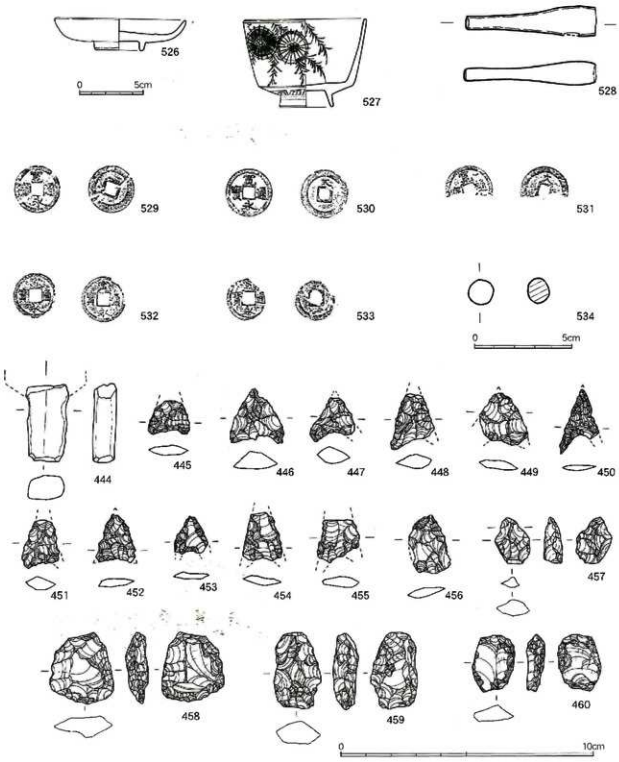
周辺から石器も出土した。444 は頁岩製の磨製石剣柄。445 ～ 456 は打製石鏃で、凹基無茎鏃は 447 のような基部の抉りの浅い鍬形鏃のもの、445、452 のような長二等辺三角形でやや抉りが浅いもの、450 のような長二等辺三角形で抉りが深いもの、446 のように正三角形で抉りが浅いもの、などバリエーションに富んでいる。材質は 450 が腰岳産黒曜石である以外はすべて姫



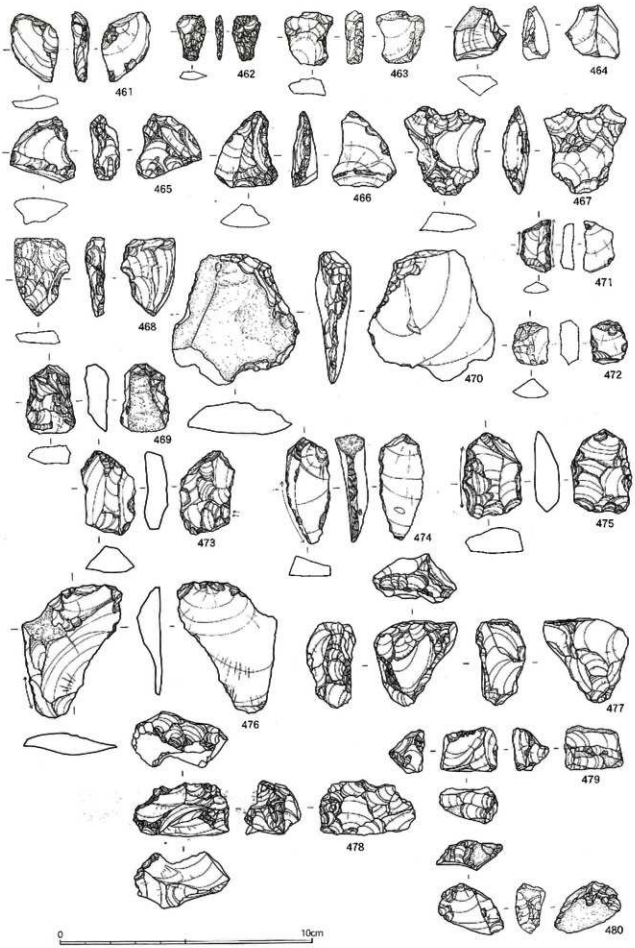
第 139 図　和泉第 2 遺跡一石五輪塔実測図

島産黒曜石である。

457 は石錐、458 ～ 460 はスクレイパー、461 は掻器。いずれも姫島産黒曜石製。462 ～ 469 は削器で、そのうち 468 はチャート、469 はホルンフェルス製で、素材は古い。470 ～ 476 は姫島産黒曜石製の剥片。477 ～ 480 は石核、その材質は 480 が腰岳産黒曜石である以外はすべて姫島産黒曜石である。



第 140 図　和泉第 2 遺跡 Q ～ W 区出土遺物実測図（1/3・2/3）



第 141 図　和泉第 2 遺跡 Q ～ W 区出土遺物実測図 2 （2/3）

3. L12～Q7グリッド（第142図）

5号溝の南は宅地、田を作る際の造成が激しく、遺構は検出されなかった。しかし、その中でも地形が若干低くなったO7、O8、P7、P8グリッドにかけては、黒色土の弥生時代の遺物包含層が確認された。ここから出土した遺物のうち、上なものを図示した。

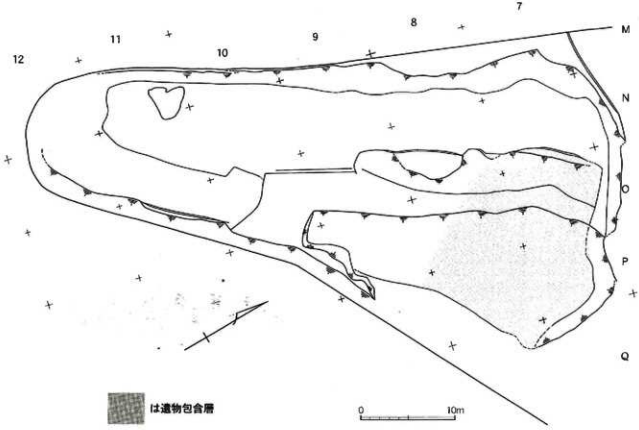
出土遺物

土器（第143図～第145図）

535、536は球状胴部にやや開く口縁をもつ壺形土器で、535は内外面ミガキ調整、536は口縁端部には列点文を施している。537は鍬先状口縁壺で、端部は平坦。538は口縁内部を肥厚させて端部に竹管文を押す。540～542は肩部に2条単位の重弧文を施す。

547の鉢形土器は内外面とも丁寧に磨かれている。548の甕は口縁部に横向きの取手をもち、縦方向に2箇所穿孔している。549～567はいわゆる下城タイプの甕である。549、550は口唇部から下がった位置に1条の突帯をもつもので、突帯に刻目はない。551～562（552を除く）は1条の突帯に刻目をもつもので、そのうち561、562は口縁部にも刻目をもつ。552、563～567は2条の突帯をもつもので、そのうち563は刻目をもたない。552、564～566は突帯に刻目をもち、567は突帯と口縁部に刻目をもつ。568～576は甕形土器の底部で、上げ底、厚手である。

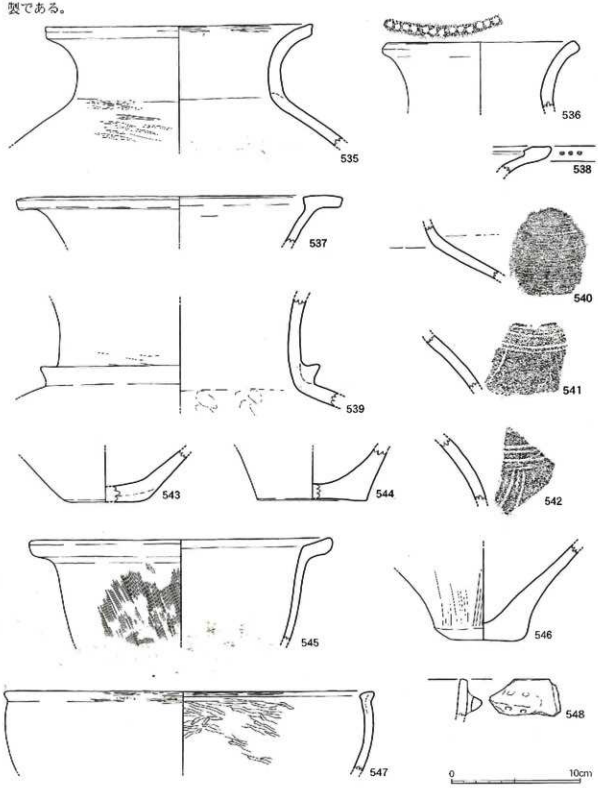
577～561は高坏である。577、578ともに口縁部は鍬先状を呈し、端部は若干下垂する。578は口縁上面に円形文を付す。579の脚部内部にはしぼり痕が確認でき、580は受部との境に三角突帯を貼り付ける。また、581は円盤充填が認められる。



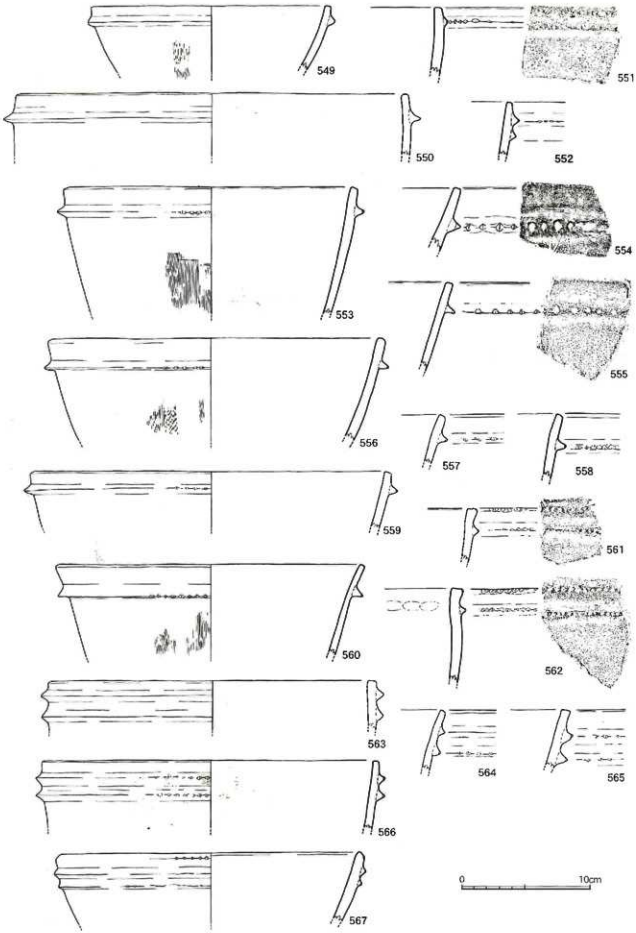
第142図　和泉第2遺跡 O.P-7.8グリッド遺物包含層分布状況（1/400）

石器（第 146 図～第 147 図）

481 は粘板岩製の磨製凹基無茎鏃、482、483 はその未成品で、482 は緑泥片岩、483 はサヌカイト製。484 ～ 493 は打製石鏃で、492、493 を除いて凹基無茎鏃である。484 のような抉りの浅い五角形のもの、486 のような基部の抉りの浅いもの、487 のような基部の抉りの深い鍬形鏃のもの、488 ような長二等辺三角形のものなどバリエーションに富んでいる。材質は 486 がサヌカイトである以外はすべて姫島産黒曜石である。また、492、493 の平基無茎鏃はいずれも姫島産黒曜石製である。



第 143 図　和泉第 2 遺跡 OP-7.8 グリッド遺物包含層出土土器実測図 1（1/3）



第 144 図　和泉第 2 遺跡 O.P-7.8 グリッド遺物包含層出土土器実測図 2 （1/3）

494 は石錐、495 はサヌカイト製の横匙、496 は彫器、497、498 は掻器、500 は削器、501、502 は石核で、495 以外はすべて姫島産黒曜石である。

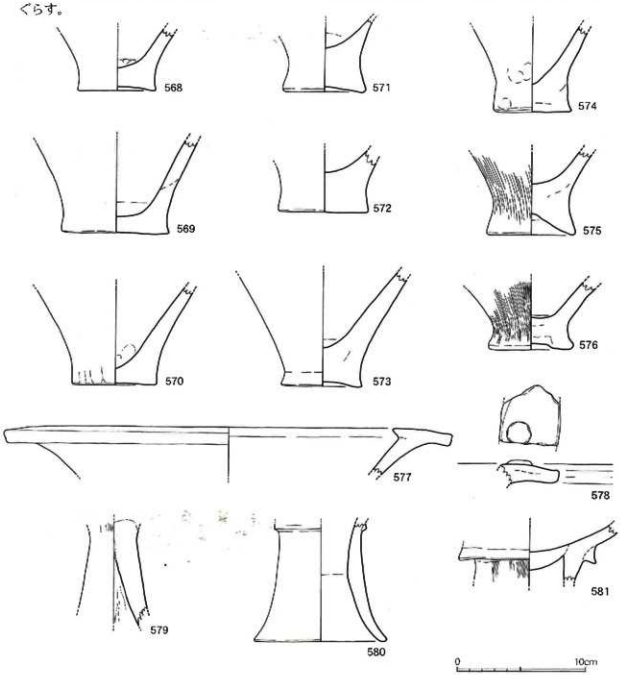
503 ～ 505 は安山岩製の凹石。506 は緑泥片岩製の石包丁。

和泉第 2 遺跡一括遺物

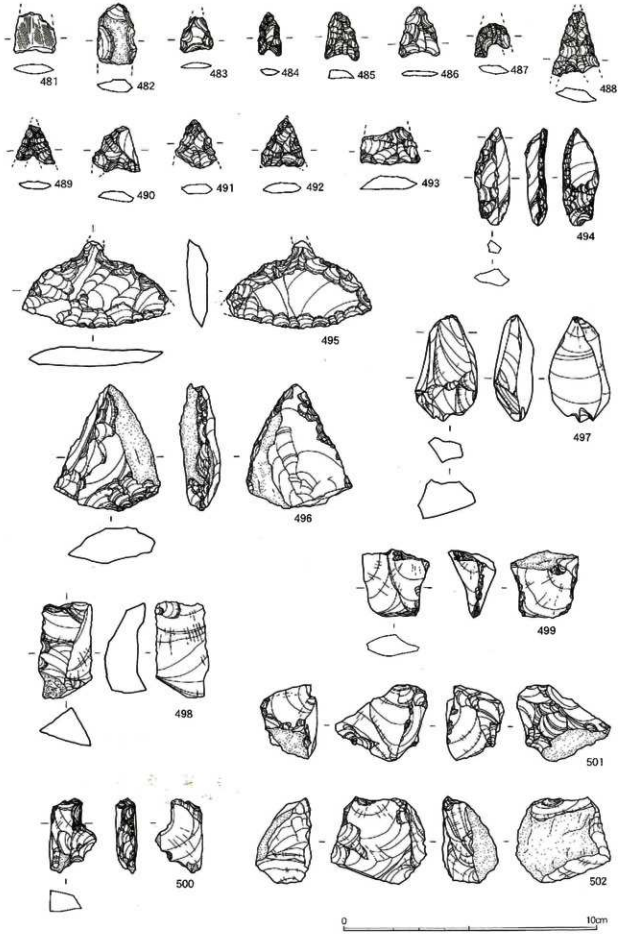
遺構を特定できない遺物が出土しており、一括遺物として取り扱う。

土器（第 148 図～第 150 図）

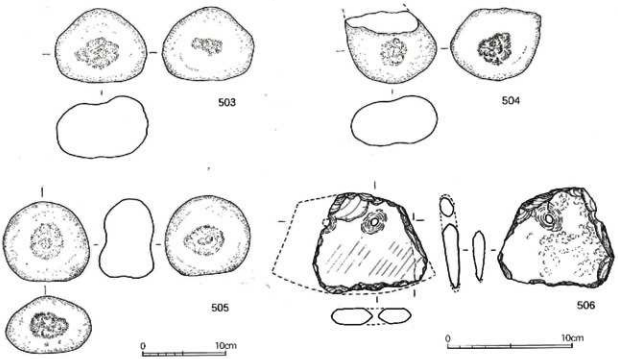
582 ～ 584 は頸部が長く伸びる壺で、肩上部から頸部にかけて、三角突帯をめぐらす。584 は突帯下部に勾玉状浮文を貼り付ける。585 ～ 587 は肩部に三角突帯を貼り付けるタイプの壺で、586、587 は突帯下部に勾玉状浮文を施す。589 ～ 594 は壺胴部に 2 条単位の重弧文を施しており、そのうち 594 は線内部に列点文を付けている。595 は小型長頸壺で、直行する口縁直下に三角突帯をめぐらす。



第 145 図　和泉第 2 遺跡 O.P-7.8 グリッド遺物包含層出土土器実測図 3 （1/3）



第 146 図　和泉第 2 遺跡 O.P-7.8 グリッド遺物包含層出土石器実測図 1　(2/3)



第 147 図　和泉第 2 遺跡 OP-7,8 グリッド遺物包含層出土石器実測図 2（1/3・2/9）

598 ～ 606 は下城式の甕形土器である。そのうち 598 ～ 605 は口唇部から下がった位置に 1 条の突帯をもち、606 は 2 条の突帯をもつ。598 は突帯に刻目はない。599 ～ 603 は突帯に刻目をもち、604 ～ 606 は突帯と口縁部に刻目をもつ。607、608、614 ～ 616 は「く」字状口縁甕である。608、614、615 は口縁端部跳ね上げ気味、616 は口縁端部を肥厚下垂させ、直下に三角突帯をめぐらす。617 は鍬先状口縁甕である。611 ～ 613 は鉢形上器で直行及び内湾する口縁部に 2 個の穿孔を施す。618、619 は高坏の脚部で、618 は三角突帯をめぐらせ、619 は 5 個の透かしをもつ。

620 は翡翠製の勾玉で、頭部が一部欠損している。621、622 は管玉で、碧玉製。

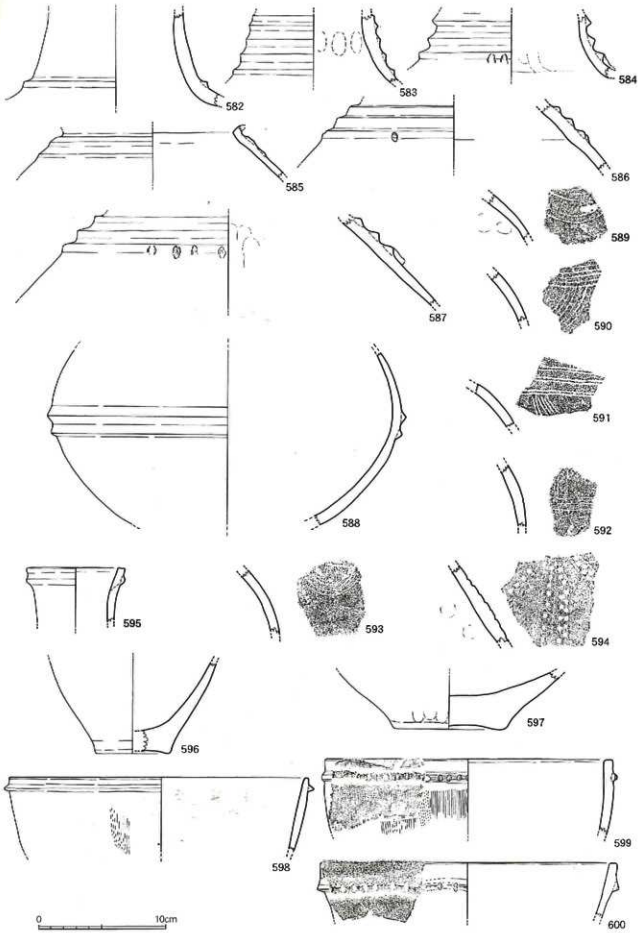
623 ～ 625 は土師質土器小皿。623 は底部と体部の境が明瞭ではなく、滑らかに続く。復元口径 10.2cm、復元底径 8.6cm、器高 1.2cm。624 は底部から直線的に外反する体部をもち、その端部は丸く仕上げている。口径 8.9cm、底径 6.8cm、器高 1.4cm。625 は厚い底部から内湾気味に引き出された薄い体部をもつ。復元口径 8.4cm、復元底径 6.6cm、器高 1.4cm。

626 は龍泉窯系青磁碗である。627 は短く外反する口縁端部をもつ白磁碗、628 は玉縁の口縁部をもつ白磁碗。629 は白磁皿で底部見込みに蛇の目文をもつ。630 は頁岩製の石硯。

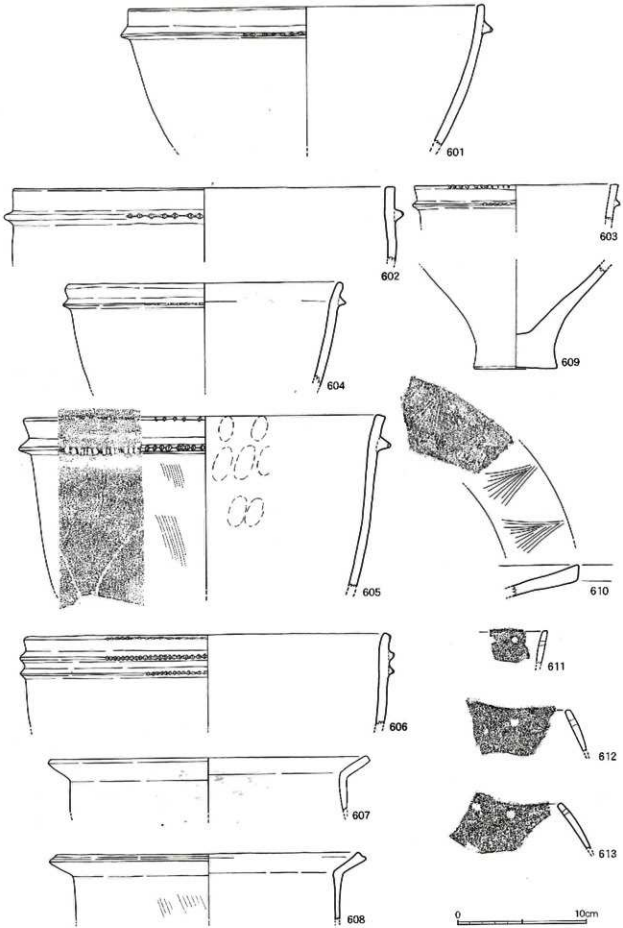
石器（第 151 図～第 155 図）

507 は磨製石剣の半成品で結晶片岩製。508 の磨製石剣は頁岩製。509 の磨製石鏃半成品は結晶片岩製、510 は頁岩製の磨製平基無茎鏃。

511 ～ 543 の打製石鏃は、520、521 がサヌカイト製である以外はすべて姫島産黒曜石製である。凹基無茎鏃は 524、525 のような長二等辺三角形でやや抉りが浅く、端部が丸いもの、520 のように二等辺三角形で端部が尖るもの、515、519 のように正三角形で抉りが浅いもの 528 のような基部の抉りの浅い鍬形鏃のもの、521 のように抉りの深い鍬形鏃のものなどバリエーションに富んで



第 148 図　和泉第 2 遺跡出土土器実測図 1（1/3）



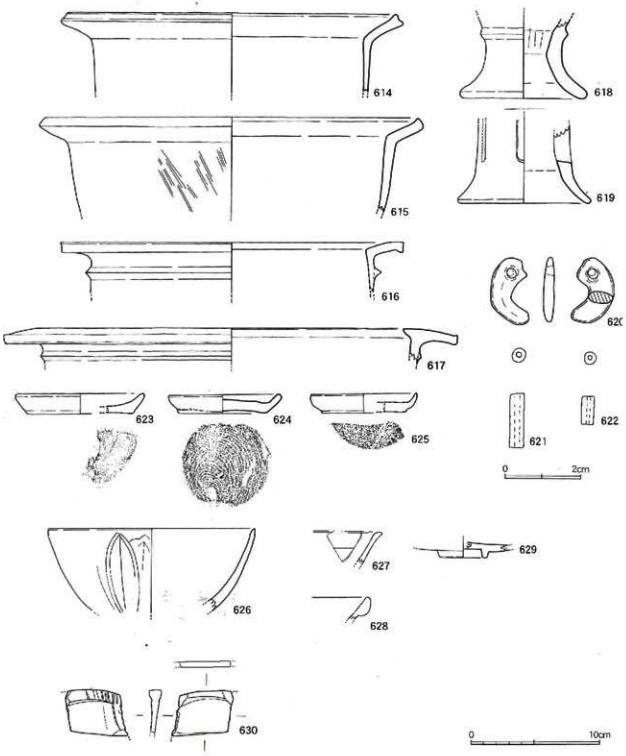
第 149 図　和泉第 2 遺跡出土土器実測図 2 （1/3）

いる。534は平基無茎鏃。541～543は未成品。544は打製石鏃の二次加工品。

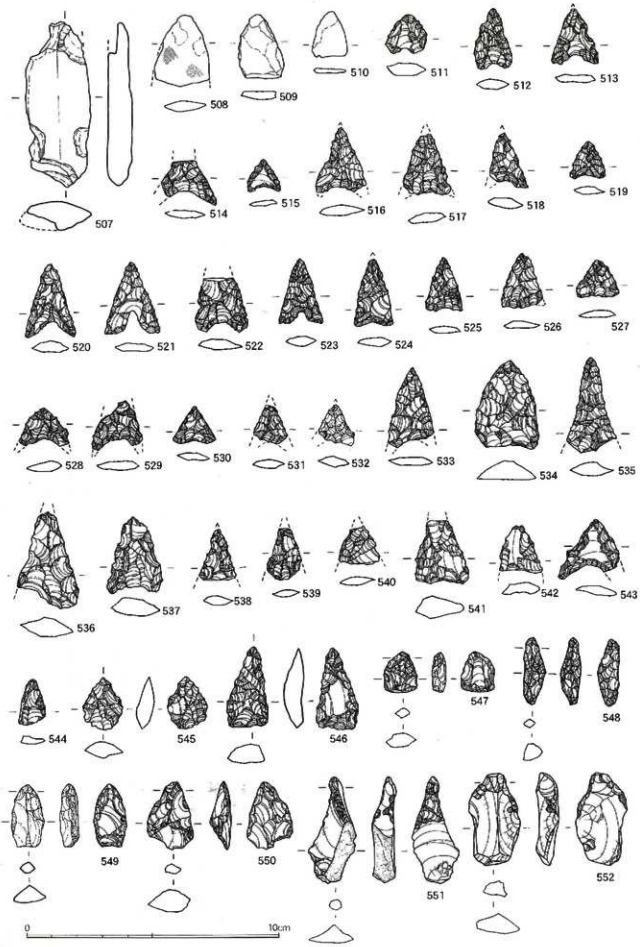
545は尖頭状石器、546は刺突具、547～552は石錐、553、554は鋸歯状石器でいずれも姫島産黒曜石製である。

555、556はサヌカイト製の横匙。557はサイドブレイド、558～563はスクレイパーとして使用された。564～591は削器。594～607は石核。608は結晶片岩製の扁平打製石斧である。

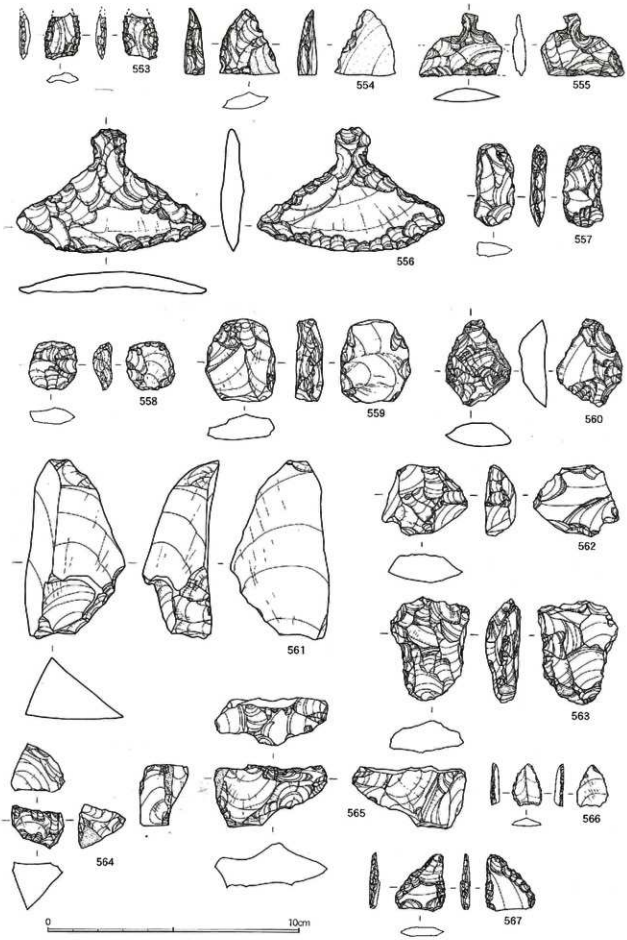
609～613は磨製石斧で、609は頁岩製、610、612、613は蛇紋岩製、610はひん岩製。614、615は敲石で、614の材質は凝灰質安山岩で、615は砂岩である。616は安山岩製の凹石である。



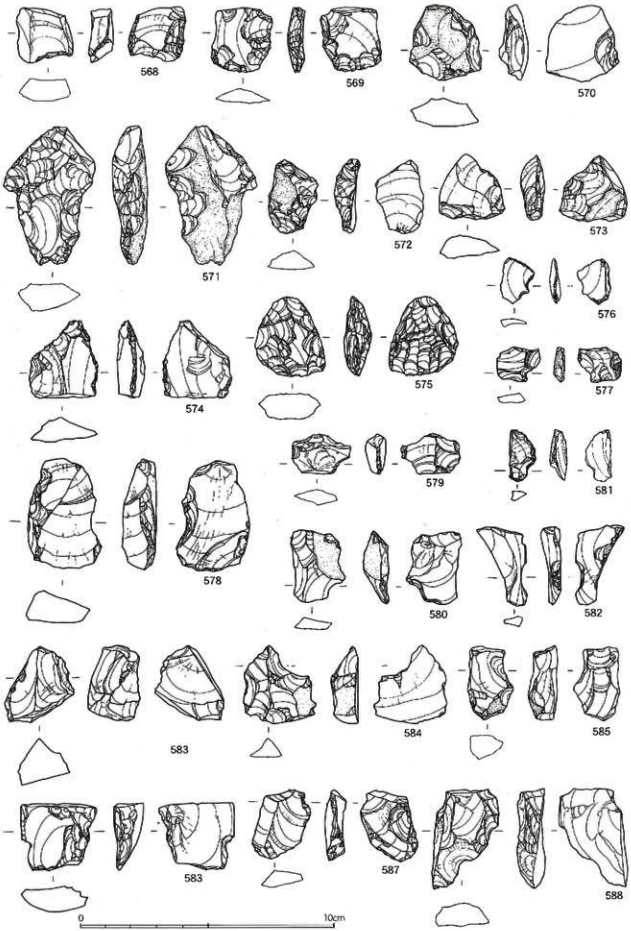
第150図　和泉第2遺跡出土土器実測図3（1/3）



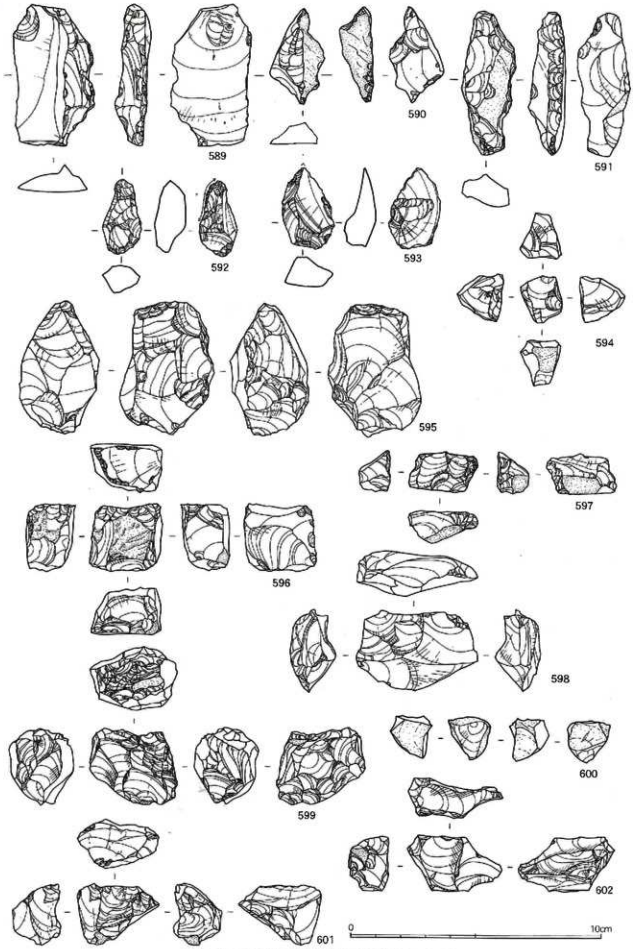
第 151 図　和泉第 2 遺跡出土石器実測図 1 (2/3)



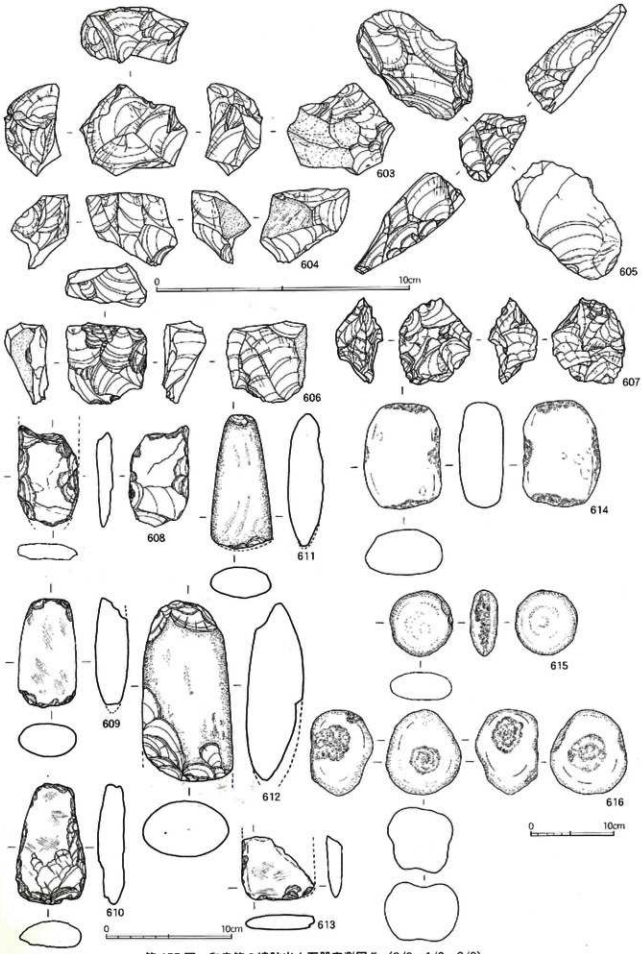
第 152 図　和泉第 2 遺跡出土石器実測図 2 (2/3)



第 153 図　和泉第 2 遺跡出土石器実測図 3 (2/3)



第 154 図　和泉第 2 遺跡出土石器実測図 4 (2/3)



第 155 図　和泉第 2 遺跡出土石器実測図 5　(2/3・1/3・2/9)

第５節　小結

1. 和泉第２遺跡の遺構の変遷

和泉第２遺跡は鹿鳴越山系の高原地帯の端部、標高約 100 m の箇所に位置している。ここからは旧石器時代の石器から弥生時代の集落跡、中世山城、近世墓にいたるまで断続的に生活の跡が確認されている。以下年代を追って説明する。

旧石器時代

東九州の旧石器時代の代表的な石材であるホルンフェルス製の石器が22点確認されている。これらは調査区全体に分布しており、特定の文化層や遺構に伴うものではない。このことより、この周辺が旧石器時代には生活領域の一部であったと言える。

縄文時代

縄文時代の遺構や土器は検出できなかった。しかし、縄文早期の特徴を残す抉りの深い石鏃が確認されていることから、遺跡があった可能性がある。

弥生時代中期初頭

和泉第２遺跡で人が生活をした痕跡が確実に現れるのがこの時期からである。肩部に半截竹管による重弧文様を、口縁端部には刻点文を施したいわゆる下城タイプの壺が出土している１号住居がこの時期の比定される。１号住居は尾根上から若干南東斜面を下った位置にある。

弥生時代中期前半

当期は鋭先状口縁や跳ね上げ口縁が出現する時期で、本遺跡では、３号住居、２号住居、６号住居、９号住居がこれに当たる。これらの住居跡は１号住居より高位にあり、今後尾根上から尾根端部へと集落は展開していく。

弥生時代中期後半

この時期の特徴は胴部にいわゆるM字突帯をめぐらす壺や口縁端部が下垂し坏部の浅い高坏が出現することである。本遺跡では、10 号住居、７号住居、15 号住居、３号土坑がこの時期に当たる。当期を最後に中世までの当分の間、人々の生活の中心はこの尾根上から姿を消し、眼下に広がる丘陵部へと移っていく。

中世前半（13 ～ 14 世紀前半）

尾根の先端部分にあたるⅢ調査区で当期の遺構が確認されている。等高線に沿うように尾根の南斜面を分断する５号溝、その上の平坦面にある溝を巡らせた竪穴状遺構と礫を多く含んだ土坑がこれに当たる。それらの中からは土師質土器小皿・坏、瓦器碗、青磁等が出土している。この防御的側面をもった一連の遺構が、南北朝期の動乱に結びつくのかは類例の増加を待ちたい。

中世後半（15 ～ 16 世紀）

寛政８（1796）年の「南藤原図跡考」に「池田の城という也。是は伊東播磨守の砦という。当時格別に砦の形も見えず。昔は堀切も数々有りとみゆる。」と書かれた上城は、現状では北西部に若干の土塁が残存しているのみである。調査区内でも後世の水田開発による削平が激しく、南北に走る堀切と櫓台と思われる高まりを確認したが、建物遺構は検出できなかった。

堀切は南北方向に約 45 m確認できた。その最大幅は５m、深さは３mである。溝の埋土の堆積状況はを見ると、東側から流れ込んでいるのが確認できたことから、城館の内側に土塁があったものと推測される。この堀切の底から鉄製の真形茶釜が出土した。大きさは口径 16.7cm、胴径（紐を含む）26.7cm、器高 18.5cm。器形としては、口縁はまっすぐ立ち上がり、肩は丸く張り、底部は平らである。胴は１条の紐を鋳出して飾りとし、釜の両側肩には環付があり、環が付いていた。全体を覆っていた錆を落としてみると、吊り掛けるための取手が出てきた。瓦質の茶釜の型式からみて 15 ～ 16 世紀に比定できよう。

2. 和泉第2遺跡の石器について

当遺跡から、東九州の旧石器時代の代表的な石材であるホルンフェルス製の石器が22点確認されている。その内訳は石刃1点、掻器4点、尖頭状石器1点、剥片尖頭器1点、石核1点、細石核1点、剥片13点（うち二次加工痕のある剥片10点）である。これらは調査区全体に分布しており、特定の文化層や遺構に伴うものではない。

また、縄文時代のものとしては、遺構や土器は検出できなかった。しかし、縄文早期の特徴を残す抉りの深い石鏃が確認されていることから、遺跡があった可能性がある。

本遺跡の中心をなす弥生時代中期は、30軒ほどの竪穴住居跡（柱穴群を含む）が確認されており、3500点余りの石器の大半も、この時代のものである。ここから出土した石器を石材別にみると次のようになる。

第4表　和泉第2遺跡出土石器組成表

姫島ob	腰岳ob	小国ob	サヌカイト	チャート	姫島産ガラス質安山岩		結晶片岩
3200	14	6	62	16	9		33
92.1%	0.4%	0.2%	1.8%	0.5%	0.3%		0.9%
石英	珪化木	頁石	絹泥片岩	安山岩	粘板岩	凝灰岩	蛇紋岩
11	11	24	15	39	1	1	6
0.3%	0.3%	0.7%	0.4%	1.1%	0.0%	0.0%	0.2%
ヒン岩	砂岩	ホルンフェルス		不明	計		
1	2	22		5	3475		
0.0%	0.1%	0.6%		0.1%	100.0%		

総点数3475点のうち、92%に及ぶ3200点を姫島産黒曜石が占める。黒曜石だけをとっても佐賀や熊本産の黒曜石はほとんど見られない。これは同町内の同時代の成山尾遺跡からも多数姫島産黒曜石製の石器が出土していることと符合する。

次に、石器を器種別に見てみる。（第5表）すると、石斧等の礫石器に比べ、石核をはじめとする剥片石器の量が圧倒的に多いことがわかる。さらに、礫石器においても、稲作農耕と直結すると考えられる石包丁（2点）、工具としての片刃石斧・大形蛤刃石斧等磨製石斧（17）点より、石器製作に関わるとみられる敲石（3点）、凹石（32点）のほうが多く出土している。

第5表　和泉第2遺跡出土石器器種別分類表

打製石鏃	尖頭状石器		石錐	掻器・削器		石鋸	石核	
225	27		23	140		7	79	
磨製石鏃	石斧	石錐	砥石	敲石	凹石	剥片	その他	総計
26	21	1	9	3	32	2874	8	3475

また、剥片を除いた石器組成表（第6表）からは、石核よりも製品である石鏃の比率が高いことがわかる。これは、同じく弥生時代中期の石鏃製作の専業的集団がいたと考えられる武藏町熊尾遺跡（石鏃140点、石核221点）の比率を越えるものである。また、縄文前期の姫島産黒曜石の素材の集積・加工を行った国東町羽田遺跡（石鏃69点（16.4%）、石核228点（54.4%））や縄文後期の国東町鴈弓遺跡（石鏃330点、石核354点）と比較しても同じことが言える。

また、打製石鏃225点中21点が未成品であり、磨製石鏃についても26点中17点が未成品である。さらに打製石鏃については、16点が姫島産黒曜石以外の石材を使用した製品であることから、縄文前期の山香町須久保遺跡の例のように、石器製作時のサンプルとして持ち込まれたことも考慮する必要があろう。

第６表　和泉第２遺跡出土石器器種別分類表（剥片を除く）

打製石鏃	尖頭状石器		石錐	掻器・削器		石錘	石核
37.4%	4.5%		3.8%	23.3%		1.2%	13.1%
磨製石鏃	石斧	石鎚	砥石	敲石	凹石	その他	
4.3%	3.5%	0.2%	1.5%	0.5%	5.3%	1.3%	

これらのことから、弥生中期の当遺跡は姫島産黒曜石の石器製作が集中的に行われた集落であったと考えられる。さらに集落の規模に比べ、石鏃の数が多いことから、自己消費だけの石器製作というより、集落外への搬出を目的として行われていた可能性がある。

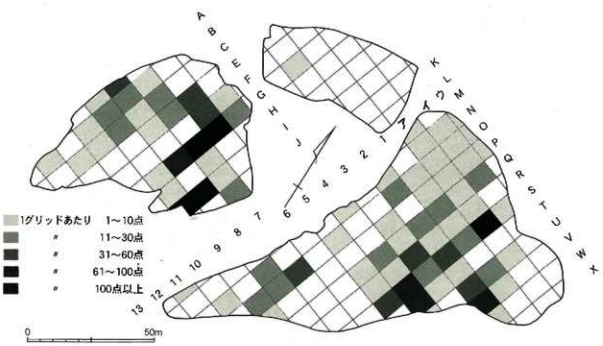
次に、石器の分布状況を見てみる。第　図は姫島産黒曜石の個体数別分布を示したものである。これによると、９ヶ所程度の石器集中箇所が確認できる。それは石器製作の素材となる石核、製作に欠かせない敲石・凹石、製品である石鏃の分布図（第157図）とも一致している。それを遺構図と重ね合わせると次の３タイプに大別できる。

１、住居跡　A―８グリッド、G－６・７グリッド、I－８・９、R－３グリッド

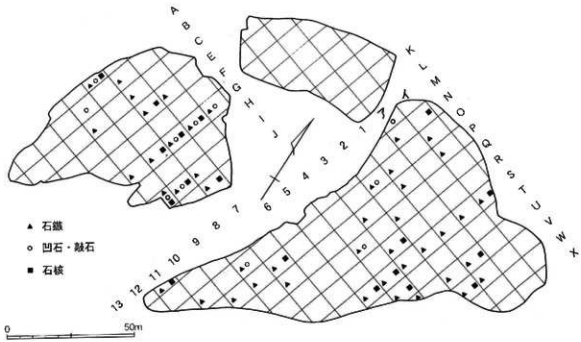
２、溝状遺構　D－６グリッド（２号溝）、Q・S・T－４グリッド（５号溝）

３、遺物包含層　G－８グリッド、O－７グリッド、S－４グリッド、V－１グリッド

２の溝状遺構や、３の黒色の遺物包含層は二次堆積によるものであり、直接石器製作場所としては不適格であるので、ここでは１の住居跡に絞って検討を加えていく。A－８グリッドは７号住居跡であり、出土上器から弥生時代中期中葉と考える。G－６・７グリッドは２号住居跡で、これは弥生時代中期前半、I－８・９は１号住居跡で弥生時代中期初頭、R－３グリッドは　号住居跡で弥生時代中期後半となる。このことから、集落が機能している弥生時代中期のすべての時期を通して、ここの住人が石器製作に携わっていたことがわかる。また、これらの住居跡は当遺跡の中では残存状態の良好なものばかりで、全体的に後世の削平を受けていなければ、さらに多くの石器を得ることができたであろうし、集落全体として石器製作に携わっていた姿が、より鮮明に見えたであろうことは想像に難くない。



第156図　和泉第２遺跡出土石器分布図



第 157 図　和泉第 2 遺跡出土敲石・凹石、石核及び石鏃分布図

ここで、1 号住居跡と 2 号住居跡出土石器の組成を比較すると次のとおりである。

第 7 表　和泉第 2 遺跡 1 号住居跡及び 2 号住居跡出土石器組成表

1 号住居跡

石鏃	尖頭状石器		石錐	掻器・削器		石匙	石核
42	2		4	25		0	8
6.7%	0.3%		0.6%	4.0%		0.0%	1.3%
石斧	石錐	砥石	敲石	凹石	剥片	総計	
3	1	1	0	2	537	625	
0.5%	0.2%	0.2%	0.0%	0.3%	85.9%	100.0%	

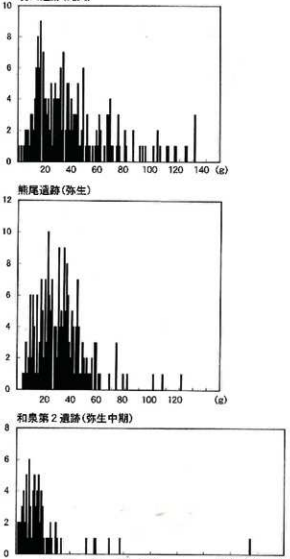
2 号住居跡

石鏃	尖頭状石器		石錐	掻器・削器		石匙	石核
30	5		2	24		0	9
7.5%	1.3%		0.5%	6.0%		0.0%	2.3%
石斧	石錐	砥石	敲石	凹石	剥片	総計	
2	0	0	0	0	326	398	
0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	81.9%	100.0%	

※ 2 号住居跡のあるG－6・7グリッドからは凹石 3 点、砥石 2 点が出土している。

これを見ると、1 号住居跡、2 号住居跡の石器の組成は剥片が 80％以上を占め、製品である石鏃は約 7％となり、ほぼ一致していると言える。ただ石核の大きさに違いが見られ、1 号住は平均 10.5 g（2.4 g～19.3 g）と小さく、2 号住は平均 18.6 g（6.7 g～31.1 g）とやや大きくなる。つまり、1 号住での石器製作は石核が小さくなるまで黒曜石を削りだして作るが、その割に製品が少ない。2 号住は 1 号住よりも効率よく石鏃を作り出していると言えはしないか。このことは、個人の熟練の差や時代が下がったことによる技術の向上によると思われる。

当遺跡で出土する石核の材質はチャート1点、頁岩2点、珪化木2点、腰岳産黒曜石2点、姫島産黒曜石72点である。そのうち姫島産黒曜石製石核の重量分布は第158図に示したとおりであり、その平均は19.9gである。50g以上の7点を除けば14.7gとさらに小さくなる。これは、同時代の熊尾遺跡や縄文前期の羽山遺跡のピークが35g前後であること、また縄文後期の陽弓遺跡の平均値が31.5gであることと比較すれば半分の大きさといえる。しかし、50gを超す石核が7点出土していることや比較的大形の剥片があることから、遺跡への石核搬入時の重量は他遺跡とほぼ変わりないものと考えられる。つまり、原産地姫島との距離が離れていて頻繁には手に入らない石核を小さくなるまで、丁寧に石器を製作した結果がここに現われていると考える。このことは、時代は異なるが、和泉第2遺跡に近い縄文中期の山香町須久保遺跡出土の姫島産黒曜石製の石核の大半が3.8gから17.7gの間に収まることからも言える。



第158図　石核の個別重量比較図

※羽田遺跡出土の姫島産黒曜石の石核は、この他に、1kgから12.5kgのものが9点あり、集積地として機能していたことを伺わせる。
縄文中期の須久保遺跡の姫島産黒曜石の石核は全部で11点出土しており、1.3kg、1.8kg、5.6kgの大型3点の他は、3.8gから17.7gの間に収まる小型のものである。

第159図　羽田・陽弓・熊尾・和泉第2・須久保遺跡の位置図

次に、器種別に説明を加えていきたい。

打製石鏃

遺跡からは総計225点が出土している。凹基無茎鏃と平基無茎鏃に2分できる。全体の9割以上

は凹基無茎鏃が占める。凹基無茎鏃の形態は抉りの深い縄文早期特有の鍬形鏃、前期に多い抉りの深い長二等辺三角形のもの、抉りの浅い長二等辺三角形、抉りの浅い正三角形のもの等がみられる。その中で抉りの浅い長二等辺三角形が主体をなしている。

石材は姫島産黒曜石が9割以上を占め、その他サヌカイト13点、チャート3点、腰岳産黒曜石・姫島産ガラス質安山岩2点となる。

重量的には1g前後のものが主体をなし、3gを超える大型の石鏃は数えるほどしかない。

尖頭状石器

形態は略三角形、舌状形を呈し、周辺から両面加工がなされる。27点出土しており、ホルンフェルス製1点を除いて姫島産黒曜石製である。ホルンフェルス製の尖頭状石器は後期旧石器のものを二次利用している。

石錐

総計23点が出土しており、すべて姫島産黒曜石を材質とする。形態的には2種類あり、全面に調整加工を加えた柳葉形のものと錐部のみ加工をし、素材の剥片の形状を残すものに分かれる。数的には後者が優位である。

掻器・削器

遺跡からは総計140点出土している。姫島産黒曜石の割合が84%と、他と比べて頻度が低い機種である。その他サヌカイト8点、ホルンフェルス4点、チャート・姫島産ガラス質安山岩・頁岩2点と続く。

石匙

7点すべて横匙である。石材別では姫島産黒曜石4点、サヌカイト3点となっている。

石核

当遺跡で出土する石核の材質は姫島産黒曜石72点、頁岩2点、珪化木2点、腰岳産黒曜石2点、チャート1点であり、姫島産黒曜石の使用割合は打製石鏃のそれと同様である。姫島産黒曜石製石核の平均重量は19.9gと小型である。これは石核が小さくなるまで、丁寧に石器製作に利用した結果と考える。

剥片類

剥片は細片まで含めると2874点が出土している。そのうち二次加工痕のある剥片は565点、使用痕のある剥片は101点あった。石材は姫島産黒曜石が他を圧倒しており、細片にいたっては98%をしめている。これは当集落が姫島産黒曜石を利用した石器製作に携わっていたことを示唆するものである。

石斧

打製石斧は4点、磨製石斧は17点、大陸系の片刃石斧は5点出土している。磨製石斧は剥離整形あるいは敲打整形の後、研磨によって仕上げられる。片刃石斧はすべて頁岩製である。

石錘

1点出土しており、扁平な結晶片岩の上下端部に抉入部を有するものである。

敲石・凹石

敲石は3点出ており、一つは安山岩の長円礫の両端部に敲打痕をもつもの。他の2点は扁平な円礫の側面を敲打したもので、石材は砂岩と蛇紋岩である。

凹石は両面に凹みをもつものと一面にもつものがある。周縁には敲打痕をもつものもある。32点すべて安山岩製である。

石包丁

2点出土している。一つは頁岩製で両端が欠けており、穿孔については不明である。他は緑泥片

岩製で、2つの穿孔が確認できる。両面穿孔である。

磨製石剣

頁岩製の石剣の刃部先端と柄、結晶片岩製の未成品の合計3点が出土した。

註1、6　「羽田遺跡（I地区）」1990　国東町教育委員会
註2、5　真野和夫・牧尾義則「下城式土器文化の研究Ⅰ」『大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館研究紀要1』1984
註3、7　「横手遺跡群陽弓遺跡」1996　国東町教育委員会
註4、8　「須久保遺跡」『宇佐別府道路・日出ジャンクション関係埋蔵文化財報告書』1993　大分県教育委員会

3. 日出町上城について

通称「上城」は、集落との比高差30mほどの丘陵先端部に立地する。丘陵からは、日出の中央部から国東半島南端を見渡せる。この丘陵は東に向かって伸び、先端部で二股に分かれている。その二股の付け根付近を堀で遮断し、丘陵先端部を城として利用しているのである。

発掘調査は、二股に分かれる丘陵の付け根付近と、二股の丘陵の南側の全部で行ったことになる。この調査の内容については別章で述べられているので詳しくは繰り返さないが、前述した南北に一直線に伸びる堀と斜面部を東西に伸びる溝、方形に溝の廻る遺構、土坑などが確認されている。丘陵先端部の高まりからは、建物遺構などは検出されておらず性格は不明であるが、場所や形状からして「櫓台」である可能性が高いものであろう。南北に伸びる堀は、調査区内で終結しており、土橋が形成されていたと考えられる。

また、調査区外では北側の丘陵部の西端に土塁が一条残存している。土塁は、基底部幅3～4m、高さは北端部で1.5mほどである。この部分は北西側の斜面が緩やかで、特に重点的に土塁を築いたものと考えられるが、発掘調査で検出された堀との連続性も考慮せねばなるまい。調査区内の堀は十層観察から内側（東側）に土塁を有していたことが想定されており、そうすれば、残存する土塁も本来はさらに南側に20mほど伸び、調査区内で確認された堀（と、想定される土塁）の終端との間に「虎口」を形成していたと考えられる。

さて、堀と土塁で画された二股に分かれた丘陵先端部は、曲輪としてどのように加工されていたのであろうか。南側は前記したように発掘調査をされているが、明確な城郭に伴う遺構はない。それに対して調査区外の北側は、後世の平坦面の改変が大きく、特に東側から北東部にかけては破壊されているが、かろうじて北端部が残存している。そこには、前記した土塁とつながると考えられる土塁が一部残存しており、曲輪北西部の状況を示している。それによると、やや西側に突出するように（曲がると考えられるコーナー付近は残念ながら破壊されているが）土塁を廻らせていたと想定できる。その北側、すなわち丘陵の斜面になる部分は階段状に曲輪を配し、先端に近いところで一条の浅い堀切で遮断している。東側の斜面には竪堀状の落ち込みが2条あるが、明確ではない。

このように、全体的には約半分が発掘調査されたにもかかわらず、城郭としての輪郭は不明瞭であるといわざるを得ない。その理由の一つには、後世に水田開発などがなされ、斜面部を中心として改変が著しいことがあげられるが、もう一つはこの地域の小城郭の一般的な状況を表しているとも言い得る。この山香町から日出町にかけての地域は、中世に小土豪層が展開し、「山香東西一揆」と呼ばれた集団を形成していた。それら個々の城館について必ずしも明らかになっているわけではないが、例えば山香町竜ヶ鼻城や麓掛城は同様に丘陵先端部を土塁と堀で一直線に遮断して、内部はほとんど加工しない、という共通する特徴を持った城郭である。上城がこれらと同様であるとす

ると、内部の不明瞭さは、本来加工が不十分であったことに起因しているのかもしれない。別掲の地誌「図跡考」では、18 世紀の終わりの段階ですでに昔は数々あった「堀切」もかなり埋っていたと同時に、「砦」の形も見えなかった、と記すが、本来曲輪の状況が加工の不十分なものであったことによるものであろう。

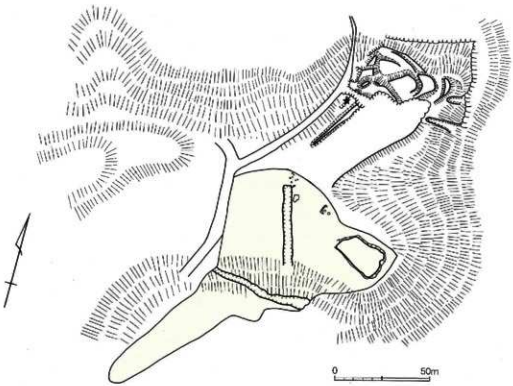
次に、この上城が築造された時期である。南北に伸びる溝の東側、すなわち曲輪内部で確認された遺構からは 13 世紀から 14 世紀前半の遺物が出土しており、斜面の東西の溝も含めて一連の遺構と評価できるとすると、何らかの防御的な居住施設が存在したことが言えるであろう。類例としてやや時期の古い玖珠町瀬戸遺跡（註 1）をあげることができるが、この鎌倉時代から南北朝期前半に同様な低丘陵先端部の遺跡が広範に存在するとすると、何らかの共通する歴史的な背景が存在したことが窺える。南北朝期の動乱に結びつくのか、あるいは開発拠点としての施設の展開が考えられるのかは不明であり、今後の類例の増加を待ちたい。

このように上城では 13 世紀から 14 世紀前半に何らかの施設が存在したが、本格的な城郭として利用されるようになるのは 15 世紀以降である。南北の溝（堀切）から出土した鉄製の真形茶釜は 15 世紀～ 16 世紀と考えられ、この遺物が唯一の証左である。上城は、城の規模や残存する上墓の規模からも一般的に考えれば 16 世紀代、さらにその後半とすることに矛盾は無い。玉永氏は、玖珠郡衆の展開する玖珠郡内の城郭について 12 世紀後半から 13 世紀中ごろに館城が成立し、戦国期にはさらに城郭へと発展していくものが多いことを指摘している（註 2）が、これは開発領主として在地に根を下ろした武士が、戦国期まで引き続き在地で成長を遂げたことを示している。「衆」として把握されるような小土豪の展開する地域の特長とも言いえるだろう。この上城もそのような意味で、戦国期の遺構を解釈することも可能である。

ところで、この上城は実はかなり重要な地理的位置を占めている。つまり、現在の国道 10 号線が通まる前の主要道、すなわち豊前から豊後への道は鹿鳴峠を越えて別府湾岸に至っていた。そこには、大友義鑑が天文年間（3 年？）に城搾え（城誘）を山香郷給人に命じた鹿鳴越城があり、対大内氏との戦の中で府内防衛上最重要の城郭であった。上城は、鹿鳴峠から続く一連の山岳部の東端にあたり、さらに鹿鳴峠を通らずに東向り（現在の国道 10 号線ルート）で別府湾岸に出る、その押さえの場所となる。上城の西側に真嶽城もあるが、これらによって、単に地域の小領主の山城であるばかりでなく、大友氏の対大内氏、毛利氏の豊前対策上も重要な位置にあった可能性のある城郭である。

註 1　「瀬戸遺跡」『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書（17）』2000
　　大分県教育委員会

註 2　玉永光洋「玖珠郡の城館」『玖珠町史』2001　玖珠町教育委員会



第 160 図　日出町上城　縄張図

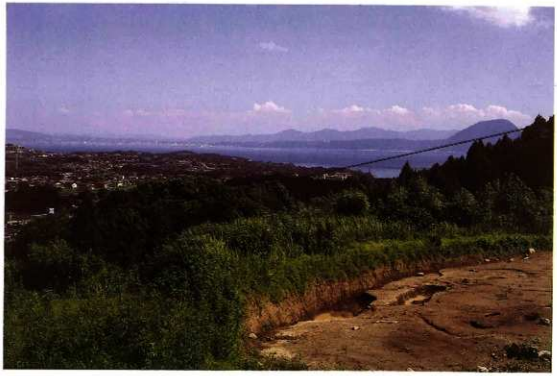


写真 10　日出町上城から高崎城を臨む

日出町上城関連資料

（前　略）

右之、祐鈴社は兄弟にて、車西に分れ、西の鍛冶・東の鍛冶というて、鐵砲鍛治之始祖に而、古代、靈藤寺の東に住居す。其兩屋敷の間、射場の本といふ地名あり。當時畑となる。是は伊東播磨守か射術執行したる所也。又壹屋敷と云あり。靈藤寺の事也。播磨守住居の屋敷也。**西の尾崎に城と云うて少しの砦の跡あり、是は攻戦の節、播磨守構築る為築之。**（「南藤原図跡考」）

城　　**池田の城**という也。是は伊東播磨守の砦という。当時格別に砦の形も見えず。**堀切も数々有り**とみゆる。今田畑となる。傍らに**勝負ヶ池**という、小さな溜りあり。当時は萬藩が生えて夏には少し水あり。　説曰。寶暦の初農夫吉六と云う者、右之堀を埋、新田になさんとするに忽腹痛して已に　れんとす。服薬の驗なし。然に老人曰。彼堀は勝負ヶ池とて此所之古跡也。本の如く浚江可然といふに任せて、新田を止、埋土を上げれば、忽に病癒たり。（「南藤原図跡考」）

※上城の屋号をもつ吉野タケさんによれば、勝負ヶ池は第 160 図の★の場所にあったとされる。そうすると、この池は土塁の外に沿う堀切の一部であった可能性がある。また、宝暦年間（1751～1764）に新田開発のために、この池を埋めて腹痛をおこした吉六という人物は和泉第２近世墓の寛政７（1795）年に亡くなった 43 に俗名が残されている。年代的にも同一人物である可能性は否定できない。

第8表　和泉第2遺跡出土土器観察表1

No.	番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	胎土 色調	手法 調整 文様
1	1号住	弥生土師器	(7.4)			角閃・長石 砂粒少ない 淡黄褐色	縦ハジケ成形 内 ナデ 外 ヨコナデ 指頭文 沈線
2	1号住	弥生土師器	(14.6)			角閃・長石 砂粒少ない 黄褐色	縦ハジケ成形 内 ユコナデ 外 ヨコナハケ
3	1号住	弥生土師器				角閃・長石 砂粒多い 黄褐色	縦ハジケ成形 外 ナデ 内 凹凸状指頭 指頭
4	1号住	弥生土師器				赤褐・長石 砂粒多い 黄褐色 外 赤褐色	縦ハジケ成形 ナデ 指オサエ
5	1号住	弥生土師器		7.0		石英・長石 砂粒多い 内 黄褐色 外 黒褐色	縦ハジケ成形 ナデ
6	1号住	弥生土師器		6.4		角閃・長石 砂粒多い 内 黒褐色 外 黒褐色	縦ハジケ成形 ナデ
7	1号住	弥生土師器		(7.0)		角閃・長石 砂粒少ない 淡橙褐色	縦ハジケ成形 ナデ 指オサエ
8	1号住	弥生土師器		5.8		角閃・長石 砂粒多い 黒褐色 ～淡赤褐色	縦ハジケ成形
9	1号住	弥生土師器		6.0		角閃・長石 砂粒多い 内 暗褐色 外 黒褐色	縦ハジケ成形 ナデ
10	1号住	弥生土師器	(28.6)			赤褐・長石 砂粒多ない 淡褐色	縦ハジケ成形 内 ヨコナデ 外 ナデ
11	1号住	弥生土師器				角閃・長石 砂粒多ない 淡褐色	縦ハジケ成形 ナデ
12	1号住	弥生土器底		8.2		角閃・石英 砂粒多い 橙褐色	縦ハジケ成形
13	1号住	弥生土器底		6.7		角閃・石英 砂粒多い 内 赤黒褐色 外 暗褐色	縦ハジケ成形 内 ナデ 外 ハケ ナデ
14	1号住	弥生土器底		6.5		角閃・長石 砂粒少ない 淡黄褐色	縦ハジケ成形 内 ナデ 外 ハケ ナデ
15	1号住	弥生土器底		(7.2)		角閃・長石 砂粒少ない 淡赤褐色	縦ハジケ成形 ナデ
16	1号住	弥生土器底	(11.0)			赤褐・長石 砂粒多い 黄褐色	縦ハジケ成形 ナデ
17	1号住	弥生土器底	(12.6)			角閃・長石・石英 砂粒多ない 淡褐色	縦ハジケ成形 ナデ 指頭オサエ 番線
18	1号住	弥生土器底				角閃・石英 砂粒多い 黒褐色	縦ハジケ成形 ナデ
19	1号住	弥生土器底				角閃・石英 砂粒少ない 淡橙褐色	縦ハジケ成形 ナデ
20	1号住	弥生土器高杯				角閃・赤石 砂粒多い 淡赤褐色	縦ハジケ成形
21	1号住	弥生土器高杯				角閃・長石 砂粒多い 赤黒褐色	縦ハジケ成形 内 凹凸状 ナデ 外 ナデ
22	1号住	弥生土器小型	(12.5)			赤褐・長石 砂粒多い 内 淡橙色 外 暗褐色	縦ハジケ成形 ナデ ハケタテ ナデ
23	1号住	弥生土器壺	(29.2)			石英・長石 砂粒多い 淡黒褐色 内 黒色	縦ハジケ成形 ナデ ナデ 底面平坦 指頭
24	1号住	弥生土器壺		(6.6)		角閃・石英 砂粒多ない 淡褐色	縦ハジケ成形 ナデ
25	1号住	弥生土器壺		(6.7)		角閃・長石 砂粒多い 明橙色	縦ハジケ成形 ナデ
26	1号住	弥生土器甕		7.4		角閃・長石 砂粒多い 明赤褐色 外 赤褐色	縦ハジケ成形 ナデ 指オサエ
27	1号住	弥生土器甕		8.2		角閃・長石 砂粒多い 黒褐色	縦ハジケ成形 ナデ
28	5号土坑	弥生土器壺		6.0		赤褐・長石・石英 砂粒多い 黄褐色	縦ハジケ成形 ナデ
29	5号土坑	弥生土器壺		7.8		角閃・石英 砂粒多い 赤褐色	縦ハジケ成形 内 ナデ 外 ナデ ハケ
30	5号土坑	弥生土器壺		(6.5)		角閃・石英 砂粒多い 内 黒褐色 外 明褐色	縦ハジケ成形 ナデ
31	5号土坑	弥生土器壺		10.0		角閃・長石 砂粒多い 淡橙褐色	縦ハジケ成形 ナデ ハケ
32	5号土坑	弥生土器壺		11.1		角閃・長石 砂粒多い	縦ハジケ成形 ナデ
33	5号土坑	弥生土器甕	(19.9)	8.2		赤褐・長石 砂粒多い 黒褐色	縦ハジケ成形 ナデ 指押圧痕
34	5号土坑	弥生土器甕	(28.0)		(79.0)	角閃・長石・石英 砂粒多い 淡黒褐色 表面 淡褐色	縦ハジケ成形 ナデ
35	5号土坑	弥生土器甕	(31.6)			角閃・長石 砂粒多い 淡赤褐色	縦ハジケ成形 ナデ
36	5号土坑	弥生土器甕		(30.0)		角閃・長石 砂粒多い 明赤褐色～明黄褐	縦ハジケ成形 ナデ
37	5号土坑	弥生土器甕	-			角閃・長石 砂粒少ない 赤褐色	縦ハジケ成形 ヨコナデ ヨコナデ 指押圧痕
38	6号土坑	弥生土器高杯		(17.0)		角閃・長石 砂粒多い 橙褐色	縦ハジケ成形 ナデ
39	6号土坑	弥生土器底				赤褐・長石 砂粒少ない 橙褐色	縦ハジケ成形 ナデ
40	6号土坑	弥生土器底				石英・長石 砂粒多い 淡黒褐	縦ハジケ成形
41	6号土坑	弥生土器底				赤褐・石英 砂粒多い 黒褐色	縦ハジケ成形
42	6号土坑	弥生土器壺	(31.0)			角閃・長石 砂粒多い 赤褐色	縦ハジケ成形 ナデ 指押圧痕
43	6号土坑	弥生土器壺		(6.8)		角閃・長石 砂粒多い 淡橙色	縦ハジケ成形 ナデ
44	6号土坑	弥生土器壺		8.0		赤褐・長石 砂粒多い 赤黒褐色 外 明褐色	縦ハジケ成形 ナデ
45	6号土坑	弥生土器底		7.3		石英・長石 砂粒多い 内 淡橙色 外 赤黒褐色～赤黒色	縦ハジケ成形 ナデ ハケ
46	7号土坑	弥生土器底				角閃・石英 砂粒多ない 淡色	縦ハジケ成形 ナデ 粘土付成形 指押圧痕
47	8号土坑	弥生土器底				角閃・長石 砂粒多い 淡黒褐	縦ハジケ成形 ナデ 粘土付成形 指ナデ
48	4号溝	弥生土器壺				角閃・長石・石英 砂粒多い 明黄褐	縦ハジケ成形 ナデ 外 粘土付成形
49	4号溝	弥生土器底				角閃・長石 砂粒少ない 明橙褐色	縦ハジケ成形 ナデ
50	4号溝	弥生土器壺				赤褐・長石 砂粒多い 淡黒褐色	縦ハジケ成形 ナデ
51	2号住	弥生土器底	(16.8)			角閃・赤石 砂粒多い 淡黒褐色	縦ハジケ成形 ヨコナデ 外 ヨコ位指圧文
52	2号住	弥生土器壺				角閃・長石 砂粒多い 淡黒褐色	縦ハジケ成形 内 ナデ
53	2号住	弥生土器壺	(31.0)			角閃・長石・石英 砂粒多い 淡黒褐色	縦ハジケ成形
54	2号住	弥生土器壺	(20.0)			角閃・長石・石英 砂粒多い 外 黒色 外 明黒褐色	縦ハジケ成形
55	2号住	弥生土器底				赤褐・長石 砂粒多い 淡黒褐色	縦ハジケ成形 内 ナデ 外 ナデ 指ハケ 沈線
56	2号住	弥生土器壺				角閃・長石 砂粒多ない 黒褐色	縦ハジケ成形 内 ナデ 外 ナデ 沈線
57	2号住	弥生土器底		7.3		角閃・長石 砂粒多い 淡黒褐色	縦ハジケ成形 ナデ
58	2号住	弥生土器壺		9.5		角閃・長石 砂粒多い 赤黒褐色	縦ハジケ成形 内 ナデ 外 ハケ ナデ
59	2号住	弥生土器甕	(25.7)			赤褐・長石 砂粒多い 橙褐色	縦ハジケ成形 外 ナデ 外 ナデ ハケ
60	2号住	弥生土器底		9.8		石英・長石 砂粒多い 赤褐色	縦ハジケ成形 外 突帯
61	2号住	弥生土器甕	(26.0)			角閃・長石・石英 砂粒多い 淡黒褐色	縦ハジケ成形 内 ナデ 外 ナデ ハケ
62	2号住	弥生土器甕				角閃・長石 砂粒多い 明黒褐色	縦ハジケ成形
63	2号住	弥生土器壺	(34.6)			角閃・長石 砂粒多い 淡橙色～橙褐色	縦ハジケ成形 ナデ ハケ 指オサエ
64	2号住	弥生土器底	(22.4)			角閃・赤石・石英 砂粒多い 橙褐色	縦ハジケ成形 内 ナデ 外 突帯 ナデ ハケ
65	2号住	弥生土器底				石英・長石・石英 砂粒多い 淡橙～赤褐色	縦ハジケ成形 ナデ
66	2号住	弥生土器底		5.8		角閃・長石 砂粒多い 淡黒褐色	縦ハジケ成形 ナデ 外 突帯 ハケ
67	2号住	弥生土器底		9.8		角閃・長石 砂粒多い 淡黒褐色	縦ハジケ成形
68	2号住	弥生土器底				角閃・長石・石英 砂粒多い 黄褐色	縦ハジケ成形
69	2号住	弥生土器壺				赤褐・長石 砂粒多い 淡黒褐色	縦ハジケ成形
70	2号住	弥生土器壺				長石 砂粒多ない 赤褐色	縦ハジケ成形 ナデ
71	2号住	弥生土器底	10.8			角閃・長石 砂粒多い 赤黒褐色 明橙褐色	縦ハジケ成形 ナデ
72	2号住	弥生土器壺	(23.6)			角閃・長石 砂粒多い 橙黒色	縦ハジケ成形 外 ナデ ハケ
73	2号住	弥生土器壺	(33.8)			角閃・長石 砂粒少ない 明橙色	縦ハジケ成形 外 ナデ ハケ 突帯
74	2号住	弥生土器底		(7.5)		角閃・長石 砂粒多い 淡黒褐色	縦ハジケ成形 ナデ
75	2号住	弥生土器壺		(6.0)		角閃・赤石 砂粒多ない 橙褐色	縦ハジケ成形 ナデ
76	2号住	弥生土器壺		6.3		角閃・赤石 砂粒多い 明黒色	縦ハジケ成形 ナデ
77	2号住	弥生土器壺		7.6		角閃・長石 砂粒多い 淡黒色	縦ハジケ成形 ナデ
78	2号住	弥生土器底		6.4		角閃・長石 砂粒多い 橙褐色	縦ハジケ成形 ナデ
79	2号住	弥生土器壺		6.4		角閃・長石 砂粒多い 橙褐色	縦ハジケ成形 ナデ

第９表　和泉第２遺跡出土土器観察表２

No.	海年	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	胎土 色調	手法 調整 文様
80	2号住	弥生土器甕				角閃・長石 砂粒多い 表面黒色	縦ハケ付成形 ナデ
81	2号住	弥生土器壺		9.0		角閃・長石 砂粒多い 黄褐色	縦ハケ付成形 ナデ
82	2号住	弥生土器壺		6.2		角閃・云石 砂粒多い 表面黒色	縦ハケ成形 ナデ ハケ
83	2号住	弥生土器高杯		7.0		角閃・云石・石英 砂粒多い 表面黒色	縦ハケ成形 ナデ 透かし孔
84	2号住	弥生土器高杯		(9.3)		石英・長石 石英多い 黒褐色	縦ハケ成形 ナデ 透かし孔
85	2号住	弥生土器高杯		(16.2)		角閃・長石 砂粒多い 表面色	縦ハケ成形 ミガキ
86	2号住	弥生土器鉢		(13.6)		角閃・長石 砂粒多い 黄褐色	縦ハケ成形 ナデ
87	2号住	弥生土器高杯				角閃・云石 砂粒少ない 表面色	縦ハケ成形 ナデ
88	2号住	弥生土器高杯				角閃・云石 砂粒多い 内）粗面色 外）表面色	縦ハケ成形 ナデ
89	2号住	器台				角閃・長石・石英 砂粒多い 黄褐色	ナデ
90	2号住	弥生土器鉢				角閃・長石 砂粒少ない 赤褐色	縦ハケ成形 ナデ
91	2号住	弥生土器二次加工品				角閃・長石 砂粒少ない 内）赤褐色 外）暗赤褐色	ナデ
92	2号住	弥生土器二次加工品				云石 砂粒多い 内）褐色 外）赤茶褐色	ナデ
93	2号住	弥生土器二次加工品				長石・角閃 砂粒多い 赤褐色	ナデ
94	2号住	弥生土器二次加工品				角閃・長石 砂粒多い 黒褐色	ナデ
95	10号住	弥生土器甕				角閃・長石 砂粒少ない 灰黄褐色	縦ハケ成形 ナデ
96	10号住	弥生土器甕				角閃・云石 砂粒多い 表褐色	縦ハケ成形 ナデ
97	10号住	弥生土器甕				云石・云石 砂粒多い 表面黒色	縦ハケ成形 ナデ
98	10号住	弥生土器壺	(17.8)			角閃・長石 砂粒多い 表褐色	縦ハケ成形 外）ミガキ
99	10号住	弥生土器鉢	(26.0)			長石・石英 砂粒多い 表褐色 内）ハケ調整	縦ハケ成形
100	10号住	弥生土器壺				長石・赤褐 砂粒多い 褐色	縦ハケ成形 ナデ
101	10号住	弥生土器鉢				角閃・云石 砂粒多い 内）灰褐色 外）茶褐色	縦ハケ成形
102	10号住	弥生土器壺				角閃・長石 砂粒多い 黒色	縦ハケ成形 ナデ 内）ミガキ
103	10号住	弥生土器鉢				角閃・長石 砂粒多い 内）暗褐色 外）淡褐色	縦ハケ成形 内）ナデ 外）コロナデ
104	10号住	弥生土器甕				角閃・長石 砂粒多い 暗褐色	縦ハケ付成形 外）ナデ ハケ
105	10号住	弥生土器壺				角閃・長石 砂粒多い 暗褐色	縦ハケ付成形 外）ハケ
106	10号住	弥生土器甕	(24.8)			角閃・云石 砂粒多い 赤褐色	縦ハケ成形 外）ナデ
107	10号住	弥生土器壺	(27.4)			云石・長石 砂粒多い 暗褐色	縦ハケ成形
108	10号住	弥生土器壺	(23.6)			角閃・長石・云石 砂粒多い 表褐色	縦ハケ成形
109	10号住	弥生土器壺	(25.2)			角閃・長石・云石 砂粒多い 表褐色	縦ハケ成形
110	10号住	弥生土器壺	(29.8)			角閃・長石・石英 砂粒多い 表褐色	縦ハケ成形
111	10号住	弥生土器鉢	(24.0)			角閃・云石 砂粒多い 赤褐色	縦ハケ成形 ナデ 外）ハケ
112	10号住	弥生土器壺	(28.0)			角閃・長石 砂粒多い 暗褐色～淡褐色	縦ハケ成形
113	10号住	弥生土器甕		7.0		角閃・長石 砂粒多い 赤褐色	縦ハケ成形 ナデ
114	10号住	弥生土器壺		6.2		角閃・長石 砂粒多い 褐色	縦ハケ成形
115	10号住	弥生土器二次加工品				角閃・長石 砂粒少ない 内）淡褐色 外）黒褐色	ナデ
116	10号住	弥生土器二次加工品				角閃・云石 砂粒多い 内）暗褐色 外）淡褐黒色	ナデ
117	10号住	弥生土器壺	(10.4)			角閃・云石 砂粒多い 表面暗褐色	縦ハケ成形
118	10号住	弥生土器甕	(33.0)			角閃・長石 砂粒多い 淡赤褐色	縦ハケ成形
119	10号住	弥生土器壺	(39.6)			角閃・長石 砂粒少ない 褐色	縦ハケ成形 ナデ
120	10号住	弥生土器鉢	(24.0)			角閃・長石 砂粒多い 表淡褐色	縦ハケ成形 ナデ
121	10号住	弥生土器鉢				角閃・長石 砂粒少ない 淡褐色	縦ハケ成形 ナデ
122	10号住	弥生土器鉢				角閃・云石・石英 砂粒多い 表黒褐色	縦ハケ成形 ナデ
123	10号住	弥生土器高杯		(18.6)		角閃・長石 砂粒多い 表淡褐色	縦ハケ成形 ナデ
124	10号住	弥生土器高杯		(9.4)		角閃・長石 砂粒多い 赤褐色	縦ハケ成形 ナデ 透かし孔
125	10号住	弥生土器高杯				角閃・長石 砂粒多い 表褐色	縦ハケ成形
126	10号住	弥生土器高杯		(14.8)		角閃・長石・石英 砂粒多い 暗褐色	縦ハケ成形 ナデ 外）ナデ ハケ
127	10号住	弥生土器高杯				角閃・云石 砂粒多い 内）黒褐色 外）暗褐色	縦ハケ成形 内）LR ナデ 外）ナデ
128	10号住	弥生土器高杯				角閃・長石 砂粒多い 淡褐色	縦ハケ成形 外）LR ナデ 外）ナデ
129	3号住	弥生土器甕				角閃・長石 砂粒多い 表褐色	縦ハケ成形 内）ナデ
130	3号住	弥生土器壺		6.0		角閃・長石 砂粒多い 表褐色	縦ハケ成形
131	3号住	弥生土器壺				角閃・長石 砂粒多い 表褐色	縦ハケ成形
132	3号住	弥生土器壺				角閃・云石 砂粒多い 表褐色	縦ハケ成形
133	3号住	弥生土器鉢				角閃・長石 砂粒多い 暗褐色	縦ハケ成形 ナデ
134	3号住	弥生土器鉢				角閃・長石 砂粒多い 表褐色	縦ハケ成形
135	3号住	弥生土器鉢				角閃・長石 砂粒多い 表褐色	縦ハケ成形 内）ナデ
136	3号住	弥生土器壺				角閃・長石 砂粒多い 表褐色	縦ハケ成形
137	3号住	弥生土器壺				角閃・長石 砂粒多い 表褐色	縦ハケ成形
138	3号住	弥生土器甕	(28.2)			角閃・云石 砂粒多い 表褐色	縦ハケ成形
139	3号住	弥生土器壺	(23.8)			角閃・長石・石英 砂粒多い 内）黒褐色 外）赤褐色	縦ハケ付成形 ナデ ハケ
140	3号住	弥生土器壺	(36.0)			角閃・長石 砂粒多い 淡褐色	縦ハケ付成形
141	3号住	弥生土器壺	(28.5)			角閃・長石 砂粒多い 赤褐色	縦ハケ付成形
142	3号住	弥生土器壺		(8.4)		角閃・長石 砂粒多い 赤褐色	縦ハケ成形
143	3号住	弥生土器壺		(7.8)		角閃・長石 砂粒多い 暗褐色	縦ハケ成形
144	3号住	弥生土器壺		(7.8)		角閃・云石 砂粒多い 明褐色～暗赤褐色	縦ハケ成形
145	3号住	弥生土器壺		(6.4)		石英・長石 砂粒多い 暗褐色	縦ハケ成形 ナデ
146	3号住	小型高杯		(7.5)		角閃・長石 砂粒多い 赤灰褐色	縦ハケ成形
147	3号住	弥生土器甕	(28.2)			角閃・長石 砂粒多い 内）暗褐色 外）黒褐色	縦ハケ成形 内）ミガキ(ヨコ) 外）ナデ
148	3号住	弥生土器鉢	(12.0)			角閃・長石・石英 砂粒多い 黒褐色	縦ハケ成形 ナデ
149	G-6	弥生土器壺	(17.0)			長石・石英 砂粒多い 表黒色(胎土は黒色)	縦ハケ成形 櫛ナデ文
150	G-6	弥生土器壺	(18.0)			角閃・長石 砂粒多い 表赤褐色	縦ハケ成形
151	G-6	弥生土器壺				石英・長石 砂粒多い 淡褐色	縦ハケ成形
152	G-6	弥生土器壺				角閃・長石 砂粒多い 暗褐色	縦ハケ成形 外）ヘラ押文
153	G-6	弥生土器壺				角閃・長石 砂粒少ない 表褐色	縦ハケ成形 外）ハケ
154	G-6	弥生土器壺				角閃・長石 砂粒多い 淡褐色	縦ハケ成形
155	G-6	弥生土器小型壺		(5.0)		角閃・云石 砂粒多い 淡褐色	縦ハケ成形
156	G-6	弥生土器鉢		(6.0)		角閃・長石 砂粒多い 表褐色	縦ハケ成形 ハケ ナデ
157	G-6	弥生土器鉢		(9.0)		角閃・長石 砂粒多い 赤褐色	縦ハケ成形
158	G-6	弥生土器甕	(27.4)			角閃・長石 砂粒多い 黒褐色～明褐色	縦ハケ成形

第 10 表　和泉第 2 遺跡出土土器観察表 3

No.	番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	厚為	胎土　色調	手法　調整　文様
159	G－6	弥生土器壺				角閃・雲母　明黄褐色 (内) 褐灰色　(外) 淡黄色	口縁ヨコナデ　(内) ナデ　(外) ハケ　ナデ
160	G－6	弥生土器壺	(24.5)			角閃・雲母　明黄褐色　褐色	口縁ヨコナデ　(内) ハケ
161	G－6	弥生土器壺				角閃・雲母　明黄褐色　褐色	口縁ヨコナデ
162	G－6	弥生土器壺	(29.2)			長石・金雲母　明赤褐色　橙色	口縁ヨコナデ
163	G－6	弥生土器壺				角閃・長石　明黄褐色　褐色	口縁ヨコナデ
164	G－6	弥生土器壺	(29.0)			角閃・長石　明黄褐色　淡黄褐色	口縁ヨコナデ
165	G－6	弥生土器壺				角閃・長石　明橙色　淡黄褐色	口縁ヨコナデ　ナデ
166	G－6	弥生土器壺				雲母・長石　明褐色　灰黄褐色	口縁ヨコナデ
167	G－6	弥生土器壺	(24.6)			雲母・長石　明褐色　(内) 淡黄色　(外) 褐色	口縁ヨコナデ
168	G－6	弥生土器壺	(18.2)			角閃・長石　明褐色　(内) 橙色　(外) 褐色	口縁ヨコナデ
169	G－6	弥生土器壺	(22.6)			角閃・長石　明褐色　黒褐色	口縁ヨコナデ　(内) ナデ　(外) ハケ　ナデ
170	G－6	弥生土器壺	(20.0)			角閃・雲母　明褐色　明褐色	口縁ヨコナデ　ナデ
171	G－6	弥生土器壺	(31.0)			角閃・長石　明褐色　明褐色	口縁ヨコナデ
172	G－6	弥生土器壺	(27.0)			角閃・雲母　明褐色　黄褐色	口縁ヨコナデ
173	G－6	弥生土器壺				角閃・雲母　明褐色　淡橙褐色	口縁ヨコナデ　ナデ
174	G－6	弥生土器壺				角閃・長石　明褐色　(内) 明灰褐色　(外) 黒色	口縁ヨコナデ　ナデ
175	G－6	弥生土器壺				角閃・長石　明褐色　淡黄色	口縁ヨコナデ　ナデ
176	G－6	弥生土器壺		(7.2)		角閃・長石　明褐色　白黄褐色	口縁ヨコナデ
177	G－6	弥生土器壺		(7.0)		角閃・長石　明褐色　(内) 明褐色　(外) 淡黄褐色	口縁ヨコナデ
178	G－6	弥生土器壺		(6.2)		雲母・長石　明褐色　淡黄褐色	口縁ヨコナデ　ナデ
179	G－6	弥生土器壺		(6.6)		雲母・長石　明褐色　橙褐色	口縁ヨコナデ
180	G－6	弥生土器壺		6.4		角閃・長石　明褐色　淡褐色	口縁ヨコナデ　ナデ
181	G－6	弥生土器壺		(8.6)		角閃・長石　明褐色　(内) 黒褐色　(外) 淡褐色	口縁ヨコナデ
182	G－6	弥生土器鉢	(11.0)			角閃・雲母　明褐色　淡黒色	口縁ヨコナデ
183	G－6	弥生土器高杯				角閃・雲母　明褐色　明褐色	口縁ヨコナデ　円盤充填法
184	G－6	弥生土器高杯		(14.0)		角閃・長石　明褐色　黒褐色	口縁ヨコナデ　ナデ
185	4 号住	弥生土器壺		(6.2)		角閃・長石　明褐色　淡黒褐色	口縁ヨコナデ　ナデ
186	2 号二次	弥生土器壺	(21.4)			角閃・長石　明褐色　橙褐色	口縁ヨコナデ
187	3 号上層	弥生土器壺				角閃・長石　明褐色　淡褐色	口縁ヨコナデ　(内) (風)ナデ　(外) ハケ　ミガキ
188	G－8	弥生土器壺				角閃・長石　明褐色　淡褐色	口縁ヨコナデ　(内) 指オサエ　(外) 一部欠損
189	G－7	弥生土器壺				長石　明褐色　淡黒褐色	口縁ヨコナデ　(内) ナデ　二次焼成　(外) ナデ
190	G－8	弥生土器壺	(15.6)			雲母・長石　明褐色　黒褐色	口縁ヨコナデ　ナデ
191	G－8	弥生土器壺	(11.0)			角閃・雲母　明褐色　橙褐色	口縁ヨコナデ
192	G－7	弥生土器壺				角閃・長石　明褐色　黒褐色	口縁ヨコナデ　(内) 摩滅　(外) ハケ後ナデ
193	G－7	弥生土器壺	(24.2)			角閃・雲母　明褐色　(内) 淡赤褐色　(外) 淡褐色	口縁ヨコナデ
194	G－7	弥生土器壺	(16.2)			角閃・長石・赤色　明褐色　淡黄褐色	口縁ヨコナデ
195	G－8	弥生土器壺	(25.0)			角閃・雲母　明褐色　淡橙褐色	口縁ヨコナデ　ナデ
196	H－5	弥生土器壺	(37.2)			角閃・長石・赤色　明橙色　(内) 黒褐色	口縁ヨコナデ　ナデ　工具痕文　櫛状文様
197	G－7	弥生土器壺				角閃・長石　明褐色　淡褐色	口縁ヨコナデ
198	G－7	弥生土器壺				角閃・長石　明褐色　淡褐色	口縁ヨコナデ
199	G－7	弥生土器壺				角閃・長石　明褐色　淡褐色	口縁ヨコナデ　(内) ナデ　(外) ナデ　二段文
200	G－7	弥生土器壺				雲母・長石　明褐色　淡褐色	口縁ヨコナデ　ナデ
201	G－7	弥生土器壺				角閃・雲母　明褐色　淡褐色	口縁ヨコナデ　(内) ナデ　(外) ナデ　ハケ　ナデ後文
202	G－9	弥生土器壺				角閃・長石　明褐色　淡褐色	口縁ヨコナデ　(内) 摩滅　(外) 櫛状文様
203	G－9	弥生土器壺				角閃・雲母　明褐色　淡褐色	口縁ヨコナデ　ナデ
204	G－8	弥生土器壺		6.2		角閃・長石・赤色　明橙色　淡褐色	口縁ヨコナデ　ナデ
205	G－9	弥生土器壺		(8.3)		角閃・長石　明橙色　淡褐色	口縁ヨコナデ　指オサエ　(外) ナデ
206	G－7	弥生土器壺		5.6		角閃・長石　明褐色　暗灰褐色	底部ヨコナデ
207	G－7	弥生土器壺		7.0		角閃・長石・赤色　明橙色　(内) 明灰褐色　(外) 淡灰褐色	底部ヨコナデ
208	G－7	弥生土器壺		6.8		雲母・長石　明褐色　(内) 黒褐色	底部ヨコナデ　(内) ナデ
209	G－7	弥生土器壺		(6.4)		角閃・長石　明褐色　淡灰褐色	底部ヨコナデ
210	G－8	弥生土器壺				角閃・雲母　明褐色　明褐色	底部ヨコナデ　(内) ナデ　(外) 指オサエ痕
211	G－7	弥生土器壺				土器　明褐色　暗黒褐色	底部ヨコナデ
212	G－8	弥生土器壺				角閃・長石　明褐色　灰黒褐色	底部ヨコナデ　ナデ　(内) 指オサエ痕跡
213	G－7	弥生土器壺				角閃・長石　明褐色　淡褐色	底部ヨコナデ
214	G－7	弥生土器壺				角閃・長石　明褐色　淡褐色	底部ヨコナデ　(内) ナデ　(外) ナデ　ハケ
215	G－7	弥生土器壺				角閃・長石　明褐色　(内) 淡褐色　(外) 黒褐色	底部ヨコナデ
216	G－7	弥生土器壺				雲母・長石　明褐色　(内) 淡赤褐色　(外) 黒褐色	底部ヨコナデ
217	G－7	弥生土器壺				角閃・長石　明褐色　淡黒褐色～橙褐色	底部ヨコナデ　(内) ナデ　(外) ナデ　ハケ
218	G－7	弥生土器壺				角閃・雲母　明褐色　(内) 淡褐色　(外) 黒褐色	底部ヨコナデ　ナデ　(外) 指オサエ痕
219	G－8	弥生土器壺	(19.4)			角閃・雲母・赤色　明褐色　淡褐色	底部ヨコナデ　(内) ナデ　(外) ナデ後ナデ
220	G－7	弥生土器壺	(21.0)			角閃・長石　明褐色　(内) 淡褐色　(外) 橙褐色	底部ヨコナデ
221	G－7	弥生土器壺				角閃・長石　明褐色　淡褐色	底部ヨコナデ
222	G－8	弥生土器壺				角閃・長石　明褐色　淡褐色～灰褐色	底部ヨコナデ　二次焼成痕跡付着物
223	G－8	弥生土器壺				角閃・長石　明褐色　灰褐色	底部ヨコナデ　(外) 指オサエ痕　剥離
224	G－7	弥生土器壺				雲母・長石　明褐色　(内) 橙褐色　(外) 淡黄褐色	底部ヨコナデ
225	G－7	弥生土器壺				雲母・長石　明褐色　(内) 灰褐色　(外) 褐色	底部ヨコナデ
226	G－7	弥生土器壺				角閃・長石　明褐色　淡橙色～橙褐色	底部ヨコナデ
227	G－7	弥生土器壺				角閃・長石　明褐色　黒褐色	底部ヨコナデ　(内) ナデ　(外) ハケ　ナデ
228	G－7	赤生土器壺	(19.8)			角閃・長石　明褐色　明褐色	底部ヨコナデ　(内) ナデ　(外) ナデ　ハケ
229	G－7	弥生土器壺				角閃・長石　明褐色　淡褐色	底部ヨコナデ　(内) ナデ　(外) ナデ　ハケ
230	G－8	弥生土器壺	(20.8)			雲母・長石　明褐色　淡灰褐色	底部ヨコナデ　(内) ナデ　(外) 指オサエ痕
231	G－7	弥生土器壺				雲母・長石　明褐色　橙褐色	底部ヨコナデ　ナデ
232	G－8	弥生土器壺				雲母・長石　明褐色　淡黒色	底部ヨコナデ　(外) 指オサエ痕　工具
233	G－8	弥生土器壺	(26.6)			角閃・長石　明褐色　淡黒褐色～灰褐色	底部ヨコナデ　(外) 指オサエ痕
234	G－9	弥生土器壺				角閃・長石　明褐色　灰褐色	底部ヨコナデ　(外) 指オサエ痕　剥離
235	G－8	弥生土器壺				角閃・長石　明褐色　明褐色	底部ヨコナデ　(外) 指オサエ痕　剥離
236	G－8	弥生土器壺	(22.4)			角閃・長石　明褐色　明褐色～灰褐色	底部ヨコナデ　(外) 指オサエ痕
237	G－8	弥生土器壺	(24.2)			角閃・長石　明褐色　淡褐色	底部ヨコナデ　(外) 指オサエ痕　剥離

第 11 表　和泉第 2 遺跡出土土器観察表 4

No.	番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	色調	胎土	焼成	手法	調整	文様
238	G　8	弥生土師器				橙	精良	良	口縁部～頸部	横ナデ	櫛状沈線
239	G－7	弥生土師器	(22.2)			橙	精良	良	口縁部	横ナデ	櫛状沈線
240	G　8	弥生土師器				橙	精良	良	頸部	横ナデ	櫛状沈線
241	G－7	弥生土師器				橙	良	良	胴部	横ナデ	
242	G　7	弥生土師器	(28.2)			橙	良	良	底部	横ナデ	ハケ
243	G－7	弥生土師器	(24.0)			橙	良	良	胴部	横ナデ	
244	G　8	弥生土師器	(29.0)			橙	良	良	底部	横ナデ	櫛状沈線
245	H－7	弥生土師器	(17.4)			橙	良	良	底部	横ナデ	櫛状沈線
246	G　8	弥生土師器	(22.6)			橙	良	良	底部	横ナデ	櫛状沈線
247	G－7	弥生土師器	(33.6)			黒	良	良	底部～頸部	横ナデ	
248	G　6	弥生土師器				橙	良	良	底部	横ナデ	ハケ
249	G－7	弥生土師器	(24.8)			黒	良	良	底部～頸部	横ナデ	ハケ
250	G　7	弥生土師器	(28.8)			黒	良	良	頸部～胴部	横ナデ	
251	G－7	弥生土師器	(27.6)			黒	良	良	頸部～胴部	横ナデ	
252	G　8	弥生土師器	(32.4)			黒	良	良	頸部～胴部	横ナデ	ハケ
253	G　7	弥生土師器	(34.8)			黒	良	良	頸部	横ナデ	ハケ
254	G－7	弥生土師器	(79.0)			黒	良	良	底部	横ナデ	
255	G－7	弥生土師器	(28.6)			橙	良	良	底部	横ナデ	
256	G－7	弥生土師器	(38.2)			橙	良	良	底部	横ナデ	
257	G　7	弥生土師器	(4.4)			橙	良	良	口縁部	横ナデ	
258	G－8	弥生土師器	(17.3)			橙	良	良	口縁部	横ナデ	櫛状沈線
259	G　7	弥生土師器			(5.6)	橙	良	良	頸部	横ナデ	
260	G－8	弥生土師器			7.3	橙	良	良	底部	横ナデ	
261	G－7	弥生土師器			8.0	橙	良	良	底部	横ナデ	
262	G　7	弥生土師器			(8.8)	橙	良	良	底部	横ナデ	
263	G－7	弥生土師器			6.0	橙	良	良	底部	横ナデ	
264	G　7	弥生土師器			7.0	橙	良	良	底部	横ナデ	
265	G－7	弥生土師器			7.0	橙	良	良	底部	横ナデ	
266	G　7	弥生土師器			7.5	橙	良	良	底部	横ナデ	
267	G－7	弥生土師器			5.8	橙	良	良	底部	横ナデ	
268	G－8	弥生土師器			(7.0)	橙	良	良	底部	横ナデ	ハケ
269	G　8	弥生土師器			(7.4)	橙	良	良	底部	横ナデ	
270	G－9	弥生土師器			(8.3)	橙	良	良	底部	横ナデ	
271	G　9	弥生土師器			(0.5)	橙	良	良	底部	横ナデ	
272	G－5	弥生土師器	(28.8)			橙	良	良	底部	横ナデ	
273	G－7	弥生土師器	(7.6)			黒	良	良	底部	横ナデ	
274	G－7	弥生土師器				橙	良	良	底部	横ナデ	
275	G－7	弥生土師器				橙	良	良	底部	横ナデ	
276	G　8	弥生土師器甕	(30.2)			橙	良	良	口縁部～頸部	横ナデ	ナデ
277	G－7	弥生土師器甕	(20.0)			黒	良	良	頸部	横ナデ	
278	H－7	弥生土師器甕底部				黒	良	良	底部	横ナデ	
279	6号住	弥生土器壺	(41.8)			黒	良	良	口縁部	横ナデ	櫛状沈線
280	6号住	弥生土器壺	(23.8)			橙	良	良	口縁部	横ナデ	櫛状沈線
281	6号住	弥生土器壺	(19.0)			黒	良	良	口縁部	横ナデ	
282	6号住	弥生土器甕	(25.0)			黒	良	良	口縁部	横ナデ	
283	6号住	弥生土器甕	(25.4)			黒	良	良	口縁部	横ナデ	
284	6号住	弥生土器甕	(30.2)			黒	良	良	口縁部	横ナデ	
285	6号住	弥生土器鉢		6.5		橙	良	良	底部	横ナデ	
286	6号住	弥生土器鉢		6.6		橙	良	良	底部	横ナデ	
287	6号住	弥生土器鉢				橙	良	良	口縁部	横ナデ	
288	6号住	弥生土器鉢	(20.0)			橙	良	良	口縁部	横ナデ	
289	6号住	弥生土器甕				橙	良	良	口縁部	横ナデ	櫛状沈線
290	6号住	弥生土器甕	(21.6)			橙	良	良	口縁部	横ナデ	櫛状沈線
291	6号住	弥生土器甕				橙	良	良	口縁部	横ナデ	櫛状沈線
292	6号住	弥生土器甕	(22.6)			橙	良	良	口縁部	横ナデ	櫛状沈線
293	6号住	弥生土器高杯	(27.6)			橙	良	良	口縁部	ミガキ	櫛状
294	6号住	弥生土器高杯				橙	良	良	口縁部～脚部	横ナデ	沈線
295	7号住	弥生土器鉢				橙	良	良	口縁部～底部	横ナデ	
296	7号住	弥生土器甕			(5.1)	橙	良	良	頸部～底部	横ナデ	ナデ
297	7号住	弥生土器甕				橙	良	良	頸部	横ナデ	
298	7号住	弥生土器壺				橙	良	良	底部	横ナデ	ナデ
299	7号住	弥生土器壺	(24.4)			橙	良	良	底部	横ナデ	ナデ
300	7号住	弥生土器壺	(25.2)			橙	良	良	底部	横ナデ	ナデ
301	7号住	弥生土器壺	(29.4)			橙	良	良	底部	横ナデ	ナデ
302	7号住	弥生土器壺	(33.0)			橙	良	良	底部	横ナデ	ナデ
303	7号住	弥生土器甕			(6.5)	橙	良	良	底部	横ナデ	ナデ
304	7号住	弥生土器甕			(5.4)	橙	良	良	底部	横ナデ	ナデ
305	7号住	弥生土器甕			5.0	橙	良	良	底部～頸部	横ナデ	ナデ
306	7号住	弥生土器甕			5.9	橙	良	良	底部	横ナデ	ナデ
307	7号住	弥生土器甕			6.5	橙	良	良	底部	横ナデ	ナデ
308	7号住	弥生土器甕			5.7	橙	良	良	底部	横ナデ	ナデ
309	7号住	弥生土器高杯	(17.3)			橙	良	良	口縁部	横ナデ	ナデ
310	7号住	弥生土器高杯				橙	良	良	底部	横ナデ	ナデ
311	7号住	弥生土器高杯				橙	良	良	底部	横ナデ	ナデ
312	8号住	弥生土器甕				橙	良	良	底部	横ナデ	ナデ
313	9号住	弥生土器壺	(21.0)			橙	良	良	口縁部～頸部	横ナデ	ナデ
314	9号住	弥生土器壺	(19.4)			橙	良	良	底部～頸部	横ナデ	ナデ
315	9号住	弥生土器壺	(30.8)			橙	良	良	底部	横ナデ	ナデ
316	9号住	弥生土器壺	(35.0)			橙	良	良	底部	横ナデ	ナデ

第 12 表　和泉第 2 遺跡出土土器観察表 5

No.	番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	出土位置	手法 調整 文様
317	1 号住	弥生土器底部				角周・長石・赤褐系小・波跡有	横ヘラ磨消　ナデ
318	11 号住	弥生土器壺			7.8	角周・長石・石英・雲母多小・縦取痕有～端部	横ヘラ磨消　ナデ　縦ヘラ状痕有底部ヘラ
319	11 号住	弥生土器壺				赤褐・長石・石英多小・波跡有～反縁部	横ヘラ磨消　ナデ　縦ヘラ状痕
320	11 号住	弥生土器底				角周・長石・石英　雲母多小・波跡有～反縁部	横ヘラ磨消　ナデ　ヘラ状痕
321	12 号住	弥生土器底				赤褐・長石・石英　雲母多小・波跡有	横ヘラ磨消　ナデ　ヘラ状痕
322	2 号住	弥生土器底				角褐・長石　雲母多小・PD 波跡有　外）縦磨痕	横ヘラ磨消　ナデ
323	10 号土坑	弥生土器壺	(20.4)			角褐・長石　雲母多小・波跡痕	横ヘラ磨消　ナデ　底部縦ヘラ磨消
324	10 号土坑	弥生土器壺			6.9	角褐・長石　雲母多小　外）波跡多　外）縦磨痕	横ヘラ磨消　ナデ
325	2 号溝	弥生土器壺				角周・長石　雲母多小・波跡多	横ヘラ磨消
326	2 号溝	弥生土器壺				角周・長石　雲母多小・縦取痕多	横ヘラ磨消　ナデ　外）縦磨痕多　細線
327	2 号溝	弥生土器壺				角周・長石　雲母多小・波跡多	横ヘラ磨消
328	2 号溝	弥生土器壺				角褐・長石　雲母多小・波跡多小・縦取痕多～端部	横ヘラ磨消　ナデ　外）縦ヘラ状痕多　細線
329	2 号溝	弥生土器壺			(8.6)	角褐・長石　石英多小　内）波跡多　外）縦取痕	横ヘラ磨消　ナデ
330	2 号溝	弥生土器壺			17.4	角褐・長石・石英　雲母多小　内）縦取痕　外）波跡多	横ヘラ磨消　ナデ
331	1a 号住	弥生土器壺	(20.0)			赤褐・長石　石英多小　明褐色	横ヘラ磨消　ナデ
332	15 号住	弥生土器底部	(30.4)			角褐・長石　石英多小　赤褐色～橙褐色	横ヘラ磨消　ナデ
333	15 号住	弥生土器壺			6.9	角褐・長石　雲母多小　橙褐色	横ヘラ磨消　ナデ
334	2 号住	弥生土器底			(9.7)	角褐・長石　雲母多小　波跡有　内）縦痕	横ヘラ磨消　ナデ
335	2 号住	弥生土器壺				角褐・長石　雲母多小・ヘラ状痕	横ヘラ磨消　ナデ　外）ヘラ状痕　ナデ
336	15 号住	弥生土器壺				角褐・長石　雲母多小・波跡痕多	横ヘラ磨消　ナデ　外）粗ヘラ状痕多　細線
337	15 号住	弥生土器壺				角褐・長石　雲母多小・縦取痕	横ヘラ磨消　ナデ　外）粗ヘラ状痕多　細線
338	15 号住	弥生土器壺	(35.0)			角褐・長石　雲母少小・波跡多	横ヘラ磨消　ナデ
339	15 号住	弥生土器壺	(27.4)			角褐・長石　雲母多小・縦取痕	横ヘラ磨消　ナデ
340	15 号住	弥生土器壺	(28.6)			角褐・長石　雲母多小・波跡多～反縁部	横ヘラ磨消　ナデ
341	15 号住	弥生土器壺	(33.0)			角褐・長石　雲母多小・波跡痕	横ヘラ磨消　ナデ　外）縦ヘラ状痕
342	15 号住	弥生土器壺	(35.0)			角褐・長石　雲母多小　反縁部～波跡痕	横ヘラ磨消　PD ヘラ　外）ヘラ状ケズリ痕多　ナデ
343	15 号住	弥生土器底				赤褐・長石　雲母多小・波跡痕	横ヘラ磨消　ナデ
344	25 号住	弥生土器壺			8.1	角褐・長石　雲母多小・縦取痕多	横ヘラ磨消　ナデ
345	15 号住	弥生土器壺			6.7	角褐・長石　石英多小・縦取痕	横ヘラ磨消　ナデ
346	15 号住	弥生土器壺			7.2	角褐・長石　雲母多小・波跡痕	横ヘラ磨消　ナデ
347	15 号住	弥生土器壺	(20.4)			角褐・長石　雲母多小　縦跡～反縁部	横ヘラ磨消　ナデ
348	15 号住	弥生土器高杯			(5.1)	角褐・長石　雲母少小　反縁部～反縁部	円形透孔　ヘラ　ナデ　ミガキ
349	15 号住	弥生土器高杯				角褐・長石　雲母多小・反縁部	横ヘラ磨消　ナデ　PD 透孔　外）縦ヘラ状痕
350	15 号住	弥生土器高杯				角褐・長石　石英多小・反縁部	横ヘラ磨消　PD ヘラ　外）ヘラ状ケズリ
351	15 号住	弥生土器高杯			11.6	角褐・長石・石英　雲母多小　杯部～脚　内）赤褐色	杯ヘラ磨消　ヘラ　脚部　ナデ
352	15 号住	弥生土器底部				赤褐・長石　石英多小・波跡痕	横ヘラ磨消　ナデ　底部ヘラ痕
353	16 号住	弥生土器壺				赤褐・長石　石英多小・縦取痕	横ヘラ磨消　ナデ
354	16 号住	弥生土器壺	(17.0)			赤褐・長石・石英　雲母多小・縦端痕	横ヘラ磨消　ナデ　外）粗ヘラ状痕
355	16 号住	弥生土器壺				角褐・赤褐・石英　雲母多小・縦端痕	横ヘラ磨消　PD ヘラ　外）粗ヘラ状痕　ヘラ
356	16 号住	弥生土器壺	(17.0)			赤褐・長石・石英　雲母多小・縦端痕	横ヘラ磨消　ナデ　外）粗ヘラ状痕
357	16 号住	弥生土器壺				角褐・長石・石英　雲母多小・波跡多	横ヘラ磨消　PD ヘラ　外）粗ヘラ状痕　ヘラ
358	16 号住	弥生土器壺				角褐・赤褐・石英多小・波跡多	横ヘラ磨消　外）ヘラ　外）粗ヘラ状痕　底部ヘラ
359	16 号住	弥生土器壺	(21.6)			角褐・長石　雲母多小　内）赤褐色　外）縦取痕	横ヘラ磨消　ナデ　外）縦ヘラ状痕
360	16 号住	弥生土器壺	(33.6)			角褐・長石　雲母多小　波跡痕多	横ヘラ磨消　ナデ　外）縦ヘラ状痕
361	16 号住	弥生土器壺			6.6	角褐・赤褐・石英　雲母多小　内）不明瞭　外）平滑	横ヘラ磨消　ナデ
362	16 号住	弥生土器壺			(6.8)	角褐・長石　雲母多小・縦取痕	横ヘラ磨消　ナデ
363	16 号住	弥生土器壺			7.2	角褐・長石　雲母多小・縦取痕	横ヘラ磨消　ナデ
364	16 号住	弥生土器壺			6.8	角褐・長石　雲母多小・縦取痕	横ヘラ磨消　ナデ
365	16 号住	弥生土器底部	(31.6)			赤褐・長石　雲母多小・波跡痕	横ヘラ磨消　ナデ
366	16 号住	弥生一括壺			4.2	赤褐・長石　雲母多小・縦端痕～波跡痕	横ヘラ磨消　ナデ
367	16 号住	弥生土器鉢	(10.0)			角褐・長石　雲母多小・波跡痕	横ヘラ磨消　ナデ
368	17 号住	弥生土器壺	(22.4)			角褐・長石　雲母多小・波跡痕	横ヘラ磨消　ナデ
369	2 号住	弥生土器壺				角褐・長石　雲母少小・波跡多	横ヘラ磨消　ナデ
370	6 号住	弥生土器壺	(8.8)			角褐・長石　雲母少小・波跡多	横ヘラ磨消　ナデ　外）縦ヘラ状
371	6 号住	弥生土器鉢		(7.0)		角褐・長石　雲母多小・波跡痕～縦端痕	横ヘラ磨消　ナデ　外）ヘラ状
372	6 号住	弥生土器壺				角褐・長石　石英多小・波跡多	横ヘラ磨消　ナデ　外）縦ヘラ状痕　細線
373	6 号住	弥生土器壺				角褐・長石　雲母多小・波跡痕～縦端痕	横ヘラ磨消　ナデ　外）縦ヘラ状痕　細線
374	6 号住	弥生土器壺				角褐・長石・石英　雲母多小・縦端痕	横ヘラ磨消　外）縦ヘラ状痕　細線
375	6 号住	弥生二段壺		(24.5)		赤褐・長石・石英　雲母多小・縦端痕	横ヘラ磨消　ナデ　外）ヘラ
376	6 号住	弥生一括壺	(24.6)			赤褐・長石　雲母多小・波跡痕	横ヘラ磨消　ナデ
377	6 号住	弥生土器壺	(29.4)			角褐・長石　雲母多小・波跡痕～反縁部	横ヘラ磨消　ヘラ
378	6 号住	弥生土器壺		(6.2)		赤褐・長石・石英　雲母多小　内）波跡痕　外）縦ヘラ状痕	横ヘラ磨消　ナデ
379	6 号住	弥生土器壺		(7.2)		角褐・長石・石英　雲母多小・波跡痕	横ヘラ磨消　ナデ
380	6 号住	弥生土器高杯				角褐・長石・石英　雲母多小・縦端痕	横ヘラ磨消　ナデ　外）縦ヘラ状痕　脚ヘラ状ケズリ
381	6 号住	弥生土器大型壺				角褐・長石　雲母多小・波跡痕～反縁部	横ヘラ磨消　ナデ　外）縦ヘラ状痕　細線
382	8 号住	弥生土器壺				角褐・長石・石英　雲母多小・縦端痕	横ヘラ磨消　内）ヘラ　外）縦ヘラ状痕多　細線
383	8 号住	弥生土器壺			6.4	角褐・長石　石英多小・波跡痕	横ヘラ磨消　外）縦ヘラ状痕多　細線
384	9 号住	弥生土器壺	(22.0)			赤褐・長石・石英　雲母多小・波跡痕	横ヘラ磨消　ナデ　外）縦ヘラ状痕
385	13 号住	弥生一括壺				赤褐・長石・石英　雲母多小　縦端	横ヘラ磨消　外）縦ヘラ状痕多　細線
386	13 号住	弥生土器壺				角褐・長石　雲母多小　波跡痕	横ヘラ磨消　内）ヘラ　外）縦ヘラ状痕　細線
387	14 号住	弥生土器壺	(32.2)			角褐・長石　雲母多小　縦跡端痕	横ヘラ磨消　ナデ
388	14 号住	弥生土器壺	(27.6)			角褐・長石　雲母多小　波跡痕　外）縦跡痕	横ヘラ磨消　ナデ　外）ヘラ
389	14 号住	弥生土器底			6.7	角褐・長石　雲母多小　反縁部～縦跡痕	横ヘラ磨消　ナデ
390	2 号住	弥生土器高杯			(20.0)	角褐・長石・石英　雲母多小　波跡痕	横ヘラ磨消　ナデ
391	3 号住	弥生土器壺				角褐・長石　雲母多小　縦端痕	横ヘラ磨消　ナデ　外）縦ヘラ状痕
392	13 号住	弥生土器壺				角褐・長石　雲母多小・波跡痕	横ヘラ磨消　外）ヘラ状ケズリ痕多　細線
393	14 号住	弥生一括壺				角褐・長石・赤褐・石英多小　内）縦跡痕　外）縦痕	横ヘラ磨消　外）縦ヘラ状痕多　細線
394	18 号住	弥生一括壺	(22.8)			赤褐・長石・石英多小・縦跡端痕	横ヘラ磨消　ナデ
395	18 号住	弥生土器壺	(20.0)			赤褐・長石・石英　雲母多小　内）縦端痕　外）縦痕	ヘラ磨消　内）ヘラ　外）ヘラ

No.	番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	胎土 色調	手法 調整 文様
396	18号住	弥生土器		(5.2)		角閃・長石 砂粒少ない 内) 暗褐灰 外) 褐色	摩耗上げ底形 ナデ
397	18号住	弥生土器蓋		(6.2)		角閃・長石 砂粒多い 灰褐～明黄褐色	摩耗 沿状蓋 ナデ
398	18号住	弥生土器蓋		(7.0)		角石・長石 砂粒多い 黒褐色	摩耗上げ底形 ナデ
399	18号住	弥生土器蓋		(6.2)		角石・長石 砂粒多い 黒褐色	摩耗上げ底形 ナデ
400	18号住	弥生土器		(6.0)		角雲・長石 砂粒多い 内) 黒褐色 外) 褐灰色	摩耗上げ底形 ナデ
401	中世土坑	土師質土器小皿	(8.0)	7.4	1.4	角閃・長石 砂粒少ない 淡黄色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
402	中世土坑	土師質土器小皿		6.2		角閃・長石 砂粒少ない 淡黄色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
403	中世土坑	土師質土器小皿		7.0		角閃・雲石 砂粒少ない 淡黄色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
404	中世土坑	土師質土器小皿	9.2	6.0	2.9	角石・長石 砂粒少ない 淡黄色	ろくろ成形 底糸切り (ヘラ痕) 内) 指ナデ
405	中世土坑	土師質土器小皿		(6.2)		角閃・長石 砂粒少ない 淡黄色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
406	中世土坑	土師質土器小皿	8.7	6.6	1.4	角閃・長石 砂粒少ない 淡色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
407	中世土坑	土師質土器小皿	9.0	7.2	1.7	角閃・長石 砂粒少ない 淡色	ろくろ成形 底糸切り (ヘラ痕) 見込みにナデ
408	中世土坑	土師質土器小皿	9.5	7.4	1.5	角石・雲石 砂粒少ない 淡黄色	ろくろ成形 底糸切り (ヘラ痕) 見込みにナデ
409	中世土坑	土師質土器小皿	9.2	6.5	1.7	角石・雲石 砂粒少ない 淡黄色	ろくろ成形 内) 指ナデ
410	中世土坑	土師質土器小皿		6.8		角閃・長石 砂粒少ない 淡黄色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
411	中世土坑	土師質土器				角閃・長石 砂粒少ない 淡黄色	ろくろ成形 ナデ
412	中世土坑	土師質土器		9.0		角閃・長石 砂粒少ない 淡黄褐色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
413	中世土坑	土師質土器				角閃・長石 砂粒少ない 淡黄色	ろくろ成形 ナデ
414	中世土坑	土師質土器	(14.2)	7.6	3.8	角閃・雲石 砂粒少ない 淡黄色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
415	中世土坑	土師質土器	14.4	8.7	3.6	角閃・長石 砂粒少ない 淡色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
416	中世土坑	土師質土器	(13.0)			角閃・長石 砂粒少ない 淡黄色	ろくろ成形 ナデ
417	中世土坑	土師質土器		(7.6)		角閃・長石 砂粒少ない 赤白色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
418	中世土坑	土師質土器		8.0		角石・雲石 砂粒少ない 淡黄褐色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
419	中世土坑	土師質土器		(8.0)		石英・雲石 砂粒多い 淡黄褐色	ろくろ成形 底糸切り
420	中世土坑	土師質土器		(8.4)		角閃・長石 砂粒少ない 淡黄褐色	ろくろ成形 ナデ
421	中世土坑	土師質土器		8.6		角閃・長石 砂粒少ない 淡色	ろくろ成形 底糸切り 見込みにナデ
422	中世土坑	土師質土器		9.0		角閃・長石 砂粒少ない 淡黄褐色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
423	中世土坑	土師質土器		9.4		角閃・長石 砂粒少ない 淡色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
424	中世土坑	中国白磁碗	(15.4)				ろくろ成形 上手
425	中世土坑	瀬戸型灯明皿	(23.6)				二次加工
426	中世溝	土師質土器小皿	(8.2)	(7.2)	1.5	角閃・長石 砂粒少ない 橙褐色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
427	中世溝	土師質土器小皿	8.7	6.1	1.7	角閃・長石 砂粒多い 内) 褐灰～黒褐色 外) 橙褐色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
428	中世溝	土師質土器小皿	8.8	6.5	1.7	角閃・長石 砂粒多い 淡黄色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
429	中世溝	土師質土器小皿	(8.0)	(6.4)	1.4	雲石・長石 砂粒多い 淡黄褐色	ろくろ成形 ナデ
430	中世溝	土師質土器小皿	9.0	7.0	1.5	石英・長石 砂粒多い 淡黄褐色	ろくろ成形 ナデ
431	中世溝	土師質土器小皿	8.6	7.0	1.5	角閃・長石 砂粒多い 内) 淡黄～黄灰色 外) 淡褐色	ろくろ成形 摩耗糸切り ナデ
432	中世溝	土師質土器小皿	(8.8)	(7.4)	1.6	角閃・長石 砂粒多い 淡褐色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
433	中世溝	土師質土器小皿		6.4		角閃・長石 砂粒多い 淡赤白色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
434	中世溝	土師質土器小皿	(8.8)	(7.0)	1.4	雲石・長石 砂粒多い 淡黄色	ろくろ成形 底糸切り (力調痕) 指ナデ
435	中世溝	土師質土器小皿	9.0	7.1	1.5	石英・長石 砂粒多い 淡黄色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
436	中世溝	土師質土器小皿	(9.0)	(7.2)	1.4	角閃・長石 砂粒少ない 淡橙色	ろくろ成形 底糸切り 内) ナデ 外) ヨコナデ
437	中世溝	土師質土器小皿	(9.2)	6.2	1.6	角閃・長石 砂粒少ない 淡黄褐色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
438	中世溝	土師質土器小皿	(9.2)	(6.9)	1.2	角閃・長石 砂粒少ない 内) 淡白～明褐色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
439	中世溝	土師質土器小皿	(9.4)	7.4	1.4	角閃・雲石 砂粒少ない 淡黄褐色	ろくろ成形 底糸切り 指ナデ
440	中世溝	土師質土器		7.9		石英・雲石 砂粒少ない 淡黄色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
441	中世溝	土師質土器	(14.4)	8.7	3.7	角閃・長石 砂粒少ない 淡黄褐色	ろくろ成形 摩耗糸切り ナデ
442	中世溝	土師質土器	(15.0)	8.6	3.8	角閃・長石 砂粒多い 淡黄色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
443	中世溝	土師質土器	(13.8)	(8.0)	4.5	角閃・長石 砂粒少ない 淡赤白色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
444	中世溝	土師質土器	(14.8)	7.8	4.3	角閃・長石 砂粒少ない 淡黄褐色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
445	中世溝	土師質土器	13.3	8.7	4.2	石英・長石 砂粒多い 淡黄褐色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
446	中世溝	土師質土器	(14.0)	7.5	3.4	雲石・長石 砂粒多い 淡黄褐色	ろくろ成形 ナデ
447	中世溝	土師質土器	(14.4)	8.0	3.6	角閃・長石 砂粒少ない 淡黄色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
448	中世溝	土師質土器	(16.0)	(9.0)	4.1	角閃・長石 砂粒多い 淡褐色	ろくろ成形 ナデ
449	中世溝	土師質土器	(14.0)	8.6	3.1	角閃・長石 砂粒少ない 淡色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
450	中世溝	土師質土器	(17.6)			角閃・長石 砂粒少ない 淡褐色	ろくろ成形 内) ヘラナデ ナデ
451	中世溝	土師質土器		7.7		雲石・長石 砂粒少ない 淡橙褐色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
452	中世溝	土師質土器		7.6		石英・長石 (7.6) 砂粒多い 淡色	ろくろ成形 ナデ
453	中世溝	土師質土器		7.6		角閃・長石 砂粒少ない 淡黄褐色	ろくろ成形 ナデ
454	中世溝	土師質土器		7.8		角閃・長石 砂粒多い 淡黄褐色	ろくろ成形 ナデ
455	中世溝	土師質土器				角閃・長石 砂粒少ない 淡赤白色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
456	中世溝	土師質土器		(8.8)		角閃・長石 砂粒少ない 淡黄褐色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
457	中世溝	土師質土器		(8.0)		角閃・雲石 砂粒少ない 淡黄褐色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
458	中世溝	土師質土器		8.2		雲石・長石 砂粒多い 淡赤褐色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
459	中世溝	土師質土器		8.0		角閃・長石 砂粒少ない 淡黄褐色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
460	中世溝	土師質土器		8.0		角閃・長石 砂粒少ない 淡黄色	ろくろ成形 ナデ
461	中世溝	土師質土器			8.8	角閃・長石 砂粒多い 淡黄褐色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
462	中世溝	土師質土器		8.6		角閃・長石 砂粒少ない 淡橙褐色	ろくろ成形 ナデ
463	中世溝	東播系須恵器鉢	(29.2)			石英 砂粒少ない 褐灰色	ろくろ成形
464	中世溝内	土師質土器小皿	8.0	6.5	1.0	雲石・長石 砂粒多い 淡橙色	ろくろ成形 ナデ
465	中世溝内	土師質土器小皿	(8.8)	(7.3)		雲石・長石 砂粒少ない 淡黄色	ろくろ成形 ナデ
466	中世溝内	土師質土器小皿	(7.8)	(6.0)	1.5	角閃・長石 砂粒少ない 淡白褐色	ろくろ成形 ナデ
467	中世溝内	土師質土器小皿	8.6	6.6	1.3	角閃・長石 砂粒多い 淡褐色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
468	中世溝内	土師質土器小皿	(9.2)	7.5		角閃・長石 砂粒少ない 淡黄色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
469	中世溝内	土師質土器小皿		6.8		角閃・長石 砂粒少ない 淡橙色～淡褐色	ろくろ成形 ナデ
470	中世溝内	土師質土器小皿	8.6	6.5	1.4	雲石・長石 砂粒少ない 淡褐色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
471	中世溝内	土師質土器小皿	9.2	6.7	1.6	石英・長石 砂粒少ない 淡明黄色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
472	中世溝内	土師質土器小皿	(8.8)	6.3	1.2	角閃・長石 砂粒少ない 淡褐色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
473	中世溝内	土師質土器小皿	8.8	7.0	1.3	角閃・長石 砂粒少ない 淡褐色	ろくろ成形 底糸切り ナデ
474	中世溝内	土師質土器小皿	(9.0)	7.0	1.3	角閃・長石 砂粒少ない 淡褐色	ろくろ成形 底糸切り ナデ

第 14 表　和泉第 2 遺跡出土土器観察表 7

No.	番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	胎土 色調	手法 調整 文様
475	中期黒色	土師器小皿	(8.5)	6.2		角閃・赤石 明橙赤色い 底裏赤	ろくろ成形 底部未切 ナデ
476	中期黒色	土師器小皿	8.7	6.2	1.3	角閃・赤石 明橙赤 底面乙	ろくろ成形 底部未切 ナデ
477	中期黒色	土師器土器小皿	(10.6)	(8.5)		角閃・赤石 明橙赤色い 底裏赤	ロクロ成形 ナデ
478	中期黒色	土師器土器小皿	8.4	6.1		角閃・長石 明橙赤色い 底裏色	ろくろ成形 底部未切 ナデ
479	中期黒色	土師器土器小皿	(6.3)	(8.1)	2.3	角閃・長石 明橙赤色い 灯明色	ろくろ成形 回転ナデ
480	中期黒色	土師器土器		(7.2)		角閃・長石 明橙赤 底裏色	ろくろ成形 ナデ
481	中期黒色	土師器土器		7.7		角閃・長石 明橙赤 灯明色	ろくろ成形 ナデ
482	中期黒色	土師器土器		(7.3)		角閃・長石 明橙赤 底裏色	ろくろ成形 ナデ
483	中期黒色	土師器土器		7.8		角閃・長石 明橙赤 底裏明色	ろくろ成形 ナデ 底部糸切り
484	中期黒色	土師器土器		8.0		石英・長石 明橙赤 底裏明色	ろくろ成形 ナデ
485	中期黒色	土師器土器		8.5		角閃・長石 明橙赤色い 底裏明色	ろくろ成形 ナデ
486	中期黒色	土師器土器		(8.6)		角閃・長石 明橙赤 底裏色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
487	中期黒色	土師器土器		8.4		角閃・赤石 明橙赤色い 底裏明	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
488	中期黒色	土師器土器		8.0		角閃・赤石 明橙赤 明橙色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
489	中期黒色	土師器土器		8.6		角閃・赤石 明橙赤色い 明橙色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
490	中期黒色	土師器土器		8.4		角閃・長石 明橙赤色い 底裏色	ろくろ成形 ナデ
491	中期黒色	土師器土器	(15.5)	9.0	3.6	角閃・長石 明橙赤色い 明橙色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
492	中期黒色	土師器土器		10.5		角閃・長石 明橙赤色い 明橙色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
493	中期黒色	須恵土器ミニ石鉢	(23.1)			角閃・長石・石英 明橙赤色い 橙色	ろくろ成形 ナデ
494	中期黒色	弥生土器甕				角閃・長石 明橙赤 明橙赤～黒褐色	輪積み成形 ナデ ハケ
495	中期黒色	弥生土器壺		7.9		角閃・長石 明橙赤 黄褐色 内 褐黒色	輪積み成形 ナデ
496	中期黒色	弥生土器土製品				石英・長石 明橙赤色い 淡褐色	平天板 厚板ケチ
497	縄切	須恵器土器蓋		(17.4)		角閃・長石 明橙赤色い 淡黒色	輪積み成形 ナデ
498	縄切	製塩	16.7		18.5		整形
499	5号溝	弥生土器甕	(10.0)			角閃・赤石 明橙赤 灰褐色	輪積み成形 ナデ 内 黒灰褐色
500	5号溝	弥生土器壺				角閃・赤石 明橙赤 黄褐色	輪積み成形 結び目付痕跡 ナデ
501	5号溝	弥生土器甕	(20.0)			角閃・赤石 明橙赤色い 灰褐色	輪積み成形 ナデ 黒灰褐色 ナデ
502	5号溝	弥生土器壺				角閃・赤石 明橙赤色い 灯褐色	輪積み成形 ナデ 黒ヒ灰褐
503	5号溝	弥生土器壺				角閃・長石・石英 明橙赤色い 灰褐色	輪積み成形 ナデ 内 ハケ目 結び目痕跡
504	5号溝	弥生土器高杯				角閃・長石 明橙赤色い 暗褐色～灰褐色	輪積み成形 ナデ 脚部内 ヘラケズ
505	5号溝	弥生土器高杯		(9.6)		角閃・長石 明橙赤色い 淡黒褐色	ナデ 黒褐色ケズ 透かしいくつか
506	5号溝	土師器土器小皿	(8.8)	(6.7)	1.5	角閃・長石 明橙赤 明橙色	ろくろ成形 ナデ
507	5号溝	土師器土器小皿		8.8		角閃・長石 明橙赤色い 淡褐色	ロクロ成形 底部糸切り ナデ
508	5号溝	土師器土器小皿	8.2	7.4	1.2	石英・長石 明橙赤色い 淡褐黒色	ろくろ成形 ナデ
509	5号溝	土師器土器小皿	(8.2)	(7.2)	1.2	角閃・長石 明橙赤色い 明灯褐色	ろくろ成形 ナデ
510	5号溝	土師器土器小皿	(8.7)	(7.1)	1.0	角閃・長石 明橙赤色い 淡灰褐色	ろくろ成形 ナデ
511	5号溝	土師器土器小皿	(9.4)	(6.6)		角閃・長石 明橙赤色い 淡黒褐色	ロクロ成形 ナデ
512	5号溝	土師器土器小皿		(8.0)		角閃・赤石 明橙赤色い 明灯色～淡褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
513	5号溝	土師器土器	12.9	9.1		角閃・赤石 明橙赤色い 灰褐色～灰褐黒色	ろくろ成形 ナデ 指オサエ
514	5号溝	土師器土器		8.0		角閃・長石 明橙赤 淡褐黒色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
515	5号溝	土師器土器		7.4		角閃・長石 明橙赤色い 淡褐色	ろくろ成形
516	5号溝	土師器土器		8.0		角閃・長石 明橙赤色い 淡褐黒色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
517	5号溝	土師器土器		7.3		角閃・長石 明橙赤色い 淡褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
518	5号溝	土師器土器				角閃・長石 明橙赤色い 淡褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
519	5号溝	土師器土器		8.5		角閃・長石 明橙赤色い 淡黒褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
520	5号溝	土師器土器				石英・長石 明橙赤色い 褐黒色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
521	5号溝	土師器土器蓋		(6.8)		角閃・長石 明橙赤色い 淡灰褐色	ろくろ成形 ナデ
522	5号溝	土師器土器蓋		(7.8)		角閃・長石・石英 明橙赤色い 赤黒褐色	ろくろ成形 ナデ
523	5号溝	土師器土器鉢	(16.5)			角閃・長石 明橙赤色い 淡黒褐色	ろくろ成形 ナデ
524	5号溝	瓦質土器ミニ石鉢		(8.0)		角閃・赤石 明橙赤色い 橙色	ろくろ成形 ナデ
525	V ア	石五輪塔					
526	V ー ア	画像面白石塔	10.3			白色	画像を線で表現 凝灰岩質の薄板状石塔
527	U ー ア	磁器小椀	(9.6)	4.3	6.9	白色	
528	V 2	輝石1					
529	V ー 1	寛永通宝					
530	T 2	寛永通宝					
531	T ー 2	寛永通宝					
532	T ー 2	寛永通宝					
533	T ー 2	寛永通宝					
534	V ー 1	銭明永					
535	O 7	弥生土器甕	(21.0)			角閃・赤土 明橙黄赤～灰褐色	輪積み成形 ミガキ ナデ
536	P ー 1	弥生土器壺	(15.4)			角閃・長石 明橙赤色い 赤褐色	輪積み成形 ナデ
537	O ー 7	弥生土器壺	(25.6)			角閃・長石 明橙赤色い 淡褐色	輪積み成形 ナデ
538	O 9	弥生土器壺				角閃・長石・石英 明橙赤色い 淡褐色	輪積み成形 ナデ 内 指圧文
539	O ー 7	弥生土器壺				角閃・長石・石英 明橙赤色い 明灯褐色 内 明橙赤	輪積み成形 ナデ 内 赤ヘラ ハケ 貼付文帯
540	O 7	弥生土器壺				角閃・長石・石英 明橙赤色い 淡灰褐色	輪積み成形 ナデ
541	O ー 7	弥生土器壺				角閃・長石 明橙赤色い 赤褐色	輪積み成形 内 ナデ 外 文様
542	O 7	弥生土器壺				角閃・長石・石英 明橙赤色い 淡褐色	輪積み成形 内 ナデ 外 貼付文様
543	O ー 7	弥生土器壺		(8.6)		角閃・長石・石英 明橙赤色い 明褐黒色 内 赤褐色	輪積み成形 ナデ
544	O ー 7	弥生土器壺		(6.7)		角閃・赤石 明橙赤色い 淡褐色	輪積み成形 ナデ
545	O ー 7	弥生土器鉢	(23.8)			角閃・赤石 明橙赤色い 淡褐黒色	輪積み成形 ナデ 外 ハケ
546	O 7	弥生土器壺		7.4		角閃・長石 明橙赤色い 淡褐色 外 灰褐色	輪積み成形 内 ナデ 外 ハケ
547	O ー 9	弥生土器甕	(28.0)			角閃・長石 明橙赤色い 淡褐色	輪積み成形 ミガキ
548	O 9	弥生土器甕				角閃・長石 明橙赤色い 淡褐色 黒褐	輪積み成形 ナデ 外 櫛状ヘラ 突帯 指圧
549	D ー 9	弥生土器壺	(18.8)			角閃・長石 明橙赤色い 暗赤褐色	輪積み成形 内 ナデ 外 櫛状ヘラ 突帯 ハケ
550	O ー 8	弥生土器壺	(30.8)			角閃・赤石 明橙赤色い 赤褐黒色	輪積み成形 ナデ 外 櫛状ヘラ
551	P ー 1	弥生土器壺				角閃・長石 明橙赤色い 明橙赤色 外 淡褐色	輪積み成形 ナデ 外 櫛状ヘラ 突帯 ハケ
552	O 7	弥生土器壺				角閃・赤石 明橙赤色い 内 淡褐色 外 淡褐色	輪積み成形 ナデ 外 櫛状ヘラ 突帯 指圧
553	O ー 7	弥生土器壺	(33.0)			角閃・長石 明橙赤色い 暗褐黒～黒褐色	輪積み成形 ナデ 外 櫛状ヘラ 突帯

第 15 表　和泉第 2 遺跡出土土器観察表 8

No.	器号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	胎土 色調	手法 調整 文様
551	O　7	弥生土器壺	(28.2)			角閃・長石 砂粒多い 黒褐色	口縁部ヨコナデ 外 ハケ目後ヨコナデ 内 ハケ目
552	O　8	弥生土器壺	(28.0)			角閃・長石 砂粒多い 橙茶褐色	口縁部ヨコナデ 外 ハケ目後ヨコナデ 内 ハケ目
553	O－9	弥生土器壺	(28.4)			角閃・長石 砂粒多い 灰褐色～黒褐色	口縁部ヨコナデ 外 ハケ目後ヨコナデ 内 ハケ目
557	X　8	弥生土器壺				角閃・長石 砂粒多い 石英小礫含む	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 ヨコナデ後ハケ目
558	P－7	弥生土器壺				角閃・長石 砂粒多い 黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 ハケ目後ヨコナデ 底部
559	K　8	弥生土器壺	(26.8)			角閃・長石 砂粒多い 褐灰色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 ヨコナデ後ハケ目 口縁
560	O－7	弥生土器壺	(24.2)			角閃・長石・石英 砂粒多い 内 黒褐色 外 白褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 ハケ目後ヨコナデ 底部
561	P－7	弥生土器壺		6.4		角閃・長石 砂粒少ない 黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 ハケ目後ヨコナデ 底部
562	P－7	弥生土器壺		8.4		角閃・長石・石英 砂粒多い 暗赤褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 ハケ目後ヨコナデ 底部
563	O　7	弥生土器壺	(25.0)			角閃・石英 砂粒多い 黒褐色 内 黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 ハケ目後ヨコナデ 胴部
564	N－8	弥生土器壺				角閃・角礫 砂粒多い 石英小礫含む	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 ハケ目後ヨコナデ 底部
565	N　8	弥生土器壺				角閃・長石 砂粒多い 褐灰色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 ハケ目後ヨコナデ 底部
566	O－7	弥生土器壺	(25.8)			角閃・長石 砂粒少ない 黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 ハケ目
567	O　8	弥生土器壺	(24.2)			角閃・長石 砂粒多い 内 暗褐色 外 黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 ハケ目後ヨコナデ 胴部
568	O　7	弥生土器壺		6.4		角閃・長石 砂粒多い 内 暗褐色 外 黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 ハケ目
569	O　7	弥生土器壺		8.4		角閃・長石・石英 砂粒多い 黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 ハケ目
570	O　7	弥生土器壺		6.7		角閃・長石 砂粒多い 内 黒褐色 外 明褐灰色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 ヨコナデ
571	O－7	弥生土器壺		6.5		角閃・長石 砂粒多い 黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ
572	O　8	弥生土器壺		7.2		角閃・長石 砂粒多い 暗褐灰色～黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ
573	O－7	弥生土器壺		6.4		角閃・長石 砂粒多い 褐灰色～黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ
574	O　7	弥生土器壺		6.2		角閃・長石・石英 砂粒多い 黒褐色～黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 指ナデ
575	O－7	弥生土器壺	(7.0)			角閃・長石 砂粒多い 黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 指ナデ ハケ
576	O　7	弥生土器壺	(6.8)			角閃・長石 砂粒多い 暗赤褐色	口縁部ヨコナデ 内 指ナデ 外 ハケ
577	O－8	弥生土器高杯	(35.2)			角閃・長石・石英 砂粒多い 黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ
578	O－7	弥生土器高杯				角閃・長石・石英 砂粒多い 黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 刷毛目
579	N　8	弥生土器高杯				角閃・長石 砂粒少ない 黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 ハケ目後 外 ハケ
580	O－7	弥生土器高杯				角閃・石英 砂粒少ない 黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 ハケ目後ヨコナデ
581	O　7	弥生土器高杯				角閃・石英・石英 砂粒多い 黒褐色～赤褐色	口縁部ヨコナデ 内 指頭痕 ナデ 外 ヨコナデ
582	一括	弥生土器壺蓋				角閃・長石 砂粒多いい 黒褐色～暗褐色	口縁部ヨコナデ 内 ハケ目後ヨコナデ
583	一括	弥生土器壺				角閃・長石 砂粒多い 褐灰色～暗褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 指頭押さえ 外 ハケ目後ヨコナデ
584	一括	弥生土器壺				角閃・長石 砂粒多い 黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 ハケ目後ヨコナデ 底部
585	一括	弥生土器壺				角閃・長石 砂粒多い 赤褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 ハケ目後ヨコナデ
586	一括	弥生土器壺				角閃・長石・石英 砂粒多い 褐灰～黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ
587	一括	弥生土器壺				角閃・長石・石英 砂粒多い 明褐灰色	口縁部ヨコナデ 内 指ナデ 外 ヨコナデ 外 指押さえ後 ヨコナデ
588	一括	弥生土器壺				角閃・長石 砂粒多いい 褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ
589	一括	弥生土器壺				角閃・長石・石英 砂粒少ない 内 明褐色 外 明褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 底部ヘラ
590	一括	弥生土器壺				角閃・石英 砂粒多い 暗黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 底部ヘラ
591	一括	弥生土器壺				黒雲母	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 底部
592	一括	弥生土器壺				角閃・長石 砂粒多い 暗黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 底部ヘラ
593	一括	弥生土器壺				角閃・長石 砂粒多いい 内 黒褐色 外 灰褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 底部ヘラ
594	一括	弥生土器壺				角閃・長石 砂粒多い 黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 指ナデ
595	一括	弥生土器壺底部	(7.2)			角閃・長石 砂粒多い 淡黒色 内外面褐色斑有	口縁部ヨコナデ 外 ナデ 内 指押さえ後ナデ
596	一括	弥生土器		(6.0)		角閃・長石・石英 砂粒少ない 黒褐色 黒褐色斑	口縁部ヨコナデ 内 ナデ
597	一括	弥生土器壺		(8.8)		角閃・長石 砂粒多い 暗赤褐色 外 明褐灰褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ
598	一括	弥生土器壺	(23.8)			角閃・長石 砂粒多い 黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 ハケ ナデ
599	一括	弥生土器壺	(22.0)			角閃・長石 砂粒少ない 褐灰～黒褐色 外 灰褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 指ナデ後ハケ 胴部 ハケ
600	一括	弥生土器壺	(23.4)			角閃・長石 砂粒多い 内 黒褐色 外 淡赤褐色～褐灰色	口縁部ヨコナデ 内 指押さえ後ナデ 外 指押さえ後 胴部
601	一括	弥生土器壺	(28.0)			角閃・長石 砂粒多い 暗褐色	口縁部ヨコナデ 内 指押さえ後ナデ 胴部
602	一括	弥生土器壺	(30.2)			角閃・長石 砂粒多い 内 淡赤～明赤褐色 外 明赤褐色	口縁部ヨコナデ 内 指押さえ後 胴部 ナデ
603	一括	弥生土器壺	(16.0)			角閃・長石・石英 砂粒多い 淡赤～明赤～黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 指押さえ後 胴部
604	一括	弥生土器壺	(21.8)			角閃・長石 砂粒多い 内 黒褐色 外 淡赤褐色～黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 指押さえ後ナデ 外 指押さえ後 胴部
605	一括	弥生土器壺	(28.4)			角閃・長石 砂粒多い 淡褐色	口縁部ヨコナデ 内 ニビキ ナデ 外 ナデ 胴部
606	一括	弥生土器壺	(29.0)			角閃・長石 砂粒多い 内 黒褐色 外 淡赤褐色～黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 指押さえ後 胴部
607	一括	弥生土器壺	(25.2)			角閃・長石 砂粒少ない 淡黒褐色	口縁部ヨコナデ
608	一括	弥生土器壺	(34.0)			角閃・長石 砂粒多い 褐色	口縁部ヨコナデ 内 ハケ
609	一括	弥生土器壺		(6.6)		角閃・長石 砂粒多い 内 黒灰色 外 淡い褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 内 指押さえ
610	一括	弥生土器高杯				角閃・長石 砂粒多いい 淡黒色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 刷毛目
611	一括	弥生土器杯				角閃・石英 砂粒多いい 褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ
612	一括	弥生土器杯				砂粒多いい 赤褐色	口縁部ヨコナデ ナデ
613	一括	弥生土器杯				角閃・長石 砂粒多いい 淡黒褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ
614	一括	弥生土器壺	(27.2)			角閃・長石・石英 砂粒多い 内 淡赤～明赤褐色 外 明赤～明赤褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 ハケ
615	一括	弥生土器壺	(30.6)			角閃・長石 砂粒多い 内 明黒褐～黒褐色 外 淡赤褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ
616	一括	弥生土器壺	(26.8)			角閃・長石 砂粒多い 赤褐色	口縁部ヨコナデ 内
617	一括	弥生土器壺	(36.0)			角閃・長石 砂粒多いい 褐～暗褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ
618	一括	弥生土器高杯		(10.0)		角閃・長石 砂粒多いい 淡褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ 外 指ナデ後ヨコナデ
619	一括	弥生土器高杯		(10.4)		角閃・長石 砂粒多い 赤褐色	口縁部ヨコナデ 内 ナデ
620	一括	勾玉				ヒスイ	
621	一括	管玉				碧玉	
622	一括	管玉				碧玉	
623	一括	土師器上器杯	(10.2)	(8.6)	1.2	角閃・長石 砂粒多いい 淡黒褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
624	一括	土師器土器小杯	8.9	6.8	1.4	角閃・長石 石英多い 淡褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
625	一括	土師器土器小杯	(8.4)	(6.6)	1.4	角閃石 砂粒多いい 赤褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
626	一括	琴柱脚	(16.8)			黒褐色	縦割り
627	一括	白銅鏡				白銅色	日光
628	一括	白銅鏡				白銅色	三線
629	一括	白銅五				白銅色	竜造寺鏡の破片
630	一括	石鏃					

第 16 表　和泉第２遺跡出土石器観察表１

No.	番号	器種	法量 (cm)				石材	備考
			長さ	幅	厚さ	重量		
1	1号住	磨製石鏃	2.95	1.20	0.35	1.8	結晶片岩	仁淀川流域
2	2号住	磨製石鏃未成品	3.05	2.10	0.35	2.4	結晶片岩	
3	1号住	磨製石鏃未成品	3.50	1.60	0.25	1.8	結晶片岩	
4	1号住	磨製石鏃未成品	2.95	1.10	0.35	1.0	結晶片岩	
5	1号住	磨製石鏃未成品	1.80	1.90	2.00	1.0	結晶片岩	
6	1号住	打製石鏃	2.20	1.85	0.45	1.0	結晶ホ	四国東部産
7	1号住	打製石鏃	1.80	1.60	0.50	1.2	結晶ホ	
8	1号住	打製石鏃	2.20	2.15	0.35	1.0	結晶ホ	瀬戸内産
9	1号住	打製石鏃	2.90	1.60	0.70	1.8	結晶ホ	仁淀川流域
10	1号住	打製石鏃	2.10	1.50	0.30	0.9	結晶ホ	仁淀川流域
11	1号住	打製石鏃未成品	1.70	1.85	0.40	1.1	結晶ホ	
12	1号住	打製石鏃	2.00	1.95	0.40	1.4	安山ホ	四国東部産
13	1号住	打製石鏃	1.15	1.60	0.35	0.7	結晶ホ	四国東部産
14	1号住	打製石鏃	2.00	1.70	0.45	0.9	安山ホ	四国東部産
15	1号住	打製石鏃	2.75	2.15	0.55	1.6	結晶ホ	四国東部産
16	1号住	打製石鏃	1.50	1.70	0.45	0.7	結晶ホ	四国東部産
17	1号住	打製石鏃	1.95	1.50	0.35	0.8	結晶ホ	四国東部産
18	1号住	打製石鏃	1.90	1.60	0.45	1.1	結晶ホ	四国東部産
19	1号住	打製石鏃	1.50	1.45	0.50	0.7	結晶ホ	仁淀川流域
20	1号住	打製石鏃	2.80	1.30	0.40	0.7	結晶ホ	四国東部産
21	1号住	打製石鏃	2.20	1.90	0.30	0.7	結晶ホ	四国東部産
22	1号住	打製石鏃	1.80	2.20	0.35	0.6	結晶ホ	四国東部産
23	1号住	打製石鏃	2.00	1.70	0.40	0.9	結晶ホ	四国東部産
24	1号住	打製石鏃	1.75	1.30	0.40	0.7	結晶ホ	四国東部産
25	1号住	打製石鏃	1.80	1.40	0.50	0.9	結晶ホ	四国東部産
26	1号住	打製石鏃	2.15	2.55	0.60	4.1	チャート	仁淀川流域
27	1号住	打製石鏃	1.60	1.75	0.40	0.9	結晶ホ	仁淀川流域
28	1号住	打製石鏃	1.90	1.50	0.45	1.2	結晶ホ	四国東部産
29	1号住	打製石鏃	1.35	1.50	0.40	0.8	結晶ホ	四国東部産
30	1号住	打製石鏃	1.50	1.40	0.25	0.5	サヌカイト	
31	1号住ピット	打製石鏃	2.05	1.45	0.50	1.2	結晶ホ	四国東部産
32	1号住	打製石鏃	2.20	2.00	0.30	1.1	結晶ホ	四国東部産
33	1号住	打製石鏃	2.35	1.80	0.50	1.2	結晶ホ	四国東部産
34	1号住	打製石鏃	3.10	2.10	0.60	3.5	結晶ホ	四国東部産
35	1号住	打製石鏃未成品	2.65	2.40	0.80	2.8	結晶ホ	
36	1号住	打製石鏃	2.05	2.10	0.60	2.0	結晶ホ	四国東部産
37	1号住	打製石鏃	1.30	2.00	0.50	1.4	結晶ホ	四国東部産
38	1号住	打製石鏃	1.90	1.60	0.45	1.3	安山ホ	四国東部産
39	1号住	打製石鏃未成品	2.75	1.85	0.65	2.1	結晶ホ	
40	1号住	打製石鏃未成品	2.25	1.60	0.40	1.1	安山ホ	
41	1号住	打製石鏃	1.45	1.25	0.35	0.4	結晶ホ	四国東部産
42	1号住	打製石鏃	1.20	1.30	0.30	0.4	結晶ホ	仁淀川流域
43	1号住	剥片尖頭	1.75	1.40	0.55	0.8	結晶ホ	
44	1号住	尖頭器	2.85	1.75	0.60	2.4	結晶ホ	
45	1号住	石匙	2.10	1.45	0.50	1.3	安山ホ	
46	1号住	石錐	2.80	1.15	0.70	2.4	結晶ホ	
47	1号住	石錐	4.10	2.40	1.30	9.2	結晶ホ	
48	1号住	石錐	2.80	1.90	0.60	1.5	結晶ホ	
49	1号住	石錐	4.20	4.20	0.75	9.4	結晶ホ	
50	1号住	掻器	2.65	2.20	0.95	4.2	結晶ホ	
51	1号住	掻器	1.55	1.40	1.30	1.6	安山ホ	
52	1号住	両面加工石器	3.90	1.00	0.40	1.2	結晶ホ	
53	1号住	打製スクレイパー	2.40	1.30	0.80	2.1	安山ホ	
54	1号住	剥片スクレイパー	2.35	2.30	0.90	5.0	結晶ホ	
55	1号住	剥片スクレイパー	2.80	1.90	1.05	4.8	安山ホ	
56	1号住	抉入スクレイパー	4.25	1.35	1.10	5.0	結晶ホ	
57	1号住	抉入スクレイパー	3.45	3.10	1.20	7.7	安山ホ	
58	1号住	スクレイパー	3.20	3.10	0.90	12.2	サヌカイト	
59	1号住	R F	3.00	1.75	0.65	2.9	結晶ホ	
60	1号住	コアスクレイパー	1.75	2.45	1.40	4.9	結晶ホ	
61	1号住	コアスクレイパー	4.70	4.05	1.90	32.0	結晶ホ	
62	1号住	コアスクレイパー	3.90	3.10	2.20	30.5	安山ホ	
63	1号住	コアスクレイパー	4.45	3.25	3.60	22.4	結晶ホ	
64	1号住	抉入削器	2.70	1.75	1.35	4.8	安山ホ	
65	1号住	抉入削器	2.70	1.90	0.50	2.3	結晶ホ	
66	1号住	抉入削器	2.65	1.25	0.80	1.8	結晶ホ	
67	1号住	抉入石器	2.40	1.40	0.40	1.4	結晶ホ	
68	1号住	抉入削器	3.00	2.80	1.20	8.5	安山ホ	
69	1号住	抉入削器	3.10	2.25	1.25	6.8	結晶ホ	
70	1号住	抉入削器	3.00	1.50	0.95	3.3	安山ホ	
71	1号住	抉入削器	4.10	2.15	1.20	7.0	結晶ホ	
72	1号住	抉入削器	4.00	2.85	1.40	7.4	安山ホ	
73	1号住	抉入削器	4.30	2.40	1.00	7.0	結晶ホ	
74	1号住	抉入削器	4.70	1.30	1.00	5.5	安山ホ	
75	1号住	抉入削器	4.30	3.65	1.15	18.2	結晶ホ	
76	1号住	抉入削器	2.70	2.55	0.90	6.1	安山ホ	
77	1号住	削器	3.15	2.25	1.15	6.5	結晶ホ	
78	1号住	U F	3.40	2.60	0.70	3.9	安山ホ	
79	1号住	R F	1.80	3.65	1.30	3.9	半化木	

第 17 表　和泉第 2 遺跡出土石器観察表 2

No.	番号	器種	法量 (cm)				石材	備考
			長さ	幅	厚さ	重量		
80	1号住	R F	1.90	1.10	0.30	0.5	変質 ob	
81	1号住	K F	1.90	2.25	0.55	2.8	変質 ob	
82	1号住	R F	2.90	2.05	0.90	7.2	変質 ob	
83	1号住	K F	3.50	1.25	0.70	2.9	変質 ob	
84	1号住ピット	R F（フロコロ）	2.20	1.30	0.75	1.5	変質 ob	
85	1号住	K F（フロコロ）	2.35	1.00	0.80	1.5	変質 ob	
86	1号住	R F（フロコロ）	1.80	1.05	0.65	1.1	変質 ob	
87	1号住	K F（フロコロ）	1.80	0.90	0.50	0.6	変質 ob	
88	1号住	石核	3.90	3.15	1.40	7.1	変質 ob	
89	1号住	石核	5.30	2.10	1.80	19.3	変質 ob	
90	1号住	石核	2.25	2.20	1.30	4.4	変質 ob	
91	1号住	残核	1.50	2.10	1.10	2.4	変質 ob	
92	1号住	石核（フレークコア）	2.45	2.20	2.00	8.8	変質 ob	
93	1号住	石核（フレークコア）	2.80	2.70	1.40	10.0	変質 ob	
94	1号住	石核	2.10	2.05	2.10	11.7	変質 ob	
95	1号住	石核	3.30	3.35	3.45	19.2	変質 ob	
96	1号住	石核	4.80	3.75	0.75	20.6	緑色凝灰岩	
97	1号住	磨製石斧？	4.30	3.55	0.75	17.4	民質	
98	1号住	磨製石斧	9.05	4.25	0.85	53.5	緑色凝灰岩	
99	1号住	凹石	9.00	10.20	5.80	689.0	安山岩	
100	1号住	磨製石斧	13.00	5.30	4.10	464.4		
101	1号住	磨製石斧	9.15	4.90	3.90	187.0	凝灰	
102	2号住	打製石鏃	2.75	1.55	0.35	1.5	変質 ob	
103	1号土坑	打製石鏃	1.90	1.60	0.35	0.8	変質 ob	凹基無茎鏃
104	1号土坑	打製石鏃	2.25	1.65	0.45	1.2	変質 ob	凹基無茎鏃
105	1号土坑	打製石鏃	1.75	1.55	0.35	0.6	変質 ob	凹基無茎鏃
106	1号土坑	打製石鏃	1.95	1.60	0.25	0.6	変質 ob	凹基無茎鏃
107	4号土坑	打製石鏃	1.70	1.45	0.30	0.7	変質 ob	凹基無茎鏃
108	4号土坑	剥片	1.75	1.25	0.35	1.3	変質 ob	
109	1号土坑	石錐	3.55	1.15	0.60	4.46	変質 ob	
110	1号土坑	剥片加工ある剥片？	3.75	3.65	0.85	9.05	ホルンフェルス	黒色帯
111	1号土坑	残核	2.55	2.05	1.60	7.7	変質 ob	
112	1号土坑	石核	5.45	5.05	3.85	59.0	変質 ob	
113	3号土坑	石核	1.95	4.35	2.10	13.6	変質 ob	
114	4号土坑	剥片	4.05	3.00	1.10	19.2	変質 ob	
115	4号溝	打製石鏃	2.35	1.60	0.55	1.9	変質 ob	凹基無茎鏃
116	2号住	尖頭石鏃	1.65	1.40	0.10	0.4	頁岩片岩	
117	2号住	打製石鏃	2.30	1.55	0.50	1.3	変質 ob	凹基無茎鏃
118	2号住	打製石鏃	2.30	1.80	0.50	1.1	変質 ob	凹基無茎鏃
119	2号住	打製石鏃	2.35	2.00	0.50	1.4	変質 ob	凹基無茎鏃
120	2号住	打製石鏃	1.80	2.10	0.40	0.9	変質 ob	凹基無茎鏃
121	2号住	打製石鏃	1.75	1.20	0.40	0.5	変質 ob	凹基無茎鏃
122	2号住	打製石鏃	2.65	1.70	0.35	0.7	変質 ob	凹基無茎鏃
123	2号住	打製石鏃	2.80	1.85	0.35	1.3	変質 ob	凹基無茎鏃
124	2号住	打製石鏃	2.50	1.55	0.50	1.0	変質 ob	凹基無茎鏃
125	2号住	打製石鏃	2.20	1.55	0.50	1.3	変質 ob	平基無茎鏃
126	2号住	打製石槍	3.25	2.40	0.75	4.3	変質 ob	
127	2号住	打製石槍未成品	2.70	2.55	0.60	3.4	変質ガラス質安山岩	
128	2号住	打製石槍未成品	2.10	2.00	0.40	1.5	変質ガラス質安山岩	
129	2号住	磨製石槍の成品	4.90	3.10	1.80	14.5	緑色凝灰岩	
130	2号住	尖頭器	3.30	1.90	0.80	5.6	変質 ob	
131	2号住	尖頭器	2.40	1.10	0.70	2.4	変質 ob	
132	2号住	尖頭器	1.90	1.10	0.40	0.7	変質 ob	
133	2号住ピット	尖頭器	2.60	1.70	0.75	3.0	変質 ob	
134	2号住	石錐	2.85	1.60	0.75	2.9	変質 ob	
135	2号住	掻器	3.15	2.10	1.15	5.8	変質 ob	
136	2号住	掻器	4.20	2.10	0.70	6.7	変質 ob	
137	2号住ピット	R F	3.35	2.20	0.65	3.7	変質 ob	
138	2号住	敲石兼石錘	2.50	2.15	1.15	5.0	変質 ob	
139	2号住	錘器	3.90	2.60	1.60	8.3	変質 ob	
140	2号住	削器	2.10	1.10	0.35	0.9	変質 ob	
141	2号住	削器	2.25	2.00	0.45	2.2	変質 ob	
142	2号住	削器	2.60	2.15	0.75	3.4	変質 ob	
143	2号住	削器	2.50	2.05	0.48	2.3	変質 ob	
144	2号住	削器	2.65	1.80	0.65	2.9	変質 ob	
145	2号住	削器	3.15	2.25	0.80	3.6	変質 ob	
146	2号住	削器	2.20	1.85	0.75	2.6	変質 ob	
147	2号住	削器	2.90	2.20	0.70	3.4	変質 ob	
148	2号住	削器	4.60	3.00	0.90	13.1	サヌカイト	
149	2号住	削器	3.85	2.90	0.65	5.3	サヌカイト	
150	2号住	使用痕ある剥片	2.00	1.80	0.65	1.9	変質 ob	
151	2号住ピット	R F	2.95	1.55	0.50	1.7	変質 ob	
152	2号住	K F（フロコロ）	2.00	1.10	0.70	1.7	変質 ob	
153	2号住	石核	2.80	2.90	1.80	15.5	変質 ob	
154	2号住ピット	石核	3.20	3.45	2.15	17.5	変質 ob	
155	2号住	石核	4.65	2.30	3.10	70.6	変質 ob	
156	2号住ピット	石核	2.85	5.85	2.10	2.5	変質 ob	
157	2号住	石核	2.50	3.85	2.10	20.4	変質 ob	
158	2号住	板状剥片を石核	7.45	2.90	1.60	36.0		

第 18 表　和泉第 2 遺跡出土石器観察表 3

No.	番号	器種	法量 (cm)				石材	備考
			長さ	幅	厚さ	重量		
159	10 号住	打製石斧	2.60	1.90	0.40	0.9	粗面凝灰岩	短冊状石斧
160	10 号住	打製石斧	3.20	2.10	0.50	2.3	粗面凝灰岩	短冊状石斧
161	10 号住	打製石斧	2.60	1.80	0.60	1.7	粗面凝灰岩	短冊状石斧
162	10 号住	打製石斧	2.20	2.20	0.50	0.7	粗面凝灰岩	短冊状石斧
163	10 号住	打製石斧	1.70	1.50	0.50	0.7	粗面凝灰岩	短冊状石斧
164	10 号住	打製石斧	1.75	1.30	0.30	0.5	粗面凝灰岩	短冊状石斧
165	10 号住ピット	打製石斧	1.60	2.10	0.30	0.7	砂質凝灰岩	短冊状石斧
166	10 号住	打製石斧	3.00	1.95	0.50	1.8	砂質凝灰岩	短冊状石斧
167	10 号住	打製石斧	2.15	1.50	0.65	1.7	砂質凝灰岩	短冊状石斧
168	10 号住	打製石斧	1.95	1.90	0.45	1.4	砂質凝灰岩	短冊状石斧
169	10 号住	打製石斧	2.00	1.25	0.50	0.7	サヌカイト	短冊状石斧
170	10 号住	打製石斧	1.20	1.50	0.40	0.5	砂質凝灰岩	円盤状石斧
171	10 号住	打製石斧	3.90	2.50	1.00	4.2	砂質凝灰岩	短冊状石斧
172	10 号住	打製石斧	1.40	1.30	0.30	0.4	砂質凝灰岩	
173	10 号住	打製石斧未成品	1.90	1.35	0.40	0.9	粗面凝灰岩	
174	10 号住	石鍋	3.10	1.30	1.00	3.2	粗面凝灰岩	
175	10 号住	未製品	1.85	1.00	1.05	2.9	粗面凝灰岩	
176	10 号住	未成形石器	3.15	2.85	1.10	8.3	ホルンフェルス	平坦な面を残す扁平な礫
177	10 号住	サイドブレイド	2.70	1.60	0.45	1.8	粗面凝灰岩	
178	10 号住	錐状	5.35	2.50	1.65	15.4	粗面凝灰岩	
179	10 号住ピット	両面スクレイパー	2.20	1.65	0.65	1.9	粗面凝灰岩	
180	10 号住	両面スクレイパー	2.10	1.55	0.60	2.0	粗面凝灰岩	
181	10 号住	横入スクレイパー	1.75	1.85	0.60	1.8	サヌカイト	
182	10 号住	横入スクレイパー	2.70	3.80	0.95	7.3	粗面凝灰岩	
183	10 号住	横入スクレイパー	2.20	2.00	1.35	4.2	粗面凝灰岩	
184	10 号住	削器	2.15	2.10	0.45	1.9	粗面凝灰岩	
185	10 号住	削器	2.85	2.30	0.90	5.3	粗面凝灰岩	
186	10 号住	削器	3.45	2.20	0.70	3.7	砂質凝灰岩	
187	10 号住	削器	1.80	1.40	0.60	3.1	砂質凝灰岩	
188	10 号住ピット	横入削器	3.40	2.10	0.80	3.7	砂質凝灰岩	
189	10 号住	U F	3.50	3.40	1.30	9.6	砂質凝灰岩	
190	10 号住	U F	3.90	2.35	0.75	6.3	砂質凝灰岩	
191	10 号住ピット	R F	3.30	2.15	0.95	4.5	砂質凝灰岩	
192	10 号住	R F	2.10	1.90	0.65	1.8	粗面凝灰岩	
193	10 号住	R F（フロコロ）	2.45	1.75	2.10	3.2	粗面凝灰岩	
194	10 号住	石核	2.70	2.80	1.85	10.5	粗面凝灰岩	
195	10 号住	G 核	4.20	3.70	2.30	23.4	粗面凝灰岩	
196	10 号住	石槌	2.85	6.45	3.30	31.1	粗面凝灰岩	
197	10 号住	磨製	1.55	3.00	1.40	6.7	粗面凝灰岩	
198	10 号住	縦笛状土製品	5.90	2.90	3.30	91.0	泥質	
199	3号住ピット	打製石斧	2.40	2.15	0.40	1.0	サヌカイト	短冊状石斧
200	3号住	打製石斧	2.90	1.60	0.30	0.6	粗面凝灰岩	
201	3号住	打製石斧	2.10	1.20	0.35	0.8	粗面凝灰岩	平坦な面を残す
202	3号住ピット	R F	1.80	2.40	0.60	2.1	粗面凝灰岩	
203	3号住	横入削器	2.50	3.45	1.00	7.0	砂質凝灰岩	
204	3号住	磨石	3.70	2.85	1.95	11.9	凝灰質頁岩	
205	3号住	敲石	8.55	3.30	2.20	69.1	凝灰質頁岩	
206	3号住	M石	6.50	9.45	5.15	379.9	安山石	
207	G　6	打製石鏃	2.60	2.05	0.60	2.1	粗面凝灰岩	凹基無茎鏃
208	G－6	打製石鏃未成品	2.35	1.90	0.65	2.1	粗面凝灰岩	凹基無茎鏃
209	G－6	打製石鏃	2.35	1.60	0.40	1.3	粗面凝灰岩	凹基無茎鏃
210	G　6	打製石鏃	2.05	2.25	0.50	1.9	粗面凝灰岩	凹基無茎鏃
211	G－6	打製石鏃	2.10	1.95	0.45	1.3	粗面凝灰岩	凹基無茎鏃
212	G　6	打製石鏃	1.80	1.40	0.30	0.6	粗面凝灰岩	凹基無茎鏃
213	G－6	打製石鏃	1.85	1.55	0.40	0.7	粗面凝灰岩	凹基有茎鏃
214	G－6	打製石鏃	2.35	1.50	0.65	1.1	粗面凝灰岩	凹基無茎鏃
215	G　6	打製石鏃	1.65	1.30	0.45	0.6	粗面凝灰岩	平基無茎鏃
216	G－6	打製石鏃	2.30	1.35	0.50	0.7	砂質凝灰岩	
217	G　6	打製石鏃	1.50	1.55	0.65	1.6	チャート	凹基無茎鏃
218	G－6	打製石鏃	2.10	1.90	0.40	1.0	サヌカイト	平基無茎鏃
219	G－6	打製石鏃	2.10	1.30	0.50	0.8	サヌカイト	平基無茎鏃
220	G－6	打製石鏃	2.50	2.60	0.90	2.5	頁岩	凹基無茎鏃
221	G－6	未成形石鏃	2.20	1.15	0.55	1.4	粗面凝灰岩	
222	G　6	石錐	1.80	1.95	1.00	4.7	粗面凝灰岩	
223	G－6	両面スクレイパー	2.45	1.55	0.90	2.9	粗面凝灰岩	
224	G　6	コアスクレイパー	2.65	2.25	1.05	6.6	粗面凝灰岩	
225	G－6	コアスクレイパー	3.80	4.35	1.95	30.5	粗面デクライ(被覆面残)	
226	G　6	コアスクレイパー	5.80	4.35	2.75	53.0	粗面凝灰岩	
227	G－6	削器	2.75	1.95	0.40	1.9	粗面凝灰岩	
228	G－6	削器	3.10	1.65	0.85	3.0	粗面凝灰岩	
229	G　6	削器	3.70	2.65	1.35	8.8	砂質凝灰岩	
230	G－6	削器	2.40	2.30	1.00	3.4	流紋岩	
231	G　6	横入削器	2.50	3.05	1.10	6.6	粗面凝灰岩	
232	G－6	横入削器	3.00	2.95	1.45	8.5	粗面凝灰岩	
233	G－6	横入削器	3.35	3.05	1.30	7.5	粗面凝灰岩	
234	G－6	横入削器	2.80	2.10	0.70	3.3	粗面凝灰岩	
235	G　6	横入削器	2.60	1.90	0.65	2.1	黒曜質凝灰岩	
236	G－6	石斧	2.70	4.10	1.85	17.5	粗面凝灰岩	
237	G　6	横槌	2.30	1.90	1.00	3.1	粗面凝灰岩	

第 19 表　和泉第 2 遺跡出土石器観察表 4

No.	番号	器種	法量 (cm)				石材	備考
			長さ	幅	厚さ	重量		
238	G－6	石核	2.50	2.25	1.30	7.9	流紋岩	
239	G－6	石核	5.60	4.00	3.30	70.4	安山岩	
240	G－6	礫石	9.45	9.05	2.85	215.4	頁岩	
241	G－6	礫石	6.15	8.25	4.45	177.7	絹雲母片岩	
242	G－6	敲石	7.95	8.60	6.25	539.0	安山岩	
243	G－6	敲石	6.40	10.05	3.30	568.3	安山岩	
244	2号土坑	コテスクレイパー	3.90	4.40	2.10	22.0	黒曜石	
245	2号土坑	石核	2.70	4.40	1.75	17.3	黒曜石	剥片素材
246	3号土坑	礫石	6.20	3.50	1.90	31.2	頁岩	
247	G－7	剥製石器未成品	1.90	2.65	0.60	5.4	結晶凝灰岩	
248	G－7	打製石斧	1.0	2.00	0.85	1.7	黒曜石	凹基無茎鏃
249	G－7	打製石鏃	3.15	2.10	0.55	2.4	黒曜ガラス質安山岩	凹基無茎鏃
250	G－7	打製石鏃	2.40	1.95	0.50	1.7	黒曜石	凹基無茎鏃
251	G－7	打製石鏃	2.20	1.80	0.40	1.3	黒曜石	凹基無茎鏃
252	G－7	打製石鏃	2.05	1.85	0.40	0.8	黒曜石	凹基無茎鏃
253	G－7	打製石鏃	1.90	1.30	0.40	0.9	黒曜石	凹基無茎鏃
254	G－7	打製石鏃	1.95	1.00	0.30	0.3	黒曜石	凹基無茎鏃
255	G－7	打製石鏃	2.50	1.90	0.50	1.5	黒曜石	凹基無茎鏃
256	G－7	打製石鏃	1.35	1.70	0.30	0.4	黒曜石	凹基無茎鏃
257	G－7	打製石鏃	2.10	2.30	0.55	2.6	黒曜石	凹基無茎鏃
258	G－7	打製石鏃	2.80	2.10	0.60	2.5	黒曜石	凹基無茎鏃
259	G－7	打製石鏃	2.60	2.55	0.60	2.2	黒曜石	凹基無茎鏃
260	G－7	打製石鏃（剥片）	2.35	1.70	0.50	1.5	黒曜石	凹基無茎鏃
261	G－7	打製石鏃	2.00	1.30	0.30	0.6	黒曜石	凹基無茎鏃
262	G－7	打製石鏃	1.80	1.60	0.60	1.3	黒曜石	凹基無茎鏃
263	G－7	打製石鏃	1.70	2.10	0.50	0.7	黒曜石	凹基無茎鏃
264	G－7	打製石鏃	1.85	1.95	0.40	1.0	黒曜石	凹基無茎鏃
265	G－7	打製石鏃	1.80	1.75	0.35	0.8	黒曜石	凹基無茎鏃（二次加工剥）
266	G－7	打製石鏃	1.10	1.55	0.30	0.5	黒曜石	凹基無茎鏃
267	G－7	打製石鏃	1.50	1.85	0.35	0.8	黒曜石	凹基無茎鏃
268	G－7	打製石鏃	1.55	1.05	0.30	0.4	黒曜石	凹基無茎鏃
269	G－7	打製石鏃	1.50	1.35	0.35	0.5	黒曜石	
270	G－7	打製石鏃	2.60	1.80	0.85	1.5	黒曜石	
271	G－7	剥製具	2.40	1.15	0.50	1.0	黒曜石	
272	G－7	尖頭器	2.90	1.55	0.70	2.8	黒曜石	
273	G－7	尖頭器	2.60	1.45	0.55	1.7	黒曜石	
274	G－7	尖頭器	2.20	1.10	0.55	1.2	黒曜石	
275	G－7	尖頭器	2.55	1.35	0.45	1.4	黒曜石	
276	G－7	尖頭器	1.90	1.45	0.50	1.2	黒曜石	
277	G－7	石錐	3.50	2.15	1.10	8.5	黒曜石	
278	G－7	石錐	2.90	1.85	1.70	4.5	黒曜石	
279	G－7	石錐	4.75	6.50	0.85	20.6	サヌカイト	
280	G－7	錐状	2.15	1.85	0.65	2.4	黒曜石	
281	G－7	打面スクレイパー	2.70	1.50	0.70	2.9	黒曜石	
282	G－7	抉入削器	2.75	1.70	0.65	2.5	黒曜石	
283	G－7	抉入削器	3.40	2.50	2.10	19.0	黒曜石	
284	G－7	抉入刷毛	3.20	2.90	1.60	7.8	黒曜石	
285	G－8	削器	2.80	1.85	0.95	3.76	黒曜石	
286	G－7	削器	2.10	1.85	0.85	3.6	黒曜石	
287	G－9	削器	4.45	4.10	1.85	31.04	黒曜ガラス質安山岩	
288	G－7	削器	2.25	1.45	0.45	1.1	黒曜石	
289	G－7	R F	1.90	1.25	0.45	0.9	黒曜石	
290	G－8	R F（コツコツ）	2.35	1.40	1.05	3.3	黒曜石	
291	G－8	R F（コツコツ）	1.75	1.35	0.95	2.2	黒曜石	
292	G－7	R F（コツコツ）	1.95	1.65	0.70	1.5	黒曜石	
293	G－7	R F	3.75	3.10	0.90	6.6	黒曜石	
294	G－7	R F	2.10	2.50	0.55	3.0	オルソフェルス	黒色頁岩
295	G－7	石核	2.50	3.90	1.45	11.0	黒曜石	
296	G－7	石核	2.10	2.45	1.75	8.4	黒曜石	
297	G－7	石核	4.10	3.60	2.70	34.9	黒曜石	
298	G－7	石核	4.00	5.60	1.90	19.1	黒曜石	
299	G－7	剥片	3.35	3.00	1.70	16.4	黒曜石	
300	G－7	石核	3.80	3.50	3.40	26.8	黒曜石	上面に磨打痕あり
301	G－7	石核	2.80	3.40	1.40	12.3	黒曜石	
302	G－7	石核	3.85	3.45	2.05	18.3	黒曜石	
303	G－7	石核	2.95	4.70	2.80	30.6	黒曜石	
304	G－7	石核	2.70	3.80	1.55	14.2	黒曜石	
305	G－8	石核	2.85	3.65	1.55	13.2	黒曜石	
306	G－7	石核	5.70	2.50	3.35	26.1	黒曜石	バティの異なる面あり
307	G－7	石核	2.70	3.05	1.60	10.5	黒曜石	
308	G－8	台石	4.70	5.15	2.55	19.8	安山岩	
309	G－8	礫石錘？	2.60	1.35	2.00	6.90	砂岩	
310	G－7	一次加工のある剥片	3.75	4.00	1.30	24.3	珪化木	伊方産材？
311	G－7	磨製石斧 刃石斧	2.05	4.05	1.40	33.1	砂岩	
312	G－8	敲石	7.15	6.75	3.05	79.6		
313	G－7	凹石	5.30	5.30	1.10	35.5	砂岩	
314	G－7	凹石	7.30	10.15	6.30	683.6	安山岩	
315	G－7	凹石	10.15	6.55	3.75	401.8	安山岩	
316	5号住	抉入削器	1.90	3.60	1.15	6.8	黒曜石	

第20表　和泉第2遺跡出土石器観察表5

No.	番号	器種	法量 (cm) 長さ	幅	厚さ	重量	石材	備考
317	6号住	石匙	4.00	2.15	1.00	8.2	頁岩ob	
318	6号住	剥片	2.10	1.65	0.45	1.4	頁岩ob	
319	6号住	コアスクレイパー	4.10	3.00	2.10	36.7	頁岩ob	
320	6号住	磨製	2.30	2.10	1.90	8.1	頁岩ob	
321	7号住	石斧	2.60	2.30	0.40	3.0	赤色フォルンス	
322	7号住	打製石鏃	3.00	1.75	0.50	2.0	頁岩ob	平基無茎鏃
323	7号住	打製石鏃	2.40	1.25	3.00	0.6	頁岩ob	凹基無茎鏃
324	7号住	打製石鏃	1.10	1.20	0.30	0.3	頁岩ob	凹基無茎鏃
325	7号住	尖頭器	3.85	2.35	1.25	9.1	頁岩ob	
326	7号住	錐状	3.00	2.30	1.35	8.1	頁岩ob	
327	7号住	削器	3.05	2.55	0.75	3.0	頁岩ob	
328	7号住	削器	2.15	3.35	1.55	9.1	頁岩ob	
329	7号住	コアスクレイパー	1.55	2.55	1.95	6.8	頁岩ob	
330	7号住	石核	2.15	4.00	1.70	13.6	頁岩ob	
331	7号住	石核	1.75	2.95	1.70	5.4	頁岩ob	
332	7号住	石核	2.85	3.55	1.40	10.5	頁岩ob	
333	7号住	磨製石斧	2.85	1.80	0.70	4.5	安山岩	
334	7号住	磨製作業石斧	6.80	2.90	1.25	38.3	頁岩	
335	7号住	敲石	6.50	6.15	2.45	140.2	輝緑凝灰岩	
336	7号住	匙石	6.25	8.95	4.20	398.6	安山岩	
337	8号住	浅入側溝	9.45	3.95	0.60	11.8	サヌカイト	
338	11号住	打製石鏃	2.10	1.80	0.80	2.5	頁岩ob	凹基無茎鏃
339	11号住	コアスクレイパー	1.80	2.35	1.70	6.4	頁岩ob	
340	12号住	コアスクレイパー	2.80	3.10	2.00	14.5	頁岩ob	
341	12号住	打製石鏃	2.90	2.65	0.55	1.8	頁岩ob	凹基無茎鏃
342	9号土坑	磨製石錐未成品	5.15	2.35	0.75	10.8	緑色片岩	平基無茎鏃
343	10号土坑	写石	9.60	11.80	6.80	1113.3	変質凝	
344	2号溝	磨製石錐未成品	3.40	2.20	0.25	3.0	緑泥片岩	
345	2号溝	打製石鏃	1.75	1.70	0.35	0.7	頁岩ob	凹基無茎鏃
346	2号溝	削器	3.05	3.10	0.80	7.6	チャート	表面一部に赤色化の現象あり
347	2号溝	浅入側溝	3.85	2.45	1.85	14.9	頁岩ob	
348	2号溝	錐状	3.40	2.95	1.45	8.8	頁岩ob	
349	2号溝	コアスクレイパー	2.70	1.90	1.80	4.2	頁岩ob	
350	2号溝	コアスクレイパー	3.80	3.40	1.80	22.3	頁岩ob	
351	13号住	打製石錐未成品	2.35	1.56	0.35	0.9	頁岩ob	凹基無茎鏃
352	13号住	未成鉄石器	2.10	1.13	0.45	1.1	頁岩ob	
353	15号住	打製石鏃	1.55	1.05	0.35	0.4	頁岩ob	凹基無茎鏃
354	15号住	打製石鏃	1.60	1.65	0.30	0.7	頁岩ob	平基無茎鏃
355	15号住	打製石鏃	0.95	2.35	0.40	0.8	頁岩ob	凹基無茎鏃
356	15号住	石錐	1.95	3.20	0.60	3.6	頁岩ob	
357	15号住	錐状	5.80	3.00	2.15	25.6	頁岩ob	
358	15号住	錐状	4.80	2.45	0.90	7.6	頁岩ob	側面に刃潰加工
359	15号住	R F (フロコロ)	1.45	0.90	0.60	0.9	頁岩ob	
360	15号住	U F	2.05	2.10	0.55	1.7	頁岩ob	
361	15号住	R F (フロコロ)	1.85	1.15	0.95	2.2	頁岩ob	
362	15号住	石核	11.10	6.20	3.30	175.1	頁岩ob	
363	16号住	打製石鏃	1.65	1.15	0.40	0.6	頁岩ob	凹基無茎鏃
364	16号住	打製石錐未成品	2.20	2.30	0.60	2.5	頁岩ob	平基無茎鏃
365	16号住	尖頭状石器	2.25	1.65	0.65	2.3	頁岩ob	
366	16号住	錐状	2.15	1.90	0.70	2.1	頁岩ob	折
367	16号住	錐状	3.40	1.85	0.65	3.80	頁岩ob	
368	4号柱穴群	石鏃	3.95	3.00	2.35	30.80	頁岩ob	
369	6号柱穴群	凹石	10.65	10.80	6.85	1360.0	安山岩	
370	6号柱穴群	剥片	4.05	3.70	1.15	17.1	頁岩ob	
371	8号柱穴群	打製石鏃	2.40	1.70	0.40	1.0	頁岩ob	凹基無茎鏃
372	8号柱穴群	未成鉄石器	3.25	2.35	0.85	4.5	頁岩ob	
373	9号柱穴群	打製石鏃	2.40	1.40	0.25	0.7	頁岩ob	凹基無茎鏃
374	10号柱穴群	打製石鏃	1.45	1.75	0.25	0.1	サヌカイト	平基無茎鏃
375	11号柱穴群	石錐	3.10	1.00	1.15	42.2	頁岩ob	
376	11号柱穴群	浅入側溝	7.65	5.30	3.15	80.7	砂岩	側面調整の2次剥離
377	11号柱穴群	磨製石斧	12.65	5.15	3.90	373.2	安山岩	
378	12号柱穴群	打製石錐未成品	1.65	1.35	0.35	0.3	頁岩ob	
379	14号柱穴群	凹石	8.80	10.05	7.55	1096.4	安山岩	
380	14号柱穴群	打製石鏃	1.35	1.35	0.35	0.5	頁岩ob	凹基無茎鏃
381	15号柱穴群	打製石鏃	1.95	1.75	0.30	0.9	頁岩ob	凹基無茎鏃
382	17号柱穴群	石鏃	1.75	1.05	0.40	0.5	頁岩ob	
383	18号住	打製石鏃	2.05	1.75	0.35	0.8	頁岩ob	凹基無茎鏃
384	18号住	磨製作業石斧	8.90	6.70	4.20	354.7	頁岩	
385	18号住	匙石	12.40	10.40	5.05	1015.7	輝緑凝灰岩	
386	S－イ	磨製石錐未成品	3.95	2.00	0.40	3.1	砂岩片岩	平基無茎鏃
387	S－イ	打製石鏃	2.15	1.75	0.35	0.9	頁岩ob	凹基無茎鏃
388	S－イ	打製石鏃	1.80	1.80	0.50	0.9	頁岩ob	凹基無茎鏃
389	S－イ	打製石鏃	2.00	1.35	0.45	0.9	頁岩ob	凹基無茎鏃
390	S－イ	打製石鏃	2.90	2.25	0.60	1.8	頁岩ob	凹基無茎鏃
391	S－イ	打製石鏃	1.85	1.20	0.20	0.5	頁岩ob	凹基無茎鏃
392	S－イ	打製石鏃	1.80	1.15	0.30	0.4	頁岩ob	凹基無茎鏃
393	S－ア	打製石鏃	1.75	1.65	0.35	0.7	頁岩ob	凹基無茎鏃
394	S－ア	打製石鏃	2.10	2.05	0.40	1.6	頁岩ob	凹基無茎鏃
395	S－イ	錐状鉄具	2.25	1.75	0.50	1.3	頁岩ob	

第21表　和泉第2遺跡出土石器観察表6

No.	番号	器種	法量 (cm) 長さ	幅	厚さ	重量	石材	備考
396	S-イ	剥片	2.56	1.36	0.60	1.7	頁岩ob	
397	S-イ	抉入削器	2.53	1.33	0.60	0.90	頁岩ob	
398	S-イ	削器	4.55	3.23	1.30	15.8	頁岩ob	
399	S-イ	削片	3.45	2.45	1.23	8.3	頁岩ob	
400	S-イ	抉入削器	1.20	1.70	1.15	3.2	頁岩ob	
401	S-イ	U F	2.45	2.05	0.80	3.8	頁岩ob	
402	S-イ	R F	3.25	3.45	1.50	10.6	頁岩ob	
403	S-イ	R F	6.15	2.40	1.70	16.1	頁岩ob	
404	S-イ	石核	2.30	2.85	1.70	9.4	頁岩ob	
405	S-イ	石核	4.35	4.85	1.00	78.9	硅石系	
406	5号住	磨製石斧未成品	7.10	3.50	1.35	42.6	結晶片岩	
407	5号住	磨製石斧	3.05	1.30	0.25	1.4	結晶片岩	
408	5号住	磨製石斧	2.55	1.55	0.25	1.8	結晶片岩	
409	5号住	磨製石斧	3.55	3.05	0.45	3.6	結晶片岩	平基凹基系
410	5号住	打製石斧	1.70	1.35	0.50	0.9	頁岩ob	凹基無茎系
411	5号住	打製石斧	1.50	2.20	0.30	1.6	頁岩ob	凹基無茎系
412	5号住	打製石斧	1.95	1.45	0.30	0.5	頁岩ob	凹基無茎系
413	5号住	打製石斧未成品	2.75	2.05	0.55	2.7	頁岩ob	
414	5号住	打製石斧	1.95	2.45	0.65	2.4	頁岩ob	凹基無茎系
415	5号住	打製石斧	1.85	1.40	0.35	0.7	頁岩ob	平基無茎系
416	5号住	打製石斧	1.80	1.85	0.35	0.9	頁岩ob	平基無茎系
417	5号住	打製石斧	1.0	1.55	0.35	1.8	頁岩ob	
418	5号住	打製石斧	1.10	1.30	0.25	0.6	頁岩ob	凹基無茎系
419	5号住	打製石斧未成品	3.40	2.20	0.95	7.4	頁岩ob	
420	5号住	剥片	2.40	1.25	0.35	0.9	頁岩ob	
421	5号住	抉入	2.35	1.85	0.45	1.5	頁岩ob	石核を二次加工
422	5号住	剥片	4.00	2.35	2.50	9.0	頁岩ob	
423	5号住	尖頭状石器	2.55	1.55	0.85	3.5	頁岩ob	
424	5号住	尖頭状石器	3.00	1.15	0.75	2.4	頁岩ob	
425	5号住	石錐	1.25	1.05	0.25	0.8	頁岩ob	
426	5号住	凹基スクレイパー	1.50	1.20	0.60	0.9	頁岩ob	
427	5号住	掻器	3.55	3.15	1.45	16.3	石英	
428	5号住	掻器	3.95	3.45	1.85	15.4	頁岩ob	連続的使用の痕分あり
429	5号住	抉入削器	3.80	2.60	1.25	9.96	頁岩ob	
430	5号住	削器	3.05	2.15	1.00	6.55	頁岩ob	
431	5号住	削器	2.35	1.95	0.90	4.55	頁岩ob	
432	5号住	R F	2.70	2.10	1.25	4.7	頁岩ob	
433	5号住	R F	2.70	3.90	0.95	6.2	頁岩ob	
434	5号住	R F	3.55	1.80	1.90	7.2	頁岩ob	
435	5号住	R F	2.40	2.95	0.65	5.7	ホルンフェルス	
436	5号住	R F	2.20	1.15	0.90	2.6	チャート	
437	5号住	剥片	6.25	2.80	1.40	22.5	硅質頁岩	
438	5号住	石核（剥片素材）	4.15	3.10	1.40	20.2	頁岩ob	
439	5号住	石核	5.40	2.75	3.35	12.97	頁岩ob	
440	5号住	石核	3.65	2.15	2.50	16.97	頁岩ob	
441	5号住	石核	2.70	4.50	1.60	17.67	頁岩ob	
442	5号住	磨製石斧	5.40	5.05	1.30	54.2	蛇紋岩	
443	5号住	凹石	7.60	10.35	5.00	483.1	輝石安山岩	
444	C-2	磨製石斧	3.05	1.70	0.95	8.7	砂岩	
445	U-1	打製石鏃	1.35	1.65	0.40	0.8	頁岩ob	凹基無茎系
446	S-3	打製石鏃	2.15	2.15	0.70	2.2	頁岩ob	凹基無茎系
447	U-2	打製石鏃	1.60	1.80	0.60	1.3	頁岩ob	凹基無茎系
448	V-3	打製石鏃	2.20	1.75	0.55	1.8	頁岩ob	凹基無茎系
449	S-2	打製石鏃	2.05	1.95	0.45	1.4	頁岩ob	平基無茎系
450	V-1	打製石鏃	2.55	1.55	0.25	0.6	頁岩ob	平基無茎系
451	S-1	打製石鏃	1.90	1.50	0.50	1.2	頁岩ob	凹基無茎系
452	S-1	打製石鏃	1.90	1.60	0.40	1.0	頁岩ob	凹基無茎系
453	V-2	打製石鏃	1.50	1.35	0.25	0.5	頁岩ob	凹基無茎系
454	U-2	打製石鏃	1.90	1.55	0.50	1.4	頁岩ob	凹基無茎系
455	U-2	打製石鏃	1.70	1.65	0.45	1.4	頁岩ob	凹基無茎系
456	S-2	打製石鏃未成品	2.30	1.65	0.45	1.3	頁岩ob	
457	U-2	石錐	1.80	1.45	0.50	1.60	頁岩ob	
458	U-4	クウンスクレイパー	2.80	2.50	0.90	5.5	頁岩ob	全面に平坦剥離（薄剥）あり
459	V-2	クウンスクレイパー	3.00	1.90	1.00	5.7	頁岩ob	
460	T-2	直線スクレイパー	2.25	1.65	0.75	2.60	頁岩ob	
461	W-2	掻器	2.75	1.90	0.70	3.0	頁岩ob	
462	W-2	削器	1.80	1.15	0.30	0.6	頁岩ob	
463	S-5	抉入削器	2.10	1.90	0.70	2.5	頁岩ob	
464	U-2	抉入削器	2.15	2.15	1.05	3.3	頁岩ob	
465	V-2	抉入削器	2.60	2.55	1.15	5.8	頁岩ob	
466	V-2	抉入削器	3.00	2.85	1.00	8.0	頁岩ob	
467	V-1	抉入削器	3.50	3.20	1.00	9.8	黒曜ガラス質安山岩	
468	V-2	抉入削器	3.05	2.20	0.80	5.1	チャート	調文？
469	U-2	抉入削器	5.15	5.00	1.45	33.7	ホルンフェルス	縄文晩期？
470	U-2	R F	3.25	2.25	1.05	9.2	頁岩ob	
471	S-2	R F	2.70	1.95	0.90	5.1	頁岩ob	
472	U-2	R F	3.30	2.15	1.15	7.3	頁岩ob	
473	T-2	R F	4.15	1.75	1.15	6.6	頁岩ob	
474	V-2	R F	2.05	1.20	0.55	1.2	頁岩ob	

第 22 表　和泉第 2 遺跡出土石器観察表 7

No.	番号	器種	法量 (cm) 長さ	幅	厚さ	重量	石材	備考
475	D-2	R フ（フロコロ）	1.70	1.45	0.70	1.9	砂岩ob	
476	S-2	U フ	5.25	3.95	0.95	12.9	安山岩ob	
477	D-1	石皿	3.35	2.35	1.95	16.9	安山岩ob	
478	V-2	石棒	2.15	3.80	2.25	15.4	砂岩ob	
479	V-2	石棒	1.75	2.30	1.40	5.3	砂岩ob	
480	U-1	石棒	2.05	2.85	1.20	4.1	輝緑凝灰ob	
481	O-9	剥製石器	1.60	1.65	0.40	1.3	頁岩ob	用途不明遺物
482	O-8	磨製石器未成品	2.45	1.55	0.55	2.4	緑泥片岩	
483	O-7	磨製石器未成品	1.45	1.30	0.25	0.5	サヌカイト	
484	P-7	打製石器	1.75	0.95	0.30	0.4	頁岩ob	旧石器遺跡
485	O-7	打製石器	1.95	1.35	0.35	0.8	頁岩ob	旧石器遺跡
486	N-8	打製石器	1.95	1.65	0.35	1.0	サヌカイト	旧石器遺跡
487	O-9	打製石器	1.35	1.45	0.35	0.5	頁岩ob	旧石器遺跡
488	O-9	打製石器	2.65	1.85	0.55	1.7	頁岩ob	旧石器遺跡
489	I-8	打製石器	1.95	1.60	0.25	0.6	頁岩ob	旧石器遺跡
490	N-10	打製石器未成品	1.85	1.20	0.40	1.1	安山岩	
491	O-7	打製石器	1.95	1.65	0.15	1.0	安山岩	
492	N-10	打製石器	1.95	1.75	0.45	1.1	砂岩ob	旧石器遺跡
493	O-8	打製石器	1.55	2.45	0.60	1.8	安山岩ob	旧石器遺跡
494	O-7	石鏃	3.85	1.40	0.85	4.8	安山岩ob	
495	O-8	石鏃	3.45	5.75	0.85	15.1	サヌカイト	
496	O-9	楔状	4.20	3.40	1.60	14.0	安山岩ob	
497	P-7	楔状	4.90	4.20	1.60	27.99	安山岩ob	
498	O-7	楔状	2.60	2.65	1.85	7.5	安山岩ob	
499	P-7	U フ	3.80	2.10	1.60	10.0	頁岩ob	
500	O-7	投入剥片	2.95	1.90	0.85	4.0	安山岩ob	
501	O-7	石核	3.05	2.65	2.25	16.5	頁岩ob	
502	O-7	石核	3.40	3.80	2.25	35.6	頁岩ob	
503	N-8	円石	6.70	10.90	7.20	839.3	結晶質安山岩	
504	N-8	円石	8.40	10.80	5.70	593.8	輝緑凝灰岩	
505	N-8	円石	9.20	10.10	6.50	872.1	安山岩	
506	O-9	石剣T	7.90	8.80	1.25	127.9	頁岩ob	
507	一括	磨製石剣T成品	6.55	2.65	1.10	32.4	結晶片岩	
508	一括	石剣	7.50	2.15	0.40	2.7	頁岩	
509	一括	磨製石鏃平成品	2.55	1.85	0.35	2.1	結晶片岩	
510	一括	磨製石鏃	1.90	1.40	0.20	0.7	頁岩	平基無茎鏃
511	一括	打製石鏃	1.55	1.65	0.60	1.3	安山岩ob	凹基無茎鏃
512	一括	打製石鏃	2.40	1.55	0.35	1.1	安山岩ob	凹基無茎鏃
513	一括	打製石鏃	2.20	1.85	0.45	1.3	安山岩ob	凹基無茎鏃
514	一括	打製石鏃	1.80	2.20	0.30	0.8	安山岩ob	凹基無茎鏃
515	一括	打製石鏃	1.30	1.30	0.25	0.3	安山岩ob	凹基無茎鏃
516	一括	打製石鏃	3.60	2.05	0.40	1.2	頁岩ob	凹基無茎鏃
517	一括	打製石鏃	2.45	1.90	0.40	1.6	安山岩ob	凹基無茎鏃
518	一括	打製石鏃	2.20	1.55	0.45	1.0	頁岩ob	凹基無茎鏃
519	一括	打製石鏃	1.45	1.40	0.35	0.5	頁岩ob	凹基無茎鏃
520	一括	打製石鏃	2.90	2.00	0.50	1.8	サヌカイト	凹基無茎鏃　縄文早期
521	一括	打製石鏃	2.80	2.25	0.80	4.4	サヌカイト	凹基無茎鏃　縄文早期
522	一括	打製石鏃	2.15	2.10	0.45	1.9	安山岩ob	凹基鏃遺跡
523	一括	打製石鏃	2.55	1.75	0.40	1.4	安山岩ob	凹基無茎鏃　縄文早期
524	一括	打製石鏃	2.65	1.55	0.43	1.5	安山岩ob	凹基鏃遺跡
525	一括	打製石鏃	2.10	1.50	0.30	0.8	安山岩ob	凹基鏃遺跡
526	一括	打製石鏃	2.20	1.70	0.30	0.9	安山岩ob	平基無茎鏃
527	一括	打製石鏃	1.45	1.70	0.30	0.6	安山岩ob	平基無茎鏃
528	一括	打製石鏃	1.50	2.00	0.40	0.9	安山岩ob	凹基無茎鏃
529	一括	打製石鏃	2.80	2.05	0.40	1.1	頁岩ob	凹基鏃遺跡
530	一括	打製石鏃	1.45	1.70	0.35	0.5	安山岩ob	凹基無茎鏃
531	一括	打製石鏃	1.55	1.35	0.35	0.5	頁岩ob	凹基無茎鏃
532	一括	打製石鏃	1.55	1.45	0.45	0.7	安山岩ob	凹基無茎鏃
533	一括	打製石鏃	3.15	1.85	0.50	2.0	安山岩ob	凹基無茎鏃
534	一括	打製石鏃	3.35	2.35	0.85	3.9	砂岩ob	凹基無茎鏃
535	一括	打製石鏃	3.75	1.95	0.55	4.9	安山岩	
536	一括	打製石鏃	3.85	2.45	0.75	4.2	砂岩ob	
537	一括	打製石鏃	3.00	2.25	0.80	3.7	安山岩ob	凹基鏃遺跡
538	一括	打製石鏃	1.95	1.50	0.40	1.2	安山岩ob	
539	一括	打製石鏃	2.95	1.40	0.35	1.5	安山岩ob	
540	一括	打製石鏃	1.50	1.65	0.40	0.9	安山岩ob	
541	一括	打製石鏃平成品	2.65	2.15	0.85	3.7	頁岩ob	
542	一括	打製石鏃平成品	1.90	1.75	0.75	1.2	頁岩ob	
543	一括	打製石鏃平成品	2.95	2.40	0.35	1.5	安山岩ob	
544	一括	石製石鏃二次加工品	1.80	1.05	0.40	0.7	頁岩ob	
545	一括	尖頭状石器	2.10	1.60	0.65	1.7	安山岩ob	
546	一括	楕円石	3.20	1.65	0.80	3.6	安山岩ob	
547	一括	石錐	1.35	1.35	0.55	1.3	安山岩ob	
548	一括	石錐	2.60	0.90	0.60	1.7	安山岩ob	
549	一括	石錐	2.45	1.30	1.25	2.3	安山岩ob	
550	一括	石錐	3.15	1.80	0.90	2.8	安山岩ob	
551	一括	石錐	4.25	1.90	0.95	2.50	安山岩ob	被熱痕跡有
552	一括	石斧	3.65	2.05	0.95	5.7	頁岩ob	
553	一括	扁平状石器	1.80	1.40	0.40	0.82	頁岩ob	

第23表　和泉第2遺跡出土石器観察表8

No.	番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石材	備考
			法量（cm）					
554	一括	縦斧状石器	2.60	2.35	0.80	3.53	粘板ch	再加工
555	一括	石鏃	2.45	3.30	0.55	3.8	サヌカイト	
556	一括	G類	4.85	7.50	0.90	21.4	サヌカイト	
557	一括	サイドブレイド	3.75	1.60	0.65	2.92	安山ch	
558	一括	大型スクレイパー	1.90	1.90	0.75	2.72	頁岩ch	
559	一括	両極スクレイパー	3.25	2.75	1.10	9.63	頁岩ch	
560	一括	スクレイパー	3.40	2.60	1.05	8.0	安山ch	
561	一括	エンドスクレイパー？	7.05	3.95	3.00	57.32	ホルンフェルス	板状のにはナイフか？
562	一括	削器	2.80	3.40	1.10	11.28	頁岩ch	
563	一括	削器	4.10	3.10	1.30	14.42	頁岩ch	
564	一括	コアスクレイパー	1.70	2.60	1.50	6.09	頁岩ch	
565	一括	コアスクレイパー	2.45	4.50	1.90	16.98	頁岩ch	
566	一括	剥器	1.85	1.20	0.35	0.63	頁岩ch	
567	一括	剥器	2.25	2.00	0.40	1.49	頁岩ch	
568	一括	剥器	2.15	2.25	1.00	4.53	頁岩ch	
569	一括	剥器	2.55	2.40	0.70	3.86	頁岩ch	
570	一括	剥器	3.00	2.85	1.15	8.21	頁岩ch	
571	一括	剥器	3.45	3.60	1.40	20.95	頁岩ch	
572	一括	剥器	2.90	1.90	1.00	4.37	頁岩ch	
573	一括	剥器	3.60	2.60	1.00	5.63	頁岩ガラス質変質岩	自然面or被覆・旧石器時か分からない遺物
574	一括	剥器	3.05	2.70	1.10	8.17	ホルンフェルス	
575	一括	剥器	3.10	2.75	1.05	8.20	頁岩ch	クリンクピ岩ch
576	一括	抉入剥器	1.80	1.35	0.45	0.65	頁岩ch	
577	一括	抉入剥器	4.30	2.90	1.35	14.38	頁岩ch	
578	一括	抉入剥器	1.55	2.35	0.80	2.53	頁岩ch	
579	一括	抉入剥器	2.85	2.70	1.00	4.55	頁岩ch	
580	一括	抉入剥器	1.35	1.70	0.40	0.96	頁岩ch	
581	一括	抉入剥器	2.00	1.60	0.70	1.03	頁岩ch	
582	一括	抉入剥器	3.10	1.90	0.80	2.55	頁岩ch	
583	一括	抉入剥器	2.95	2.75	2.10	11.55	頁岩ch	
584	一括	抉入剥器	3.05	2.90	1.10	7.99	頁岩ch	
585	一括	抉入剥器	2.95	1.80	1.20	6.65	頁岩ch	
586	一括	抉入剥器	3.65	3.00	1.20	9.78	頁岩ch	
587	一括	抉入剥器	2.75	2.30	0.80	4.67	頁岩ch	
588	一括	抉入剥器	3.90	2.65	1.15	9.33	頁岩ch	
589	一括	抉入剥器	5.60	3.25	1.40	17.97	頁岩ch	
590	一括	抉入剥器	3.80	2.15	1.30	6.71	頁岩ch	
591	一括	抉入剥器	5.65	2.10	1.45	13.56	頁岩ch	節理沿い剥がされている
592	一括	R.F（コバコロ）	2.90	1.55	1.20	4.5	頁岩ch	
593	一括	U.F	3.20	2.05	1.30	6.3	頁岩ch	
594	一括	石核	5.25	3.70	3.10	60.66	頁岩ch	
595	一括	残核	1.85	1.95	1.30	4.38	頁岩ch	
596	一括	石核	1.60	2.75	1.25	4.96	頁岩ch	
597	一括	石核	2.65	2.85	1.90	18.67	頁岩ch	
598	一括	残核	3.20	4.85	1.80	20.21	頁岩ch	
599	一括	石核	3.00	3.50	2.55	24.86	頁岩ch	
600	一括	残核	1.65	1.55	1.60	3.73	頁岩ch	
601	一括	石核	7.40	3.25	1.95	19.92	頁岩ch	
602	一括	残核	2.20	3.75	1.60	16.18	頁岩ch	
603	一括	石核	2.60	4.25	2.25	27.68	頁岩ch	裏面に剥離あり
604	一括	残核	2.90	3.60	2.30	14.73	頁岩ch	
605	一括	細石核母材	1.95	3.25	5.10	30.12	サヌカイト	旧石器
606	一括	残核	3.20	3.15	1.70	14.79	頁岩ch	
607	一括	残核	3.50	2.90	1.90	14.01	チャート	母岩か？
608	一括	凝灰質頁岩	7.85	4.75	1.30	73.1	凝灰質頁岩	
609	一括	磨製石斧	10.55	4.90	2.80	201.2	頁岩	
610	一括	磨製石斧	8.35	4.60	2.55	177.3	粘板岩	
611	一括	磨製石斧	9.40	4.95	2.10	172.1	粘板岩	
612	一括	磨製石斧	14.50	7.05	4.45	650.1	変成岩	
613	一括	磨製石斧	5.00	5.05	1.75	37.3	粘板岩	
614	一括	敲石	8.25	6.10	3.55	171.1	輝緑凝灰岩	
615	一括	敲石	5.10	4.95	2.15	78.4	石英	
616	一括	凹石	9.95	8.95	7.80	870.8	変成岩	

写 真 図 版

和泉第2遺跡
I区全景

和泉第2遺跡
I・Jグリッド

和泉第2遺跡
1号住居跡

和泉第2遺跡
1号住居跡完掘状況

和泉第2遺跡
1号住居跡内土坑遺物
出土状況1

和泉第2遺跡
1号住居跡内土坑遺物
出土状況2

和泉第２遺跡
５号土坑遺物出土状況

和泉第２遺跡
２・３号土坑（東から）

和泉第２遺跡
２・３号土坑（北から）

和泉第２遺跡
Ａ－Ｃグリッド全景

和泉第２遺跡
７号住居跡検出状況

和泉第２遺跡
７号住居跡完掘状況

和泉第2遺跡
6号住居跡

和泉第2遺跡
2号溝、5・11号住居跡

和泉第2遺跡
Ⅲ区全景

和泉第２遺跡
Ⅲ区Ｑ～Ｔグリッド

和泉第２遺跡
中世山城堀切

和泉第２遺跡
鉄製茶釜出土状況

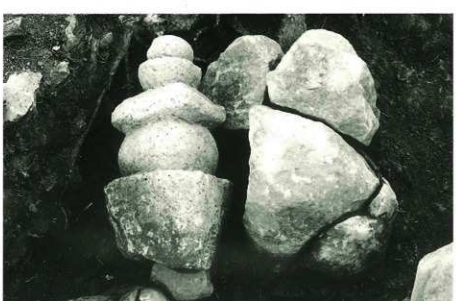
和泉第2遺跡
中世土坑

和泉第2遺跡
中世土坑完掘状況

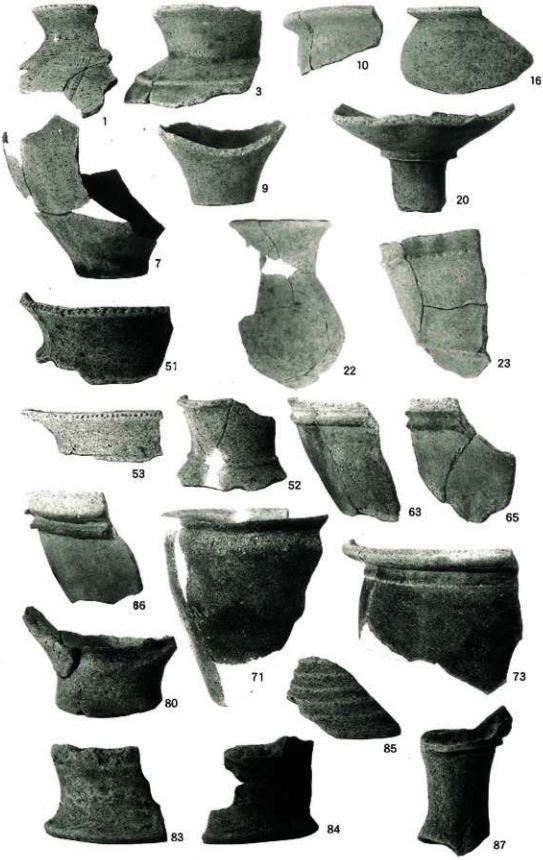
和泉第2遺跡
中世周溝（南から）

和泉第2遺跡
中世周溝（西から）

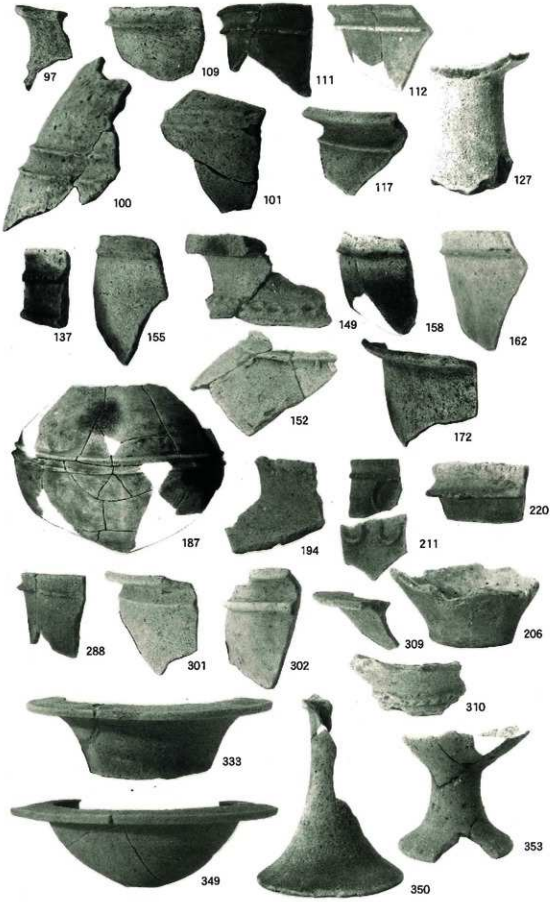
和泉第2遺跡
15号住居跡遺物出土状況



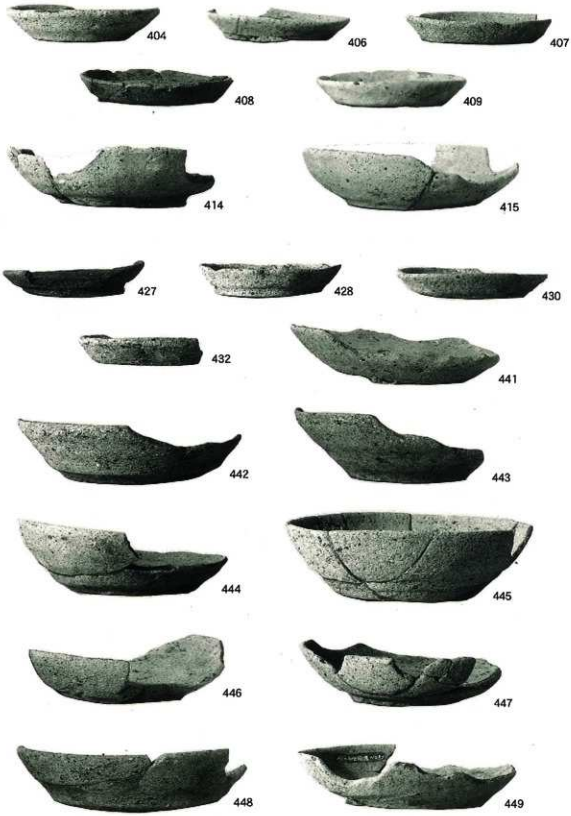
和泉第2遺跡
一石五輪塔出土状況



和泉第2遺跡出土土器1



和泉第2遺跡出土土器2



和泉第２遺跡出土土器３

498

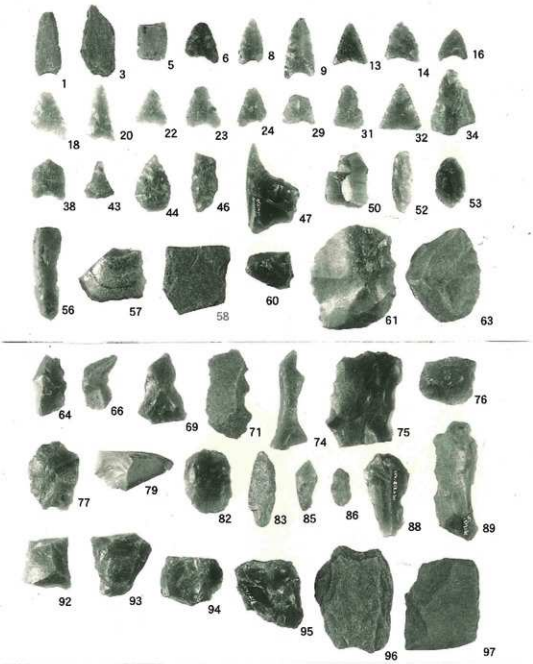
525

620

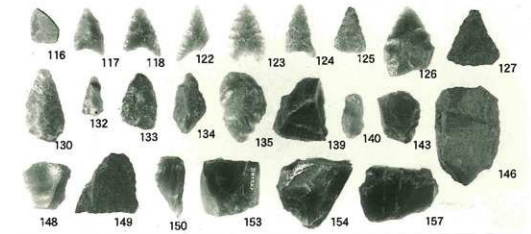
621

622

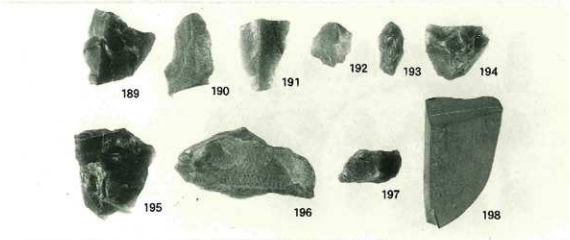
和泉第２遺跡出土遺物



和泉第２遺跡１号住居跡出土石器

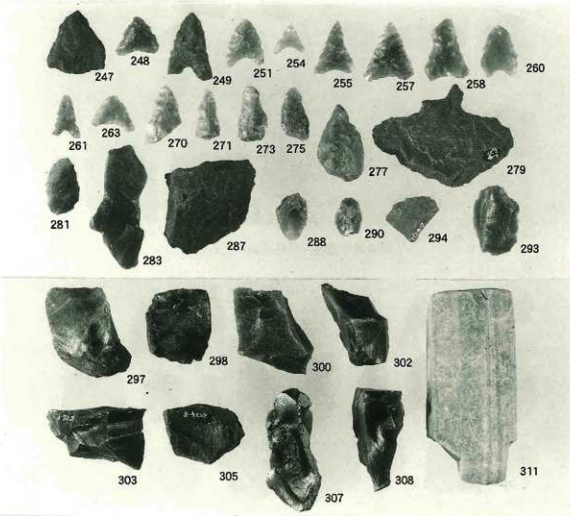


和泉第２遺跡２号住居跡出土石器



和泉第2遺跡 10号住居跡出土石器

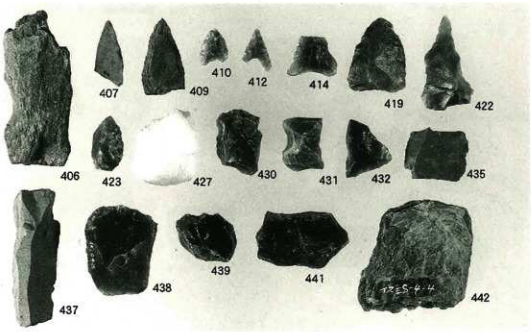
和泉第2遺跡 3号住居跡出土石器



和泉第2遺跡 G・Hグリッド包含層出土石器

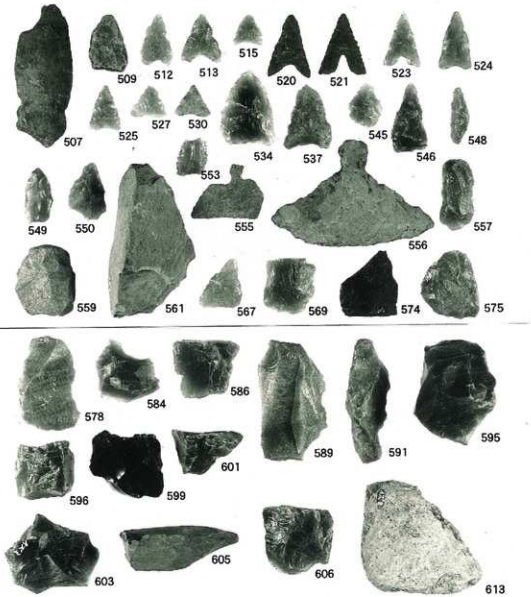
和泉第２遺跡６号住居跡出土石器

和泉第２遺跡７号住居跡出土石器



和泉第２遺跡５号溝出土石器

和泉第２遺跡 OP-78 グリッド出土石器


507
509
512
513
515
520
521
523
524
525
527
530
534
537
545
546
548
549
550
553
555
556
557
559
561
567
569
574
575
578
584
586
589
591
595
596
599
601
603
605
606
613

和泉第２遺跡出土石器

第５章　和泉第２遺跡　近世墓

第１節　調査の概要

本墓地は大分県速見郡日出町大字藤原字和泉 1613 番地にあり、墓地の西に広がる標高約 100m の丘陵端部に造立されている。そこは上城、下城の屋号をもつ吉野両家の人々が葬られている。主家は墓地から水田を挟んで東にあり、墓地より 20 ～ 30m ほど低い場所にある。

当該地点は周知遺跡ではなく、さらに吉野両家の墓約 80 基はすでに移転していたが、墓石の実測・拓影作成の必要があると判断した。そして、墓石の実測・拓影作成は和泉第２遺跡の調査と並行して実施した。

墓標の型式については、以下に示すように分類した。

Ａ類　板碑形

Ｂ類　位牌形で頭部正面がＡ型のもの。

　　Ｂ－１類　花燈形正面１型のもの。

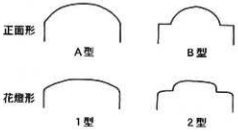
　　Ｂ－２類　花燈形正面２型のもの。

Ｃ類　位牌形で頭部正面がＢ型のもの。

Ｄ類　方柱形

Ｅ類　笠付方柱形

Ｆ類　仏像形



第 161 図　和泉第２遺跡近世墓周辺地形図（1/1000）

第２節　調査の成果

今回は調査開始時点で墓石が移転し、下部遺構も削平されていたため、上部調査にとどめた。墓石配置図は、建設省が用地買収に用いた図面と写真をもとに作成した。墓標の説明については、紀年、墓型式、戒名が確認できる基を対象に行った。被葬者の年齢区分・性別は、成人、幼年、嬰児、女性、男性という表現を用いる。

１～37は上城（うえじょう）の屋号をもつ吉野家の墓である。

1　昭和 39 年（1964）成人男性　（中央）静光院穏質是正居士

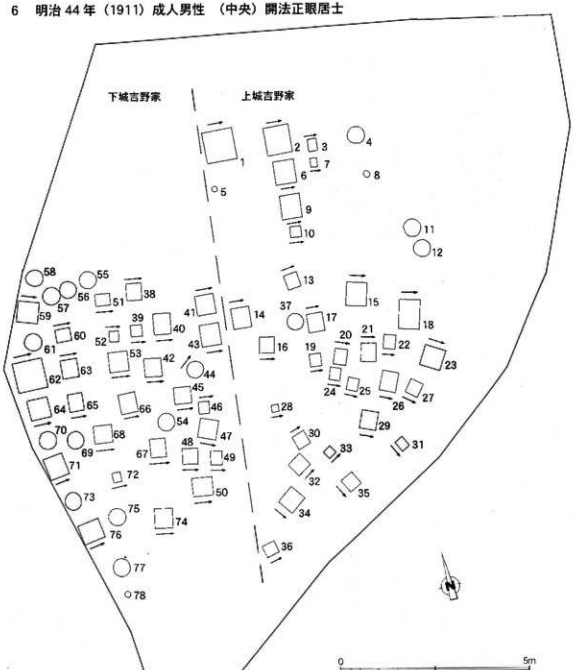
2　昭和 21 年（1946）成人男性　（中央）清光源有居士

3　昭和 15 年（1940）幼年女性　（中央）妙静童女

4　自然石

5　平成２年　（1990）成人女性　（中央）信証院浄芳明寿大姉

6　明治 44 年（1911）成人男性　（中央）開法正眼居士



第 162 図　和泉第２遺跡近世墓墓石配置図（1/100）

7　昭和４年　（1929）幼年女性　（中央）凉秋童女

8　平成３年　（1991）成人男性　（中央）覚峰院自照草然居士

9　大正 13 年（1924）成人女性　（中央）開室妙眼大姉

10　大正 10 年（1921）嬰児　（中央）幻光水子

11　自然石

12　自然石

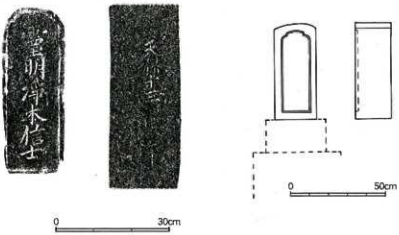
13　明治 22 年（1889）成人男性　（中央）繁林霞栄居士

14　天保 13 年（1842）成人男性（第 163 図）

この墓地のほぼ中央に位置する。近世墓のみでみると中央北端になる。墓標は台石２段をもつ。墓標型式はＢ－２類である。大きさは高さ 50cm、幅 22cm、厚さ 18cm である。凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右面に次のような刻字がある。

（正面）釐明浄本信士

（右面）天保十三壬寅年



第 163 図　和泉第２遺跡 14 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

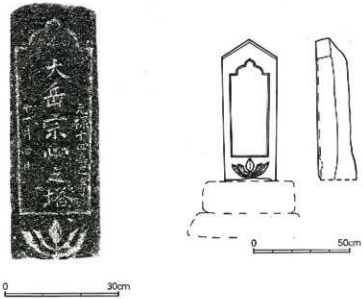
15　元禄 14 年（1701）成人男性（第 164 図）

近世墓のみでみると中央北端にある。墓標は台石２段をもつ。墓標型式はＡ類である。枘は不明、本体下部には上５弁の蓮華文が刻まれている。正面は平滑に仕上げられているが、背面は粗い成形を残す。大きさは高さ 73cm、幅 26～29cm、厚さは上辺で７cm、下辺で 19cm である。凝灰岩で造られている。墓石本体の正面に次のような刻字があり、文字と蓮華は墨入りである。

（中央）大岳宗心之塔

（右側）元禄十四辛巳年

（左側）十一月四日



第 164 図　和泉第２遺跡 15 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

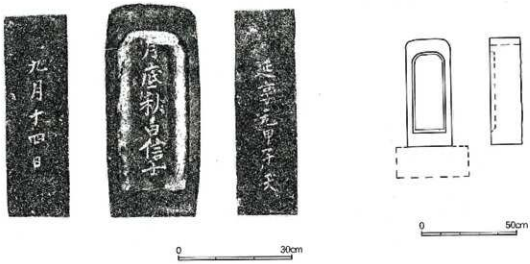
16　延享元年（1741）成人男性（第165図）

14の南に位置し、台石1段をもつ。墓標型式はB－1類である。正面・側面は平滑、背面はノミ跡を残す加工がみられる。大きさは高さ56cm、幅24cm、厚さ17cmである。凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）月底秋白信士

（右面）延享元甲子天

（左面）九月十四日



第165図　和泉第2遺跡16号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

17　元禄5年（1692）（第166図）

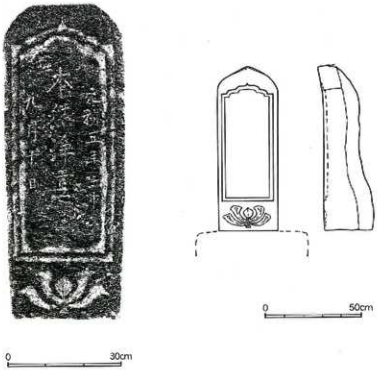
17は14、15、16に囲まれた位置にある。墓標は台石1段をもつ。墓標型式はA類であり、枘はない。本体下部に上5弁の蓮華文が刻まれている。正面は平滑に仕上げられているが、背面は粗い成形を残す。凝灰岩で造られ、大きさは高さ88cm、幅33cm、厚さ10～26cmである。

墓石本体の2段に彫り窪められた花燈形には、次のような刻字がある。

（中央）本然浄蓮

（右側）元禄五年壬申

（左側）九月十日



第166図　和泉第2遺跡17号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

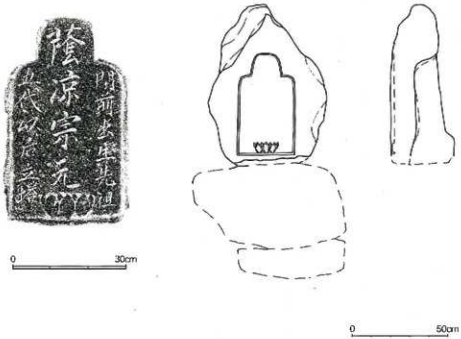
18　成人男性（第 167 図）

15の東に位置した18は、当初は２段の台石上にあり，墓標は自然石の一面を平滑にして、正面を造り出したものである（Ａ類）。成形は粗く、背・側面の面取りは凹凸をなす。本体の大きさは、高さ 84cm、幅 63cm、厚さは下辺で 34cm である。正面の刻込み内下部に蓮華文が刻まれており、その上に戒名、その他が刻まれている。凝灰岩で造られている。

（中央）蔭涼宗元

（右側）門前出生先祖

（左側）五代以后立塔



第 167 図　和泉第２遺跡 18 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

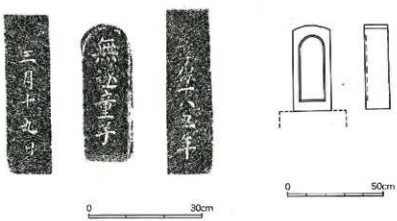
19　享保 18 年（1733）幼年男性（第 168 図）

19 は 17 の南にあり、墓標型式はＢ－１類、１段の台石をもつ。大きさは高さ 45cm、幅 20cm、厚さ 12cm である。凝灰岩製で、正面・側面は平滑、背面はノミ跡を残す加工がみられる。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）無遂童子

（右面）享保十八丑年

（左面）三月十九日



第 168 図　和泉第２遺跡 19 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

20　元禄 14 年（1701）成人女性（第 169 図）

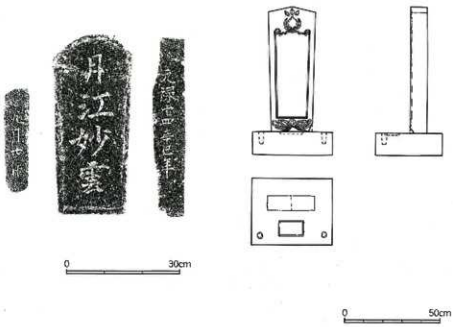
19の東に位置し、線香を立てるための穴と四角の水鉢がある台石１段をもつ。墓標型式はＢ－１類である。墓石本体

は柄を有していない。本体下部に蓮華文が、上部に宝珠が刻まれている。大きさは高さ 66cm、幅は 22 ～ 25cm で上部がやや広い。厚さ 9 cm である。凝灰岩製で、正面は平滑に仕上げられている。墓標は 1 段刳込みの花燈形をもち、正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）月江妙雲

（右面）元禄十四辛巳年

（左面）九月廿日



第 169 図　和泉第 2 遺跡 20 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

21　明治 4 年（1871）成人男性（第 170 図）

21は15の南にあり、墓標は台石 2 段をもつ。墓標型式はＢ－２類である。墓石本体の大きさは高さ 47cm、幅 20cm、厚さ 15cm である。凝灰岩で造られている。正面、右・左面に次のような刻字がある。

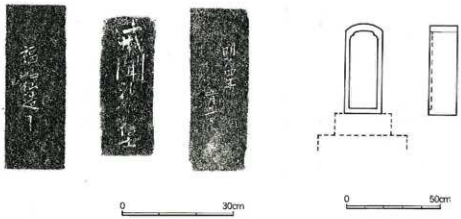
（正面）戒閑法説信士

（右面）明治四年五月二日

（左面）（俗名）１

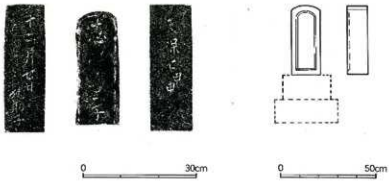
22　天保 7 年（1836）幼年男性（第 171 図）

22は21の南にあり、墓標は台石 2 段をもつ。墓標型式はＢ－２類である。大きさは高さ 37cm、幅 16cm、厚さ 11cm である。凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。



第 170 図　和泉第 2 遺跡 21 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

（正面）恵照童子
（右面）天保七申年
（左面）十二月七日
　　子（俗名）

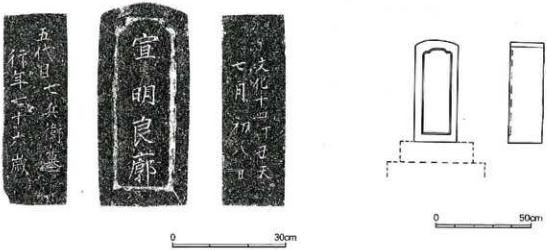


第 171 図　和泉第 2 遺跡 22 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

23　文化 14 年（1817）
成人男性（第 172 図）

23は22の東にあり、墓標は台石 2 段をもち、型式はB－2 類である。墓石本体の大きさは高さ 53cm、幅 23cm、厚さ 18cm で、凝灰岩で造られている。敲打のみの裏面と異なり、平滑に仕上げられた正面は 1 段彫り込められた化燈形をもち、正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）宣明良廓
（右面）文化十四丁丑天　　七月初八日
（左面）五代目（俗名）墓　　行年七十六歳



第 172 図　和泉第 2 遺跡 23 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

24　文久 3 年（1863）幼年男性（第 173 図）

24 は19、20の南にあり、墓標は台石 1 段をもち、型式はB－2 類である。大きさは高さ 46cm、幅 21cm、厚さ 16cm で、凝灰岩で造られている。墓標は刳込みをもち、正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）冬林童子
（右面）文久三亥天　　十一月十二日
（左面）（俗名）　　次男同（俗名）　年十才

刻字から24は30の次男であり、30とは葬送空間を隔てて北にある。

25　明治 11 年（1878）　幼年女性（第 174 図）

自然石の台石 1 段上に凝灰岩の台石 1 段をもつ。墓標型式はD類である。大きさは高さ 39cm、幅

第 173 図　和泉第 2 遺跡 24 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

18cm、厚さ 15cm で、凝灰岩で造られている。墓標は刳込みをもち、本体下部に蓮華文が刻まれている。正面、右・左面に次のような刻字がある。刻字から 6 の長女であることがわかる。

（正面）紅顔禅童女

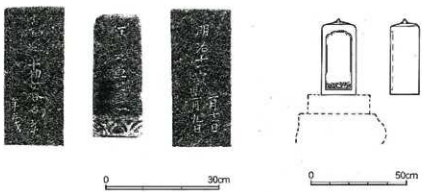
（右面）明治十一寅

　　三月十　日

　　旧二月九日

（左面）（俗名）初女俗名

　　（俗名）年三才

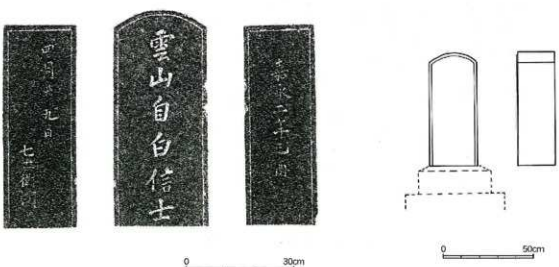


第 174 図　和泉第 2 遺跡 25 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

26　嘉永 2 年（1849）

成人男性（第 175 図）

26 は 25 の東にあり、墓標は台石 2 段をもち、型式はB－



第 175 図　和泉第 2 遺跡 26 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

2類である。墓標の大きさは高さ60cm、幅25cm、厚さ20cmで、凝灰岩で造られている。正面は平滑に仕上げられている。墓標は浮き彫りされた正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）雲山白白信士

（右面）嘉永二年己酉

（左面）四月廿九日（俗名）

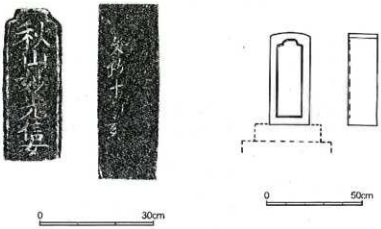
27　文政10年（1827）

成人女性（第176図）

27は26の東にあり、墓標は台石2段をもち、型式はB－2類である。本体の大きさは高さ48cm、幅21cm、厚さ16cmで、凝灰岩で造られている。背面はノミ跡を残す加工がみられる。墓標は側込みをもち、正面、右面に次のような刻字がある。

（正面）秋山妙光信女

（右面）文政十丁亥



第176図　和泉第2遺跡27号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

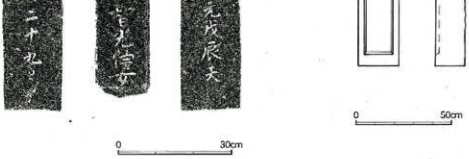
28　寛延元年（1748）成人女性（第177図）

28は墓地中央部で16の南にあり、墓標は台石をもたない。墓標型式はB－1類である。正面・側面は平滑、背面はノミ跡を残す加工がみられる。大きさは高さ52cm、幅22cm、厚さ16cmである。凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）清安智光信女

（右面）寛延元戊辰天

（左面）九月二十九日



第177図　和泉第2遺跡28号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

29　文政2年（1819）成人女性（第178図）

29は25、26の東にあり、墓標は台石2段をもち、型式はB－1類である。正面・側面は平滑、背

面はノミ跡を残す加工がみられる。大きさは高さ 47cm、幅 20cm、厚さ 15cm である。凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）玉宗妙琳信女

（右面）文政 二己卯天

（左面）閏四月八日

第 178 図　和泉第 2 遺跡 29 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

30　明治 20 年（1887）成人男性（第 179 図）

30の型式は笠付方柱形（E類）で、墓石は墓標 1 石、笠部 1 石、台石 1 石の計 3 石からなり、すべて凝灰岩で造られている。笠部の宝珠と笠は 1 石で造られている。墓標本体の規模は高さ 58cm、幅 28cm、厚さ 25cm である。墓石本体の全面と台座の正面、左面に以下のような刻字がある。

（墓標正面）石匠宗頭屏（信）士

石鏤守節信女

（墓標右面）明治二十年　旧十月二十九日

酒にむして肴を

みすにすてふりて

我行きさきは古（宮）不子界

（墓標左面）石方

御國中惣統領

宮覺之承正行

同人ツマ　よか

行年

（墓標裏面）豊前宇佐郡中項加二而五百羅漢五百　十四躰刻揃居丈二尺八寸也

安政六年巳午年ヨリ明治十五年壬巳八月十五日二〇二十四年之間也

羅漢寺東光寺道理和尚之弟子卜成道應卜号ス一宮覺之丞正行吉又也

（台座正面）第子中

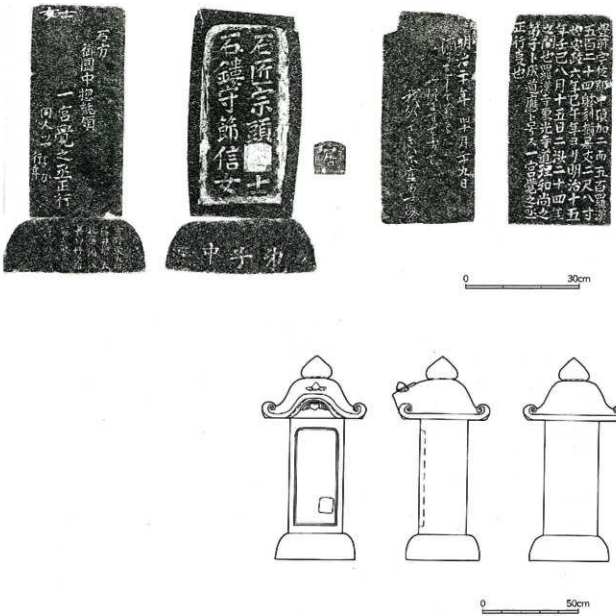
（台座左面）吉野栄太郎

藤井増夫

後藤湯八

長野竹次郎

藤井順二郎



第 179 図　和泉第 2 遺跡 30 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

31　文政 10 年（1827）幼年女性（第 180 図）

29の東に位置し、正面に地蔵を本体下部に蓮華文を半肉彫りする。上面を彫り窪めた台石で固定する。墓標型式は仏像形（F類）である。石材はともに凝灰岩である。地蔵の大きさは高さ 36cm、幅 24cm、厚さ 18cm である。台石正面に次のような刻字がある。

（正面）文政十丁亥天
　　慈明童女
　　二月九日

32　寛保３年（1743）

成人女性（第181図）

墓地の南側に位置し、台石１段をもつ。墓標型式はＢ－２類である。正面・側面・背面とも平滑に仕上げられている。大きさは高さ60cm、幅24cm、厚さ18cmである。凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

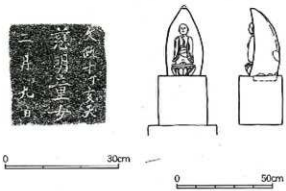
（正面）泰相妙榮信女

（右面）寛保三壬戌天

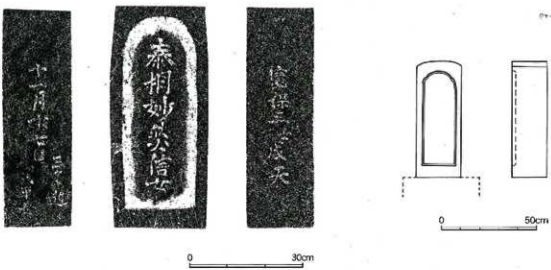
（左面）　　三十二逝

十　月十七日

（俗名）　母



第180図　和泉第２遺跡31号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）



第181図　和泉第２遺跡32号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

33　天保12年（1841）幼年男性（第182図）

33は30、32の東に位置し、台石１段をもつ。墓標型式はＢ－２類である。正面・側面・背面とも平滑に仕上げられている。大きさは高さ36cm、幅18cm、厚さ15cmである。凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）幻露童子

（右面）天保十二丑年

（左面）六月廿二日

（俗名）子

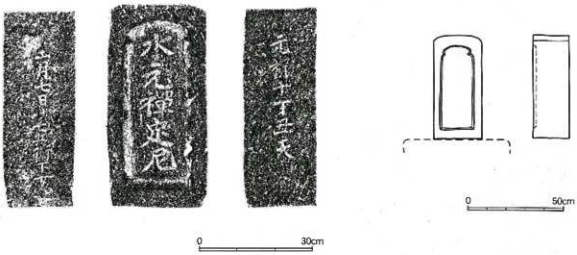
34　元禄10年（1697）成人女性（第183図）

墓地の南側に位置し、墓標型式はＢ－2類である。大きさは高さ53cm、幅26cm、厚さ19cmである。

凝灰岩製で、正面・側面は平滑、背面はノミ跡を残す加工がみられる。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）水元禪定尼
（右面）元禄十丁丑天
（左面）二月七日
　　城（俗名）下女

第 182 図　和泉第 2 遺跡 33 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）



第 183 図　和泉第 2 遺跡 34 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

35　弘化 2 年（1845）幼年女性（第 184 図）

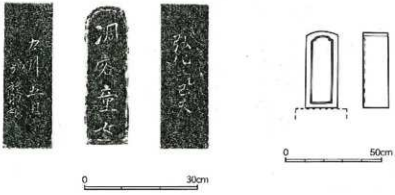
35 は墓地の南東隅にあり、墓標型式はB－2類である。大きさは高さ 35cm、幅 17cm、厚さ 12cm である。凝灰岩製で、正面・側・背面ともには平滑に仕上げられている。

墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）淘容童女
（右面）弘化二乙己天
（左面）九月五日
　　城（俗名）娘

36　享保 10 年（1725）成人男性（第 185 図）

36は墓地の南隅にあり、墓標型式はC類である。大きさは高さ 59cm、幅 25cm、厚さ 20cm である。凝灰岩製で、正



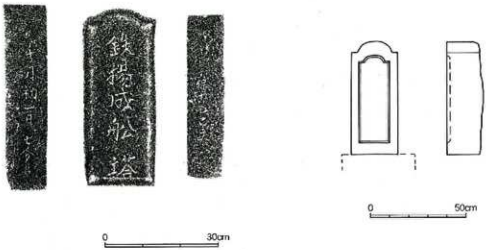
第 184 図　和泉第 2 遺跡 35 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

面・側面は平滑、背面はノミ跡を残す加工がみられる。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）鉄楊成船

（右面）享保十乙巳天

（左面）十月初一日　（俗名）事



第 185 図　和泉第 2 遺跡 36 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

37 自然石

ここからは、下城（したじょう）の屋号を持つ古野家の墓である。

38　安政 4 年（1857）成人女性（第 186 図）

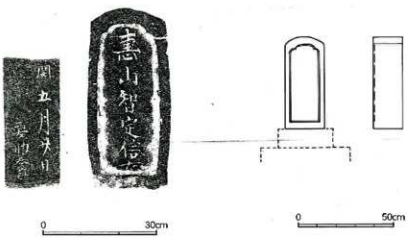
下城吉野家の墓の中では最北に位置し、台石 2 段をもつ。墓標型式はＢ－２類である。正面・側面・背面とも平滑に仕上げられている。大きさは高さ 48cm、幅 22cm、厚さ 15cm である。凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）惠山智定信女

（右面）安政四年

（左面）閏五月廿日

（俗名）養母



第 186 図　和泉第 2 遺跡 38 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

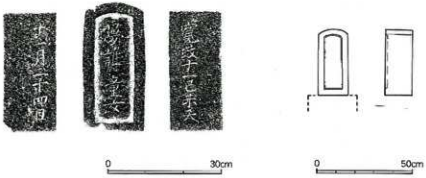
39　寛政 11 年（1799）幼年女性（第 187 図）

38 の南に位置する39は、台石 1 段をもち、墓標型式はＢ－１類である。正面・側面・背面とも平滑に仕上げられている。大きさは高さ 33cm、幅 16cm、厚さ 13cm で、凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）夢誰童女

（右面）寛政卜一巳未天

（左面）卜一月二十四日



第 187 図　和泉第 2 遺跡 39 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

40　天保 11 年（1840）成人男性（第 188 図）

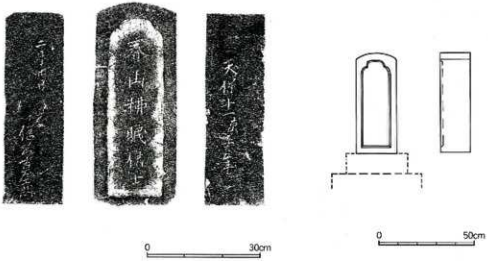
39の東に位置し、台石 2 段をもつ。墓標型式はＢ－２類である。正面・側面・背面とも平滑に仕上げられている。大きさは高さ 53cm、幅 22cm、厚さ 15cm である。凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）春山栄眠信士

（右面）天保卜一庚子年

（左面）二月廿日

俗名　（俗名）

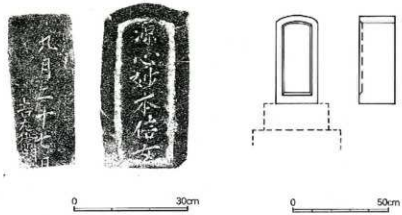


第 188 図　和泉第 2 遺跡 40 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

41　文化 7 年（1810）成人女性（第 189 図）

38の東に位置し、台石 2 段をもち、墓標型式はＢ－１類である。正面・側面・背面とも平滑に仕上げられている。大きさは高さ 47cm、幅 22cm、厚さ 19cm である。凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）源心妙木信女
（右面）文化七
（左面）九月二十七日
（俗名）母

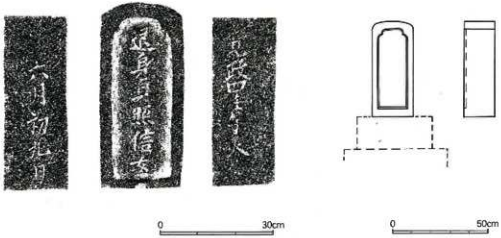


第 189 図　和泉第 2 遺跡 41 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

42　寛政 4 年（1792）成人女性（第 190 図）

下城吉野家の中央やや北寄りに位置し、台石 2 段をもつ。墓標型式はＢ－２類である。正面・側面・背面とも平滑に仕上げられている。大きさは高さ 49cm、幅 22cm、厚さ 17cm である。凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）退身貞照信女
（右面）寛政四壬子天
（左面）六月初九日

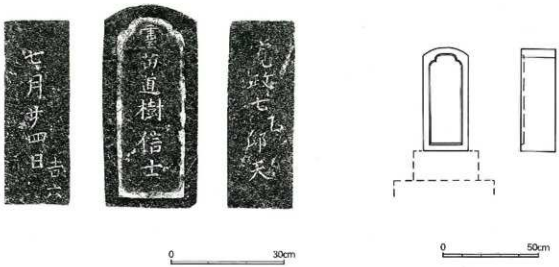


第 190 図　和泉第 2 遺跡 42 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

43　寛政 7 年（1795）成人男性（第 191 図）

41 の南に位置し、台石 2 段をもつ。墓標型式はＢ－２類である。正面・側面・背面とも平滑に仕上げられている。大きさは高さ 52cm、幅 25cm、厚さ 17cm である。凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）霊苗道樹信士
（右面）寛政七乙卯天
（左面）　　（俗名）
七月廿四日



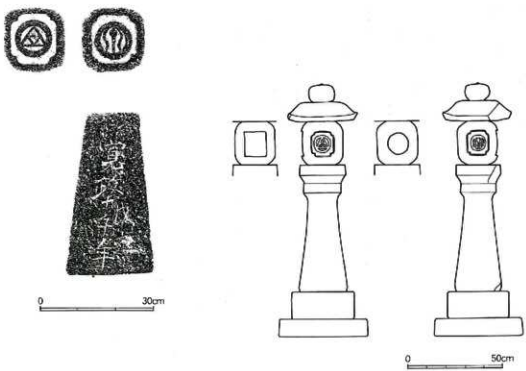
第 191 図　和泉第 2 遺跡 43 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

44　座仏

42 の東に位置する高さ 30cm の石仏である。石材は凝灰岩。東面しており、台座は見つかっていない。

45　寛政 10 年（1798）造立石灯籠（第 192 図）

44の南にあり、宝珠部から台石まで計 6 石で作成されており、いずれも凝灰岩を素材としている。脚体部に「寛政十戊午年」の刻字がある。



第 192 図　和泉第 2 遺跡 45 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

46　宝暦12年（1762）幼年男性（第193図）

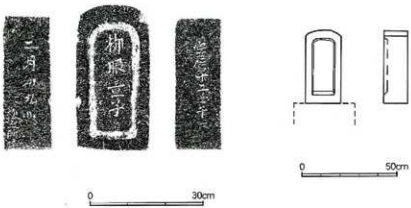
45の南東に位置し、台石1段をもち、墓標型式はB－1類である。正面・側面・背面とも平滑に仕上げられている。大きさは高さ37cm、幅19cm、厚さ11cmで、凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）柳眼童子

（右面）宝暦十二壬午天

（左面）二月初九日

（俗名）



第193図　和泉第2遺跡46号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

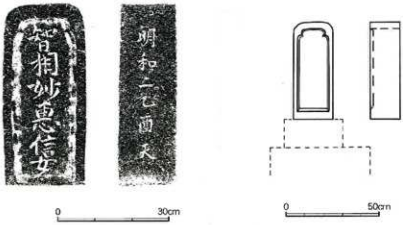
47　明和2年（1765）成人女性（第194図）

46の南に位置し、台石2段をもつ。墓標型式はB－2類である。正面・側面・背面とも平滑に仕上げられている。大きさは高さ47cm、幅22cm、厚さ15cmである。凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）智相妙恵信女

（右面）明和二乙酉天

（左面）十月九日

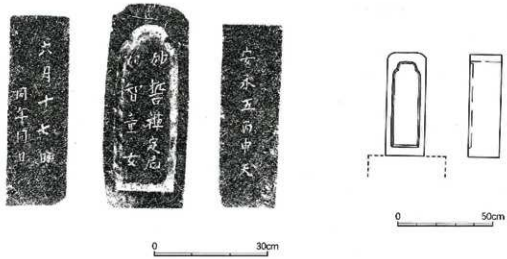


第194図　和泉第2遺跡47号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

48　安永5年（1776）成人女性　幼年女性（第195図）

47の南に位置し、台石1段をもつ。墓標型式はB－2類である。正面・側面・背面とも平滑に仕上げられている。大きさは高さ54cm、幅22cm、厚さ16cmである。凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）妙誓禅定尼
　　妙智童女
（右面）安永五丙申天
（左面）六月十七日
　　同年同月

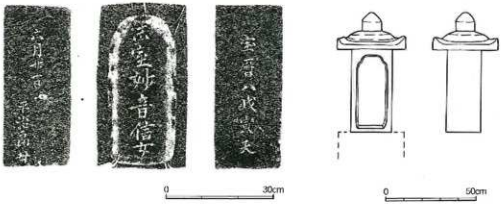


第195図　和泉第2遺跡48号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

49　宝暦8年（1758）成人女性（第196図）

47の南に位置し、台石1段をもつ。墓標型式は笠付方柱形（E類）である。正面・側面・背面とも平滑に仕上げられている。大きさは笠部を含めて高さ67cm、本体は高さ47cm、幅22cm、厚さ16cmである。凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）法室妙音信女
（右面）宝暦八戊寅天
（左面）六月廿一日
　　（俗名）母



第196図　和泉第2遺跡49号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

50　明和２年（1765）成人女性（第197図）

48、49の南に位置し、自然石の台石１段をもつ。墓標型式はＢ－２類である。正面・側面・背面とも平滑に仕上げられている。大きさは高さ55cm、幅24cm、厚さ16cmで、凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）雪岩妙白信女

（右面）明和二乙酉天

（左面）十二月十二日　（俗名）母

第197図　和泉第２遺跡50号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

51　慶應元年（1865）成人女性（第198図）

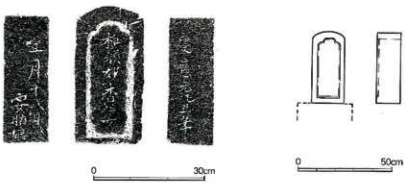
墓地の北側、38の西にあり、台石１段をもつ。墓標型式はＢ－２類である。正面・側面・背面とも平滑に仕上げられている。大きさは高さ37cm、幅18cm、厚さ12cmである。凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）柏顔妙香信女

（右面）慶應元乙丑年

（左面）正月十八日

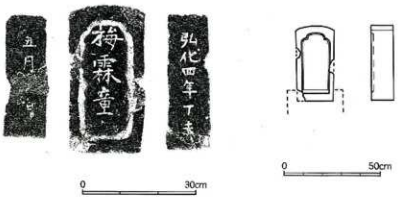
（俗名）娘



第198図　和泉第２遺跡51号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

52　弘化４年（1847）幼児（第199図）

51の南に位置し、台石１段をもつ。墓標型式はＤ－２である。正面・側面・背面とも平滑に仕上げられている。



第199図　和泉第２遺跡52号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

大きさは高さ38cm、幅15cm、厚さ11cmで、凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）梅林童（女）

（右面）弘化四年丁未

（左面）五月〇日

53　文化7年（1810）成人男性（第200図）

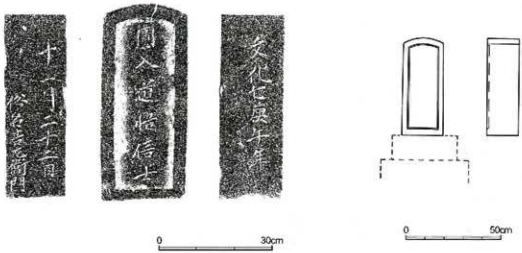
52の南に位置し、台石2段をもつ。墓標型式はB－1類である。正面・側面・背面とも平滑に仕上げられている。大きさは高さ51cm、幅22cm、厚さ17cmである。凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）圓人道悟信士

（右面）文化七庚午年

（左面）十　月　十　日

俗名（俗名）



第200図　和泉第2遺跡53号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

54　自然石

55　自然石

56　自然石

57　自然石

58　自然石

59　昭和17年（1942）成人男性　（中央）透関自徹信士

60　明治24年（1891）成人女性　（中央）一相妙心大姉

61　自然石

62　明治33年（1900）成人男性　（中央）自徳賢性居士

63　明治20年（1877）成人男性　（中央）一山善機居士

64　大正9年（1920）成人女性　（中央）賢室妙性大姉

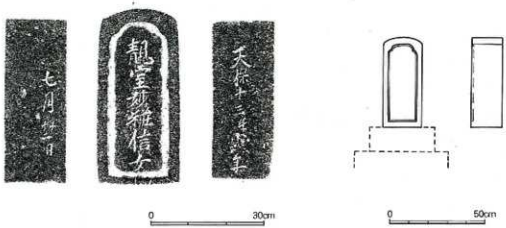
65　天保 13 年（1842）成人女性（第 201 図）

63の南、64の東に位置し、２段の台石をもつ。墓標型式はＢ－２類である。正面・側面・背面とも平滑に仕上げられている。大きさは高さ 45cm、幅 21cm、厚さ 16cm で、凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）静室妙粧信女

（右面）天保十三壬寅年

（左面）七月廿一日



第 201 図　和泉第２遺跡 65 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

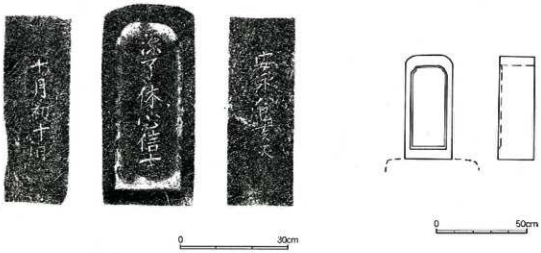
66　安永８年（1779）成人男性（第 202 図）

53の南にあり、自然石の台石１段をもつ。墓標型式はＢ－２類である。正面・側面・背面とも平滑に仕上げられている。大きさは高さ 56cm、幅 26cm、厚さ 18cm である。凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）源了休心信士

（右面）安永八巳亥天

（左面）十月初十日



第 202 図　和泉第２遺跡 66 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

67　安永３年（1774）成人男性（第203図）

48の西に位置し、墓標型式はＢ－２類である。正面・側面・背面とも平滑に仕上げられている。大きさは高さ53cm、幅25cm、厚さ16cmである。凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）賣岸宗誠信士

（右面）安永三甲午天

（左面）正月二日

第203図　和泉第２遺跡67号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

68　文政８年（1825）成人女性（第204図）

65、66の南に位置し、２段の台石をもつ。墓標型式はＢ－２類である。正面・側面・背面とも平滑に仕上げられている。大きさは高さ44cm、幅20cm、厚さ15cmである。凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）即空妙心

（右面）文政八乙酉天

五月廿一日

（左面）（俗名）娘二十四歳

第204図　和泉第２遺跡68号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

69　自然石

70　自然石

71　昭和９年（1934）成人女性　善光妙心大姉

72　文政 12 年（1829）

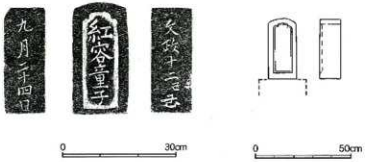
幼年男性（第 205 図）

68の南にあり、台石２段をもつ。墓標型式はＢ－２類である。正面・側面・背面とも平滑に仕上げられている。大きさは高さ 32cm、幅 15cm、厚さ 11cm である。凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）紅容童子

（右面）文政十　己丑

（左面）九月二十四日



第 205 図　和泉第２遺跡 72 号墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

73　自然石　木標　成人男性　吉峰全英居士

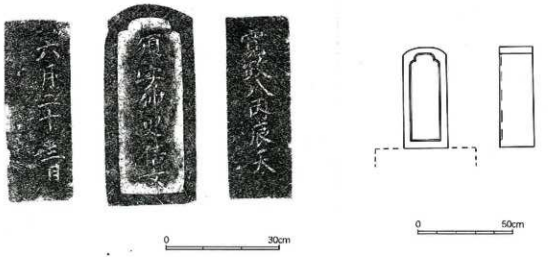
74　寛政８年（1796）幼年女性（第 206 図）

墓地の南に位置し、台石１段をもつ。墓標型式はＢ－２類である。正面・側面・背面とも平滑に仕上げられている。大きさは高さ 53cm、幅 24cm、厚さ 17cm である。凝灰岩で造られている。墓石本体の正面、右・左面に次のような刻字がある。

（正面）須安妙史信女

（右面）寛政八丙辰天

（左面）六月二十三日



第 206 図　和泉第２遺跡 74 号墓実測図及び拓影（1/20・1/20）

75　自然石

76　昭和 14 年（1939）成人女性　（中央）泰雲妙勝大姉

77　自然石

78　木標　平成６年（1994）成人男性　碧善院枝岳篤雲居士

第３節　小結

1. 和泉第２遺跡近世墓の変遷

和泉第２遺跡の墓地をⅠ期からⅣ期に分けて、推移を見てゆきたい。（第 207 図）

Ⅰ期：17 世紀末から 18 世紀前半

和泉第２遺跡の近世墓の始まりの時期で、墓石の紀年名を参照すれば、17 の元禄２年（1692）から 28 の寛延元年（1748）までの間に構築された墓が当該期に属する。

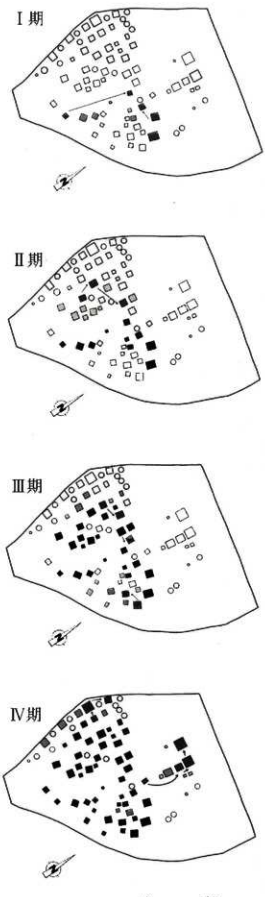
まず、17 が墓域中央部東よりに、正面を東に向けて建立される。続いてその南に正面を同じくして 20 が建立される。17 の被葬者が成人男性で、20 の被葬者が成人女性であることから、両者は夫婦であろう。そして、紀年銘から、17 の男性は最初の「家長」的な立場にあった人物と思われる。その後、墓域の中央寄りに墓は造られていく。その過程で成人男性は、15（1701）、36（1725）、16（1741）と約 20 年ごとに埋葬されており、これらの人物も「家長」的な立場にあったと考える。 18 の自然石の一面を平滑にして、その正面に「蕤凉宗元　門前出生先祖」と刻字された墓は無紀年ではあるが、板碑型の 15、17 と縦に並ぶ様に建てられており、このⅠ期のものと考える。さらには、刻字から 17 以前の「家長」の可能性もある。

以上Ⅰ期墓は、上城吉野家が管理している。

Ⅱ期：18 世紀後半

墓石の紀年名を参照すれば、49 の宝暦８年（1758）から 39 の寛政 11 年（1799）までの間に構築された墓が当該期に属する。それらはⅠ期墓の西に構築されている。現在、すべて上城吉野家が管理している。

Ⅰ期 16 の後、34 年間は成人女性と幼児の墓は５基作られるものの、成人男性の墓は１基も認められていない。これは、次に出る成人男性 67 が「家長」である可能性を示唆している。また、49 の成人女性の墓は笠付方柱形で、他のものとの差別化を図っており、67 の母と考える。67 に続く成人男性は 66（1780）、43（1795）である。これに並ぶように成人女性の墓があることから、次世代は 66 と 42 の夫婦で、その次



第 207 図　和泉第２遺跡　近世墓の変遷

は 43 と 41 夫婦であると考えられる。しかしながら、Ⅰ期 36 以前のものと違い、墓石の形態や規模の上で突出するものではなく、家長的な人物がいても墓には直接顕れなくなっている。

Ⅲ期：19 世紀前半から 19 世紀中頃

Ⅲ期は上城と下城の両吉野家が墓を別々に管理し始める時期にあたる。それは、上城吉野家の墓は墓域の中央東寄りに建てられ、下城吉野家の墓は西寄りに建てられているという具合である。このことは両家が分かれた時期を示すものと思われる。つまり、43 と 41 夫妻の子どもの代で上城吉野家と下城吉野家に分かれたことになる。

この時期の墓は紀年名を参照すれば、上城吉野家の墓は 29 の文政 2 年（1819）から 24 の文久 3 年（1863）までの間に構築された墓が当該期に属する。また、下城吉野家の墓については 41 の文化 7 年（1810）から 51 の慶應元年（1865）までの間に構築された墓が当該期に当たる。

上城吉野家の家長的人物は 23（1817）から 26（1849）へ続くと考える。23 の妻子は横に並ぶ 27 と 31 であり、26 の妻は 29 であろう。この時期、22「礼助子」（1836）、33「礼助子」（1841）、35「城禮助娘」（1845）と立て続けに「礼助」の幼子が亡くなっている。しかし、「礼助」と思われる墓は付近には存在しない。離れた場所に成人男性 14（1842）があるが、これが「礼助」なのか、それとも分家した人物なのかは不明である。

次に下城吉野家であるが、こちらの管理する 41 は 43 の妻であり、「吉左衛門母」である。この時期の下城吉野家の成人男性は 53（1810）、40（1840）で、その俗名はいずれも「吉左衛（ヱ）門」である。このことから、41 と 43 の子どもが 53 で、その子が 40 となり、下城吉野家の家長的人物は 41 の後、53、40 へと移ったことになる。53 の家族については、25 才の娘 68 とその幼子 72 の墓が確認されている。また、40 に関しては、斜め後ろに立ち、戒名の似ている 38 が妻と思われ、その背後には孫娘 51 が葬られている。

Ⅳ期：明治時代以降

この時期の墓は紀年名を参照すれば、上城吉野家の墓は 21 の明治 4 年（1871）から 8 の平成 3 年（1991）までの間に構築された墓が当該期に属する。また、下城吉野家の墓については 63 の明治 20 年（1887）から 59 の昭和 17 年（1942）までの間に構築された墓が当該期に当たる。

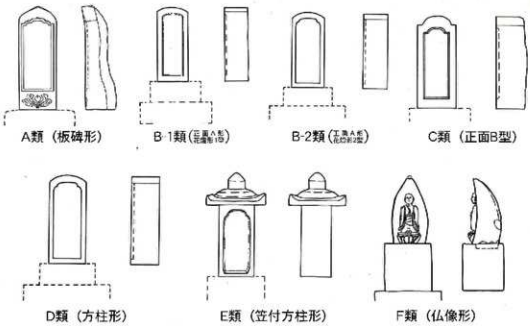
上城吉野家では、宇佐東光寺の五百羅漢の作製に携わった一宮覚之丞正行とその妻を 30 に葬った後、埋葬場所を求めて北側へ展開していく。同様に、下城吉野家も墓域の西隅に沿うように墓を構築していく。

2. 和泉第 2 遺跡近世墓の墓石

和泉第 2 遺跡近世墓にある墓石をＡ類からＦ類の 6 形式に分けて説明する。（第 208 図参照）

Ａ類の板碑形は Ⅰ期元禄年間の銘をもつものが 3 基確認された。成人男性墓は元禄 5 年（1692）と元禄 14 年（1701）の紀年名をもつ。その型式は花燈形の下に上 5 弁の蓮弁をもち、側面観は台形状を呈し、背面の整形度は低い。一方、成人女性墓は同じく元禄 14 年（1701）の紀年でありながら丁寧に仕上げられている。花燈形の上に宝珠を、下には蓮弁を彫り、その側面観は長方形を呈し、背面の整形度は高い。また台石も角石を用い、水鉢や蝋燭立ても付く。

Ｂ類の位牌形は、花燈形の型式でＢ―１類、Ｂ―２類に分類した。Ｂ―１類は享保 18 年（1733）、Ｂ―２類は元禄 10 年（1697）に始まる。Ⅰ期のＢ類位牌形はＢ―２類 1 基のみで、Ⅱ期の 4 基はすべてＢ―１類に属す。Ⅲ期の最初に構築される幼年男性の墓もＢ―１類であり、それ以降はＢ―２類が主流を占める。背面については Ⅰ、Ⅱ期はその整形度が低く、時代とともに高くなっている。側観面についてはすべて長方形である。



第 208 図　和泉第 2 遺跡近世墓型式分類図

C類の位牌形は、享保 10 年（1725）の 1 基のみで、その背面の整形度は低い。

D類の方柱形は、隣接の和泉第 1 遺跡の近世墓では 1790 年代から 1850 年代にかけて中心的に使用されたが、ここでは本体上部先端に突起をもち、花燈形の下部に蓮華文を彫りこんだ明治期の幼児用の墓（1887）でしか確認できなかった。

E類の笠付方柱形は、宝暦 8 年（1758）と明治 20 年（1887）の 2 基が確認された。

F類の仏像形は、文政 10 年（1827）の幼児用の墓石と紀年の不明な座仏の 2 基確認された。幼児用は本体正面に地蔵を半肉彫するもので、いわゆる舟形光背をもつ。また本体下部に上弁のみの蓮華文をもち、その彫刻面は曲面となる。

第 24 表　和泉第 2 遺跡近世墓一覧表 1

墓標番号	西暦	年号	月日	型式	戒名	俗名	性別	年齢	備考
1	1964	昭和 39 年	9 月30日		静光院慈覚是正居士	○	男	70	
2	1946	昭和 21 年	6 月 6 日		清光源有居士	○	男	14	
3	1940	昭和 15 年	9 月20日		妙静童女	○	女	4	
4									自然石
5	1990	平成 2 年	7 月 4 日		信誠院浄芳明寿大姉	○	女	91	
6	1911	明治 44 年	6 月13日		開法正眼居士	○	男	62	
7	1929	昭和 4 年	7 月 6 日		涼秋童女	○	女		
8	1991	平成 3 年	7 月29日		慧峰院自照翠然居士	○	男	68	
9	1924	大正 13 年	8 月 1 日		開蓮妙眼大姉	○	女	70	
10	1921	大正 10 年	12月15日		玄光水子	×			
11									自然石
12									自然石
13	1889	明治 22 年	8 月18日		慈林壽栄居士	○	男	88	
14	1842	天保 13 年		B－2	雪明浄本信士	×	男		
15	1701	元禄 14 年	11月 4 日	A	大岳宗心	×	男		
16	1741	延享 元 年	9 月14日	B－1	月底妙門信士	×	男		
17	1692	元禄 5 年	9 月10日	A	本然浄雲	×	男		
18				A	藤源宗元	×	男		
19	1733	享保 18 年	3 月19日	B－1	無漏童子	×	男		
20	1701	元禄 14 年	9 月20日	A	月辻妙芸	×	女		

墓標番号	西暦	年号	月日	型式	戒名	俗名	性別	年齢	備考
21	1871	明治 4年	5月2日	B－2	戒蘭法說信子	○	男		
22	1836	天保 7年	12月7日	B－1	道隆居士	○	男		
23	1817	文化 14年	7月8日	B－2	宗明良腺	○	男	76	
24	1863	文久 3年	11月12日	B－2	冬林童子	○	男		
25	1878	明治 11年	1月11日	D	紅蓮禪幾女	○	女	3	
26	1849	嘉永 2年	4月29日	B－2	遠山意白信士	○	男		
27	1827	文政 10年		B－2	秋山妙光信女	×	女		
28	1748	寛延 元年	9月29日	B－1	清安智光信女	×	女		
29	1819	文政 2年	閏4月8日	B－1	千宗妙雅信女	×	女		
30	1887	明治 20年	旧10月29日	E	石原栄蔵○士 石鍵守節信女	○ ○	男 女		
31	1827	文政 10年	2月9日	F	慈明童女	×	女		
32	1743	寛保 3年	11月17日	B－2	泰相妙英信女	○	女	36	
33	1841	天保 12年	6月22日	B－2	幻源童子	○	男		
34	1697	元禄 10年	2月7日	B－2	水元智定尼	○	女		
35	1845	弘化 2年	9月5日	B－2	潤雪童女	○	女		
36	1725	享保 10年	10月1日	C	鉄橋成船	×	男		
37									自然石
38	1857	安政 4年	閏5月20日	B－2	感山智定信女	○	女		
39	1799	寛政 11年	11月24日	B－1	夢源童女	×	女		
40	1840	天保 11年	2月20日	B－2	春山禅眠信士	○	男		
41	1810	文化 7年	9月27日	B－1	薫心妙本信女	○	女		
42	1792	寛政 4年	6月9日	B－2	温身貞照信女	×	女		
43	1795	寛政 7年	7月24日	B－2	雲霧道樹信士	○	男		
44									座仏
45	1798	寛政 10年							灯籠
46	1762	宝暦 12年	2月9日	B－1	柳眼童子	○	男		
47	1765	明和 2年	10月9日	B－2	智相妙惠信女	×	女		
48	1776	安永 5年	6月17日	B－2	妙誉禅定尼 妙智童女	× ×	女 女		
49	1758	宝暦 8年	6月21日	E	法室妙智信女	○	女		
50	1766	明和 2年	12月12日	B－2	宮岩妙白信女	○	女		
51	1865	慶應 元年	1月18日	B－2	柏顔妙香信女	○	女		
52	1847	弘化 4年	5月○日	D－2	梅林童（女）	×	(女)		
53	1810	文化 7年	11月22日	B－1	圓入道楽信士	○	男		
54									自然石
55									自然石
56									自然石
57									自然石
58									自然石
59	1942	昭和 17年	6月4日		透岡自徹居士	○	男	29	
60	1891	明治 24年	旧5月8日		一相妙心大姉	○	女		
61									自然石
62	1900	明治 33年	旧2月14日		自徳寶谷居士	○	男	66	
63	1877	明治 10年	旧7月21日		一山等機居士	○	男	81	
64	1920	大正 9年	10月2日		寶室妙性大姉	○	女		
65	1842	天保 13年	7月21日	B－2	静室妙敬信女	×	女		
66	1779	安永 8年	10月8日	B－2	源了休心信士	×	男		
67	1774	安永 3年	1月2日	B－2	實珍宗誠居士	×	男		
68	1825	文政 8年	5月21日	D－2	順空妙心	○	女	24	
69									自然石
70									自然石
71	1934	昭和 9年	4月30日		菩光妙心大姉	○	女	56	
72	1829	文政 12年	9月24日	B－2	紅蓮童子	○	男	2	
73					吉峰全義居士		男		自然石、木標
74	1796	寛政 8年	6月23日	B－2	納安妙史信女	×	女		
75									自然石
76	1939	昭和 14年	12月19日		泰雲妙勝大姉	○	女	36	
77									自然石
78	1994	平成 6年	7月6日		雲善院我益馬霊居士	○	男	69	木標

第６章　和泉第２遺跡　麝香之塔

第１節　遺跡の立地と環境

大分県速見郡日出町大字藤原字城3277番地の金井田川右岸にある大岩の上に２基の石塔があり、古来から麝香塔と呼ばれている。塔が据えられている岩は約８m×６m、高さ1.5mと巨大なものである。この塔は、日出町金松の伊東家が管理しており、東に50mほど行った地点に移転された今でも、毎年２月に塔の前で供養を行っている。傍らに建てられた供養碑には次のように記されている。

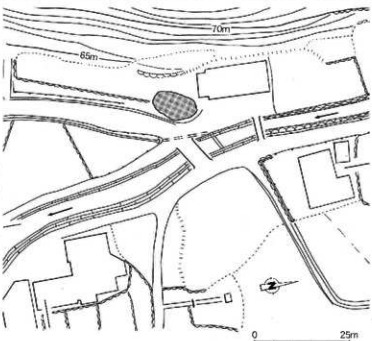
麝香之塔由来

現在ここから後方約50米（m）ほどの小川に径丈余（1000糎）の大石にこの塔二つありて、平成十二年四月国道工事のため移転の已むなくこの大石は取り除かれた。この塔は古来から金松伊東家の管理、供養塔として祀り現在に至って居る。

この塔はこの大石の上に、二基の供養塔あり。その塔の一つは祐道のもので、藤原村を南北二村に分けるよう初代木下延俊公に進言したらしく、そして木下藩主に仕へ江戸にて没したと伝られ、法名翁雲幸公居士なるべし。また一つの塔は、祐道の子祐勝のもので法名通方宗円居士なるべし。この塔二基を人呼んで麝香の塔として、昔から伝られ重宝とされて居るものである。

またこの塔について、帆足萬里は、つぎのような詩を読まれて居る。

曾ハ聞ク翠袖伴フ鹽衣
都ベテ是レ干戈草昧ノ時



第209図　和泉第２遺跡麝香之塔周辺地形図（1/1000）

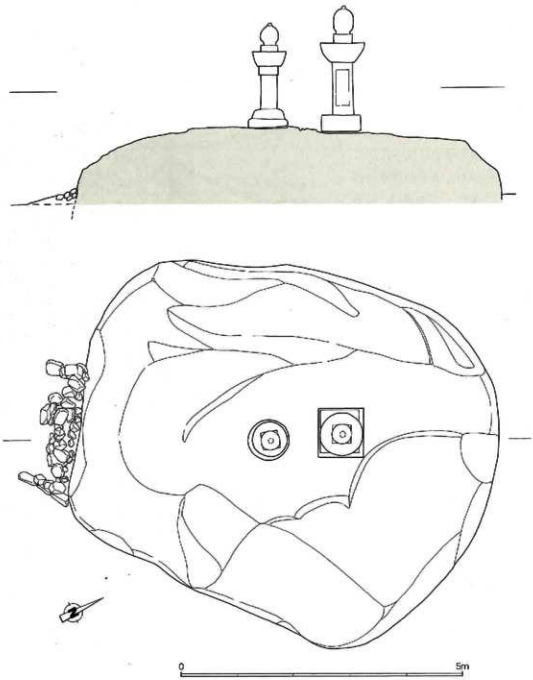
写真11　和泉第２遺跡麝香之塔全景（移転後）

不ヤ見苔碑寒澗ノ上
百年ノ蹤跡使ム人ヲシテ悲シマ
以上のことは、凡そ三二六年余前のことで速見郡志、藤原村史、南藤原図跡考、伊東家系図などからの資料から集められたものである。ここに移築されたのは、平成十三年の十二月である。

伊東家これを建つ

第2節　調査の成果

発掘調査は、次の手順で行った。用地取得後、石塔の移転が行われるまでの間に、付近の平板測量・石塔実測・拓影作成を行う。今回は、平成11年6月15日から23日にかけて実施した。その



第210図　和泉第2遺跡爵香之塔実測図

後、地権者の承諾を得て、平成12年4月に改葬作業に立ち会うこととなった。重機で石塔を動かし、下の大岩を破壊するという手順で行われた。その最、遺物の採取に努めたが確認できなかった。

以下の報告の（　）の寸法は「南藤原図跡考」による。

1号石塔（第211図）

元和8年（1622）伊東祐道

（正面）翁雲幸公

（右面）干時元和八壬戌歳霜月

初八日

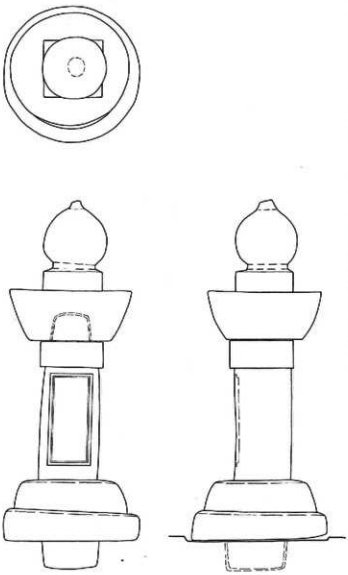
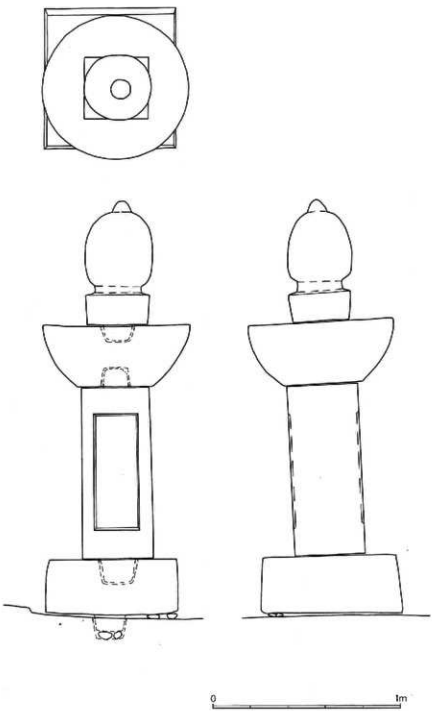


写真10　和泉第2遺跡磨香塔1号石塔

第211図　和泉第2遺跡磨香之塔1号石塔実測図及び拓影（1/20・1/10）

1号石塔は笠から上で1石、塔身から下で1石の合計2石でできており、南を向いて立っている。宝珠は直径34cmで、先端部は欠損している。請花は方形で一辺31cm、これまでの高さは48cm（一尺六寸）。笠部はほぼ円形をしており上部の直径64cm、下部の直径42cmで高さは24cm（八寸）ある。塔身は高さ75cm（二尺五寸）、幅30cmを測り、正面は2段に彫り窪められており、そこには内部に墨入れがなされた刻字がある。台座は2段、平面形は径50cmと71cmの円形をしており、その高さは約30cm（一尺）である。台座には大岩とを固定するための枘がある。材質は表面がピンク色を帯びた花崗岩でできている。



第212図　和泉第2遺跡霹香之塔2号石塔実測図（1/20）

第 213 図　麝香之塔 2 号石塔拓影（1/10）

写真 13　和泉第 2 遺跡麝香之塔 2 号石塔

2 号石塔（第 212・213 図）
慶安 2 年（1649）伊東祐勝
（正面）通方宗圓
（裏面）慶安二己丑年
二月廿四日

この石塔は 4 石からできており、南東を向いて立っている。4 石の内訳は宝珠と請花、笠、塔身、台座である。まず宝珠は径 35cm の縦長で、下の請花は一辺 33cm の方形で、合わせた高さは 64cm（二尺一寸）。笠部は平面円形をしており、上部直径は 77cm、下部直径は 40cm で高さ 31cm（九寸）。塔身は高さ 89cm（三尺）、幅 37cm で、刻字のある正面と裏面は 1 段彫り窪められている。台座は 1 段で、一辺約 70cm の平面方形をしており、高さは 30cm（一尺一寸）。それぞれの石を繋ぐための　、枘受けがある。台座は大岩とを固定するために小石を敷いて調整している。石塔の材質は凝灰岩である。

関連資料

池田川の西の邊に大石あり、高さ七八尺斗、徑丈餘、其上に麝香の塔といふあり。古來伊東氏の供養塔といふ。（「南藤原圃跡考」）

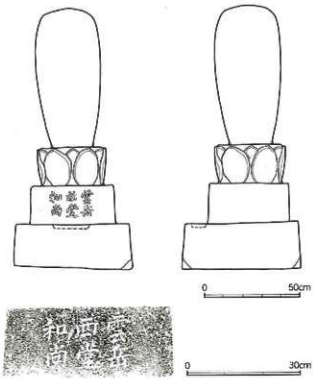
〔麝香塔〕後伊藤祐吉之苗裔代々住持於靈塔寺。羅大友兵燹。而後爲妻帯。大寄附三段七畝。木下伊賀守止之。於是住持玄昌立腹。立麝香塔共婦至肥後國居。宮地阿蘇之林下。草創一字今萬知坊是也。友木付府妙德寺亦同姓也。故同紋。在大津之西　有二塔。一塔銘云、通方宗圓慶安二己丑年二月廿四日。一塔銘云、翁雲幸公元和八霜月八日　人口日是夫妻入肥後而不再還。

（『速見郡志』「大分県郷土史料集成」地誌編）

関連資料２

雲岳和尚墓（第214図）

雲岳和尚墓は、元々ＪＡ日出藤原支所の倉庫前にあったものが、現在は裏手に移築されている。その墓石型式は無縫塔形である。本来は本体、蓮華座、台石２段の計４石で構築されたものであるが、移築された際、接着固定されており、詳細は不明である。蓮華座は上弁を半肉彫する。上部台石正面に「雲岳西堂和尚」と刻字され、下部台石には水鉢が付く。本体頂部から台石下部までの総高は136cmに達する。石材は凝灰岩である。



第214図　雲岳西堂和尚墓実測図及び拓影（1/20・1/10）

写真14　雲岳西堂和尚墓

第７章　和泉第２遺跡　霊藤寺地区

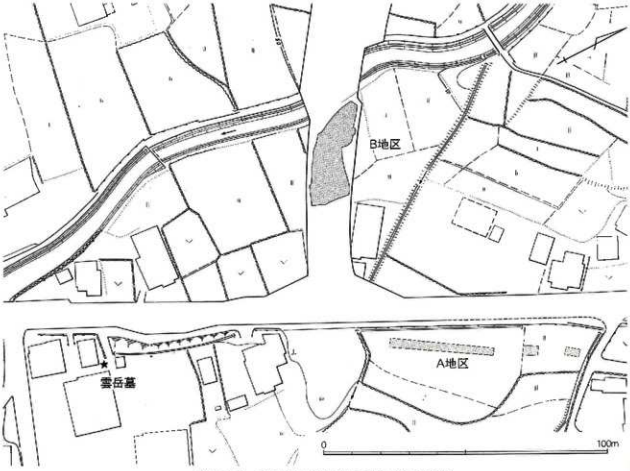
第１節　遺跡の立地と環境

遺跡は大分県速見郡日出町大字藤原字果 3336 番地ほかにあり、金井田川の東側河岸段丘上に立地する。この場所は、横１町、縦２町の広さを持っていた中世禅寺の霊藤寺があったとされる場所にあたることから、ここを霊藤寺地区と名付けた。付近には霊藤寺という屋号の家が最近まで存在していた。また国道 10 号線を挟んで南に 100 mほどいった地点には、霊藤寺住職で能筆家として知られていた雲岳和尚の墓がある。（本来はさらに 20 mほど南にあったようである。）（第 214 図）

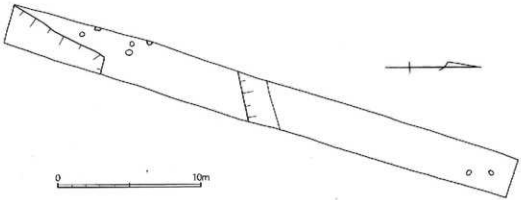
第２節　調査の成果

当地区は、国道 10 号線から日出バイパスへの導入部分と 10 号線拡幅部分にあたることから、建設省（現国土交通省）と協議を行い、平成 12 年 7，8 月に試掘調査を行うこととした。

まず、国道 10 号線から日出バイパスへの導入部分にあたるＢ地区の重機による試掘調査を実施した。金井田川より西の箇所については試掘調査が済んでいたため、今回は川の東側に限って調査を行った。その結果、Ｂ地区の東半分は移転家屋を取り壊す際の廃材を廃棄したとみられる攪乱が広がっており思うような調査はできなかったが、その西側では弥生時代の器台や中世の土師質坏が確認された（第 218 図１、２）ため、西半分については重機で表土を剥いで、引き続き本調査を実施した。



第 215 図　和泉第２遺跡霊藤寺地区周辺地形図



第216図　和泉第2遺跡霊藤寺A地区遺構配置図（1/250）

次に、B地区の調査と並行して、国道10号線拡幅部分のA地区の試掘調査を手がけた。買収が終わった箇所についてのみ重機によるトレンチ掘りを実施した結果、1号トレンチ、2号トレンチからは遺構、遺物とも検出されなかったが、3号トレンチから若干の柱穴及び中世遺物が検出された。しかしながら全体として攪乱が激しかったため、本調査には至らなかった。

B地区の調査概要

当調査区は南北20m、東西35m、面積320m²である。調査区内を南北10m×東西8mの区画（A2～E2）に分け、さらに1m四方のグリッド（a1～h10）を設定し、調査を実施した。その結果、C・E区で中世の柱穴、土坑を検出し、C～E区で縄文時代遺物包含層を確認した。A、B区については金井田川の氾濫による影響を強く受けており、遺構は検出できなかった。

当地区の基本層序は次のとおりである。（第217図）

第1層　表土層　田の耕作土

第2層　一括埋土

第3層　弥生土器、中世の土師質小皿・坏を含む遺物包含層

第4層　縄文時代遺物包含層

第5層　地山層

1. 遺構

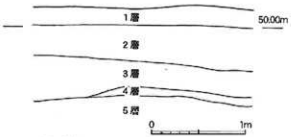
遺構はいずれも中世のもので、柱穴、土坑ともにC1、C2、E1、E2区で検出された。検出面は4層の上面であるが、4層が確認されないC1、E1区は5層上面で検出された。柱穴はC1、2区で16個、E1区で5個、E2区で10個検出したが、これらの組み合わせからなる掘立柱建物や柵列等は復元できなかった。また、土坑については次の3基がある。

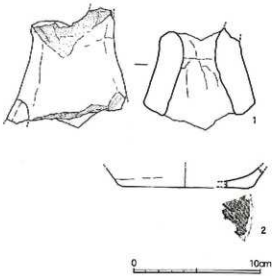
1号土坑（第220図）

D1区とE1区にまたがってある深さ0.65mの土坑である。現状では東西2.1m、南北0.9mを測るが、南、西は調査区外となるため平面形、規模ともに不明である。礫にまじり、中世遺物が多く含まれていた。

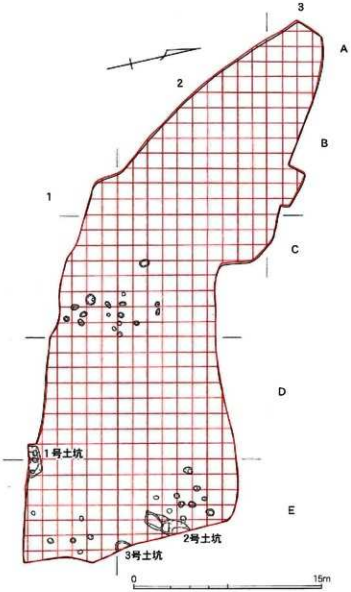
出土遺物（第221・222図）

3～22は土師質小皿で、全体として口縁部が底部の厚さに比べて細く、口縁部先端が尖り気味で開く。口径7.2～8.8cm、底径6.6～7.5cm、器高0.9～1.6cmで、底部はすべて回転糸切りである。23～30は土師質坏で、30を除いて、体部は開かずに直線的に立ち上がる。口径12.2～14.4cm、

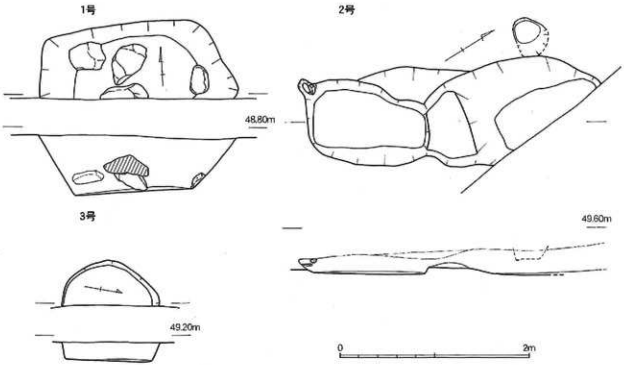




第 217 図　和泉第 2 遺跡霊藤寺 B 地区基本層位　第 218 図　和泉第 2 遺跡霊藤寺 B 地区表採資料（1/3）



第 219 図　和泉第 2 遺跡霊藤寺 B 地区遺構配置図（1/300）



第 220 図　和泉第 2 遺跡霊藤寺地区 1 ～ 3 号土坑実測図（1/40）

底径 8.5 ～ 11.2cm、器高 2.7 ～ 3.4cm で全体として小振りである。30 は体部下半がやや内湾気味に開き、中位に屈曲部を有す。底部はすべて回転糸切りである。34・35 は瓦器碗で 34 の復元口径は 17.0cm、35 は低い三角形の貼り付け高台をもつ。底径 6.5cm。36 は鍔状の突帯をめぐらすもので、瓦質土器釜であろう。37・38 は瓦質土器鍋の胴部。39 は口はげ白磁碗で口縁端部は反る。復元口径 11.5cm。40 は龍泉窯系青磁碗で蓮弁文を施す。復元口径 11.5cm。

2 号土坑（第 220 図）

E 2 区にある東西 3.2 m、南北 1.2 m深さ 0.3 mの土坑であるが、北東部は調査区外となるため平面形、規模ともに不明である。遺物としては中世上師質土器片に混じって、姫島産黒曜石製の大型抉入削器（第 236 図 19）が出ている。

3 号土坑（第 220 図）

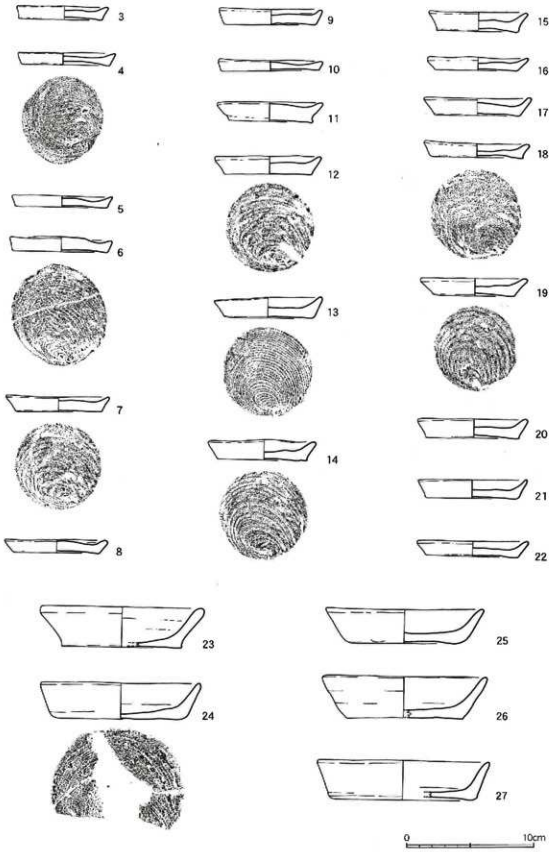
E 1 区と E 2 区にまたがってある円形の土坑である。規模は直径約 1 mの土坑である。東半分は調査区外である。中からは中世土師質土器片が出土した。

2. 包含層出土遺物

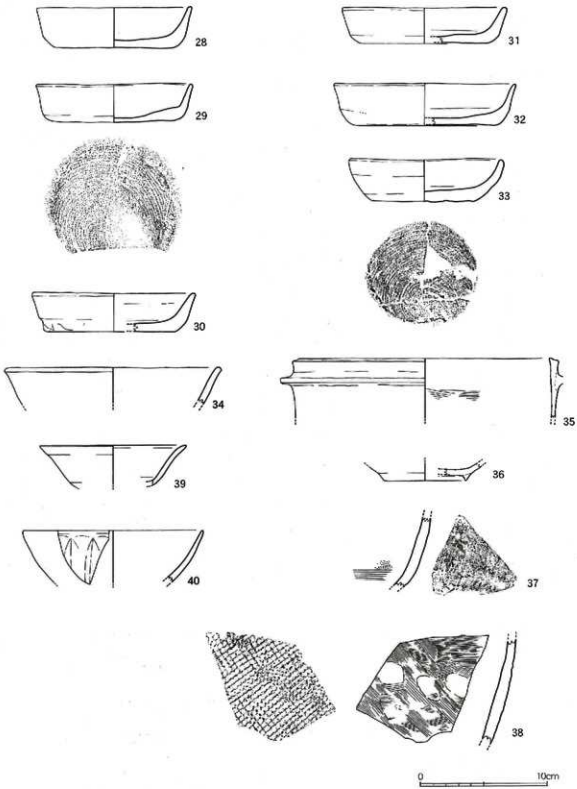
遺構の特定はできないが、3 層中から中世上師質土器が、また 4 層中から縄文時代の遺物が出土しており、これらを包含層出土遺物として取り扱う。

土器（第 223 図～ 225 図）

41・42 は早期土器である。41 は山形押型文で、口縁部に比較的近い部位である。外面と内面上部に横方向の山形文が施文されている。2 D 5 a 区出土。42 は楕円押型文の底部である。41 と同じく 2 D 5 a 区の出土である。



第221図　和泉第2遺跡霊藤寺B地区1号土坑出土土器実測図1（1/3）



第222図　和泉第2遺跡霊蔵寺B地区1号土坑出土土器実測図2 (1/3)

43～48は前期上器で、43・44は塞ノ神式上器で、外面は口縁部から頸部にかけて貝殻縁を利用した刺突列があり、胴部にはその条痕文がみられる。内面はナデ調整がなされる。44は直接接合点は見あたらないが、どちらも２Ｄ５ｆ区から出土したため、同一個体の可能性が高い。45は撚糸文で２Ｄ８ｇ区出土。46は口縁部に２条の突帯を巡らせ、そこに櫛状具で縦に刻みを施している。47は手向山式土器。２Ｄ５ｄ区出土。48の外面は口縁下部に横方向に複数列の刺突文を施されており、内面は貝殻条痕文がみられる。２Ｄ５ｃ区出土。

49～52は後期土器で、49は深鉢土器の口縁部から頸部にかけて沈線文を施す。内面は貝殻条痕。２Ｄ８ｄ区出土。50・51は外面に磨消縄文を施すもので、50は口縁部、51は胴部にあたる。50は２Ｄ４ｅ区、51は２Ｄ10ｆ区でそれぞれ出土した。52の深鉢は内外面に貝殻条痕を施す。２Ｄ９ｃ区出土。

53・54は晩期上器で、53は貝殻条痕を残すが、54の外面は丁寧なミガキがなされている。53は２Ｄ７ａ区、54はＩＣ５ｈ区で出土した。

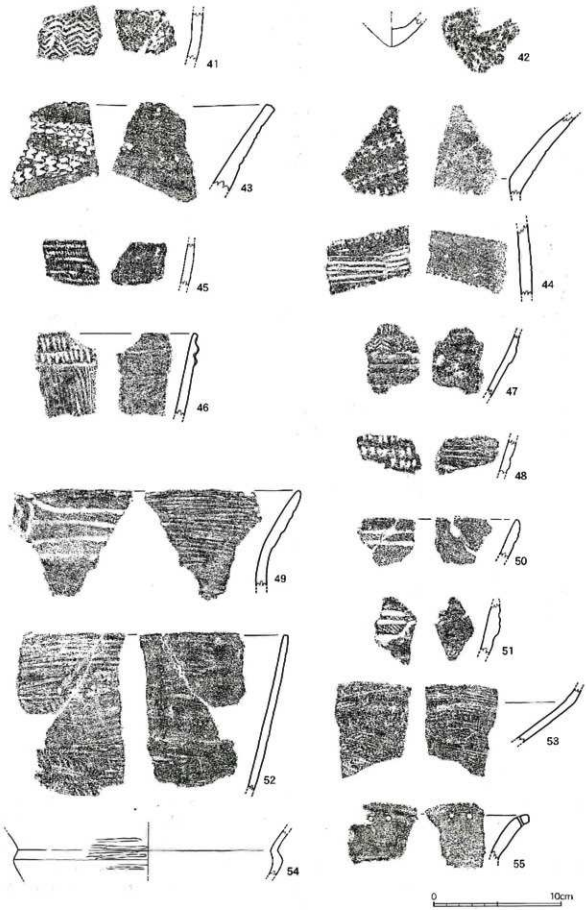
55～57は弥生土器で、56は口縁下部に刻目をもつ１条の突帯をめぐらせた下城式土器。57は上器の底部を利用した２次加工品。２Ｄ４ｆ区の出土。

58～66は中世土師質小皿である。全体として口縁部が底部の厚さに比べて細く、口縁部先端が尖り気味で開く。66は器高が高く、体部が内湾気味に開く。口径7.1～8.6cm、底径6.4～7.5cm、器高0.9～1.6cmで、底部は、58以外はすべて糸切りである。58は２Ｄ６ｈ区、59、64は２Ｅ９ｄ区、60は２Ｅ区、61は２Ｄ４ｇ区、62は２Ｄ９ｈ区、63は２Ｅ９ｃ区、65は２Ｅ８ｃ区、66は３Ｄ５ｄ区でそれぞれ出土した。67～77は土師質坏で、口径11.9～14.0cm、底径8.3～11.0cm、器高2.7～3.3cmで、底部はすべて糸切りである。67、68は２Ｄ６ｈ区、69、70は２Ｅ９ｃ区、71、76、77は２Ｄ８ｇ区、72、75は２Ｄ９ｇ区、73は２Ｅ８ｃ区、74は２Ｄ４ｇ区からそれぞれ出土した。78・79は燭台で、いずれも中央部に穿孔があり、底部は回転糸切りである。ともに２Ｄ８ｇ区出土である。80～85は瓦器碗で80は内外面にミガキが施され、83は底部回転糸切りである。いずれも２Ｄ、２Ｅ区から出土している。86～88は瓦質こね鉢で、86の復元口径は27cmで２Ｄ５ｇ区出土。89は瓦質土器釜で、鍔状の突帯をめぐらす。２Ｅ９ｃ区出土。90は瓦質土器鍋、２Ｄ８ｇ区から出土した。

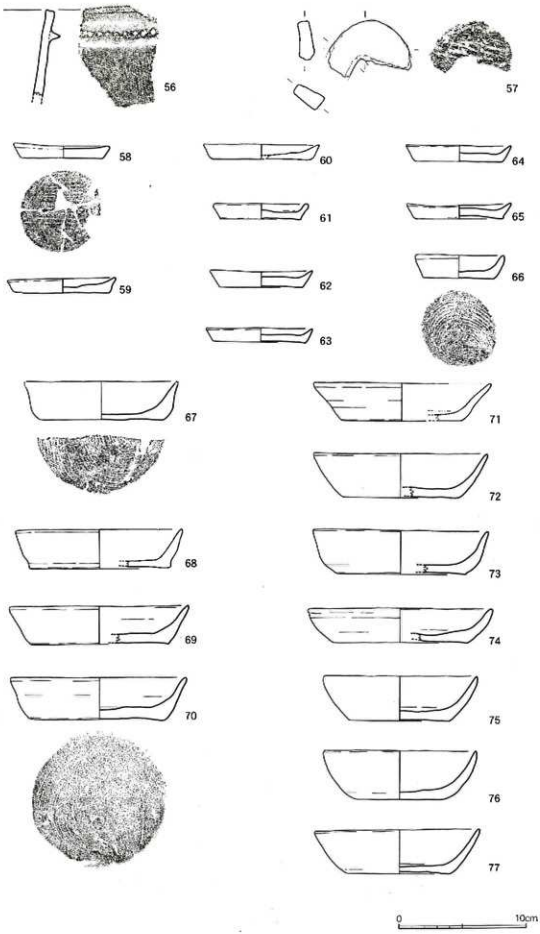
91は備前焼甕。92～94は龍泉窯系青磁碗で、92は飛雲文、93は蓮弁文を施す。95は須恵質甕。

石器（第226図～228図）

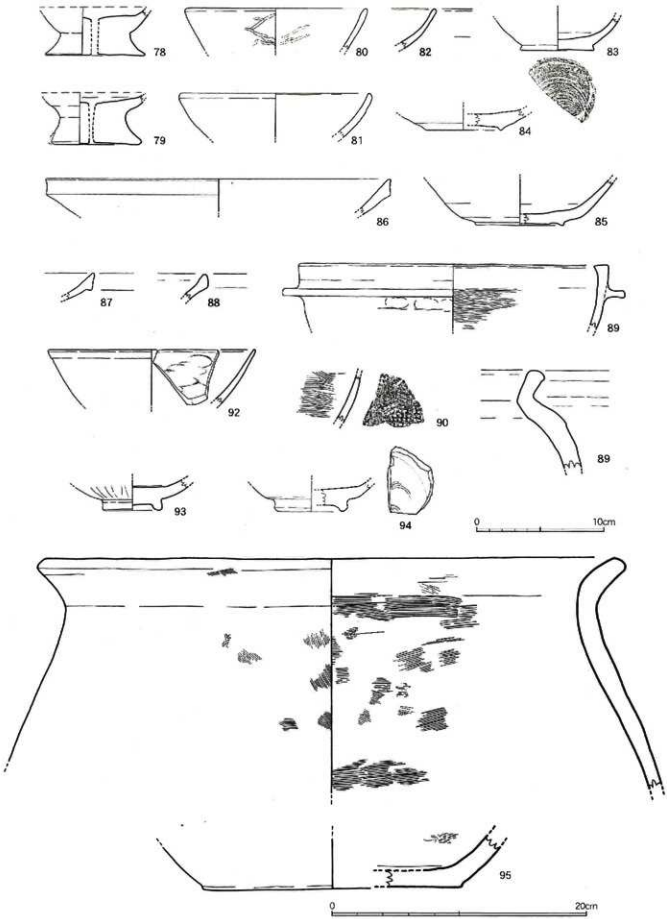
１～11は打製石鏃で、いずれも凹基無茎鏃である。そのうち１・２は基部の抉りの深い鍬形鏃で、１は腰岳産黒曜石製、２は姫島産黒曜石製である。３は抉りがやや深く脚端部が丸い特徴をもつ。４・５は３と同様な抉りであるが脚端部が尖っている。６・７はやや幅広の二等辺三角形で浅い抉り部をもつ。６はチャート製、７は姫島産黒曜石製である。１・２・５・10は２Ｄ区、３・４は３Ｃ区、６は２Ｃ区、７・８・９・11は２Ｅ区から出土した。12は姫島産黒曜石製の石錐で、錐部のみ調整加工が施されたものである。２Ｄ10ｃ区出土。13はサヌカイト製の小型の横匙、14は姫島産黒曜石製の掻器である。15～19は抉入削器で、15以外は姫島産黒曜石製である。15は珪化木製で、縄文時代のものである可能性も考えられる。19は２号土坑から出土した。20～24は削器で、22がサヌカイト製である以外は姫島産黒曜石製である。31は姫島産黒曜石製のクサビ形石器で、２Ｄ７ａ区から出土した。32は姫島産黒曜石製のコアスクレイパー、33～34は石核で、33は小国産黒曜石製、他は姫島産黒曜石製である。



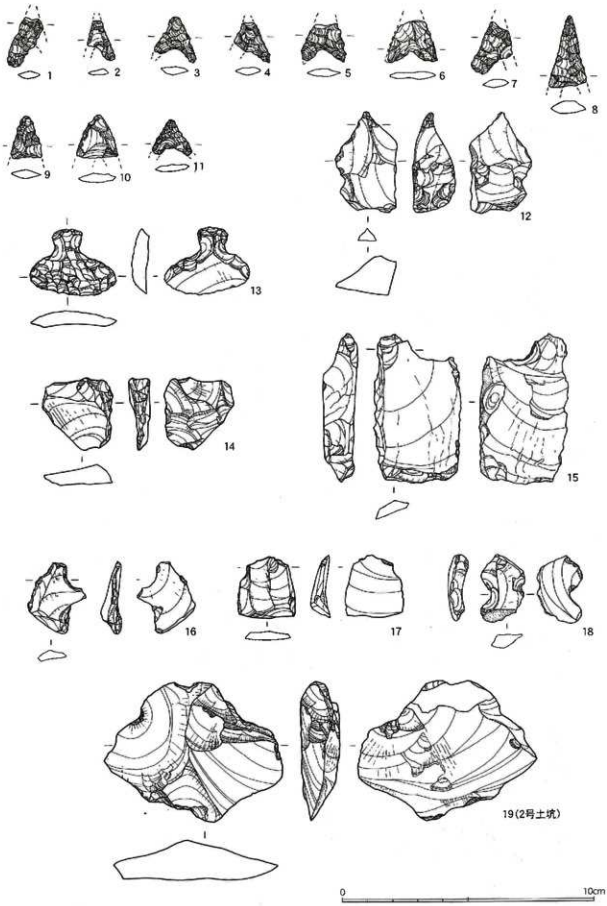
第 223 図　和泉第 2 遺跡雲藤寺 B 地区包含層出土土器実測図 1 （1/3）



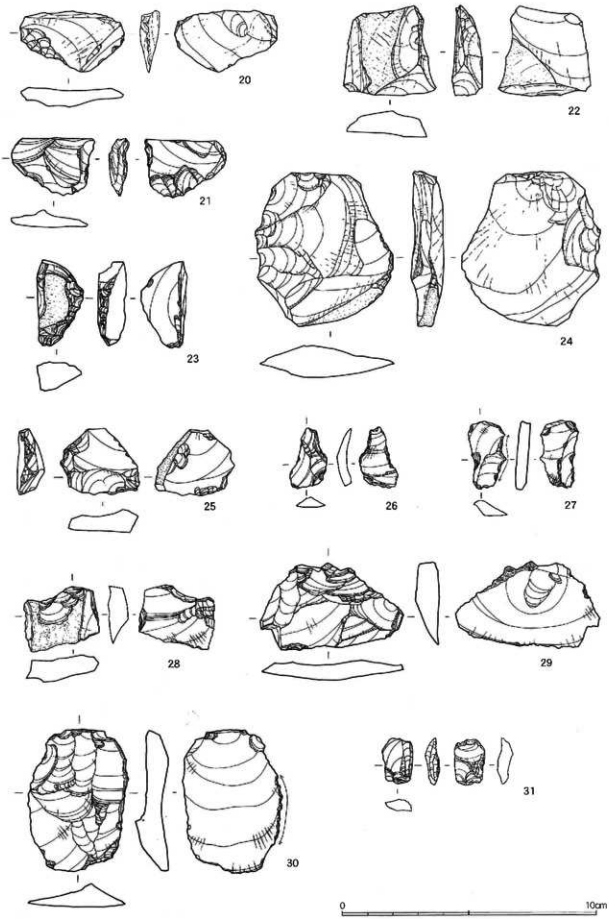
第 224 図　和泉第 2 遺跡霊藤寺 B 地区包含層出土土器実測図 2 （1/3）



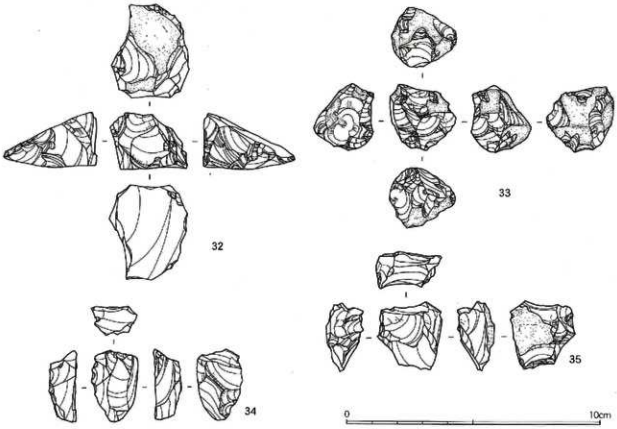
第225図　和泉第2遺跡霊藤寺B地区包含層出土土器実測図3（1/3）



第226図　和泉第2遺跡霊藤寺B地区包含層出土石器実測図1（2/3）



第 227 図　和泉第 2 遺跡霊藤寺 B 地区包含層出土石器実測図 2 （2/3）



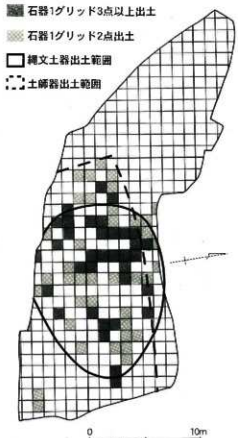
第228図　和泉第2遺跡霊藤寺B地区包含層出土石器実測図3（2/3）

第3節　小　結

和泉第2遺跡霊藤寺地区は、縄文時代の遺物包含層と中世霊藤寺に関わる遺構からなる遺跡である。

縄文早期から晩期までの遺物が同レベルで、また、縄文上器の分布と石器の分布がほぼ重なっていることから川の氾濫等による二次堆積の可能性もある。その包含層から早期の押形文、前期の塞ノ神式土器、手向山式土器、撚糸文、後期の磨消縄文上器、晩期の巻貝縄痕、研磨土器が検出されている。石器は縄文早期の抉りの深い凹基無茎鏃の他、剥片石器が検出された。その石材は285点のうち91%を姫島産黒曜石が占めていた。

中世の遺物としては、中世土師質小皿・坏の他に、燭台、瓦器碗等が検出された。そのうち、1号土坑の土師質土器類は13世紀後半から14世紀前半、包含層出土91の備前焼の大甕は16世紀の所産であることから、中世を通して寺が存在し、創建も13世紀後半まで遡ることができる。



第229図　和泉第2遺跡霊藤寺B地区出土遺物分布図

第25表　和泉第2遺跡　霊藤寺地区出土石器　組成表

石材	姫島ob	腰岳ob	小国ob	サヌカイト	チャート	姫ガ安	結晶片岩	石英	珪化木	総計
点数	259	9	2	5	4	3	1	1	1	285

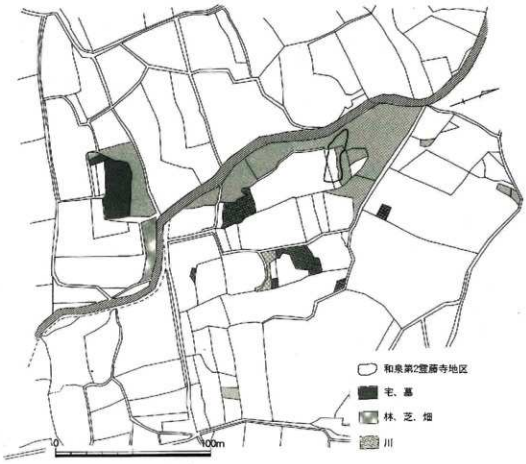
器種	剥片	RF	UF	石鏃	抉入削器	削器	石核	石片	石匙	石錐
点数	166	48	39	11	6	5	3	2	1	1

磨製	楔形石器	コアスクレイパー	総計
1	1	1	285

RF:二次加工痕のある剥片　UF：使用痕のある剥片

中世土師質土器は調査区の北側あるいは西側からは検出できなかった。調査区を字図に重ね合わせる（第230図）と、このラインは芝地と田の境目になる。地目で芝・林とされる箇所が霊藤寺と外部との境界と考えると、中世遺物が検出される範囲は霊藤寺の内部に当たり、今回の調査は霊藤寺内部の北西隅で行われたことになる。霊藤寺にともなう土坑は検出できたが、掘立柱建物や柵列等は確認できなかった。

霊藤寺は寛政8（1796）年に書かれた「南藤原図跡考」によると、横1町、縦2町の寺域を持っていたとされる。その西側の範囲については今回特定することができた。それは北西隅が調査区にあるので、そこから1町行った南西隅は金井山川が東進する箇所にあたり、南限は現在のＪＡの南にある道路がそれに当たると考える。



第230図　霊藤寺位置図

靈鷲寺関連資料

井手村

（前略）

一、説曰。右延俊公御寄進の太刀を　薔通しと云。鍛冶統光栄延俊公より奉納の太刀可鍛と命ありて、潔齋して鍛ひ焼上げみれは統あり、是にては用ひかたしといふて鎚にて打、栄薔の後に投げ捨、重て新に可鍛と思ひ、翌朝、鍛冶場に行てみれは、捨置し以前の太刀、栄薔を横に貫きあり。不思議と思ひ取上みれば以前の疵不見ゆゑに磨上げれは、統光一代め出来物にて、御奉納ありしといふ。

統光由緒の事

一、大友家の手鍛冶に伊東八郎祐益と云あり。一字拝領の後に鎌綱と改む。其子孫に助左衛門統光と云あり。天文、慶長の頃の鍛冶也。鎌綱弟を祐社といふ。二男を二郎三郎俊安といふ。其弟を長行と云ふ。其弟を長勝と云ふ。右之俊安、長行、長勝、千今御家中に数々ありて鎚右衛門打といふ。是、藤原西の鍛冶屋といふ。後、日出に移出て其裔當時鐵砲鍛冶をなす。伊東氏也。又、山香鶴成にも其子孫あり。

舊記あり寫

一、大友義鎮公仕、始天文十五丙午年種ヶ嶋に渡り、初而鐵砲之作法傳授仕。弘治二丙辰八月七日歸國。義鎮公大に悦給、誠二日本無双武器重法天下泰平武家繁昌基也。依之、爲褒美源姓拜鎮之一字、御紋三ノ字二三星。感書相添被下。弟祐社二八平之姓給者也。

弘治四年丁巳年　　臣白杵主馬　勝判

伊東八郎殿　参

右之、祐益社は兄弟にて、車西に分れ、西の鍛冶・東の鍛冶というて、鐵砲鍛冶之始祖に而、古代、靈藤寺の東に住居す。其兩屋敷の間、射場の本といふ地名あり。當時畑となる。是は伊東播磨守か射術執行したる所也。又壹屋敷と云あり。靈藤寺の事也。播磨守住居の屋敷也。西の尾崎に城と云うて少しの背の跡あり、是は攻戦の節、播磨守籠る爲築之。延俊公御入國之後、伊東玄正と云者を、此屋敷に御移被成候由も右之由緒を以て也。右之、舊記、伊東家之裔金松辨濟使武兵衛所持之也。又、上俗の説も右の如し。

和泉村

出水あり。田地敷町に漑く至て冷水也。

一、正德五年、此所に紙漉御仕立有之。下今此所に住居す。出水口。

明和二酉年、水神社建立す。

天滿宮

伊東氏の者建立也。

妙ケ迫

琵琶ノ木

眞宗の堂場あり、仁王正善寺下也。

靈藤寺

古、此所に靈藤寺といふ禪寺あり、何人の開基といふ事を不知。當時藥師堂あり。

木尊藥師如来

脇士十二神　　仁聞の正作也

中古、開山芳林楊和尚、其後は住持不知。古は境内横壹町。縦二町。諸堂悉く備り、旦那二百戸以上も有りしといふ。

説曰。伊東祐吉の孫祐爲は、大友之屬臣にして、一ヶ月に七日臼杵の城番に出仕す。永正四丁卯年七月に祐爲大病に被侵出仕怠慢せり。佞臣の讒言にて、祐爲反逆の風聞あり。於是、大友義鎮、大野十兵衛を遣し、祐爲可捕と評議決定せし、夜、義鎮公夢に老僧枕の辺に立て曰、祐爲は二心なし、疑ふ事なかれ。大病にて参勤延引すといふ事實説也。我は萬松山に住すというて老僧も消去りて夢醒て怪敷思ひ、翌日、大野十兵衛に實否を何來るへしと有りて、十兵衛、祐爲か許に來り伺みれは。實に病に臥たり、よりて、義鎮か夢の次第を語れは、祐爲大に驚き、兼而念する萬松山靈藤寺藥師如来の由來を委敷語る。大野是を聞て頓而歸國し、祐爲か病氣粉なき事、又、藥師如来の靈驗新なる事共、義鎮公江言上なしけれは、疑をはらし給ふと也。祐爲快復の後出仕之節に藥師の靈驗に感し給ひ、寺領田高四石貳斗七升貳合新に寄附あり。其時の住持を雲岳といふ。義鎮公、義統公の信仰によって堂場繁昌す。然に慶長五庚子九月寺宇悉く焼拂ふ。其節、本尊、十二神共に土中に埋て隠したり。其後、伊東祐種といふ者、土中より彿躰を拾ひ出し、少の堂宇建立して本尊を安置す。

一、雲岳といふ僧は能書也。速見八箇所に額奉納いたすと云説あり。大神八幡宮、井手八幡宮、日出八幡宮、津嶋善神王雲岳筆の額あり。其外は知れかたし、定而他領にあるへし。

一、延俊公御入國之上にて寺領被台上、爲藥師祭料、田高五斗御寄附有之。

一、伊東玄正といふ者、城壓敷に任す。寛永の頃欠落して後は金松に移る。辨濟使武兵衛か先祖也。

靈藤寺の事。井手八幡江奉納之大刀の作者統光か事を記す所にも出す。

棟札

大日本國豊州速見郡藤原村萬松山靈藤禪寺住持比丘　全香

謹奉一宇棟梁事　國豊饒盛五穀成熟四民和樂者也

寿永禄十三白　手正月吉黄　敬白

大工次郎左衛門尉吉國府矢野雅樂助調造之

特者大壇那源義統伏以願主藤原鎮次以發起此寺悉皆建之

所如件

右は、慶長以來造營なく堂宇破壞に及ひ、安永八乙亥年　俊懋

君御幼年中御造立有之。

一、靈藤寺堺内に地藏あり。古は、鰐澤にありしか、何の頃とも不知此所に飛給ふといふ。干今鰐澤に地歳堂といふ所あり。此跡跡あり。

（中略）

一、此東に鍛冶屋敷といふあり。西の鍛冶屋敷跡三反畑善太郎と云者の畠也。此子孫當時堀の鐵砲鍛冶伊東家也。東鍛冶屋と云は、當時釈釋迦堂藤内といふ者の畑也。鍛冶統光由緒に詳也。井手八幡御奉納大刀の所に出す。

一、射場の本といふあり。當時江嶋梅藏といふ農夫の畠也。伊東幡摩守か的場也。

（「南藤原圖跡考」）

第26表　和泉第2遺跡雲藤寺B地区出土土器観察表1

No.	番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	胎土 色調	手法 概要 文様
1	一括	器台			(9.0)	角閃・長石 赤色砂多い 明茶褐色	横ヘラ磨研 脚 ナデ
2	一括	土師質土器杯		(10.0)		角閃・長石 砂粒少ない 褐灰褐色	ろくろ成形 脚剥離痕 ナデ
3	1号土坑	土師質土器小皿	7.2	6.6	1.1	角閃・長石 砂粒少ない 淡灰褐色	ろくろ成形 底部糸切り(右回転) ナデ
4	1号土坑	土師質土器小皿	7.3	6.7	1.0	角閃・長石 雲母多い 淡褐色	ろくろ成形(右回転) 底部糸切り ナデ
5	1号土坑	土師質土器小皿	7.9	7.3	0.9	角閃・長石 砂粒少ない 淡灰褐色	ろくろ成形 底部糸切り(右回転) ナデ
6	1号土坑	土師質土器小皿	8.0	7.5	1.2	角閃・長石 砂粒多い 淡明褐色	ろくろ成形(右回転) 底部糸切り ナデ
7	1号土坑	土師質土器小皿	8.1	6.8	1.2	角閃・長石 砂粒多い 淡明褐色	ろくろ成形(右回転) 底部糸切り ナデ
8	1号土坑	土師質土器小皿	8.1	6.7	1.0	角閃・長石 砂粒少ない 明褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
9	1号土坑	土師質土器小皿	8.1	7.2	1.2	角閃・長石 砂粒少ない 淡褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
10	1号土坑	土師質土器小皿	8.2	7.7	1.1	角閃・長石 砂粒多い 淡褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
11	1号土坑	土師質土器小皿	8.3	6.6	1.5	角閃・長石 砂粒少ない 明褐色	ろくろ成形 底部糸切り(右回転) ナデ
12	1号土坑	土師質土器小皿	8.4	6.9	1.1	角閃・長石 赤色砂多い 淡褐色	ろくろ成形(右回転) 底部糸切り ナデ
13	1号土坑	土師質土器小皿	8.5	6.7	1.6	角閃・長石 赤色砂多い 淡明褐色	ろくろ成形(右回転) 底部糸切り ナデ
14	1号土坑	土師質土器小皿	8.5	7.0	1.6	角閃・長石 砂粒多い 内)淡褐色 外)淡明褐色	ろくろ成形(右回転) 底部糸切り ナデ
15	1号土坑	土師質土器小皿	7.8	6.5	1.5	角閃・長石 砂粒多い 淡灰褐色	ろくろ成形 底部糸切り(右回転) ナデ
16	1号土坑	土師質土器小皿	7.9	6.6	1.0	角閃・長石 砂粒多い 黄褐色	ろくろ成形 底部糸切り(右回転) ナデ
17	1号土坑	土師質土器小皿	8.4	6.7	1.4	角閃・長石 赤色砂多い 黄明褐色	ろくろ成形 底部糸切り(右回転) ナデ
18	1号土坑	土師質土器小皿	8.3	7.3	1.1	角閃・長石 砂粒多い 淡褐色	ろくろ成形(右回転) 底部糸切り ナデ
19	1号土坑	土師質土器小皿	8.5	6.5	1.4	角閃・長石 赤色砂多い 内)淡褐色 外)淡明褐色	ろくろ成形(右回転) 底部糸切り ナデ
20	1号土坑	土師質土器小皿	8.7	7.4	1.5	角閃・長石 砂粒多い 淡黄褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
21	1号土坑	土師質土器小皿	8.6	7.4	1.4	角閃・長石 砂粒多い 淡明褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
22	1号土坑	土師質土器小皿	8.8	7.2	1.3	角閃・長石 砂粒多い 淡褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
23	1号土坑	土師質土器杯	13.0	9.5	3.1	角閃・長石 砂粒多い 淡明褐色	ろくろ成形 ナデ
24	1号土坑	土師質土器杯	17.7	10.0	2.8	角閃・長石 赤色砂多い 淡褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
25	1号土坑	土師質土器杯	12.4	8.5	2.7	角閃・長石 砂粒多い 淡褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
26	1号土坑	土師質土器杯	13.0	9.2	3.2	角閃・長石 赤色砂多い 淡褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
27	1号土坑	土師質土器杯	13.5	11.2	3.1	角閃・長石 砂粒多い 淡褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
28	1号土坑	土師質土器杯	12.2	9.5	3.1	角閃・長石 砂粒多い 淡明褐色	ろくろ成形(右回転) 底部糸切り ナデ
29	1号土坑	土師質土器杯	12.4	9.5	3.0	角閃・長石 砂粒多い 淡黒褐色	ろくろ成形(右回転) 底部糸切り ナデ
30	1号土坑	土師質土器杯	12.8	10.1	3.0	角閃・長石 砂粒少ない 淡褐色	ろくろ成形 底部糸切り(右回転) ナデ
31	1号土坑	土師質土器杯	13.0	10.0	2.8	角閃・長石 雲母多い 淡褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
32	1号土坑	土師質土器杯	14.4	11.1	3.4	角閃・長石 砂粒多い 明褐色	ろくろ成形 底部糸切り(右回転) ナデ
33	1号土坑	土師質土器杯	12.2	8.8	3.3	角閃・長石 砂粒多い 淡褐色	ろくろ成形(右回転) 底部糸切り ナデ
34	1号土坑	瓦質土器鍋	(17.0)			角閃・長石 砂粒多い 暗灰褐色	ナデ
35	1号土坑	土錘	(20.8)			角閃・長石・石英 砂粒少ない 明灰褐色	粘土巻付製作 内)ハケ 外)ナデ
36	1号土坑	土錘		(6.5)		角閃・長石・石英 砂粒少ない 暗灰褐色	粘土巻付製作 ナデ
37	1号土坑	土錘				角閃・長石 雲母多い 内)明褐色 外)黒褐色	内)ハケ 外)格子目タタキ
38	1号土坑	土錘				赤色 砂粒多い 内)淡灰褐色 外)灰褐色	横ヘラ付成形 内)ハケ 外)格子目タタキ
39	1号土坑	口縁鍋	(11.5)			灰白色の粘土	ろくろ成形 ナデ 口縁部
40	1号土坑	竹筒鉤	(14.0)			銀灰色	ろくろ成形 無釉文 全面鉤鉤
41	2D-5a	縄文土器深鉢				角閃・長石 砂粒多い 暗茶褐色	横ヘラ成形 内)ナデ 外)山形文
42	2D-5a	縄文土器深鉢				赤色・長石・石英 砂粒多い 明茶褐色	横ヘラ成形
43	2D-5f	縄文土器深鉢				角閃・長石・石英 雲母・砂粒多い 暗茶褐色	横ヘラ成形 内)ナデ 外)刺突文
44	2D-5f	縄文土器深鉢				角閃・長石・石英 雲母・砂粒多い 暗茶褐色	横ヘラ成形 内)ナデ 外)刺突文・沈線
45	2D-8g	縄文土器深鉢				角閃・長石 砂粒少ない 黒褐色	横ヘラ成形 内)ナデ 外)撚糸文
46	一括	縄文土器深鉢				角閃・長石 白粒多い 内)灰黒色 外)褐灰黒色	横ヘラ成形 内)ナデ 外)刺突文
47	2D-5d	縄文土器深鉢				角閃・長石 砂粒多い 暗茶褐色	横ヘラ成形 内)ナデ 外)撚糸文
48	2D-5c	縄文土器深鉢				角閃・長石・石英 砂粒多い 暗茶褐色	横ヘラ成形 内)磨滅文 外)刺突文
49	2D-8d	縄文土器深鉢				角閃・長石・石英 砂粒多い 灰茶褐色	横ヘラ付成形 内)磨滅文 外)沈線
50	2D-8e	縄文土器浅鉢				角閃・長石・石英 砂粒少ない 黄褐色	横ヘラ付成形 内)ナデ 外)沈線文
51	2D-8f	縄文土器深鉢				角閃・長石・石英 砂粒少ない 淡褐色	横ヘラ付成形 内)ナデ 外)磨滅撚文
52	2D-9c	縄文土器深鉢				角閃・長石 砂粒多い 明茶褐色	横ヘラ付成形 内)磨滅文 外)縄文
53	2D-7a	縄文土器浅鉢				赤色・長石 砂粒多い 暗茶褐色	横ヘラ付成形 内)磨滅文 外)縄文
54	1G-5h	縄文土器浅鉢				角閃・長石 赤色砂多い 内)黒褐色 外)明茶褐色	横ヘラ付成形 ヘラナデ 外)ヘラ状ミガキ
55	1D-6c	縄文土器浅鉢				角閃・長石・石英 赤色砂多い 暗茶褐色	横ヘラ付成形 ナデ 突帯
56	一括	弥生土器壺				角閃・長石 白粒多い 橙灰褐色	横ヘラ付成形 内)ナデ 外)櫛状刷毛 刻目
57	2D-4f	弥生土器2次加工品				角閃・長石 白粒多い 明茶褐色	ナデ
58	2D-6h	上師質土器小皿	7.5	6.5	1.0	角閃・石英 白色砂多い 淡明褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
59	2D-9d	土師質土器小皿	8.5	7.6	1.1	角閃・石英 砂粒少ない 明褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
60	2E	土師質土器小皿	9.1	7.8	1.2	角閃・長石 砂粒少ない 明褐色	ろくろ成形 ナデ
61	2D-4g	土師質土器小皿	7.5	6.4	1.2	角閃・長石 砂粒少ない 明褐色	ろくろ成形 ナデ
62	2D-9k	土師質土器小皿	8.1	6.6	1.3	角閃・長石 赤色砂多い 明褐色	ろくろ成形 底部糸切り(右回転) ナデ
63	2E-9c	土師質土器小皿	8.4	7.4	1.1	赤色・長石・石英 砂粒少ない 明灰褐色	ろくろ成形 底部糸切り(右回転) ナデ
64	2E-9d	土師質土器小皿	8.3	6.9	1.3	角閃・長石 砂粒少ない 茶褐色	ろくろ成形 ナデ
65	2E-8c	土師質土器小皿	8.2	7.1	1.2	角閃・長石 砂粒少ない 赤褐色 底)明褐色	ろくろ成形 底部糸切り(右回転) ナデ
66	2D-8d	土師質土器小皿	7.2	5.8	1.3	角閃・長石 砂粒少ない 明灰褐色	ろくろ成形 底部糸切り(右回転) ナデ
67	2D-6h	土師質土器杯	12.1	9.8	3.1	角閃・長石 雲母多い 淡黄褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
68	2D-6h	土師質土器杯	(13.1)	(11.1)	3.0	角閃・長石 赤色多い 淡灰褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
69	2E-9c	土師質土器杯	14.0	10.8	2.9	角閃・長石 砂粒多い 明褐色	ろくろ成形 底部糸切り(右回転) ナデ
70	2E-9c	土師質土器杯	13.8	10.7	3.3	角閃・長石 赤色砂多い 淡灰褐色	ろくろ成形 底部糸切り(右回転) ナデ
71	2D-8g	土師質土器杯	14.0	9.3	3.0	角閃・長石 砂粒少ない 淡明褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
72	2D-9g	土師質土器杯	13.8	9.2	3.4	角閃・長石 赤色砂多い 明褐色	ろくろ成形 ナデ
73	2E-8c	土師質土器杯	(13.8)	(10.4)	(3.3)	角閃・長石 粗砂少ない 灰黒褐色	ろくろ成形 ナデ
74	2D-4g	土師質土器杯	14.6	10.6	2.6	角閃・長石 砂粒少ない 淡黒褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ

第27表　和泉第2遺跡霊藤寺B地区出土土器観察表2及び石器観察表1

No.	番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	胎土 色調	下地 調整 文様
75	2D－9g	土師皿土器坏	12.2	8.0	3.5	角閃・長石 砂粒少ない 明褐褐色	ろくろ成形 ナデ
76	2D－8g	土師質土器坏	12.2	7.0	3.8	角閃・長石 砂粒少ない 明褐褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
77	2D－8g	土師質土器坏	13.0	8.3	3.4	角閃・長石 砂粒少ない 明灰褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ
78	2D－8g	瓦台		7.9	(3.7)	角閃・長石 砂粒少ない 褐灰褐色	ろくろ成形 底部糸切り(石英痕) ナデ 薄板
79	2D－8g	瓦台		7.8	(3.9)	角閃・長石 砂粒少ない 褐灰褐色	ろくろ成形 底部糸切り ナデ 凹凸
80	2D	瓦質土器鍋	(14.4)			角閃・長石 砂粒少ない 灰黄褐色	ろくろ成形 ナデ後ミガキ
81	2E－8c	瓦質土器鍋	(15.2)			角閃・長石・石英 砂粒少ない 灰白色	ろくろ成形 ナデ
82	2D－6d	瓦質土器鍋				角閃・長石 色粒多い 黒褐色	ナデ
83	2D－7e	瓦質土器鍋		(5.9)		角閃・長石・石英 砂粒多い 灰褐色	ろくろ成形 底部糸切り(石英痕) ナデ
84	2D－5h	瓦質土器鍋		(6.1)		角閃・長石 色粒多い 黒灰色	ろくろ成形 ナデ
85	2C－3d	瓦質土器鍋		6.9		角閃・長石 砂粒少ない 淡灰褐色	ろくろ成形 ナデ
86	2D－8g	瓦質土器こね鉢	(27.0)			角閃・長石 砂粒少ない 灰褐色	ろくろ成形 ナデ
87	2E－8d	瓦質土器こね鉢				角閃・長石・石英 砂粒少ない 淡灰褐色	ナデ
88	2E－8c	瓦質土器こね鉢				角閃・長石・石英 砂粒多い 黒灰褐色	ナデ
89	2E－9c	土鍋	(24.4)			角閃・長石・石英 砂粒多い 内面灰色 外灰褐色	ろくろ成形 縦ヨコ付け痕跡 内ハケ目 外ナデ
90	2D－8g	土鍋				角閃・長石 砂粒少ない 黒褐色	内ハケ目 外ヨコ付け タタキ
91	2C－7b	鍋or焙烙	(43.0)			石英少ない 暗赤褐色	ろくろ成形 ナデ
92	2C－8d	青磁碗	(16.3)			緑灰色	ろくろ成形 施釉 貫入
93	2E－5a	青磁碗		4.2		緑灰色	ろくろ成形 底部外面 施釉 部分的露胎
94	2E－7b	青磁碗		5.7		緑灰色	ろくろ成形 施釉 部分的露胎
95	2D－5d	須恵質土器壺	(16.4)	20.4		角閃・長石 砂粒少ない 灰黒褐色	横ヨコ打ち成形 ハケ目 ナデ

No.	番号	器種	法量 (cmg) 長さ	幅	厚さ	重量	石材	備考
1	2D－7b	打製石鏃	12.2	8.0	8.0	8.0	頁岩産ob	凹基無茎鏃
2	2D－6a	打製石鏃	12.2	7.0	7.0	7.0	鞍馬ob	凹基無茎鏃
3	2C－2f	打製石鏃	13.0	8.3	8.3	8.3	鞍島ob	凹基無茎鏃
4	2C－3h	打製石鏃		7.9	7.9	7.9	鞍島ob	凹基無茎鏃
5	2D	打製石鏃		7.8	7.8	7.8	鞍馬ob	凹基無茎鏃
6	2C－6g	打製石鏃	(14.4)				チャート	凹基無茎鏃
7	2E	打製石鏃	(15.2)				鞍島ob	凹基無茎鏃
8	2E－8a	打製石鏃					鞍島ob	凹基無茎鏃
9	2E－8c	打製石鏃		(5.9)	(5.9)	(5.9)	鞍島ob	凹基無茎鏃
10	2D－6a	打製石鏃		(6.1)	(6.1)	(6.1)	ガラス質安山岩	凹基無茎鏃
11	2E－8c	打製石鏃		6.9	6.9	6.9	鞍島ob	凹基無茎鏃
12	2D－10c	石錘	(27.0)				鞍島ob	
13	2C－9g	石皿					サヌカイト	
14	2D－7a	砥石					鞍島ob	
15	2D－3a	抉入削器	(24.4)				炭化木	縄文期のものか？
16	2C－9h	抉入削器					鞍島ob	
17	2C－9a	抉入削器	(43.0)				鞍島ob	
18	2C－2e	抉入削器	(16.3)				鞍島ob	
19	SX－2	抉入削器		4.2	4.2	4.2	鞍島ob	
20	2D－7b	削器		5.7	5.7	5.7	鞍馬ob	
21	2C－9h	削器	(46.4)	20.4	20.4	20.4	鞍島ob	
22	2C－6f	削器		6.9	6.9	6.9	サヌカイト	
23	2C－7g	削器	(27.0)				鞍島ob	
24	2E－8c	削器					鞍島ob	
25	2C－2e	削器二次加工ある剥片					鞍島ob	
26	2D－7b	RF	(24.4)				鞍島ob	
27	2E－8c	RF					鞍島ob	
28	2D－7a	UF	(43.0)				鞍島ob	
29	2C－6c	UF	(16.3)				鞍島ob	
30	2D－8c	UF		4.2	4.2	4.2	鞍島ob	
31	2D 7a	クサビ形石器		5.7	5.7	5.7	鞍島ob	
32	2C－8h	コアスクレイパー	(46.4)	20.4	20.4	20.4	鞍馬ob	
33	2C－6g	石核	(46.4)	20.4	20.4	20.4	小国産ob	
34	2D－7b	残核	(46.4)	20.4	20.4	20.4	鞍島ob	
35	2C 5g	残核	(46.4)	20.4	20.4	20.4	鞍馬ob	

写 真 図 版

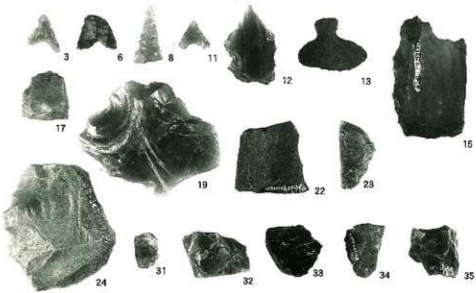
和泉第２遺跡
霊藤寺地区全景

和泉第２遺跡
霊藤寺Ａ地区

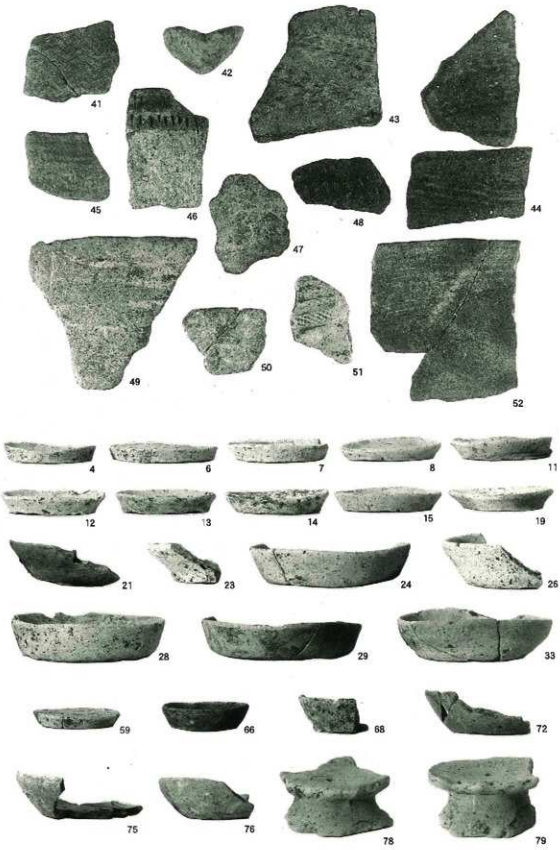
和泉第２遺跡
霊藤寺Ｂ地区２・３号土坑

和泉第２遺跡
霊藤寺Ｂ地区柱穴群

和泉第２遺跡
霊藤寺Ｂ地区１号土坑



和泉第２遺跡　霊藤寺Ｂ地区遺物包含層出土石器



和泉第２遺跡　霊藤寺Ｂ地区出土土器

第８章　東カヤノ原遺跡

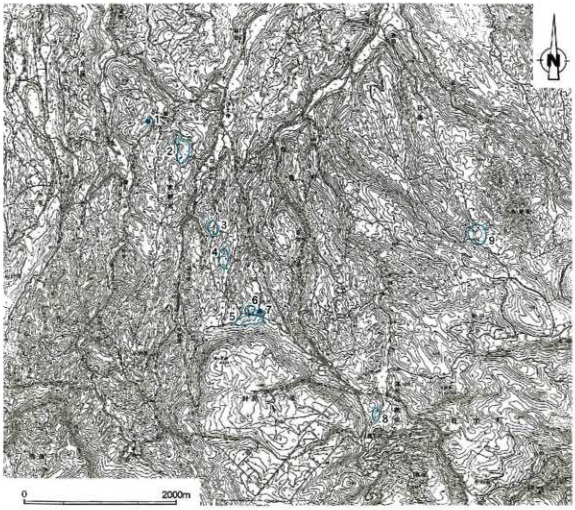
第１節　遺跡の立地と環境

大分県北部の丘陵地帯は、由布岳・鶴見山に代表されるように、火山活動により形成されたものであり、周防灘・別府湾に注ぐ河川はこれらの丘陵部に源を発し、河川の浸食の結果、それぞれの丘陵は険しい細長い尾根を形成している。今回、調査の対象となった東カヤノ原遺跡も、別府湾に注ぐ八坂川水源の丘陵に位置する。遺跡周辺には丘陵が広がり、その地形ゆえ、現在も集落は少なく、雑木林や植林地がそのほとんどを占める。

遺跡の存在にしても、沖積平野の広がる地域に比較すれば、明らかに少なく、そのほとんどが旧石器・縄文時代の遺跡である。

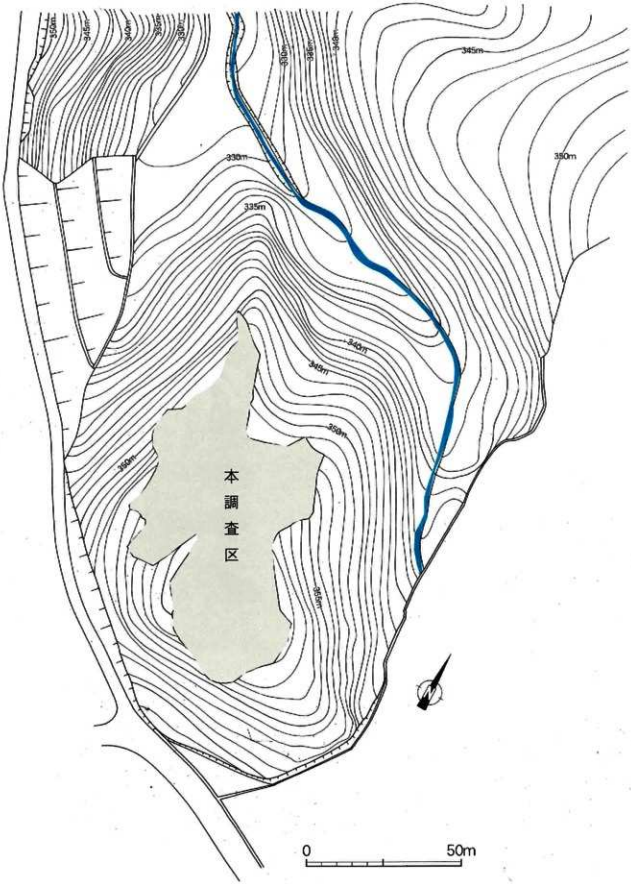
旧石器時代に関しては、目久保第１遺跡において細石刃の時期・ナイフ形石器の時期・ＡＴ下位の時期に属する石器群が出土している。

縄文時代では口野尾遺跡・目久保第１遺跡・目久保第２遺跡などからは、時期が明確でないものの丘陵尾根周縁部において陥し穴群が検出されており、また、口野尾遺跡・目久保第１遺跡からは集石遺構が検出されているものの長期間居住したものとは考えられない状況であった。

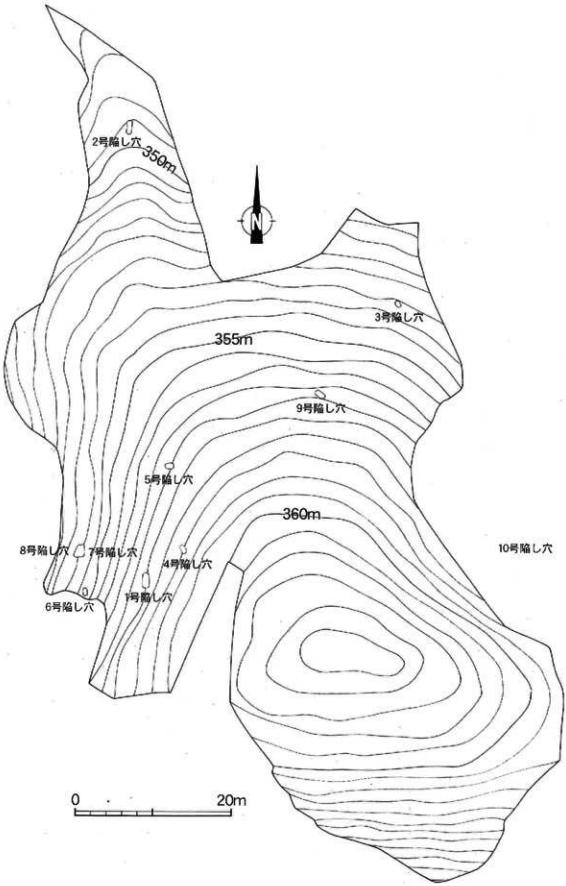


第 231 図　東カヤノ原遺跡周辺遺跡分布図

1、畑古墳（古墳）　2、口野尾遺跡（陥し穴群ほか、旧石器・縄文）　3、目久保第１遺跡（陥し穴群ほか、旧石器・縄文）
4、目久保第２遺跡（陥し穴群ほか、旧石器・縄文）　5、須久保遺跡（包蔵地・集落、縄文・中世）　6、東カヤノ原遺跡
7、須久保塚古墳（古墳）　8、尾形第１遺跡（包蔵地、縄文）　9、鳥屋遺跡（包蔵地、縄文）



第 232 図　東カヤノ原遺跡調査区周辺地形測量図



第 233 図　東カヤノ原遺跡遺構位置図

これらの遺跡から、東カヤノ原遺跡周辺では定住をはじめとした長期滞在の遺構は確認できず、短期間のキャンプ地などの性格を持つ遺跡が群在することが想定でき、陥し穴の検出例が多いことからも狩猟の場として位置付けられていたことがわかる。

第2節　調査の概要

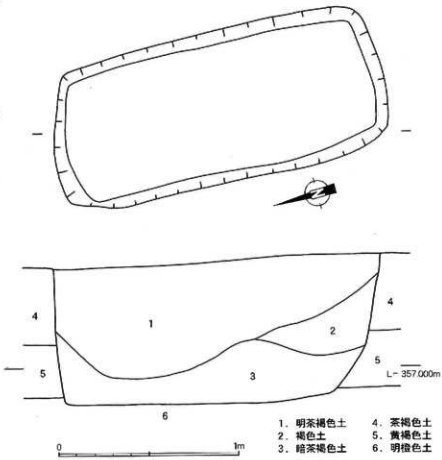
調査区は標高363mの独立丘陵の尾根上に位置する。北西・北東・南にはそれぞれ谷が入り、谷を隔て南側には須久保遺跡が位置する。調査は、まず丘陵の緩斜面を中心にトレンチを設定し、試掘調査を行った。重機により厚さ30cm程度の表土を除去し、地山上を人力により精査した。その結果、地山上には陥し穴と思われる土坑のプランが確認できたため、緩斜面部を本調査対象地として表土を全面除去した。陥し穴の埋土が非常に判別しにくかったため何度も精査を繰り返し、また、雨後の乾湿状況の微妙な差を見極めて遺構の検出を行った。遺構検出の結果、合計9基の陥し穴を発見した。このほかにも本調査区外の道路切通し等において陥し穴状の落ち込み断面が確認できる場所も見られたため付近一帯の同様な地形には陥し穴が存在した可能性がきわめて高いと考えられる。

第3節　遺構と遺物

（1）遺構

1号陥し穴（第234図）

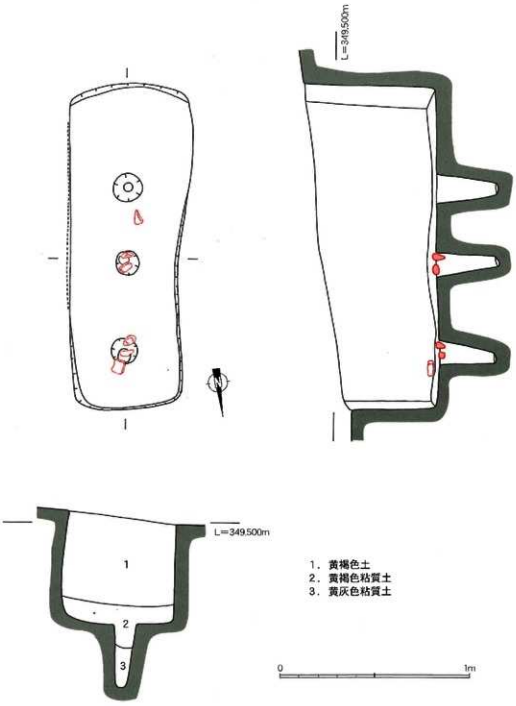
長軸を等高線に平行させ掘られた隅丸長方形の上坑である。規模は上面で長さ130cm、幅85cmを測り、底面で長さ175cm、幅70cmを測る。また、遺構検出面からの深さは80cmを測り、ほぼ垂直に掘り下げられた上坑である。床面上には杭を立てたと考えられるピットが検出されなかった。土坑内埋土は僅かな色調の違いのみで、ほぼ同一の土質として把握できた。なお、出土遺物は見られなかった。



第234図　東カヤノ原遺跡1号陥し穴平面図及び土層図（1/20）

2号陥し穴（第235図）

長軸を等高線に垂直させ掘られた隅丸長方形の土坑である。規模は上面で長さ172cm、幅65cmを測り、底面で長さ168cm、幅65cmを測る。また、遺構検出面からの深さは170cmを測り、ほとんど垂直に掘られた土坑である。床面上には3箇所に杭を立てたと考えられるピットが検出された。床面上で径13～15cmを測り、深さ30～35cmを測る。ピット上部には拳よりやや小さめの石が出土しており、逆茂木とピットの堀方内に詰められていたことが想定できた。土坑内埋土は微かな色調の違いのみで、ほぼ同一の土質として把握できた。なお、出土遺物は見られなかった。



第235図　東カヤノ原遺跡2号陥し穴平面・断面図及び土層図（1/20）

3号陥し穴（第236図）

遺構検出面からの深さは110cmを測り、ほぼ垂直に掘られた楕円形土坑である。規模は上面で長さ90cm、幅60cmを測り、底面で長さ55cm、幅40cmを測る。また、床面上には中心に1箇所に杭を立てたと考えられる径18cm、深さ45cmを測るピットが検出された。土坑内埋土は僅かな色調の違いのみで、ほぼ同一の土質として把握できた。なお、出土遺物は見られなかった。

4号陥し穴（第237図）

遺構検出面からの深さを105cmを測り、ほとんど垂直に掘られた長楕円形の上坑である。規模は上面で長さ115cm、幅70cmを測り、底面で長さ98cm、幅50cmを測る。また、床面上には1箇所に杭を立てたと考えられるピットが検出された。床面上で長径32cm、短径24cmを測り、深さ30cmを測る。土坑内埋土は僅かな色調の違いのみで、ほぼ同一の土質として把握できた。なお、出土遺物は見られなかった。

5号陥し穴（第238図）

長軸を等高線に垂直させ掘られた隅丸長方形の土坑である。規模は上面で長さ110cm、幅70cmを測り、底面で長さ83cm、幅46cmを測る。また、遺構検出面からの深さは80cmを測り、ほぼ垂直に掘り下げられた土坑である。床面上には杭を立てたと考えられるピットが検出されなかった。土坑内埋土は僅かな色調の違いのみで、ほぼ同一の土質として把握できた。なお、出土遺物は見られなかった。

6号陥し穴（第239図）

遺構検出面からの深さを115cmを測り、ほとんど垂直に掘られた長楕円形の上坑である。規模は上面で長さ90cm、幅50cmを測り、底面で長さ75cm、幅40cmを測る。また、床面上には1箇所に杭を立てたと考えられるピットが検出された。床面上で長径33cm、短径25cm、深さ25cmを測り、ピット底部には地山に混じる石がみられた。土坑内埋土は僅かな色調の違いのみで、ほぼ同一の土質として把握できた。なお、下層から縄文土器が3点出土した。

7・8号陥し穴（第240図）

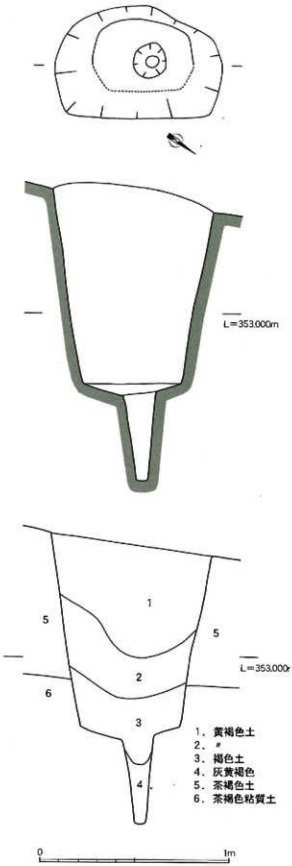
7・8号陥し穴が切り合いをもち検出できたが、土坑内埋土から8号陥し穴が先行するものと考えられる。いずれも隅丸長方形を呈し、7号陥し穴の規模は、底面で長さ115cm、幅40cmを、また、8号陥し穴の規模は、底面で長さ90cm、幅35cmをそれぞれ測る。床面上には杭を立てたと考えられるピットが検出されなかった。上坑内埋土は僅かな色調の違いのみで、ほぼ同一の土質として把握できた。なお、出土遺物は見られなかった。

9号陥し穴（第241図）

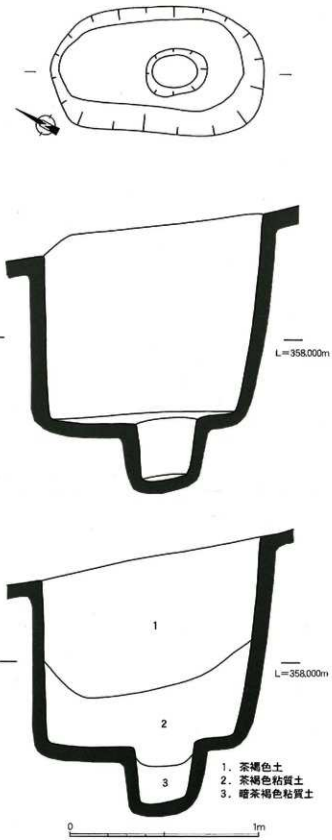
遺構検出面からの深さは125cmを測るほとんど垂直に掘られた隅丸長方形の土坑である。規模は上面で長さ135cm、幅70cmを測り、底面で長さ105cm、幅45cmを測る。また、床面上には2箇所に杭を立てたと考えられるピットが検出された。床面上で径10～13cmを測り、深さ42～45cmを測る。ピット上部には拳よりやや小さめの石が出土しており、逆茂木とピットの堀方内に詰められていたことが想定できた。上坑内埋土は僅かな色調の違いのみで、ほぼ同一の土質として把握できた。なお、出土遺物は見られなかった。

（2）出土遺物（第242図）

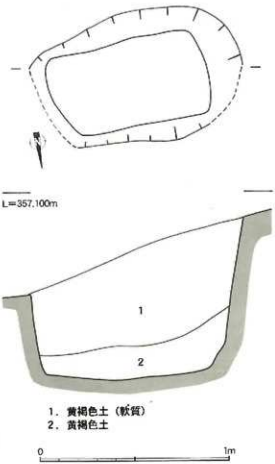
縄文土器片が6点出土したのみである。第12図4・5・6は6号陥し穴下層から出土し、他はいずれも表土中から出土している。1・4・5・6には内外面に条痕がみられ、2・3は無文である。

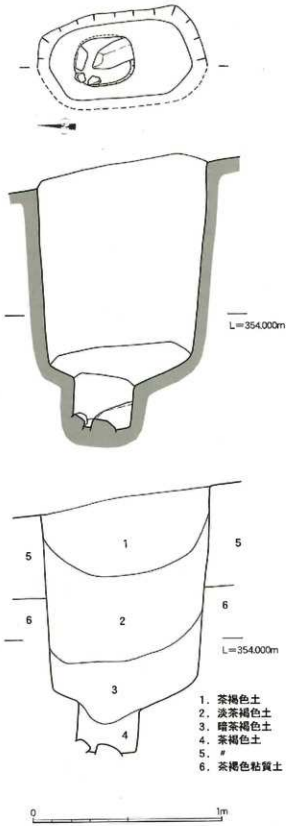


第 236 図　3 号陥し穴平面・断面図及び土層図（1/20）

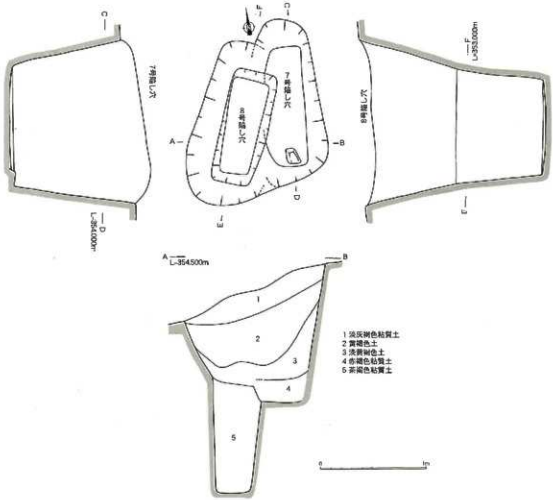


第 237 図　4 号陥し穴平面・断面図及び土層図（1/20）

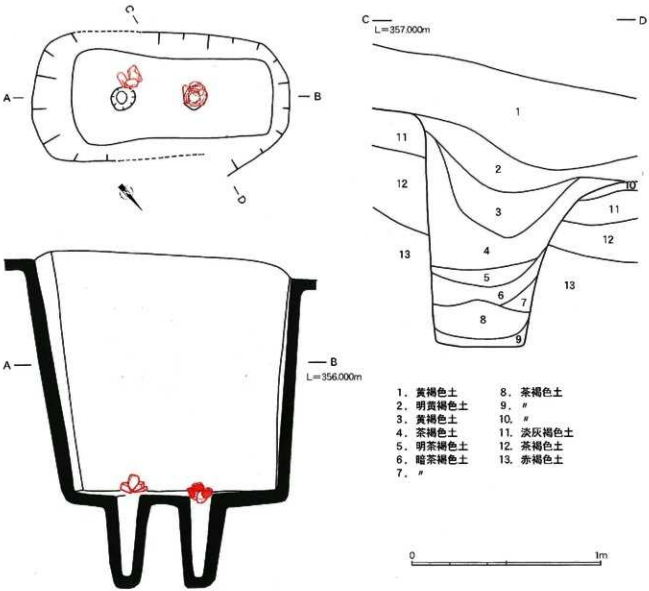




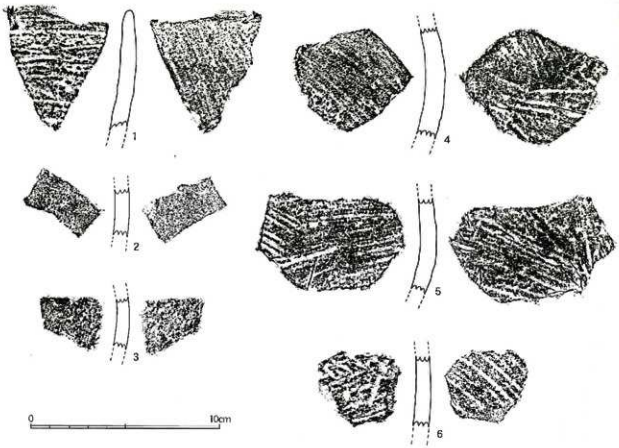
第 238 図　5 号陥し穴平面・断面図及び土層図（1/20）　第 239 図　6 号陥し穴平面・断面図及び土層図（1/20）



第 240 図　東カヤノ原遺跡７・８号陥し穴平面・断面図及び土層図（1/20）



第241図　東カヤノ原遺跡9号陥し穴平面・断面図及び土層図（1/20）



第242図　東カヤノ原遺跡出土土器（1/2）

第4節　小結

今回の調査区内で9基の陥し穴が検出できた。また、周辺の道路切り通しにも数基の陥し穴状の落ち込みが確認できるため、陥し穴は丘陵全域に存在したものと考えられる。これらの陥し穴には時期を決めうる遺物は確認できず、わずかに6号陥し穴から数点の縄文土器が出土しているが、これについても陥し穴埋没の過程で混入したものと考えられるため、良好な資料とはいえない。縄文土器についても条痕文土器が主体をしめるが、時期を決めるだけの資料でない。

陥し穴の形態は楕円形～隅丸長方形を呈し、逆茂木が設えられたピットがみられないものが4例（1・5・7・8号）、1基あるものが3例（3・4・6号）、2基あるものが1例（9号）、3基あるものが1例（2号）それぞれ確認できた。これらのことから逆茂木の数が同一の陥し穴は比較的近接して営まれていることがうかがえ、ピットがみられない陥し穴は丘陵西側斜面に、ピットが1基存在するものが丘陵北側斜面に存在することが確認できた。

陥し穴に関しては、狩猟に伴う捕獲施設であることは、多くの先学により指摘されてはいるが、その方法については議論の分かれるところのようである。今回の調査において、その狩猟方法を断定しうる資料にはなりえず、また、筆者の力の及ぶところでもない。このような基礎資料の蓄積により、当地の陥し穴の実態について解明される日が来ることを期待したい。東カヤノ原遺跡周辺においても、口野尾遺跡・日久保第1遺跡・日久保第2遺跡・エゴノクチ遺跡などで陥し穴は検出されている。その帰属時期は明確でないものの、陥し穴が切り込まれる層位の年代からその時代幅が

想定できる。しかし、明確に同時存在の実態を把握できるものではない。陥し穴の時期が明確ではないものの、調査地周辺の丘陵地帯は生活遺跡のきわめて貧弱な地域である。また、縄文時代の遺跡について、遺跡の確認できる例の場合も、それが定住生活を示すものではなく、キャンプなど一時的な生活空間を示す状態で確認されている。これらのことからも周辺一帯の丘陵部は長きにわたり、狩猟地として位置付けられ、今回の調査地でもその一端を示す様相が確認できた。

最期に、調査から報告書作成に至るまで、高橋信武氏から大変有益な教示を得た。記して感謝の意を表したい。

写 真 図 版

東カヤノ原遺跡全景（北から）

1号陥し穴土層堆積状況

1号陥し穴完掘状況

2号陥し穴遺物出土状況

2号陥し穴完掘状況

3号陥し穴土層堆積状況

3号陥し穴完掘状況

4号陥し穴土層堆積状況

4号陥し穴完掘状況

5号陥し穴完掘状況

6号陥し穴土層堆積状況

6号陥し穴完掘状況

7・8号陥し穴完掘状況

9号陥し穴土層堆積状況

9号陥し穴完掘状況

報告書抄録

ふりがな	イズミダイイチイセキ　イズミダイニイセキ　ヒガシカヤノバルイセキ
書名	和泉第1遺跡　和泉第2遺跡　東カヤノ原遺跡
副書名	一般国道10号日出バイパス建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	大分県文化財調査報告書第151輯
シリーズ名	一般国道10号日出バイパス建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	1
編著者	小柳和宏・原田昭一・松本康弘
編集機関	大分県教育委員会
所在地	〒870-0023　大分県大分市府内町3－10－1
発行年月日	2003年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
和泉第1遺跡	大分県速見郡日出町大字藤原	443417	27	33°22′38″	131°32′30″	19991110～19991209	20㎡	一般国道10号日出バイパス建設工事に伴う発掘調査
和泉第2遺跡	大分県速見郡日出町大字藤原	443417	28	33°22′40″	131°32′30″	19980113～20000919	21,300㎡	
東カヤノ原遺跡	大分県速見郡山香町	443425	40	33°22′〃	131°26′〃	990929～991110	約5,000㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
和泉第1遺跡	墓地	近世	近世墓		
和泉第2遺跡	集落	弥生時代	住居跡・土坑・溝	弥生土器	
	中世山城	中世	堀切・櫓台	土師質土器	
			溝・竪穴遺構・土坑		
	包含層				
	墓地	近世	近世墓		
霊蔵寺地区	包含層	縄文時代	包含層	縄文土器・石器	
	寺院	中世	寺	土師質土器	
辭香之塔	石塔	近世	石塔		
東カヤノ原遺跡	包含層	縄文時代	集石・陥し穴	縄文土器	

一般国道10号日出バイパス建設に伴う埋蔵文化財調査報告書

和泉第1遺跡
和泉第2遺跡
東カヤノ原遺跡

発　行　日　2003年3月31日
発行・編集　大分県教育委員会
大分市府内町3丁目10－1
印　　刷　第一印刷株式会社